

**坂出市**  
**介護予防・日常生活圏域ニーズ調査**  
**結果報告書**

**平成29年8月**  
**坂出市 かいご課**



# 目次

<b>I</b>	<b>調査概要</b>	<b>1</b>
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	報告書の見方	1
4	評価項目の判定について	1
<b>II</b>	<b>回答者の属性</b>	<b>2</b>
1	性別	2
2	年齢構成	3
3	日常生活圏域	4
4	認定状況	5
<b>III</b>	<b>調査の結果</b>	<b>6</b>
1	家族や生活状況について	6
	(1) 家族構成について	6
	(2) 介護・介助の状況について	8
	(3) 現在の経済状況	14
	(4) 住まいの状況	16
2	からだを動かすことについて	18
	(1) 運動器の機能について	18
	(2) 転倒について	19
	(3) 閉じこもり傾向について	20
3	食べることについて	24
	(1) BMI算出	24
	(2) 口腔機能について	25
	(3) 体重減少の有無について	28
	(4) 食事の状況について	28
4	毎日の生活について	30
	(1) 認知機能について	30
	(2) IADL<手段的日常生活動作>について(老研式活動能力指標)	31
	(3) 社会参加—知的能動性(老研式活動能力指標)	33
	(4) 社会参加—社会的役割(老研式活動能力指標)	34
	(5) 趣味の有無	35
	(6) 生きがいの有無	36
	(7) 記憶力や判断力, 伝達力について	37
5	地域での活動について	39
	(1) 社会参加の状況	39
	(2) 地域づくりへの参加意向(参加者)	45
	(3) 地域づくりへの参加意向(企画・運営)	47

6	たすけあいについて	49
	(1) たすけあいの状況	49
	(2) 地域の相談窓口の活用状況	57
	(3) 友人関係について	58
7	健康について	60
	(1) 主観的健康感	60
	(2) 主観的幸福感	63
	(3) うつ傾向について	66
	(4) 飲酒の習慣	67
	(5) 喫煙の習慣	68
	(6) 現在治療中、後遺症のある病気について	69
8-1	介護・福祉サービスについて<一般高齢者調査>	72
	(1) 介護予防について	72
	(2) 介護保険について	73
	(3) 将来の住まいと介護サービスについて	76
	(4) 地域の高齢者への手助けについて	78
	(5) 高齢化社会において重要な方策	79
	(6) 介護を行う際や外出の際に困っていること	80
8-2	介護・福祉サービスについて<要支援・要介護認定者調査>	83
	(1) 介護予防について	83
	(2) 介護サービスについて	85
	(3) 介護保険について	89
	(3) 将来の住まいと介護サービスについて	91
	(4) 高齢化社会において重要な方策	93
	(5) 介護サービス利用後の変化などについて	94
	(6) 外出する際に困ること	97
9	評価項目別の判定結果<一般高齢者調査>	99
	(1) 運動器の機能低下	100
	(2) 転倒リスク	101
	(3) 閉じこもり傾向	102
	(4) 低栄養の傾向	103
	(5) 口腔機能の低下	104
	(6) 認知機能の低下	105
	(7) うつ傾向	106
	(8) IADL一手段的日常生活動作	108
	(9) 社会参加一知的能動性	109
	(10) 社会参加一社会的役割	110
10	認知機能障害程度(CPS)判定結果<一般高齢者調査>	111

<b>IV 前回調査との比較</b> .....	<b>113</b>
1 家族や生活状況について .....	113
2 からだを動かすことについて .....	119
3 食べることについて .....	128
4 毎日の生活について .....	136
5 地域での活動について .....	147
6 たすけあいについて .....	149
7 健康について.....	157
8-1 介護・福祉サービスについて<一般高齢者調査> .....	162
8-2 介護・福祉サービスについて<要支援・要介護認定者調査> .....	170
9 評価項目別の判定結果について .....	180

# I 調査概要

## 1 調査目的

本市では、高齢者の方々が、健康で安心して暮らすことのできる長寿社会の実現に向けて、平成30年度から32年度までの3カ年を計画期間とする第7期介護保険事業計画を策定する予定となっています。今回の調査は、介護保険事業等に関する計画を見直し、今後の高齢者福祉施策を推進していくための基礎資料を作成することを目的としています。

## 2 調査設計

- (1) 調査対象
  - ①一般高齢者調査  
市内在住の65歳以上の方から無作為抽出
  - ②要支援・要介護認定者調査  
要支援1～要介護3（平成29年1月10日現在）までの認定者から無作為抽出
- (2) 実施期間 平成29年3月2日～3月24日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

区分	配布数	有効回収数	有効回答率
一般高齢者	2,000	1,411	70.6%
要支援・要介護認定者	1,000	703	70.3%
合計	3,000	2,114	70.5%

## 3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回る場合があります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数（母数）の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。

## 4 評価項目の判定について

評価項目別の判定結果については、国が配布した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き、及び老研式活動能力指標に基づき集計したものとなっています。

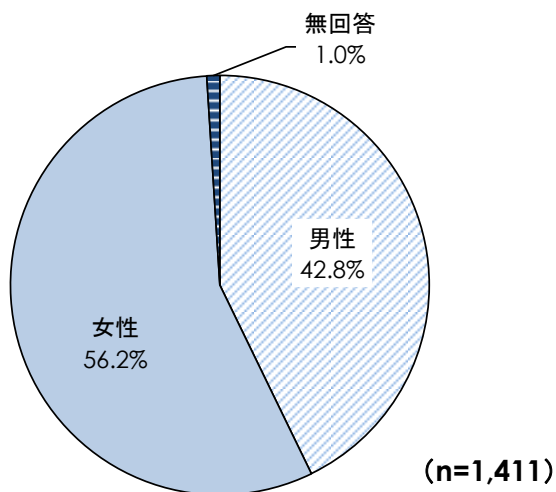
## Ⅱ 回答者の属性

### 1 性別

回答者の性別は、一般高齢者では「男性」が42.8%、「女性」が56.2%となっており、女性が13.4ポイント上回っています。

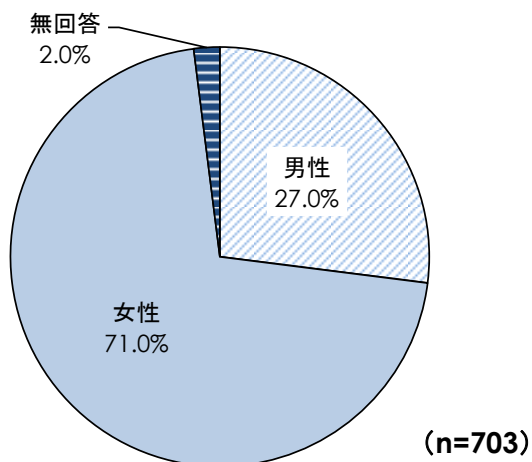
要支援・要介護認定者では「男性」が27.0%、「女性」が71.0%となっており、女性が7割を超えています。

#### <一般高齢者調査>



	回答数(人)	構成比(%)
男性	604	42.8
女性	793	56.2
無回答	14	1.0
合計	1,411	100.0

#### <要支援・要介護認定者調査>

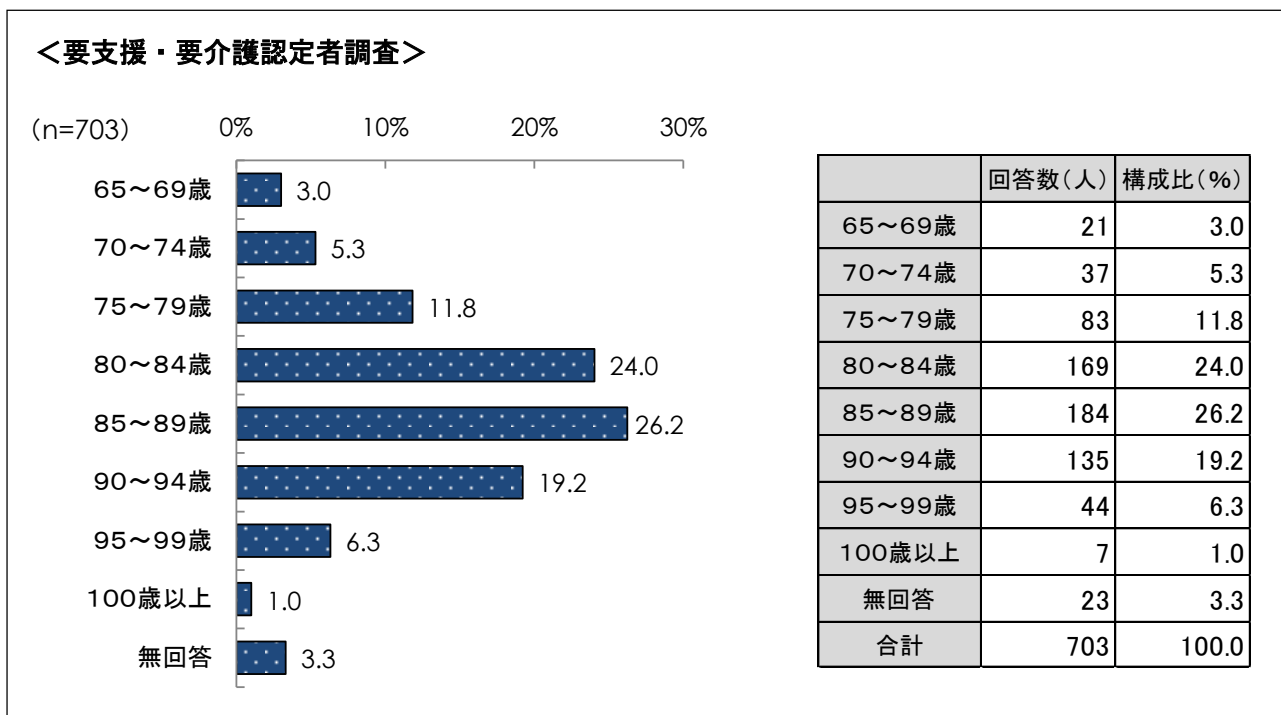
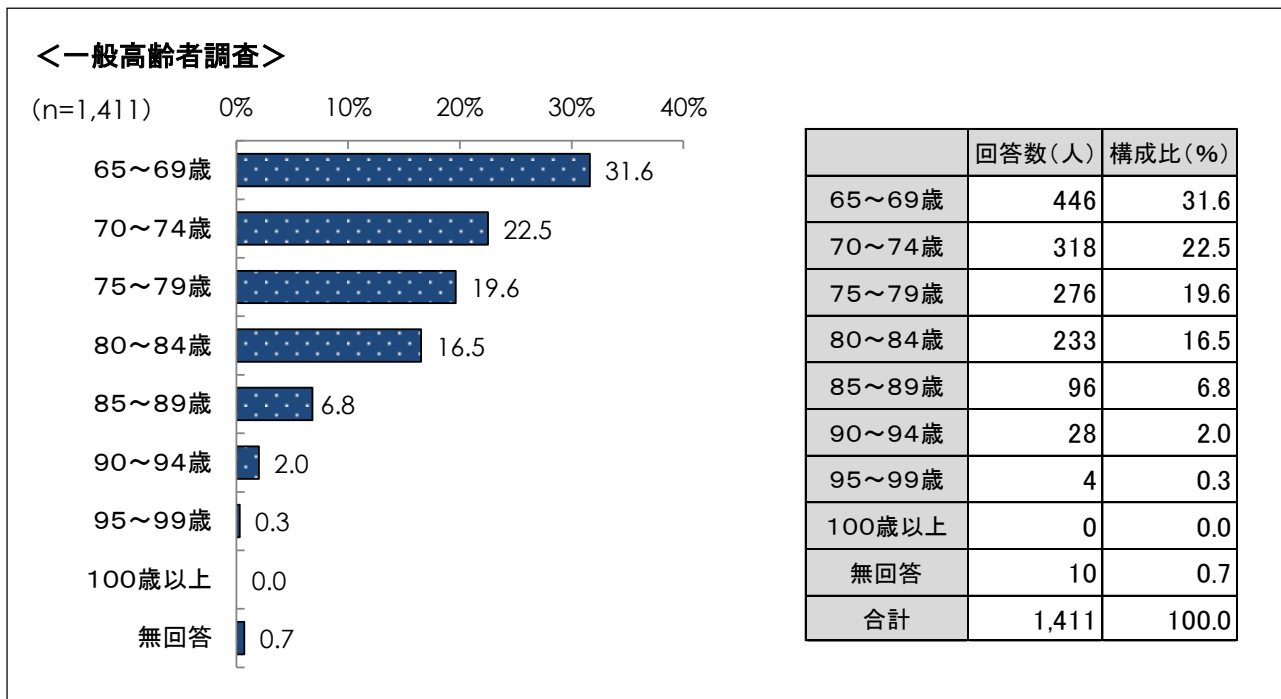


	回答数(人)	構成比(%)
男性	190	27.0
女性	499	71.0
無回答	14	2.0
合計	703	100.0

## 2 年齢構成

回答者の年齢は、一般高齢者では「65～69歳」が31.6%で最も高く、次いで「70～74歳」(22.5%)、「75～79歳」(19.6%)となっています。

要支援・要介護認定者では「85～89歳」が26.2%で最も高く、次いで「80～84歳」(24.0%)、「90～94歳」(19.2%)となっています。

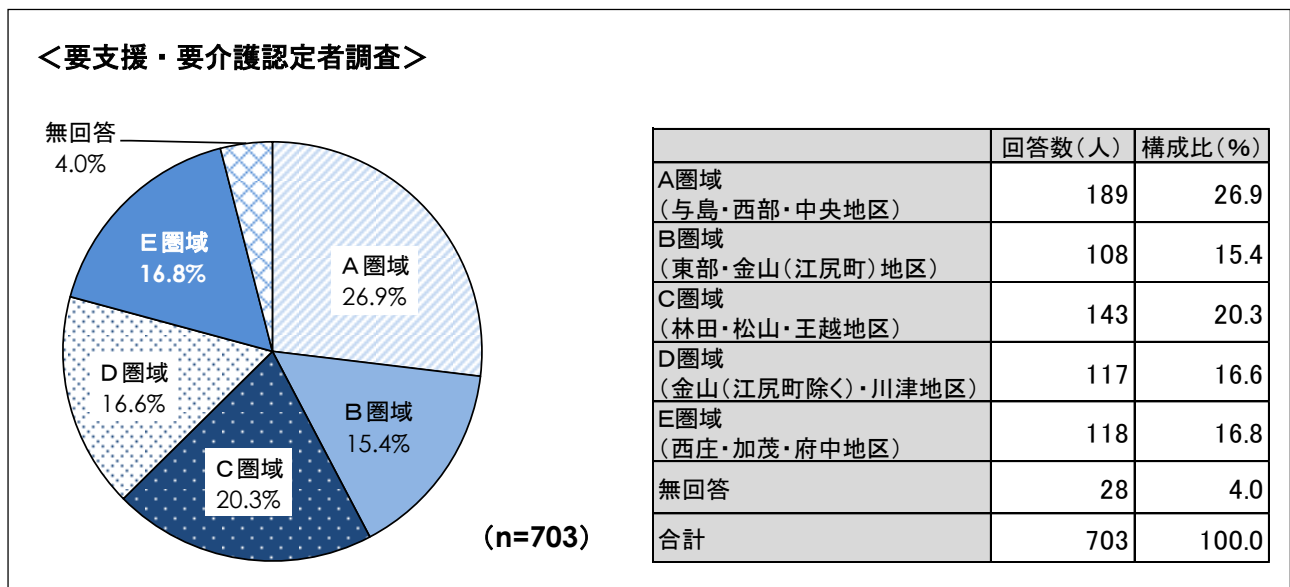
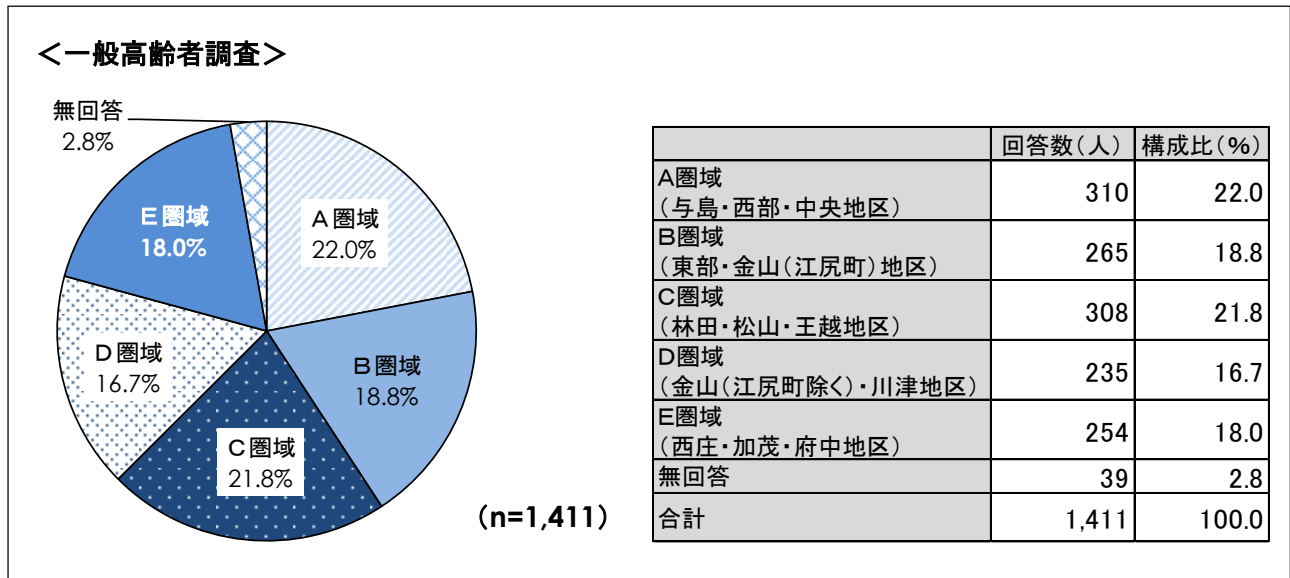




### 3 日常生活圏域

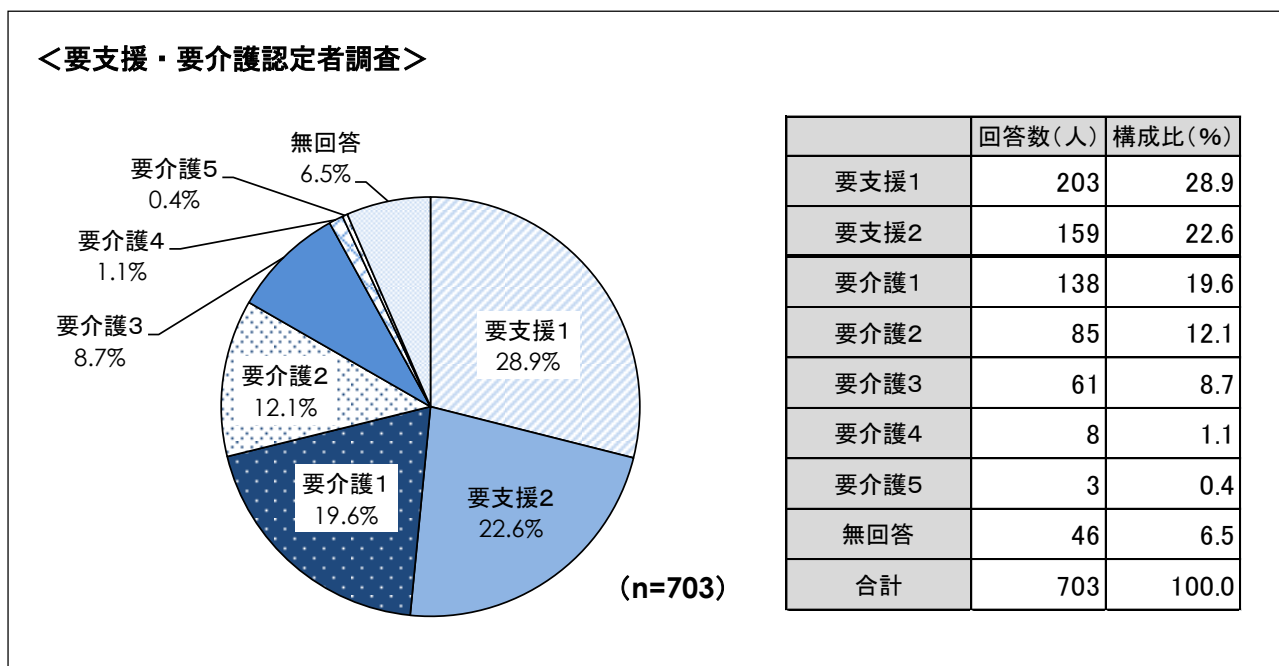
回答者の日常生活圏域は、一般高齢者では「A圏域（与島・西部・中央地区）」が22.0%と最も高く、次いで「C圏域（林田・松山・王越地区）」が21.8%となっています。

要支援・要介護認定者では、同じく「A圏域（与島・西部・中央地区）」が26.9%と最も高く、次いで「C圏域（林田・松山・王越地区）」が20.3%となっています。



## 4 認定状況

要支援・要介護認定者調査における、回答者の認定状況をみると、「要支援1」の認定者が28.9%と最も高く、次いで「要支援2」(22.6%)となっており、要支援認定者が合計51.5%と半数を超えています。要介護認定者の中では、「要介護1」の認定者が19.6%と最も高く、次いで「要介護2」(12.1%)、「要介護3」(8.7%)となっています。



### Ⅲ 調査の結果

#### 1 家族や生活状況について

##### (1) 家族構成について

問1 (2) 家族構成をお教えてください。

##### 【全体の傾向】

家族構成をたずねたところ、一般高齢者では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が39.2%と最も高く、約4割を占めています。次いで「息子・娘との2世帯」（19.7%）となっています。

要支援・要介護認定者では「1人暮らし」が28.4%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が27.2%となっています。

##### 【属性別の傾向】

##### <一般高齢者調査>

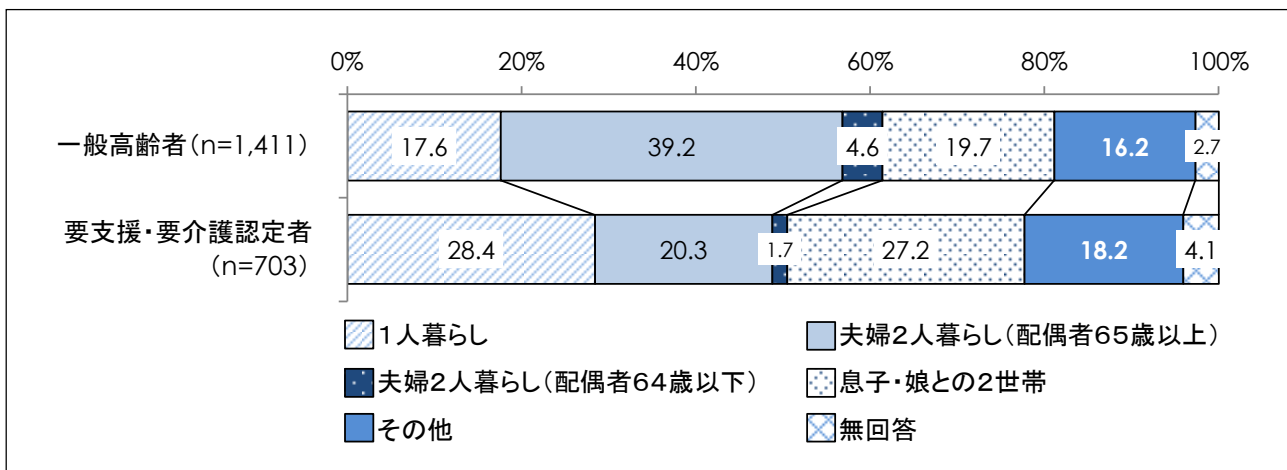
圏域別にみると、全ての地区で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が最も高くなっています。また、「1人暮らし」の割合はA圏域で22.6%、「息子・娘との2世帯」の割合はE圏域で25.2%となっており、それぞれ他の圏域に比べてやや割合が高くなっています。

##### <要支援・要介護認定者調査>

圏域別にみると、A圏域、B圏域、D圏域では「1人暮らし」の割合が最も高く、A圏域、D圏域では3割を超えています。

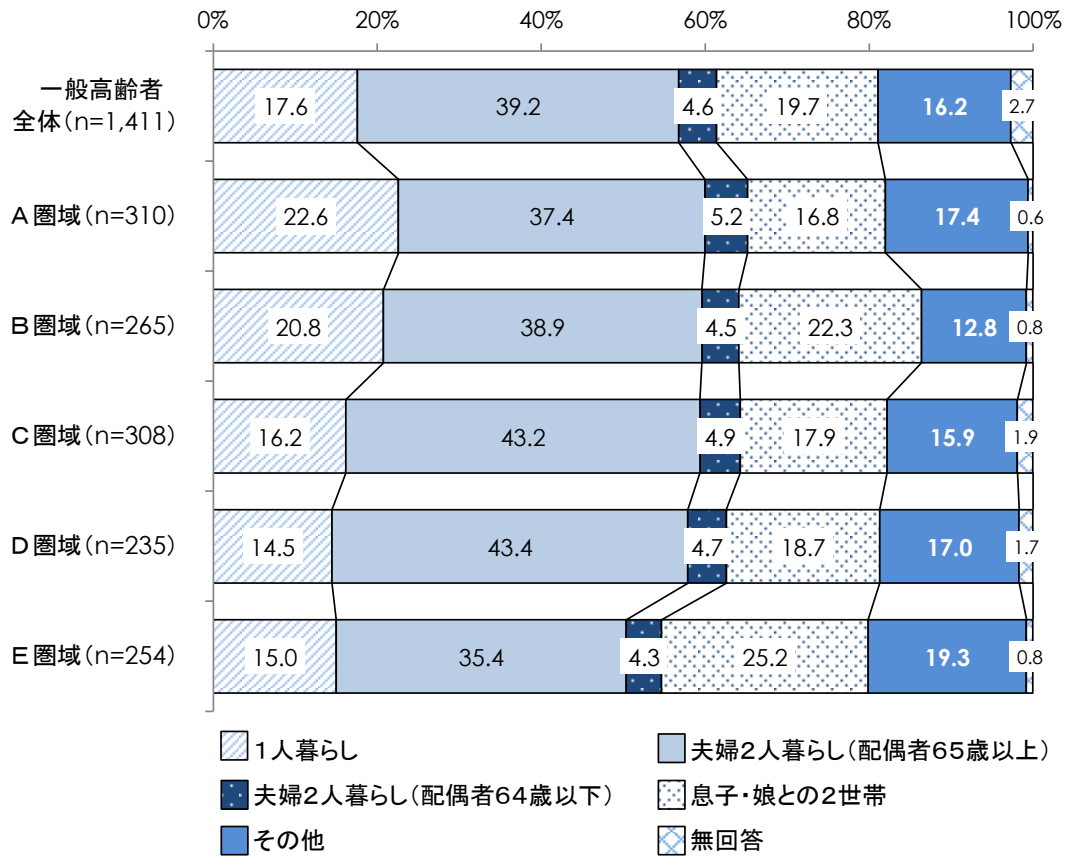
一方、C圏域、E圏域では「息子・娘との2世帯」の割合が最も高くなっています。

図表 1 家族構成について（全体）

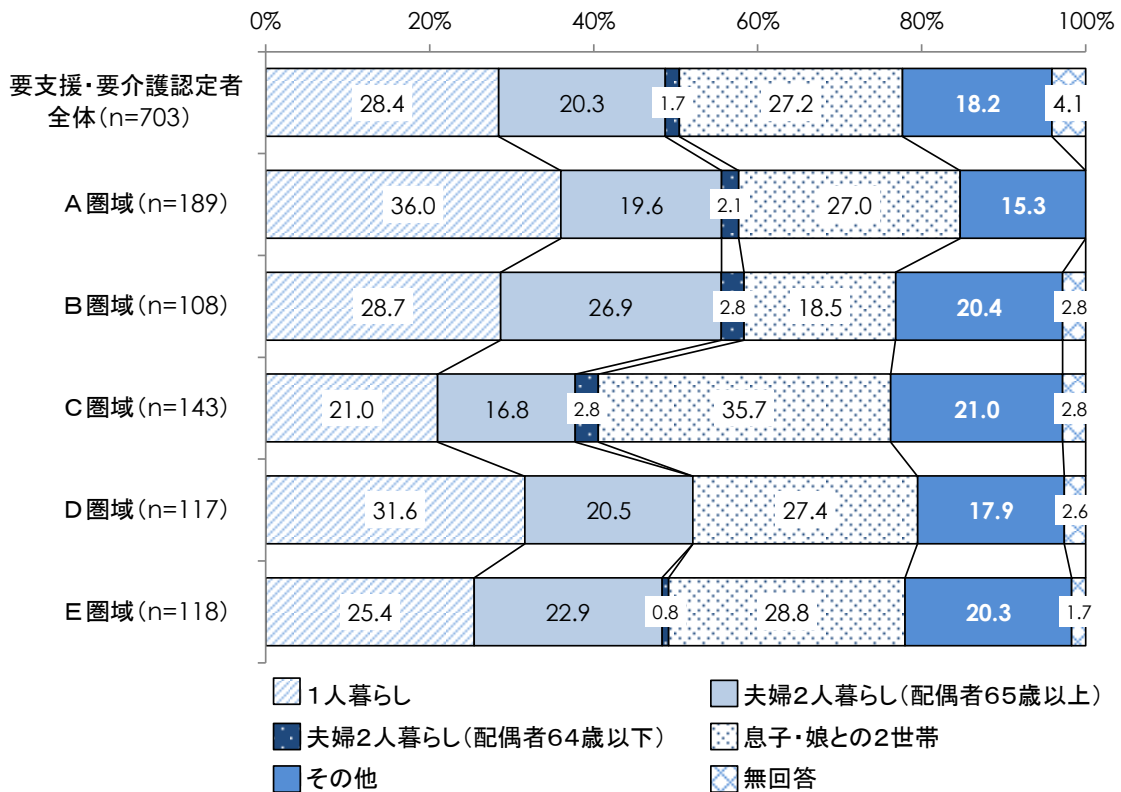


図表 2 家族構成について（全体，日常生活圏域別）

<一般高齢者調査>



<要支援・要介護認定者調査>



## (2) 介護・介助の状況について

問1 (3) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

### 【全体の傾向】

普段の生活における介護・介助の必要性についてたずねたところ、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が86.0%と大半を占めています。

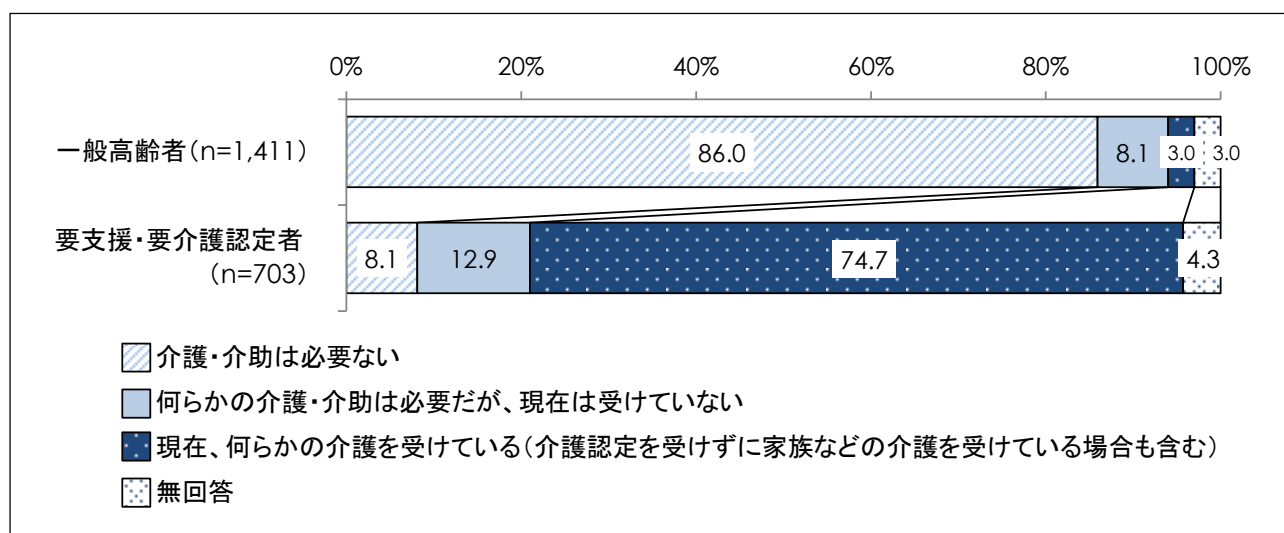
一方、要支援・要介護認定者では「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が74.7%と7割を超えています。

### 【属性別の傾向】

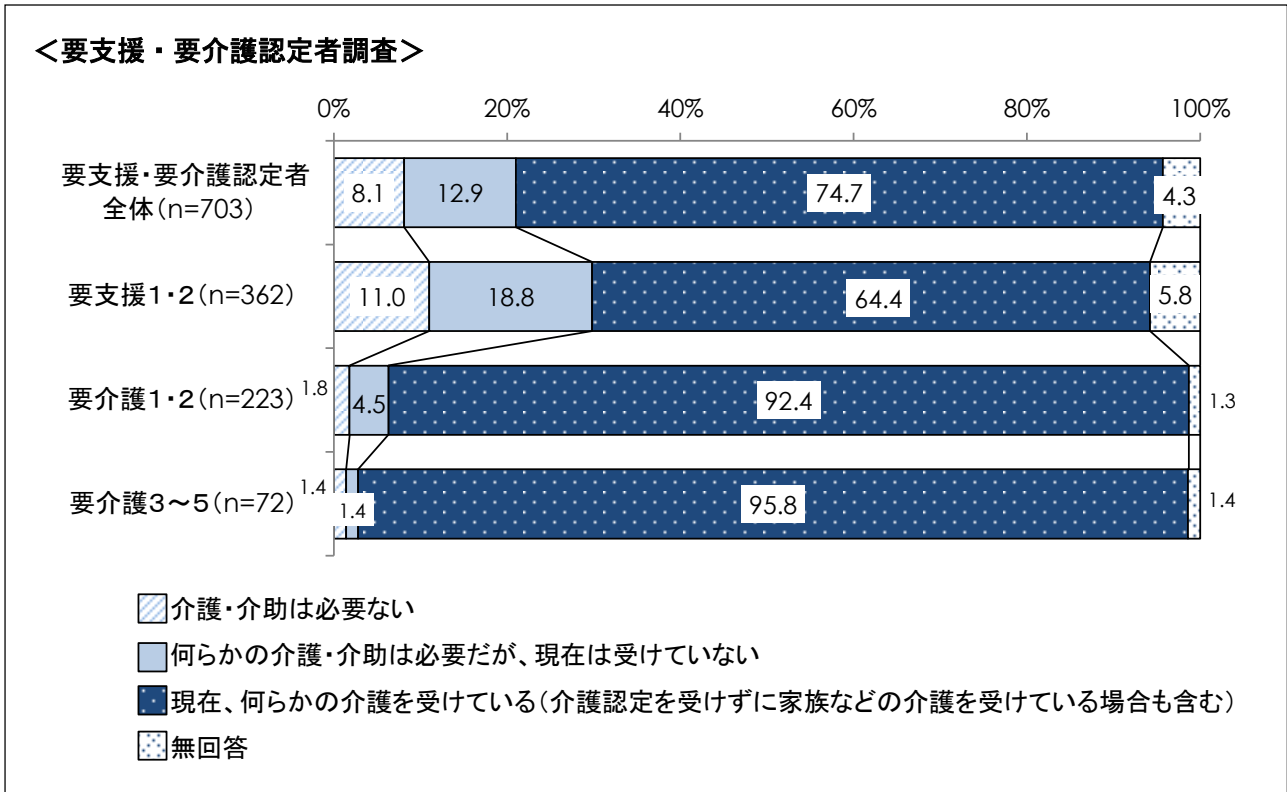
#### <要支援・要介護認定者調査>

認定状況別にみると、「要支援1・2」の認定者では「現在何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合は64.4%と7割未満となっていますが、要介護認定者では、現在何らかの介護を受けている人の割合は9割を超えています。

図表 3 介護・介助の必要性（全体）



図表 4 介護・介助の必要性（全体，認定状況別）



【(3)で「1.介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

問1 (3) ① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも)

#### 【全体の傾向】

介護・介助は必要（現在は受けていない）、又は、現在介護を受けていると回答した人に対し、介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、一般高齢者では「心臓病」、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」がともに16.7%と最も多くなっています。次いで、「その他」（14.7%）、「関節の病気（リウマチ等）」（13.5%）、「糖尿病」（12.2%）などとなっています。

要支援・要介護認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」が27.4%と最も多く、次いで「骨折・転倒」（26.8%）、「高齢による衰弱」（22.1%）となっています。

#### 【属性別の傾向】

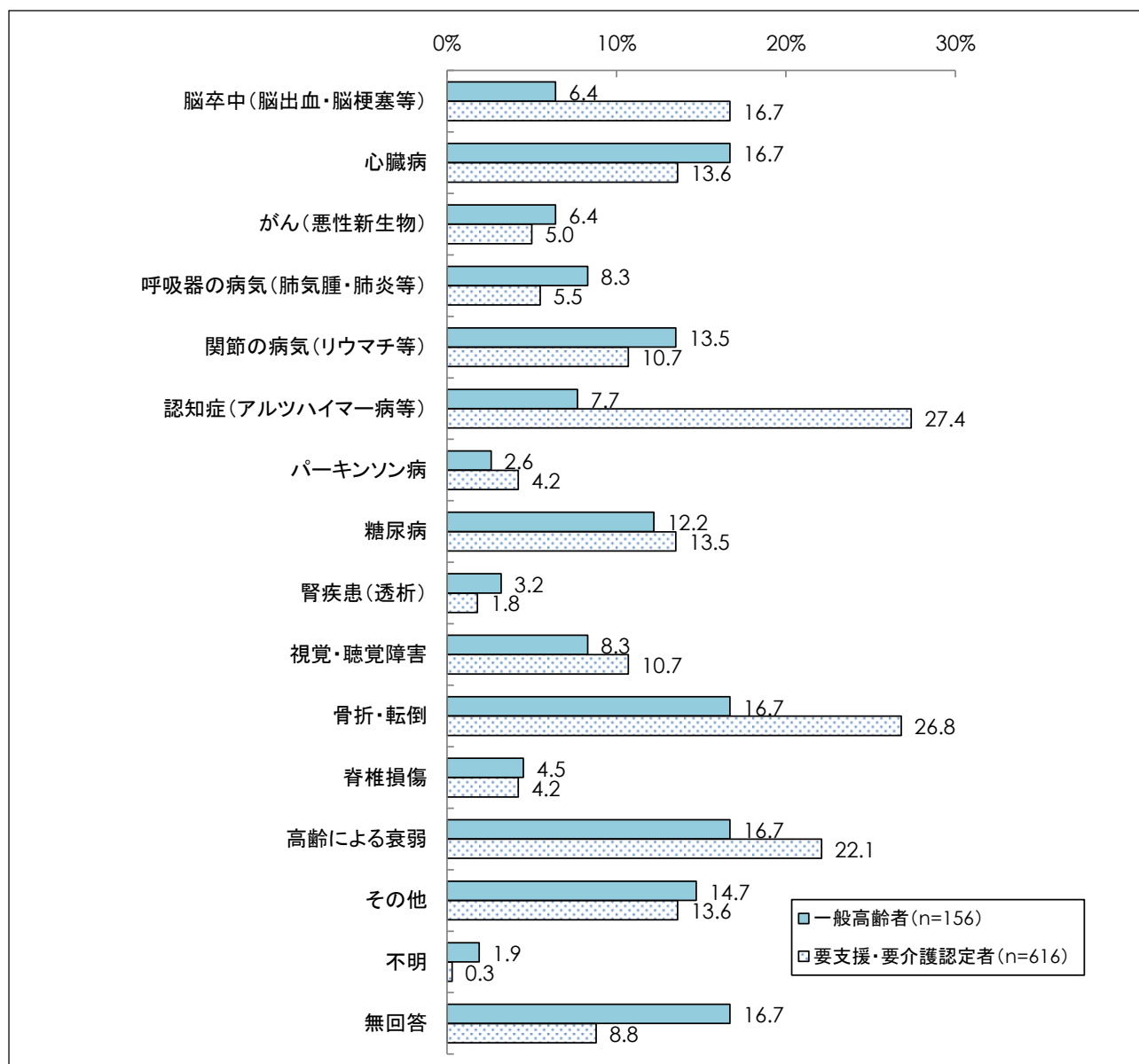
##### ＜要支援・要介護認定者調査＞

認定状況別にみると、要支援1・2の認定者では「骨折・転倒」（30.6%）が第1位、「高齢による衰弱」（24.9%）が第2位となっています。

一方、要介護1・2、要介護3～5の認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」が4割を超えており、第1位となっています。

また、要介護3～5の認定者では「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（32.9%）が第2位となっています。

図表 5 介護・介助が必要になった主な原因（全体／複数回答）



図表 6 介護・介助が必要になった主な原因（全体，認定状況別／複数回答）

<上位3位/単位%>

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=616)		認知症(アルツハイマー病等) 27.4	骨折・転倒 26.8	高齢による衰弱 22.1
認定状況別	要支援1・2 (n=301)	骨折・転倒 30.6	高齢による衰弱 24.9	心臓病/関節の病気(リウマチ等) 15.9
	要介護1・2 (n=216)	認知症(アルツハイマー病等) 47.7	骨折・転倒 22.7	高齢による衰弱 17.6
	要介護3~5 (n=70)	認知症(アルツハイマー病等) 42.9	脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 32.9	高齢による衰弱 25.7



【(3)で「1.介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

問1 (3) ② 主にどなたの介護、介助を受けていますか。(いくつでも)

### 【全体の傾向】

介護・介助は必要（現在は受けていない）、又は、現在介護を受けていると回答した人に対し、主な介護・介助者についてたずねたところ、一般高齢者では「配偶者（夫・妻）」が29.5%と最も多く、次いで「娘」（25.6%）、「息子」（19.9%）となっています。

要支援・要介護認定者では「介護サービスのヘルパー」が33.4%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「娘」（28.1%）、「息子」（26.1%）などが主な介護・介助者となっています。

### 【属性別の傾向】

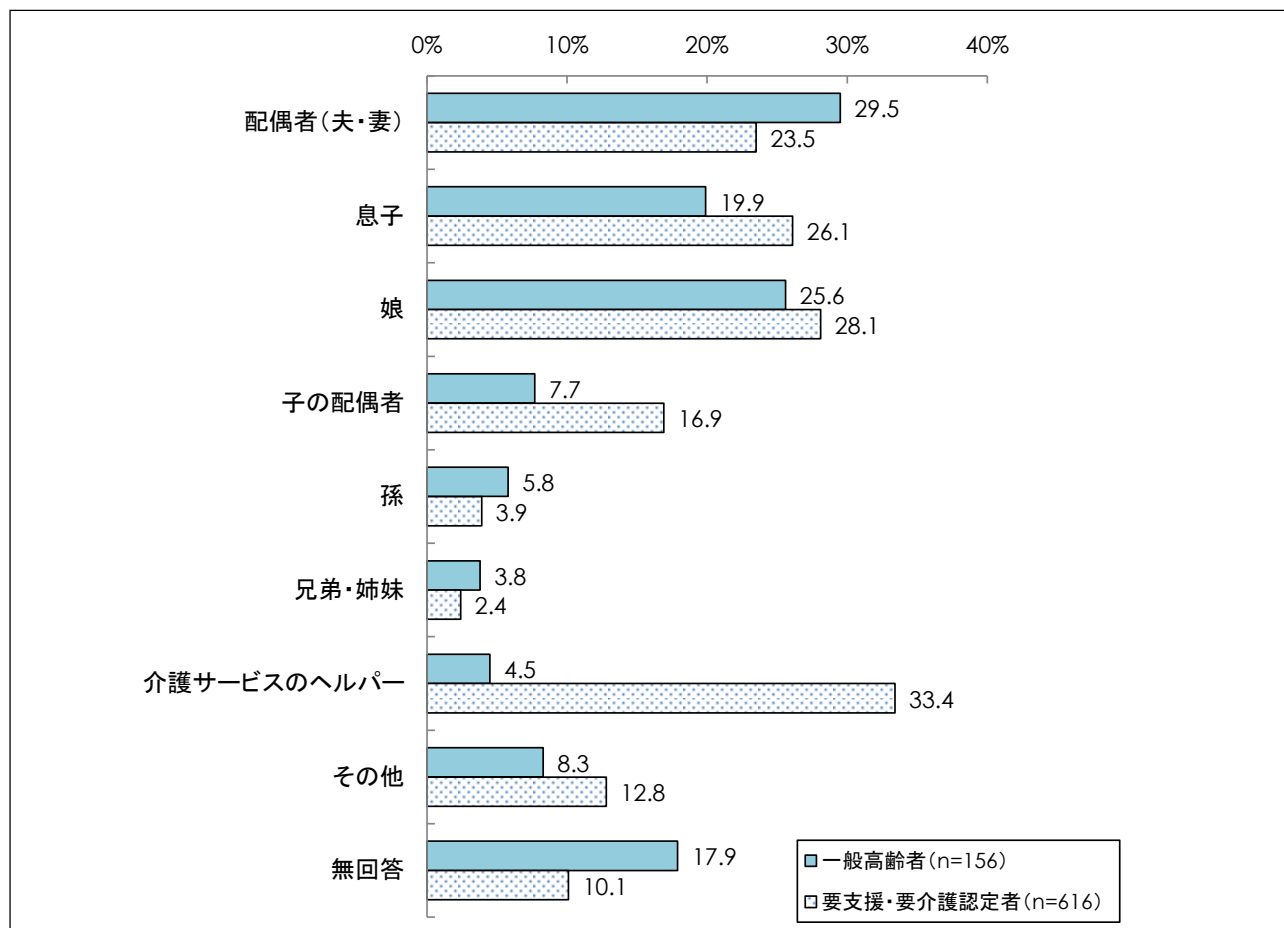
#### <一般高齢者調査>

家族構成別にみると、配偶者の年齢に関わらず『夫婦2人暮らし』では「配偶者（夫・妻）」が第1位となっています。それ以外の家族構成では「娘」が第1位となっています。

#### <要支援・要介護認定者調査>

家族構成別にみると、1人暮らし、その他では「介護サービスのヘルパー」が第1位となっています。また、息子・娘との2世帯では「息子」が第1位、「娘」が第2位となっています。

図表 7 主な介護・介助者（全体／複数回答）



図表 8 主な介護・介助者（全体，家族構成別／複数回答）

<上位 3 位/単位%>

<一般高齢者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=156)		配偶者(夫・妻)	娘	息子
		29.5	25.6	19.9
家族構成別	1人暮らし(n=41)	娘	息子	兄弟・姉妹/介護サービスのヘルパー
		22.0	19.5	12.2
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=41)	配偶者(夫・妻)	娘	息子
		61.0	14.6	12.2
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=4)	配偶者(夫・妻)		
		75.0		
息子・娘との 2世帯(n=44)	娘	息子	配偶者(夫・妻)	
	38.6	31.8	29.5	
その他(n=25)	娘	子の配偶者	配偶者(夫・妻)/息子	
	28.0	20.0	16.0	

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=616)		介護サービスのヘルパー	娘	息子
		33.4	28.1	26.1
家族構成別	1人暮らし (n=173)	介護サービスのヘルパー	娘	息子
		51.4	29.5	16.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=129)	配偶者(夫・妻)	介護サービスのヘルパー	息子
		73.6	27.9	20.2
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=11)	配偶者(夫・妻)	介護サービスのヘルパー	息子/その他
		81.8	27.3	9.1
息子・娘との 2世帯(n=174)	息子	娘	子の配偶者	
	36.8	35.6	32.2	
その他(n=117)	介護サービスのヘルパー	息子	娘	
	34.2	33.3	29.1	

### (3) 現在の経済状況

問1(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

#### 【全体の傾向】

現在の暮らしの経済状況をたずねたところ、一般高齢者では「ふつう」が60.8%と約6割を占めています。一方、「大変苦しい」(6.2%)と「やや苦しい」(21.5%)を合計した『苦しい』の割合は27.7%を占め、約3割の人が経済的に『苦しい』と回答しています。

要支援・要介護認定者でも同様に「ふつう」が56.0%と最も高くなっていますが、『苦しい』の割合は35.4%と3割を超えています。

#### 【属性別の傾向】

##### <一般高齢者調査>

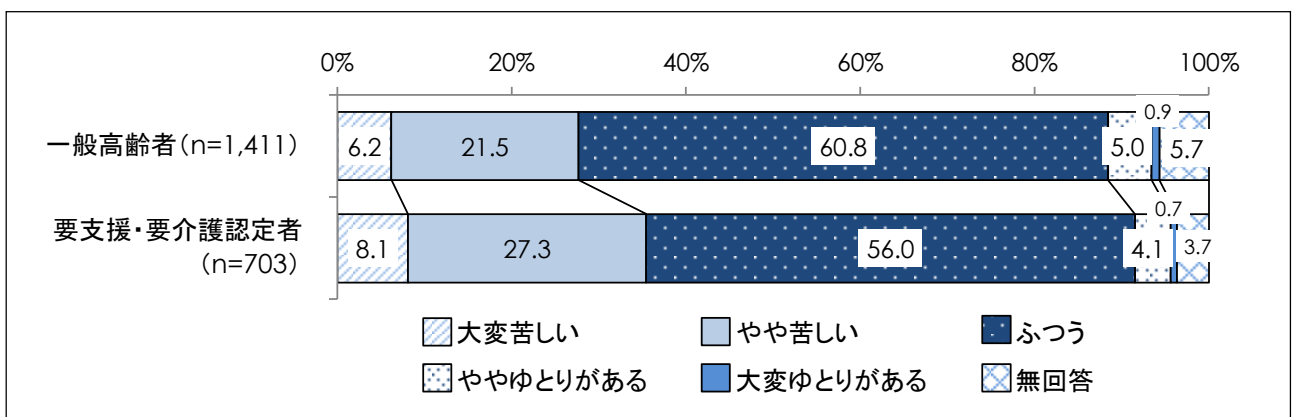
年齢構成別にみると、どの年代においても「ふつう」が最も高くなっています。また、『苦しい』の割合については、65～69歳(33.6%)、75～79歳(28.6%)、70～74歳(26.1%)で他の年齢層よりもやや高くなっています。

##### <要支援・要介護認定者調査>

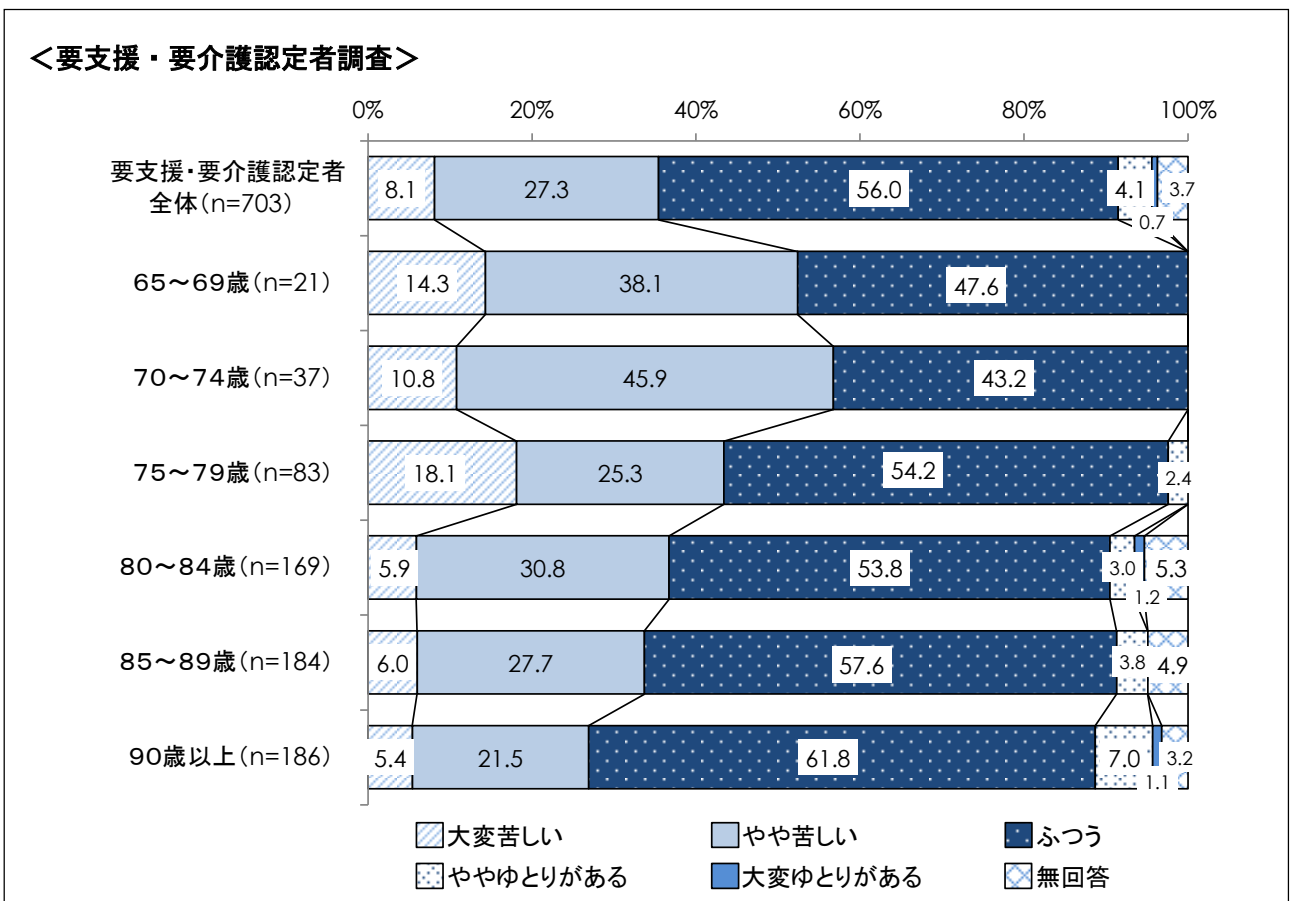
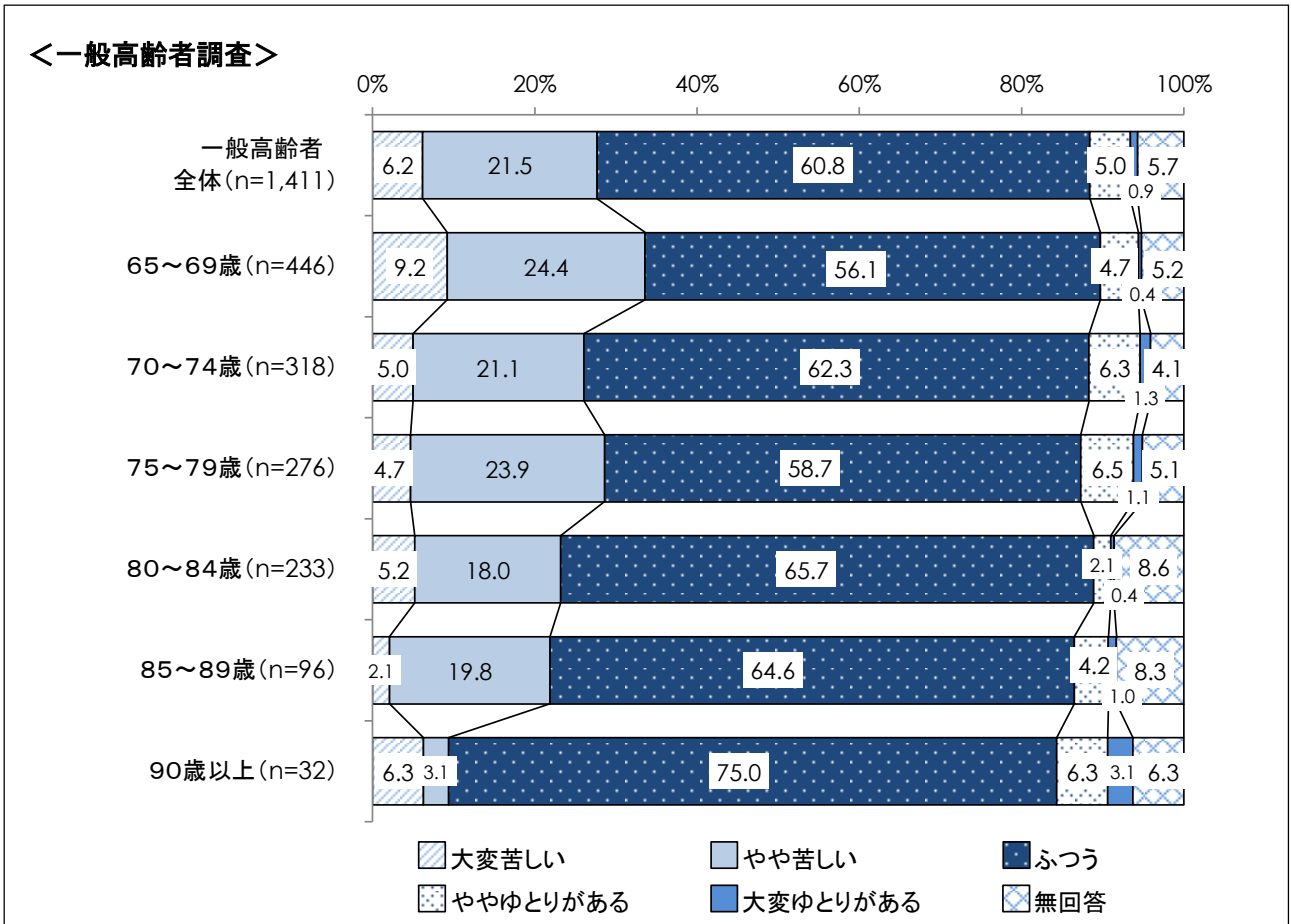
年齢構成別にみると、65～69歳、70～74歳では『苦しい』の割合が5割を超えており、半数以上の人々が経済状況は『苦しい』と感じています。

一方、75歳以上の年齢層では「ふつう」の割合が過半数を占めており、『苦しい』の割合は、年齢が上がるにつれ減少しています。

図表9 現在の経済状況について(全体)



図表 10 現在の経済状況について（全体，年齢構成別）



#### (4) 住まいの状況

問1 (5) お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか。

##### 【全体の傾向】

住まいの状況をたずねたところ、「持家（一人建て）」が一般高齢者では 87.0%、要支援・要介護認定者では 83.5%と8割を超えており、大半を占めています。

##### 【属性別の傾向】

###### <一般高齢者調査>

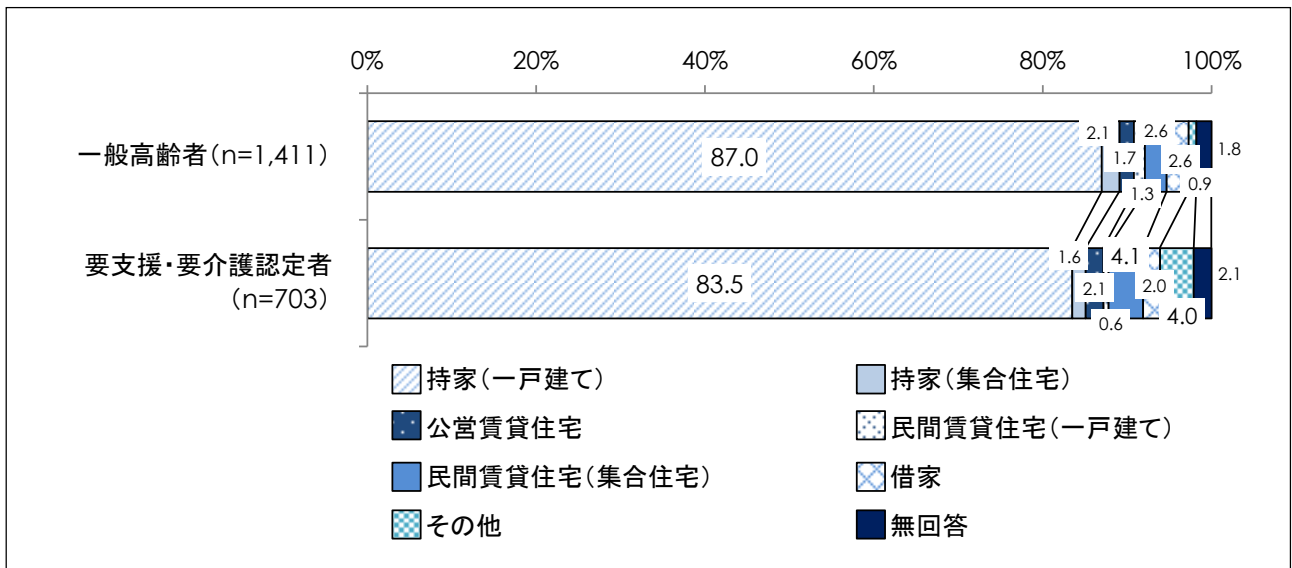
圏域別にみると、全ての圏域で「持家（一人建て）」が大半を占めています。

また、A圏域では「持家（集合住宅）」が4.2%、B圏域では「民間賃貸住宅（集合住宅）」が6.0%、「借家」が4.9%となっており、他の圏域に比べてやや割合が高くなっています。

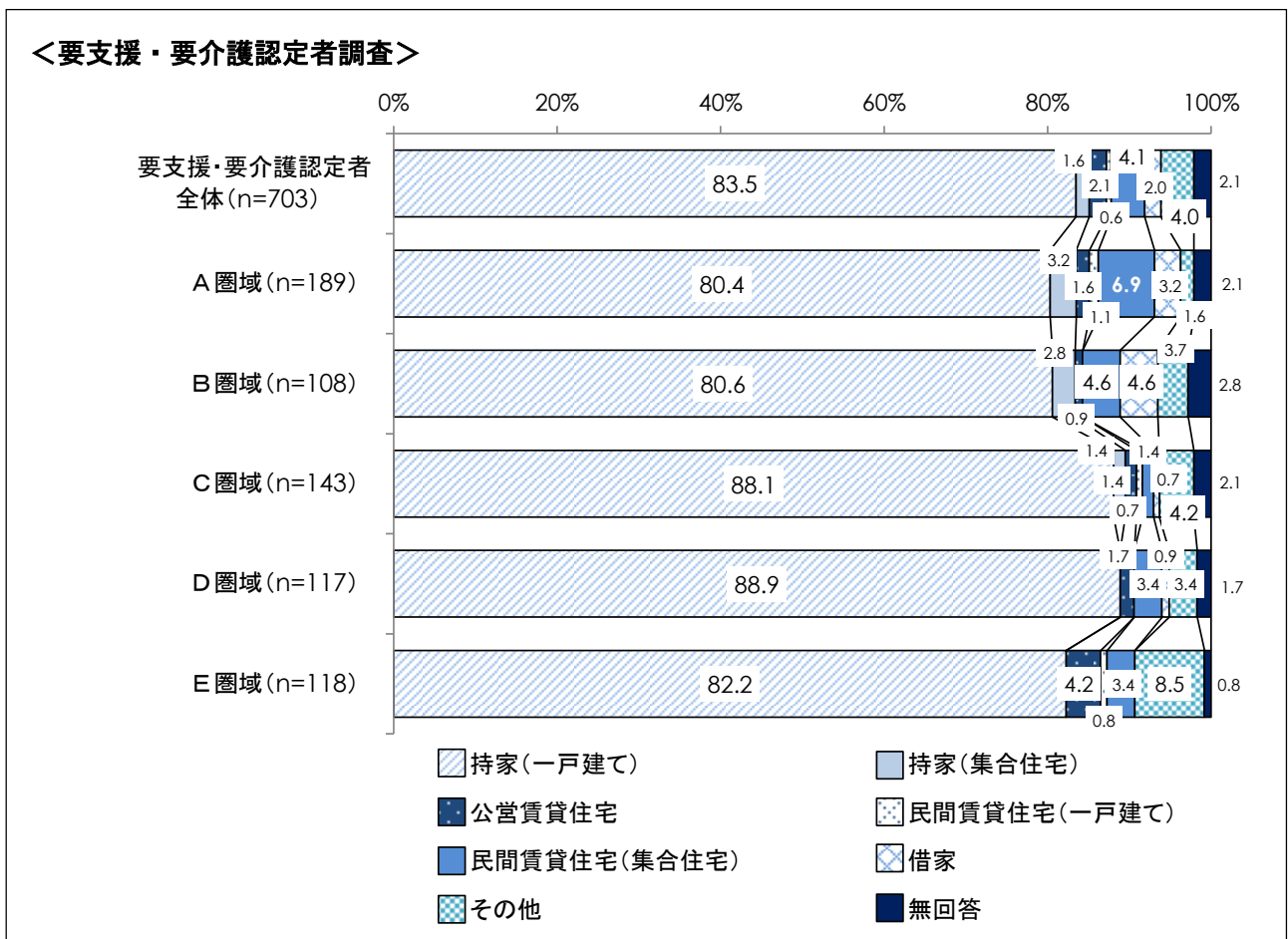
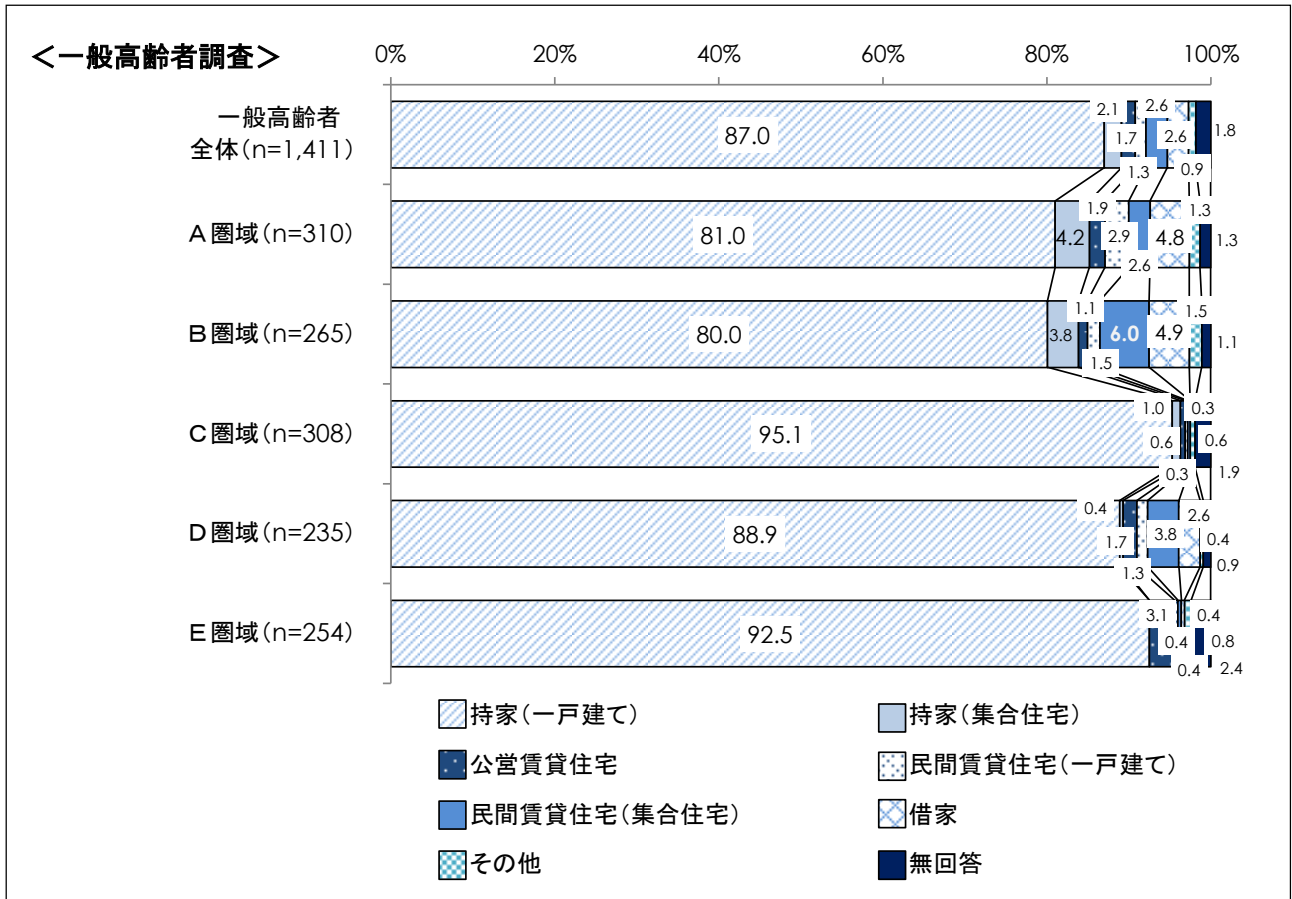
###### <要支援・要介護認定者調査>

圏域別にみると、全ての圏域で「持家（一人建て）」が8割を超えています。また、A圏域では「民間賃貸住宅（集合住宅）」が6.9%となっており、他の圏域に比べてやや割合が高くなっています。

図表 11 住まいの状況について（全体）



図表 12 住まいの状況について（全体，日常生活圏域別）



## 2 からだを動かすことについて

### (1) 運動器の機能について

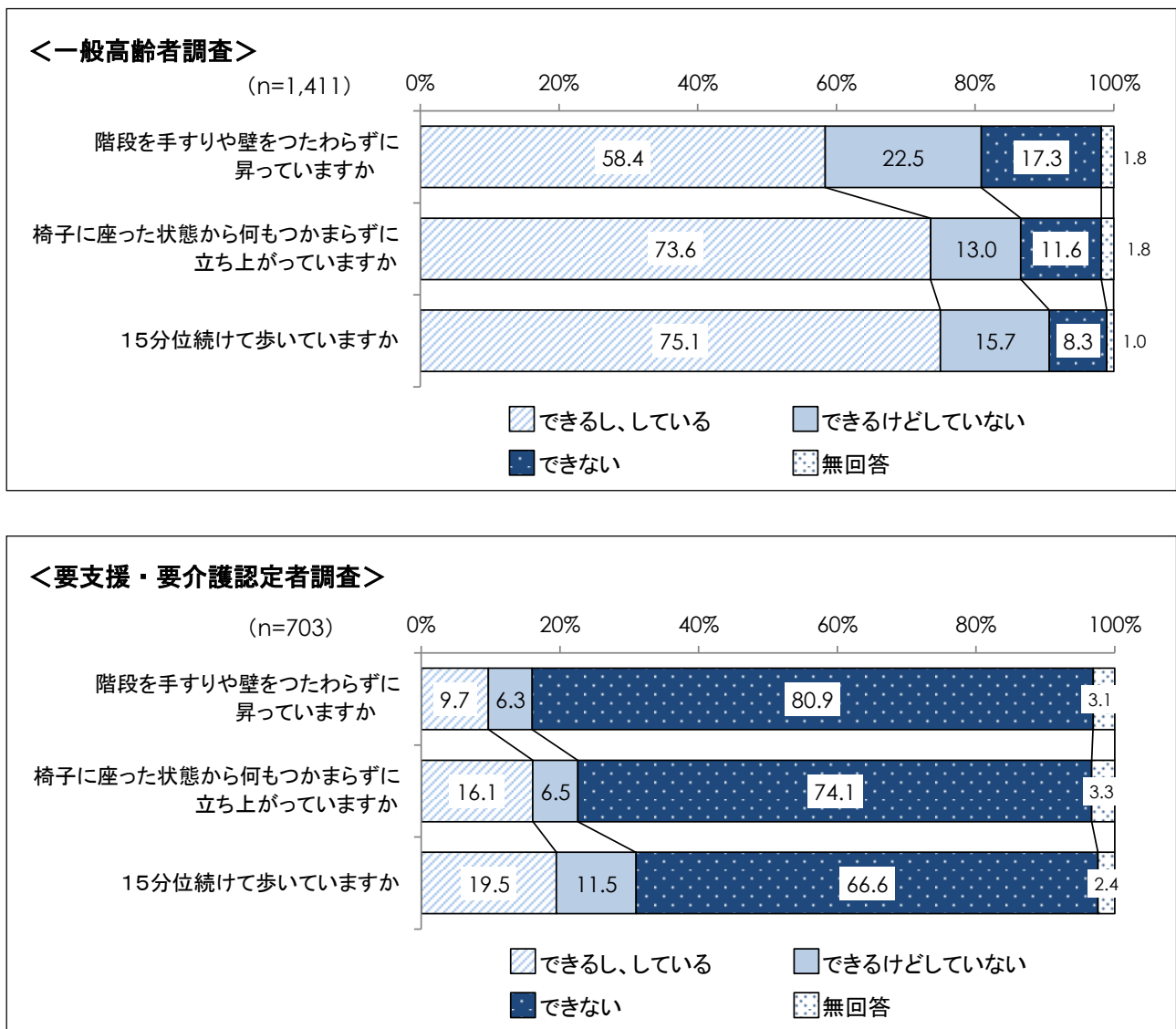
- 問2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。  
 問2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。  
 問2(3) 15分位続けて歩いていますか。

#### 【全体の傾向】

運動器の機能についてたずねたところ、一般高齢者では「できるし、している」の割合が最も高くなっていますが、『階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか』では58.4%となっており、他の運動に比べて、できる人が少ない傾向がみられます。

要支援・要介護認定者では全ての設問で「できない」の割合が最も高く、中でも『階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか』については、約8割の人が「できない」と回答しています。

図表 13 運動器の機能について（全体）



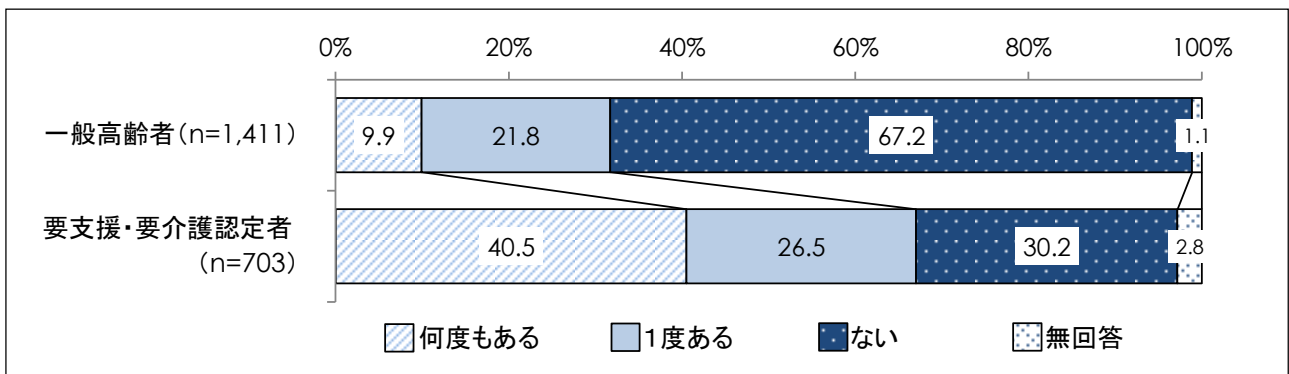
## (2) 転倒について

問2(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。

### 【全体の傾向】

過去1年間における転倒の経験をたずねたところ、一般高齢者では67.2%が「ない」と回答しています。一方、要支援・要介護認定者では「何度もある」が40.5%と最も高く、「1度ある」(26.5%)を合計すると、6割以上が『転倒経験が1度以上ある』と回答しています。

図表 14 転倒の経験 (全体)



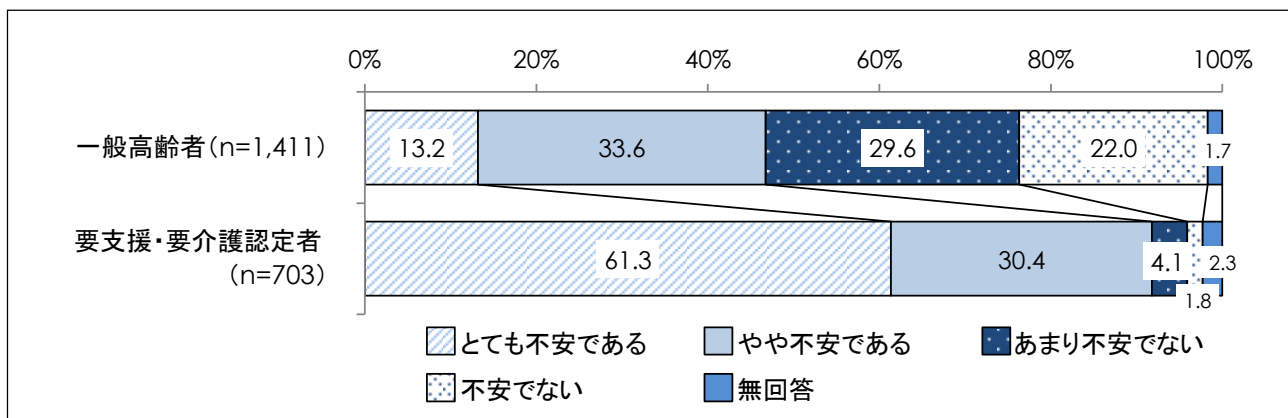
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか。

### 【全体の傾向】

転倒に対する不安が大きいかをたずねたところ、一般高齢者では「やや不安である」(33.6%)と「とても不安である」(13.2%)を合計すると、転倒への不安がある人が46.8%を占めています。

一方、要支援・要介護認定者では「とても不安である」が61.3%と6割を超えており、「やや不安である」(30.4%)を合計すると転倒への不安がある人は91.7%と大半を占めています。

図表 15 転倒に対する不安 (全体)





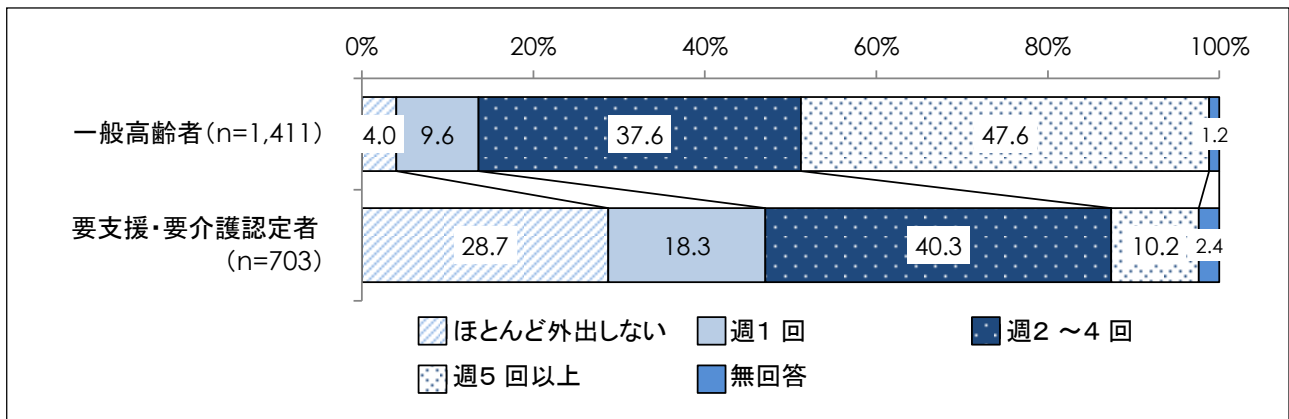
### (3) 閉じこもり傾向について

問2(6) 週に1回以上は外出していますか。

#### 【全体の傾向】

1週間当たりの外出回数についてたずねたところ、一般高齢者では「週5回以上」が47.6%と最も高くなっています。一方、要支援・要介護認定者では「週2～4回」が40.3%と最も高く、次いで「ほとんど外出しない」が28.7%と約3割を占めています。

図表 16 1週間当たりの外出回数について（全体）

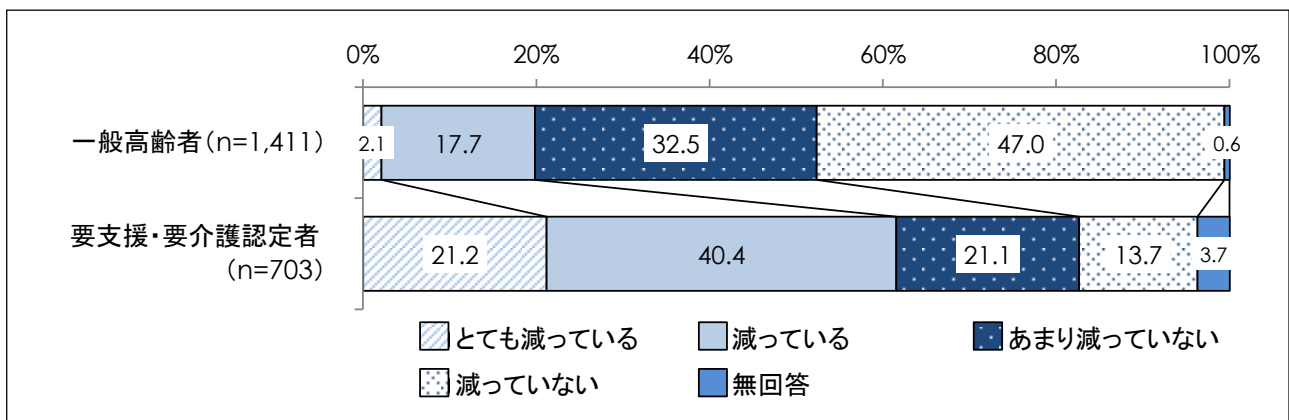


問2(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

#### 【全体の傾向】

昨年と比べて外出の回数が減っているかについてたずねたところ、一般高齢者では「減っていない」が47.0%と最も高くなっています。一方、要支援・要介護認定者では「減っている」が40.4%と最も高く、「とても減っている」(21.2%)を合計すると、約6割の人が外出の回数が減っていると回答しています。

図表 17 昨年と比較した外出回数について（全体）



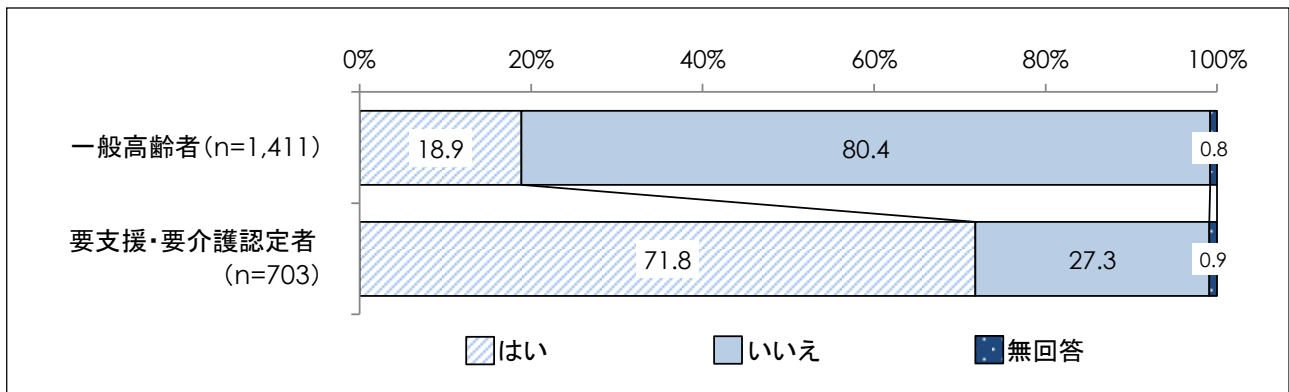
問2（8） 外出を控えていますか。

【全体の傾向】

外出を控えているかについてたずねたところ、一般高齢者では「いいえ（控えていない）」が80.4%と大半を占めており、「はい（控えている）」（18.9%）を大きく上回っています。

一方、要支援・要介護認定者では「はい（控えている）」が71.8%と7割を超えており、「いいえ（控えていない）」は27.3%と3割を下回っています。

図表 18 外出を控えているかについて（全体）



【問2（8）で「1 はい」（外出を控えている）の方のみ】

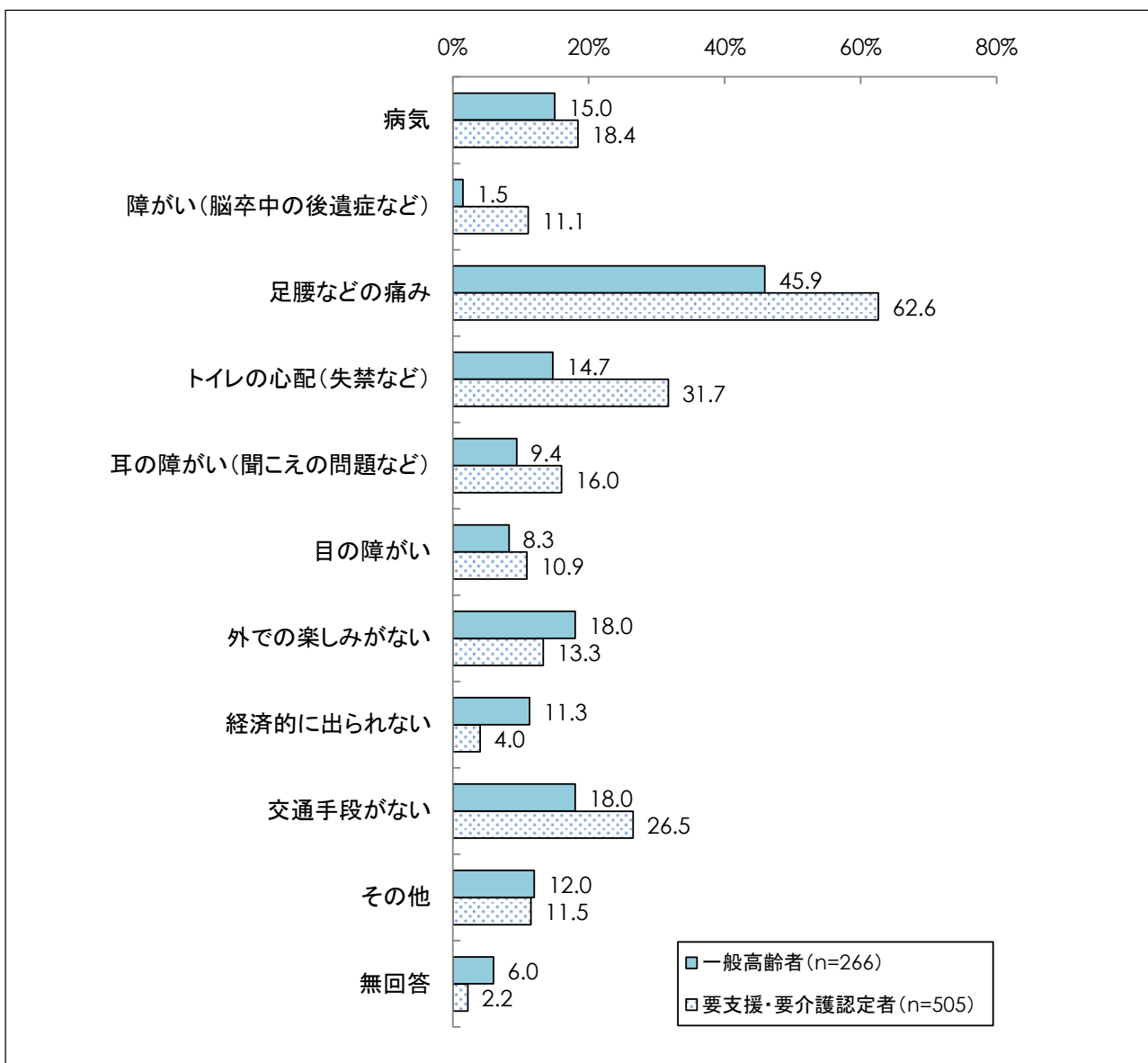
問2（8）① 外出を控えている理由は、次のどれですか。（いくつでも）

### 【全体の傾向】

外出を控えていると回答した人に対し、外出を控えている理由についてたずねたところ、一般高齢者では「足腰などの痛み」（45.9%）が最も多く、次いで「外での楽しみがない」、「交通手段がない」（ともに18.0%）などとなっています。

要支援・要介護認定者でも「足腰などの痛み」が62.6%と最も多くなっていますが、その割合は突出しています。次いで「トイレの心配（失禁など）」（31.7%）、「交通手段がない」（26.5%）などが主な理由となっています。

図表 19 外出を控えている理由（全体／複数回答）



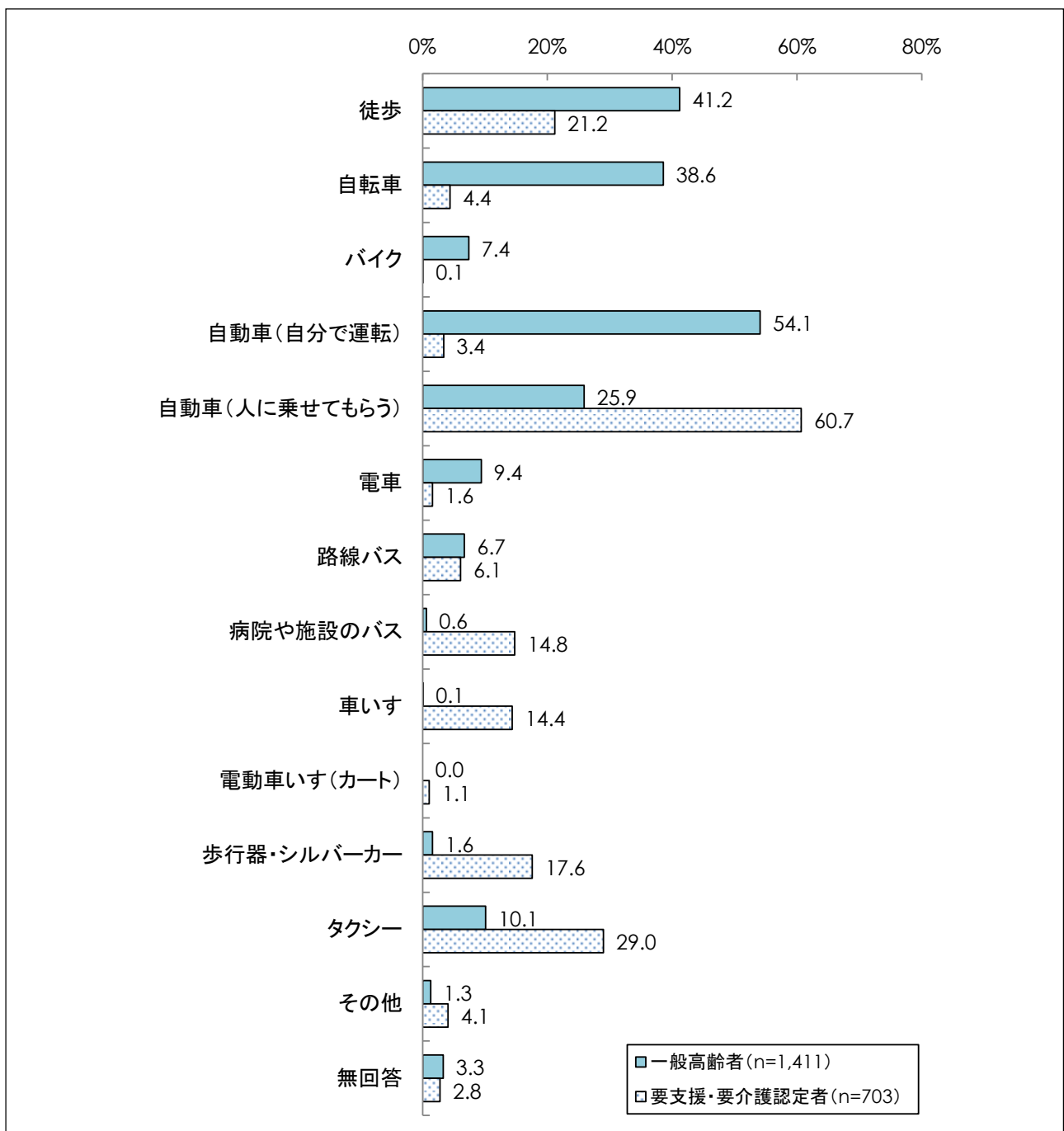
問2（9） 外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

外出する際の移動手段についてたずねたところ、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」が54.1%と最も多く、次いで「徒歩」（41.2%）,「自転車」（38.6%）となっています。

要支援・要介護認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」（60.7%）が最も多く、その割合は突出しています。次いで「タクシー」（29.0%）,「徒歩」（21.2%）などとなっています。

図表 20 外出する際の移動手段（全体／複数回答）



### 3 食べることについて

#### (1) BMI 算出

##### 問3(1) 身長・体重 (BMI 算出)

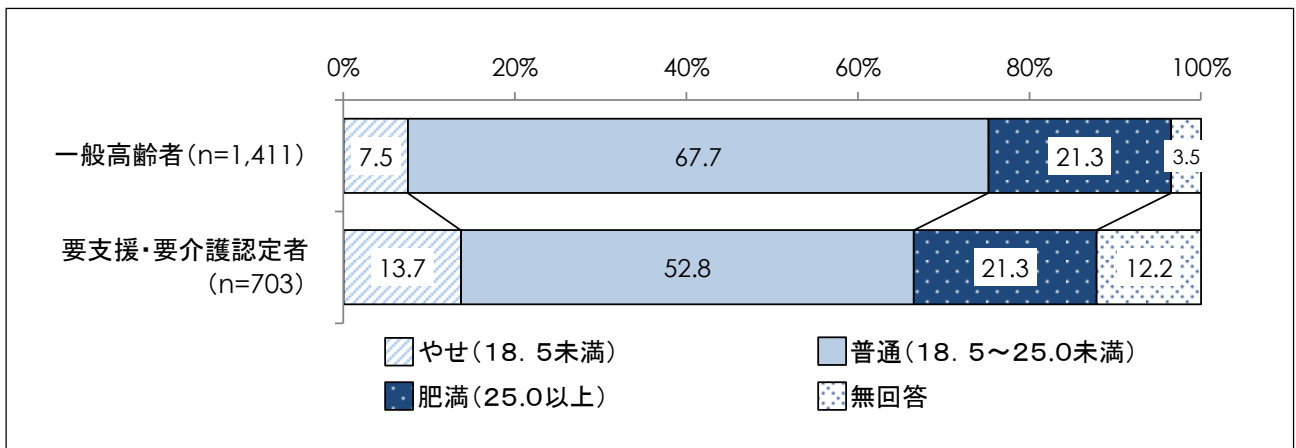
##### 【全体の傾向】

身長及び体重の記載から算出したBMI値については、一般高齢者では「普通(18.5~25.0未満)」が67.7%と最も高くなっています。

一方、「やせ(18.5未満)」は7.5%、「肥満(25.0以上)」は21.3%となっています。

要支援・要介護認定者においても「普通(18.5~25.0未満)」が52.8%と最も高く、約5割を占めています。また、「やせ(18.5未満)」は13.7%、「肥満(25.0以上)」は21.3%となっています。

図表 21 BMI 値 (全体)



## (2) 口腔機能について

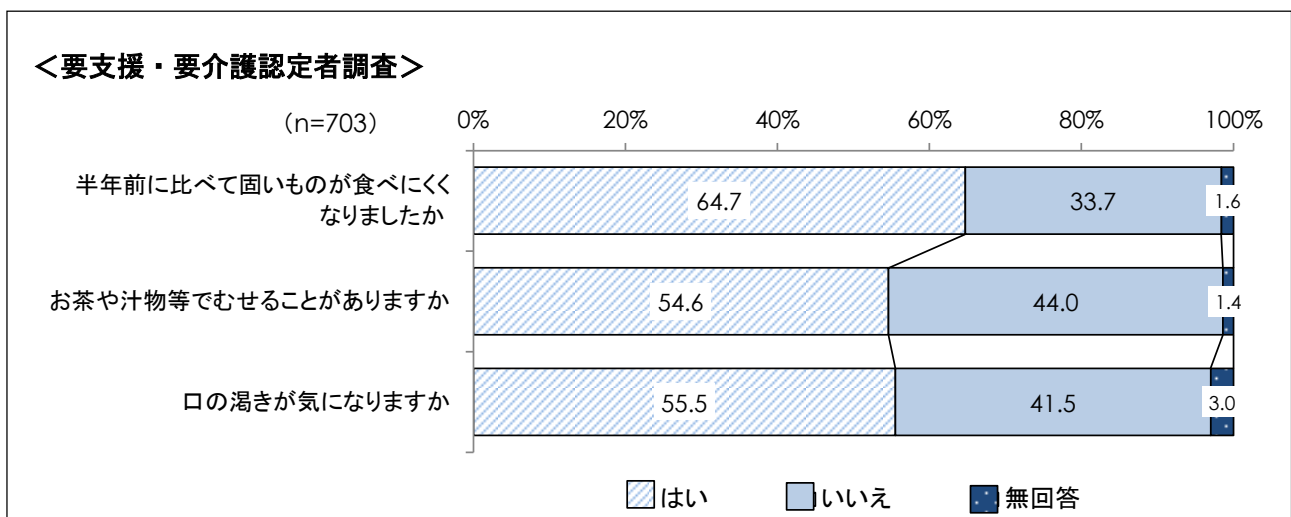
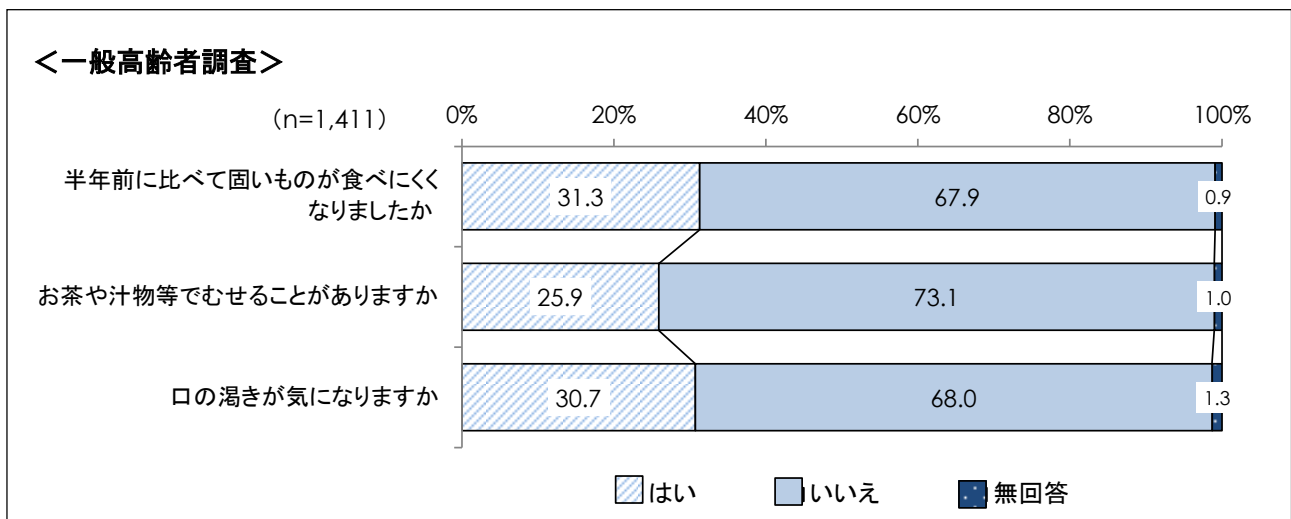
- 問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。  
 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか。  
 (4) 口の渇きが気になりますか。

### 【全体の傾向】

口腔機能についてたずねたところ、一般高齢者では「いいえ」の割合が約7割を占めていますが、『半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか』については「はい」が31.3%となっており、他の設問に比べて「はい」と回答した人の割合が高くなっています。

要支援・要介護認定者では、「はい」の割合が5割を超え、半数以上の人が何らかの口腔機能の低下を感じています。中でも、『半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか』については、「はい」が64.7%と高くなっています。

図表 22 口腔機能について (全体)

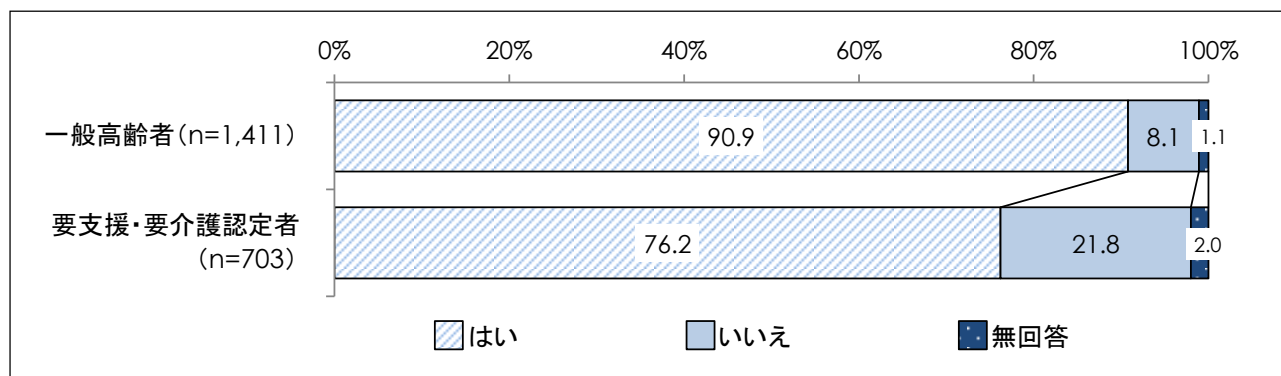


問3（5） 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。

【全体の傾向】

歯磨きを毎日しているかについてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が90.9%と大半を占め、要支援・要介護認定者では76.2%と7割を超えています。

図表 23 毎日の歯磨きの有無（全体）

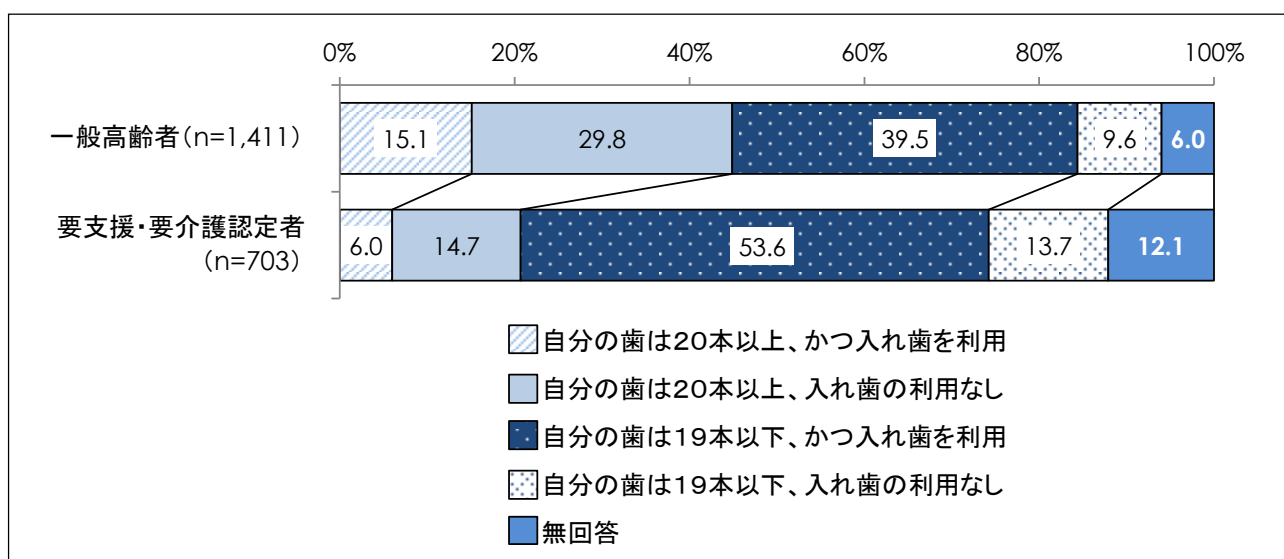


問3（6） 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。  
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

【全体の傾向】

歯の本数と、入れ歯の利用状況をたずねたところ、一般高齢者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が39.5%と最も高く約4割を占めています。要支援・要介護認定者でも「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高くなっていますが、その割合は53.6%と5割を超えています。

図表 24 歯の本数と入れ歯の利用状況（全体）



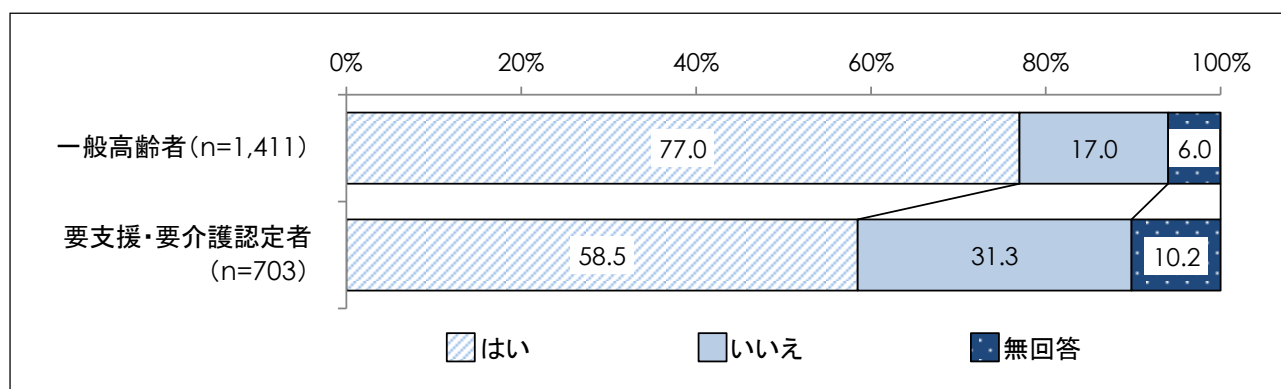
問3(6)① 噛み合わせは良いですか。

【全体の傾向】

歯の噛み合わせの状態についてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が77.0%と約8割の人が噛み合わせは良いと回答しています。

要支援・要介護認定者では「はい」は58.5%と約6割を占めていますが、「いいえ」が31.3%となっており、約3割の人が噛み合わせは良くないと回答しています。

図表 25 噛み合わせの状態について（全体）



【問3(6)で「1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

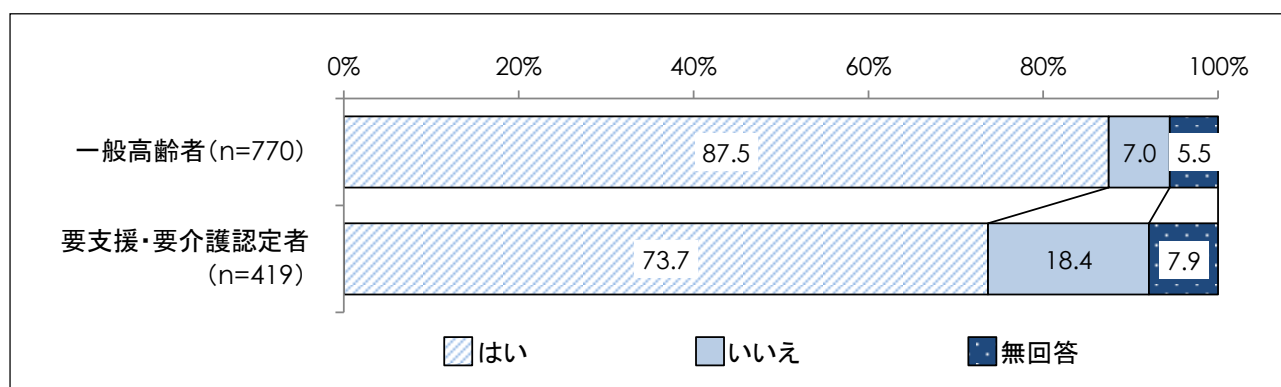
問3(6)② 毎日入れ歯の手入れをしていますか。

【全体の傾向】

入れ歯を利用していると回答した人に、毎日入れ歯の手入れをしているかについてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が87.5%を占め、ほとんどの人が毎日入れ歯の手入れをしています。

要支援・要介護認定者でも「はい」が73.7%を占めています。

図表 26 入れ歯の手入れについて（全体）





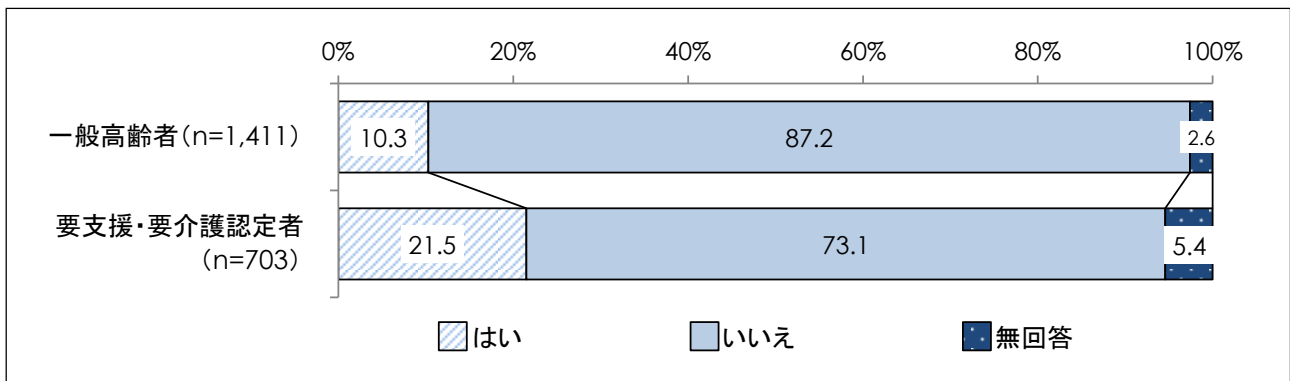
### (3) 体重減少の有無について

問3 (7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

#### 【全体の傾向】

6か月間で体重減少があったかについてたずねたところ、一般高齢者では「いいえ(減少していない)」が87.2%と大半を占めています。要支援・要介護認定者では、「いいえ(減少していない)」が73.1%を占め、「はい(減少している)」は21.5%と2割程度となっています。

図表 27 体重減少の有無について (全体)



### (4) 食事の状況について

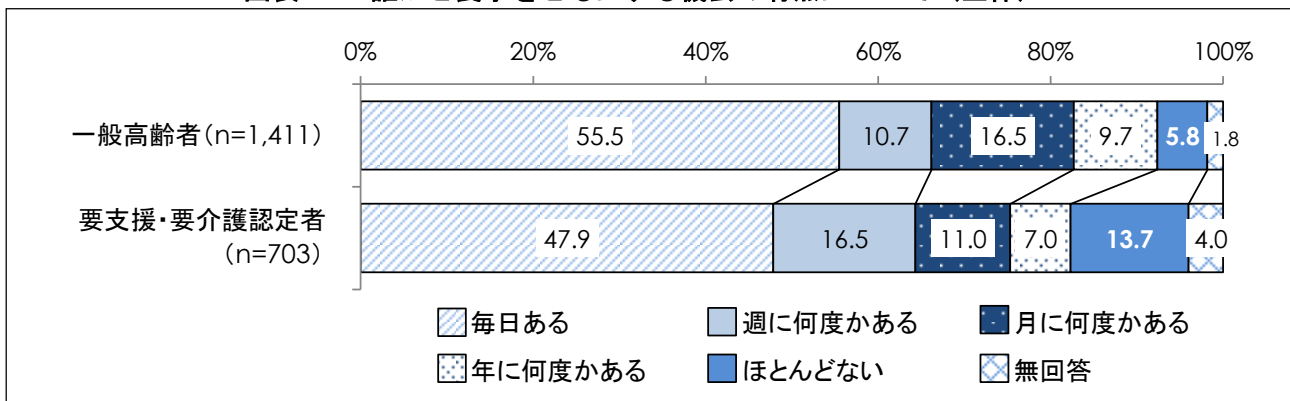
問3 (8) どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

#### 【全体の傾向】

誰かと食事をとにもする機会の有無についてたずねたところ、一般高齢者では「毎日ある」が55.5%と5割を超えており、「ほとんどない」はわずか5.8%となっています。

要支援・要介護認定者でも同様の傾向となっており、「毎日ある」が47.9%と最も高くなっていますが、「ほとんどない」が13.7%とやや一般高齢者よりも高くなっています。

図表 28 誰かと食事をとにもする機会の有無について (全体)



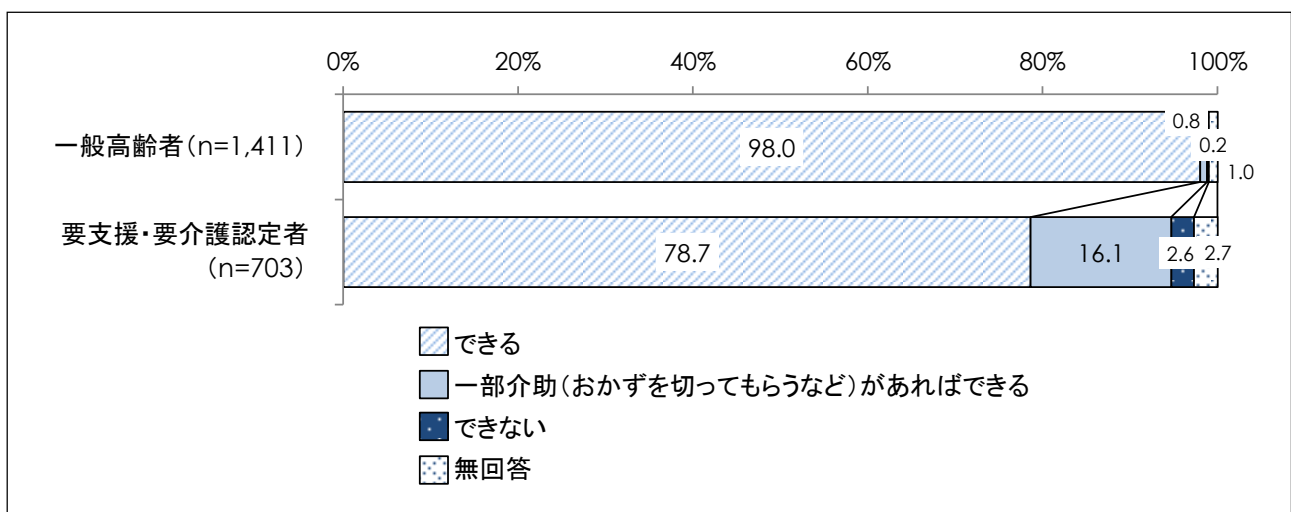
問3（9） 食事は自分で食べられますか。

【全体の傾向】

食事を自分で食べられるかについてたずねたところ、一般高齢者では「できる」が98.0%と大半を占めています。

要支援・要介護認定者では、「できる」が78.7%と約8割の人が食事を自分で食べられると回答しています。また、「一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる」は16.1%、「できない」が2.6%となっています。

図表 29 食事の際に介助が必要かについて（全体）



## 4 毎日の生活について

### (1) 認知機能について

問4(1) 物忘れが多いと感じますか。

問4(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

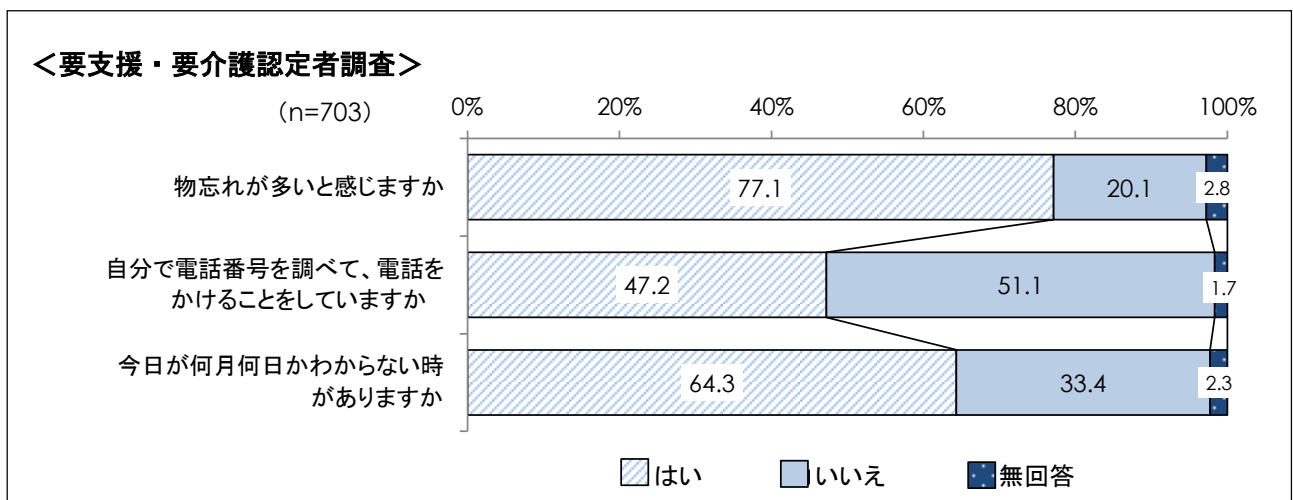
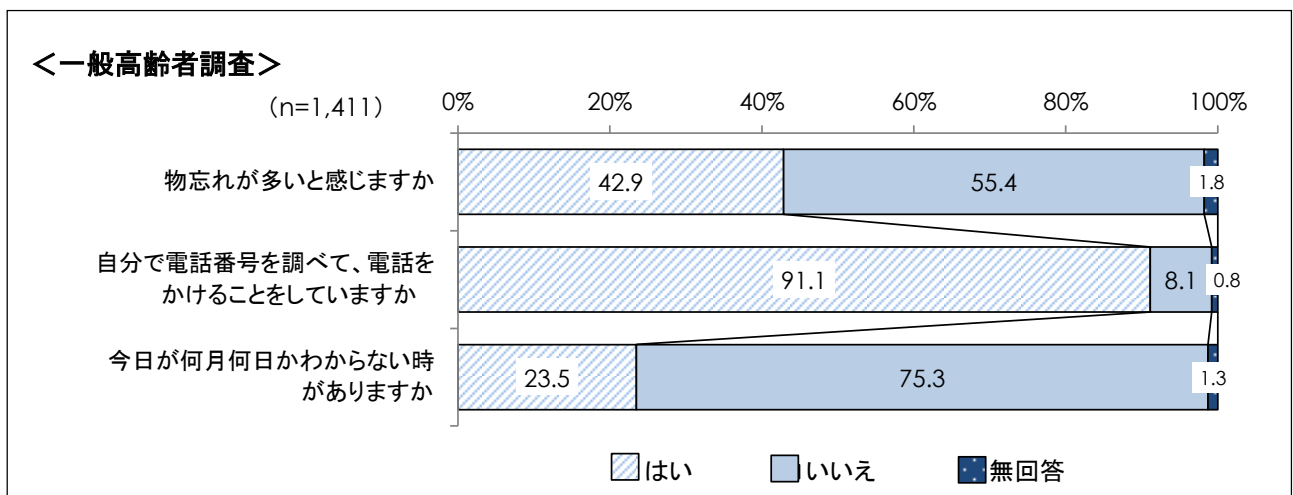
問4(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。

#### 【全体の傾向】

認知機能についてたずねたところ、一般高齢者では『物忘れが多いと感じますか』については全体の42.9%が「はい」と回答しており、約4割の人が認知機能の低下を感じています。

要支援・要介護認定者では、『物忘れが多いと感じますか』、『今日が何月何日かわからない時がありますか』については「はい」の割合が6割を超えています。また、『自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか』については「いいえ」が51.1%と過半数を占めています。

図表 30 認知機能について（全体）



## (2) IADL<手段的日常生活動作>について（老研式活動能力指標）

- 問4（4）バスや電車を使って1人で外出していますか。（自家用車でも可）  
 （5）自分で食品・日用品の買物をしていますか。  
 （6）自分で食事の用意をしていますか。  
 （7）自分で請求書の支払いをしていますか。  
 （8）自分で預貯金の出し入れをしていますか。

### 【全体の傾向】

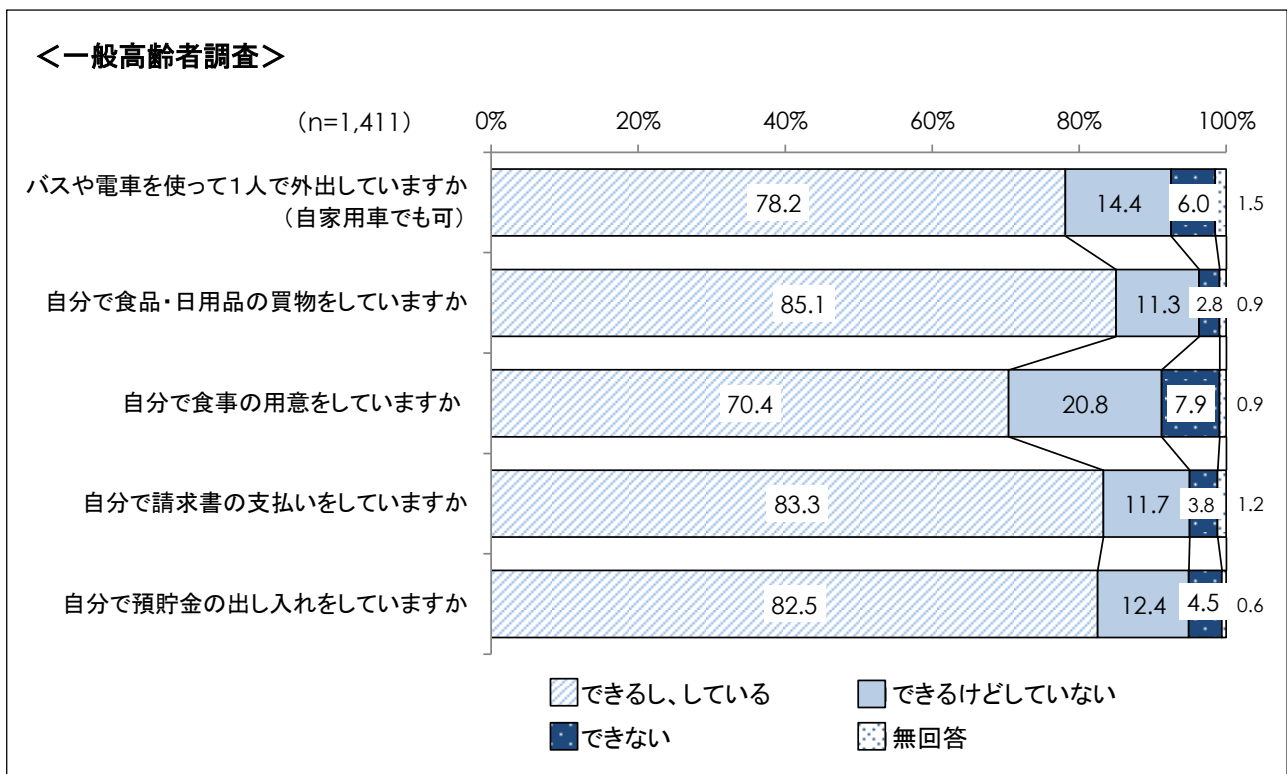
IADL（手段的日常生活動作）に関する項目についてたずねたところ、一般高齢者では全ての設問で「できるし、している」が7割を超えています。

一方、『自分で食事の用意をしていますか』では「できるけどしていない」が20.8%、「できない」が7.9%となっており、していない、又はできない人の割合が他の設問に比べてやや高くなっています。

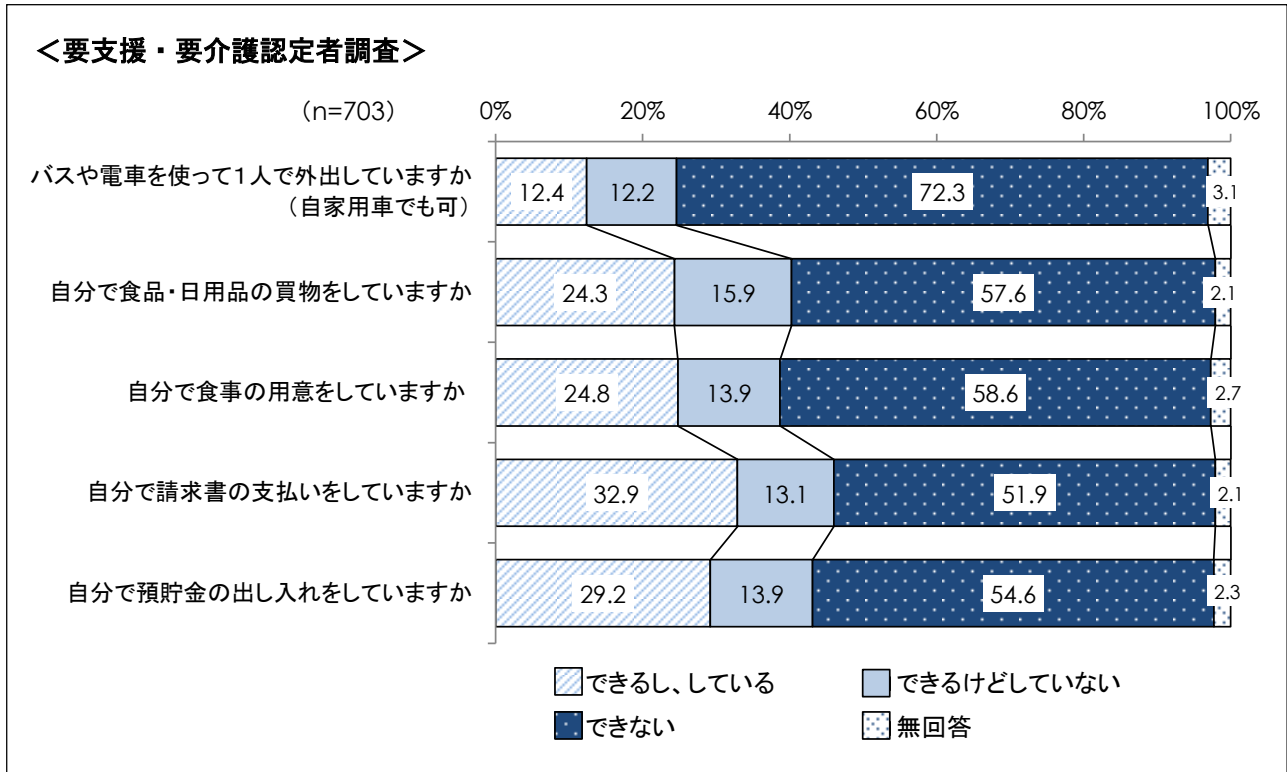
要支援・要介護認定者では「できない」が約5割～7割を占め最も高く、中でも『バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）』については「できない」が72.3%と7割を超えています。

「できるし、している」の割合については、『自分で請求書の支払いをしていますか』で32.9%と3割を超え、できる人の割合が他の設問に比べて高くなっています。

図表 31 IADLについて（全体）



図表 32 IADLについて（全体）



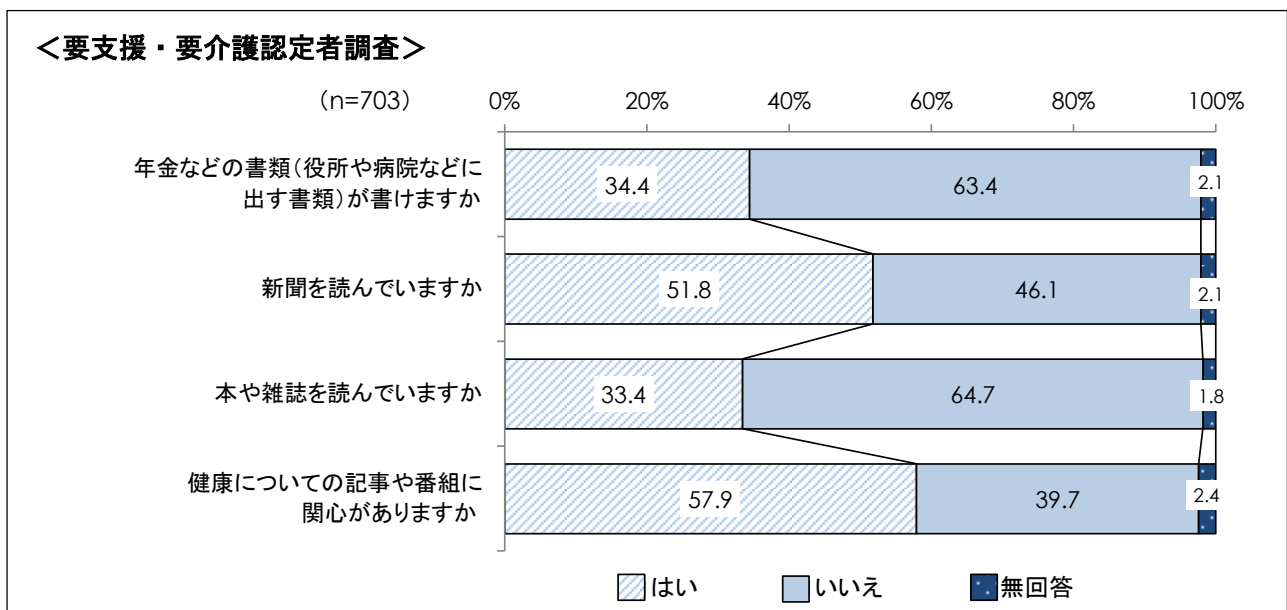
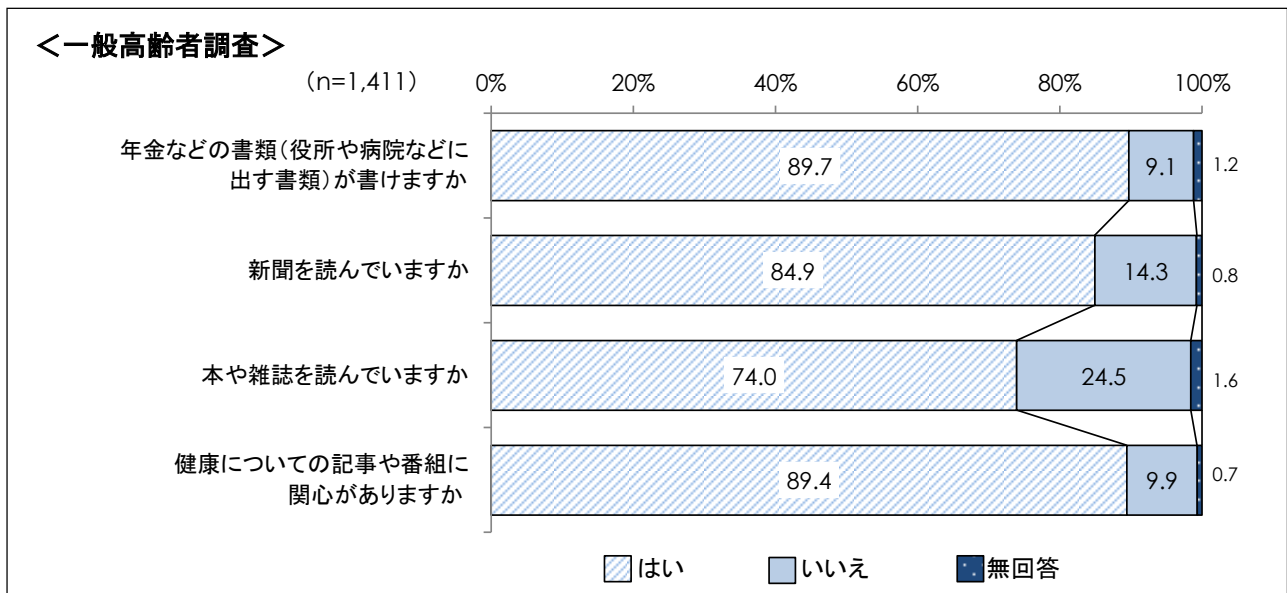
### (3) 社会参加一知的能動性（老研式活動能力指標）

- 問4（9） 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。  
 （10）新聞を読んでいますか。  
 （11）本や雑誌を読んでいますか。  
 （12）健康についての記事や番組に関心がありますか。

#### 【全体の傾向】

知的能動性に関する項目についてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が全ての設問で7割を超えています。『本や雑誌を読んでいますか』で、「いいえ」（24.5%）の割合が、他の設問に比べて高くなっています。要支援・要介護認定者では『年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか』、『本や雑誌を読んでいますか』については「いいえ」が6割を超えています。

図表 33 社会参加一知的能動性について（全体）



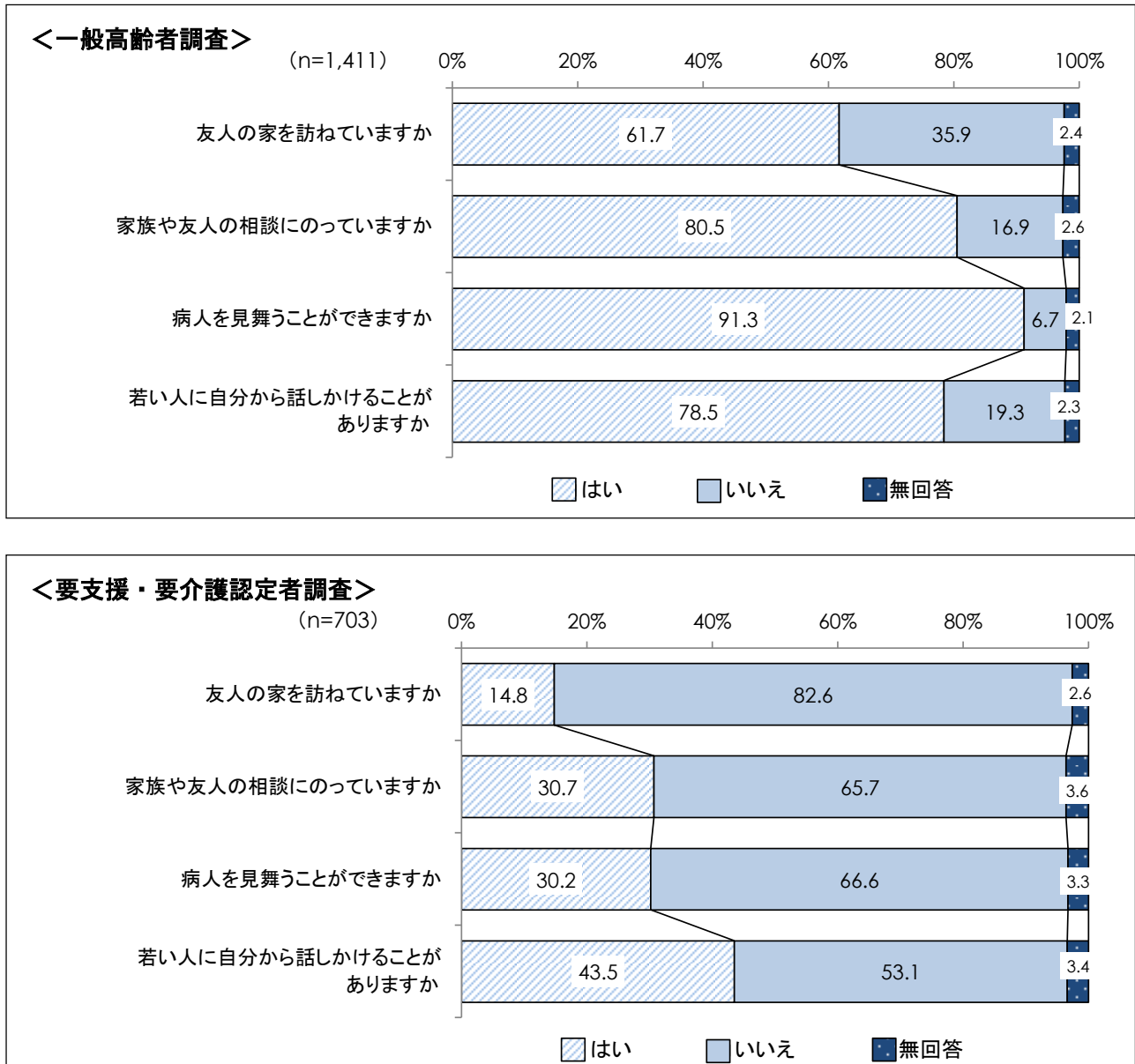
#### (4) 社会参加－社会的役割（老研式活動能力指標）

- 問4（13）友人の家を訪ねていますか。  
 （14）家族や友人の相談にのっていますか。  
 （15）病人を見舞うことができますか。  
 （16）若い人に自分から話しかけることがありますか。

##### 【全体の傾向】

社会的役割に関する項目についてたずねたところ、一般高齢者では『病人を見舞うことができますか』で「はい」が91.3%と大半を占めています。一方、『友人の家を訪ねていますか』では、「いいえ」が35.9%とやや高くなっています。要支援・要介護認定者では、全ての設問で「いいえ」が「はい」の割合を上回っており、中でも『友人の家を訪ねていますか』では「いいえ」が82.6%となっており、8割以上の方が友人の家を訪ねていないという結果となっています。

図表 34 社会参加－社会的役割について（全体）



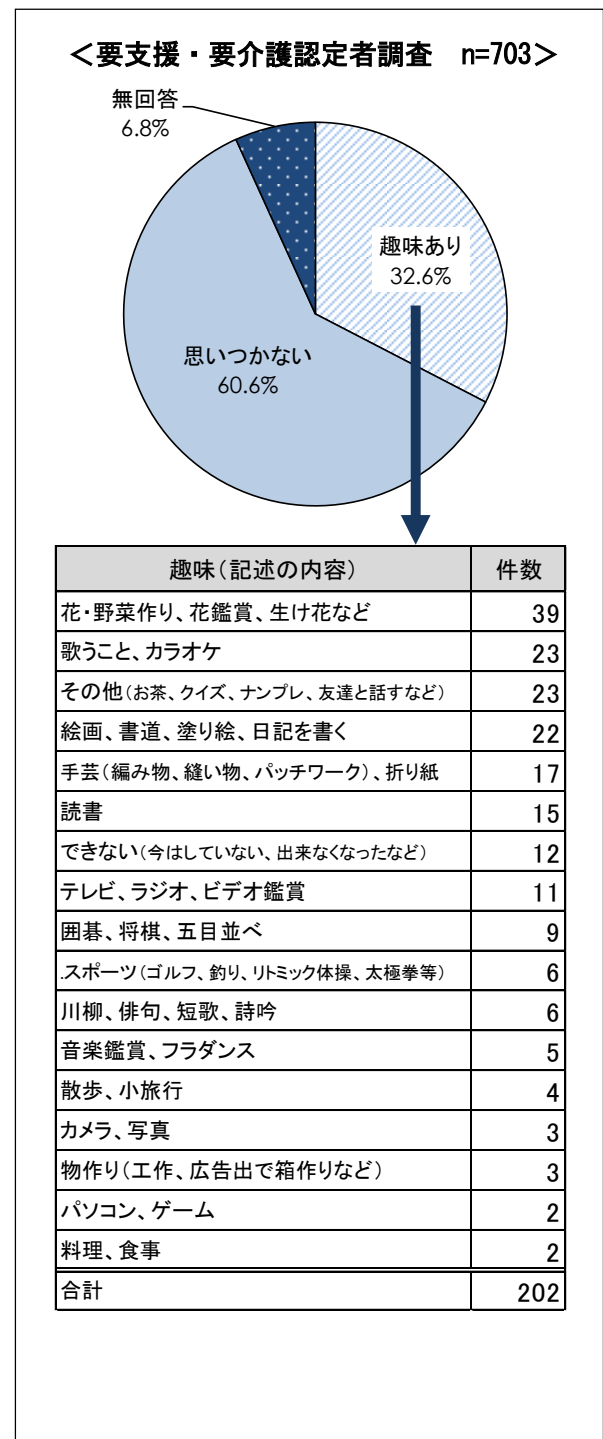
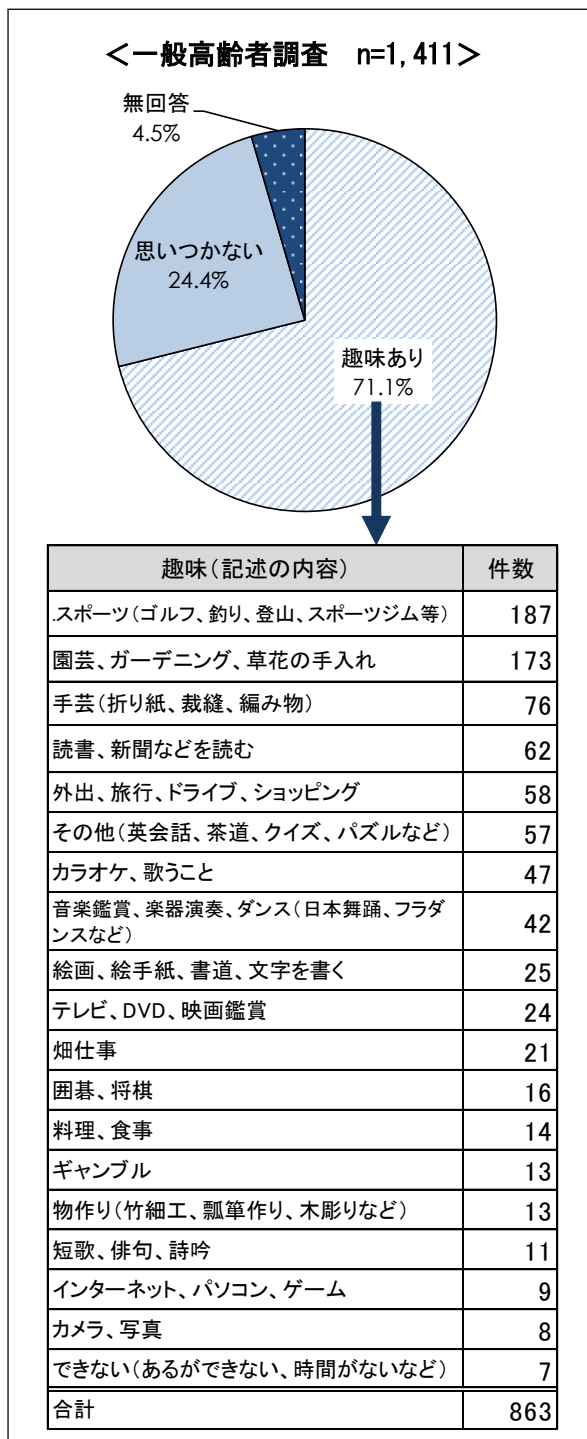
## (5) 趣味の有無

問4(17) 趣味はありますか。

### 【全体の傾向】

趣味の有無についてたずねたところ、一般高齢者では「趣味あり」が71.1%と約7割を占めています。要支援・要介護認定者では「趣味あり」は32.6%と3割程度にとどまり、「思いつかない」が60.6%と大きく上回っています。

図表 35 趣味の有無と内容（全体）





## (6) 生きがいの有無

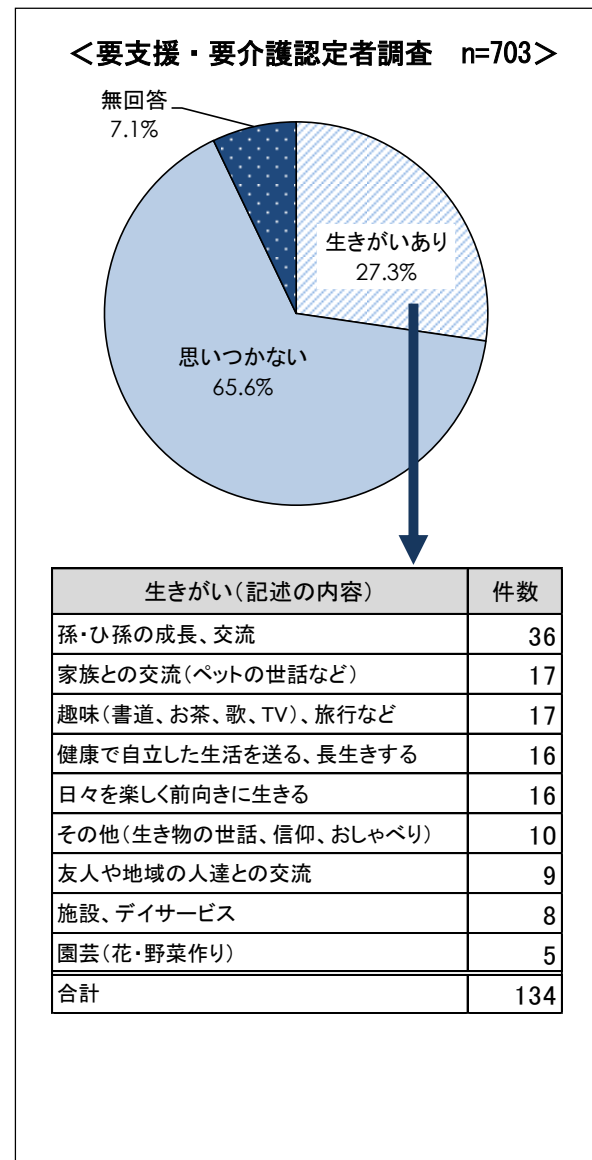
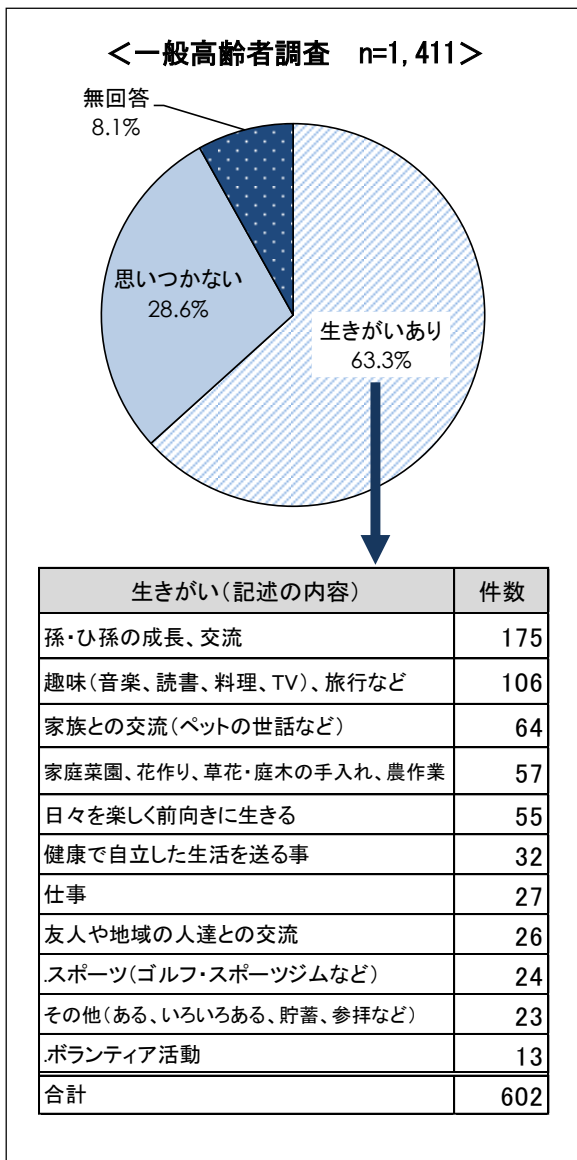
問4(18) 生きがいはありますか。

### 【全体の傾向】

生きがいの有無についてたずねたところ、一般高齢者では「生きがいあり」が63.3%を占めており、その内容は孫の成長や趣味、家族との交流などとなっています。

要支援・要介護認定者では「生きがいあり」は27.3%と3割程度にとどまり、「思いつかない」が65.6%と大きく上回っています。

図表 36 生きがいの有無と内容（全体）



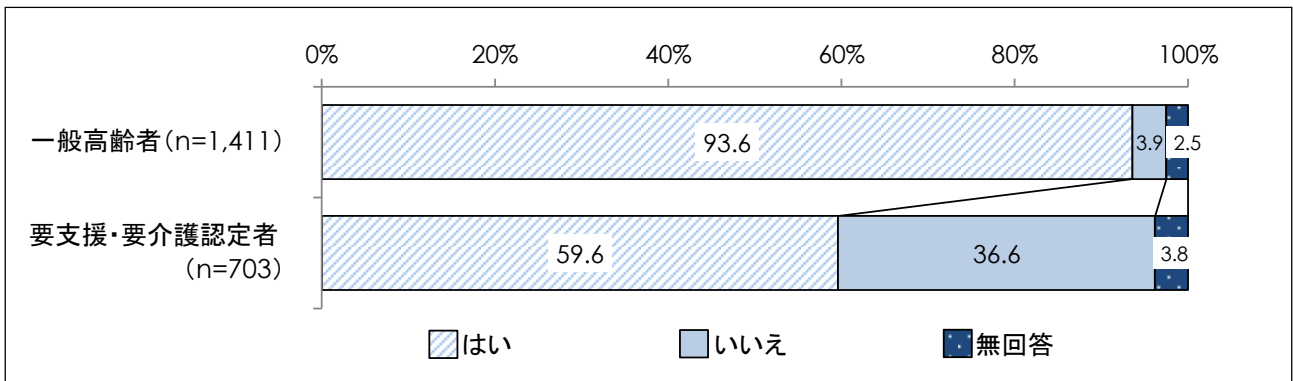
## (7) 記憶力や判断力, 伝達力について

問4(19) 5分前のことが思い出せますか。

### 【全体の傾向】

5分前のことが思い出せるかについてたずねたところ、一般高齢者では「はい」が93.6%と大半を占めています。要支援・要介護認定者では「はい」は59.6%、「いいえ」が36.6%となっており、思い出せない人が3割を超えています。

図表 37 5分前のことが思い出せるかについて (全体)

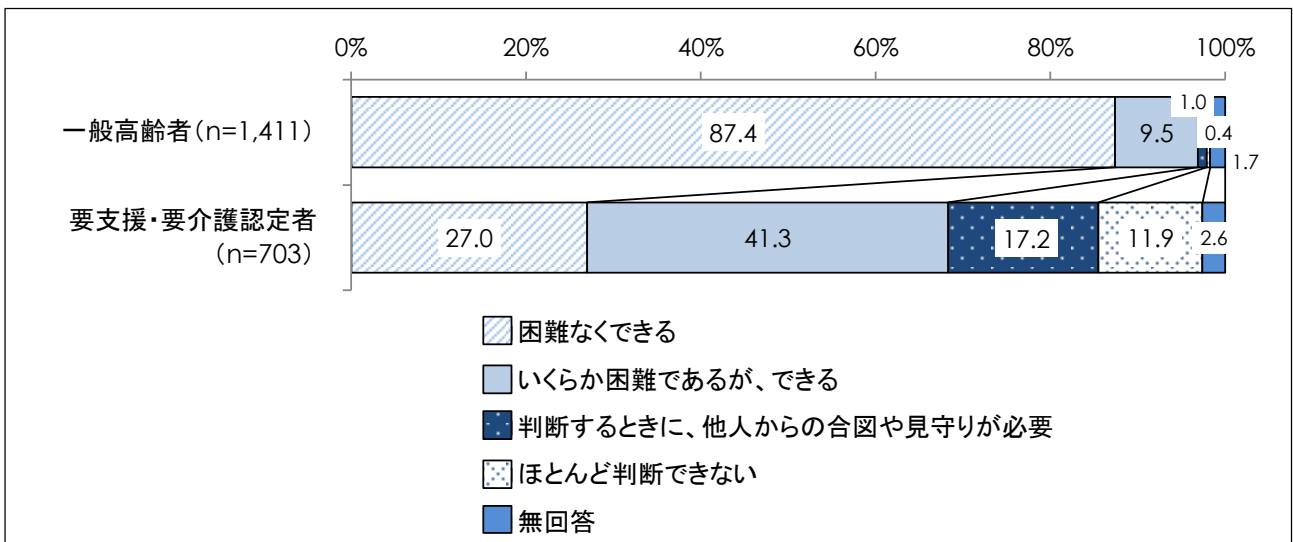


問4(20) その日の活動(食事をする, 衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。

### 【全体の傾向】

その日の活動を自分で判断できるかについてたずねたところ、一般高齢者では「困難なくできる」が87.4%と大半を占めています。要支援・要介護認定者では「いくらか困難であるが、できる」が41.3%と最も高く、次いで「困難なくできる」が27.0%となっています。

図表 38 その日の活動の判断の可否について (全体)



問4(21) 人に自分の考えをうまく伝えられますか。

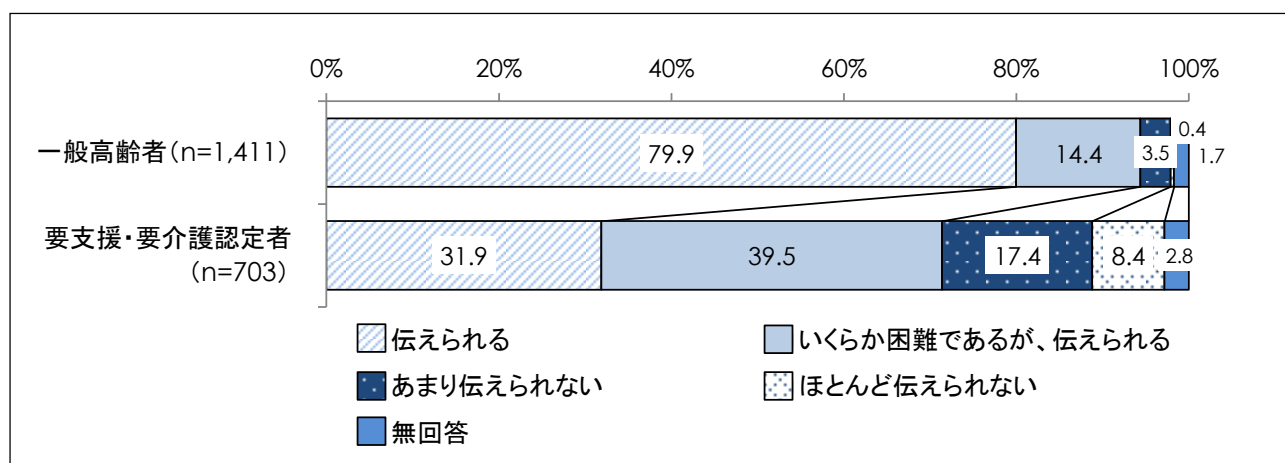
【全体の傾向】

人に自分の考えをうまく伝えられるかについてたずねたところ、一般高齢者では「伝えられる」が79.9%と約8割を占めています。

要支援・要介護認定者では「いくらか困難であるが、伝えられる」が39.5%と最も高く、次いで「伝えられる」が31.9%となっています。

一方、「あまり伝えられない」(17.4%)と「ほとんど伝えられない」(8.4%)を合計すると25.8%となり、2割以上の方がうまく伝えられないと回答しています。

図表 39 自分の考えをうまく伝えられるかについて (全体)



## 5 地域での活動について

### (1) 社会参加の状況

問5(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

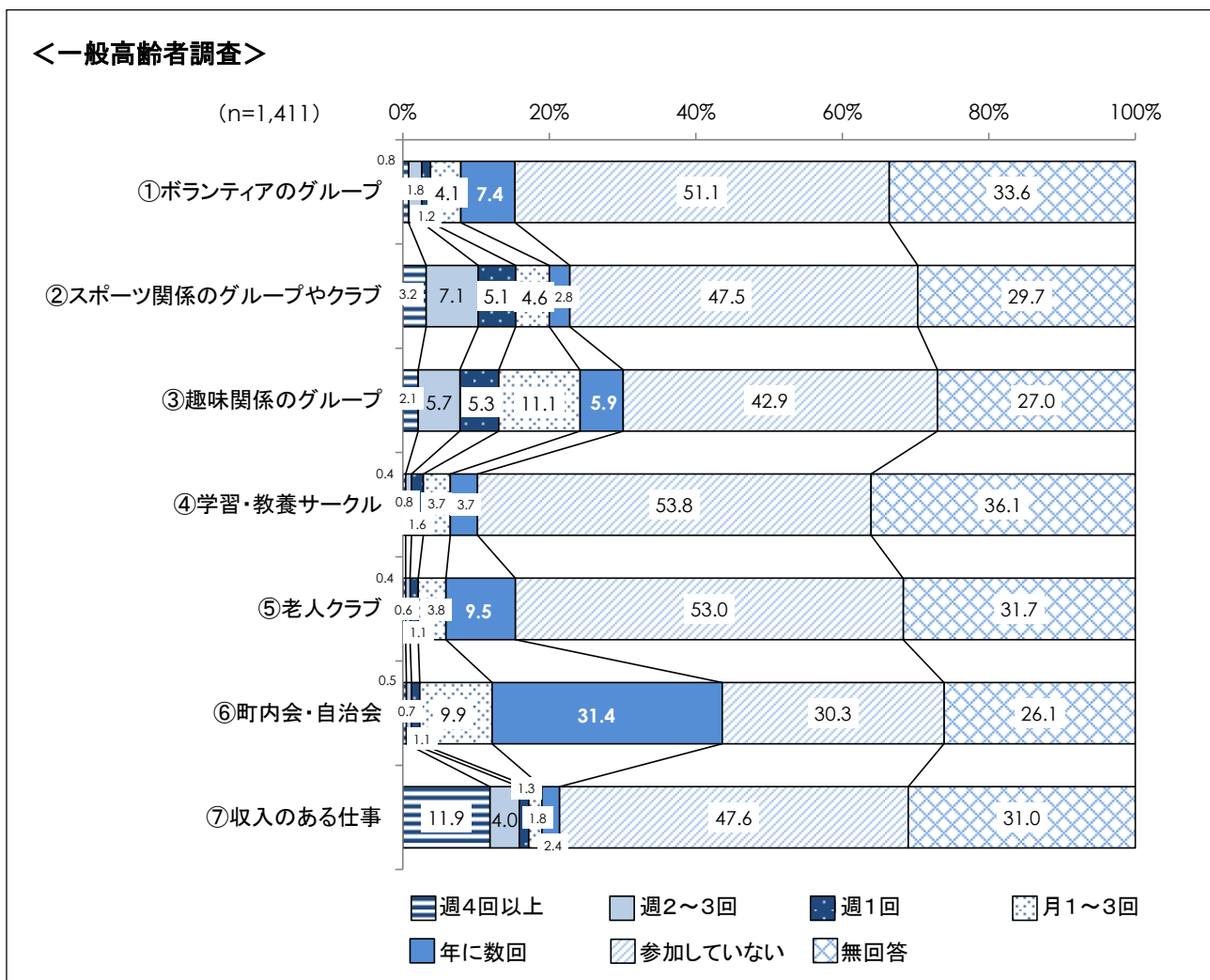
※①-⑦それぞれに回答してください

#### 【全体の傾向】

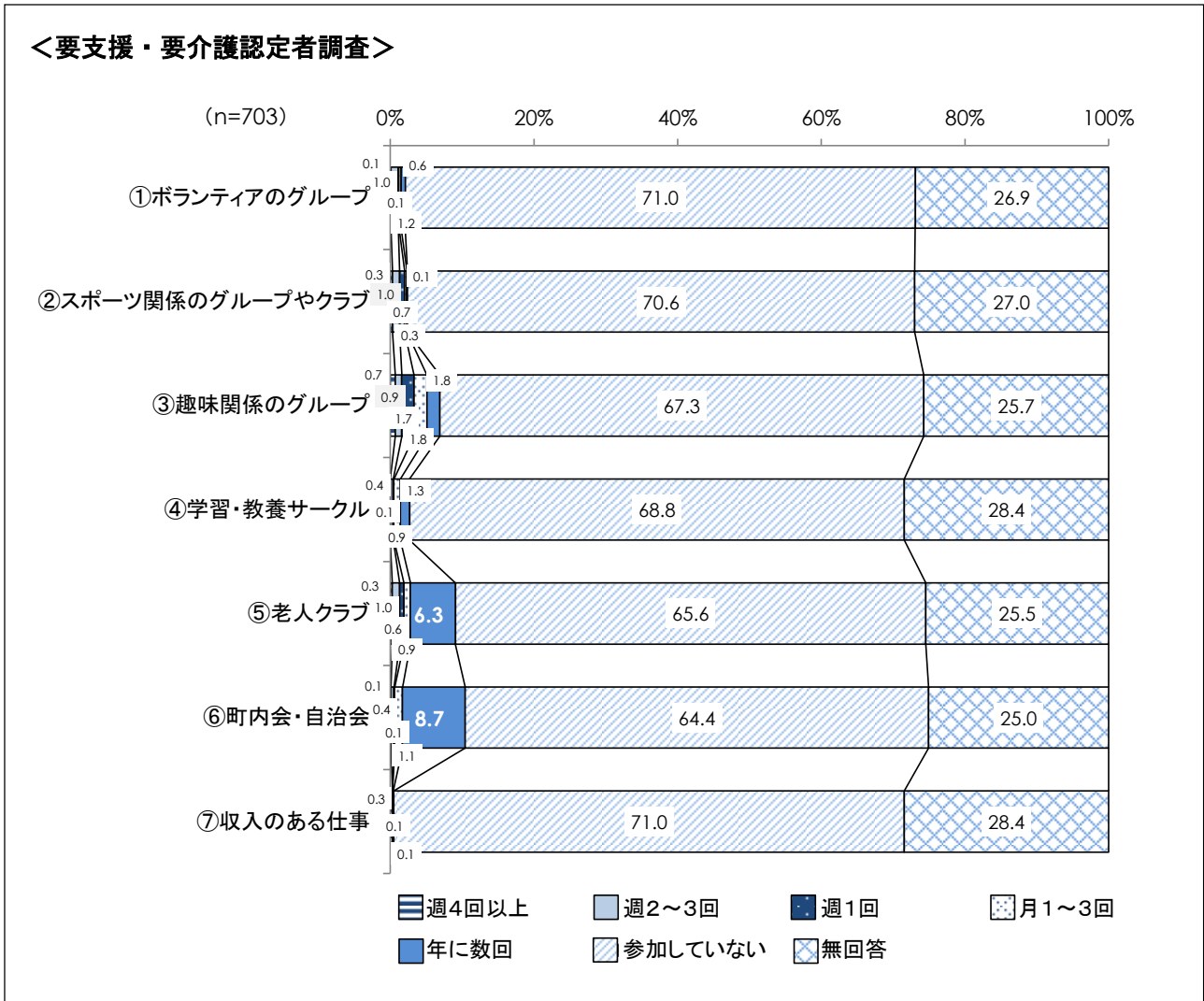
社会参加の頻度についてみると、一般高齢者では③趣味関係のグループや⑥町内会・自治会に参加している人が多く、その頻度については、③趣味関係のグループでは「月1～3回」(11.1%)、⑥町内会・自治会では「年に数回」(31.4%)の割合が高くなっています。

要支援・要介護認定者では「参加していない」が約6割～7割を占めていますが、⑤老人クラブ、⑥町内会・自治会には参加している人がやや多く、その頻度としては「年に数回」の割合が高くなっています。

図表 40 社会参加の状況 (全体)



図表 41 社会参加の状況（全体）



【属性別の傾向】

＜一般高齢者調査＞

①ボランティアのグループへの参加頻度を圏域別にみると、全ての圏域で「年に数回」との回答が多く、C圏域では11.0%、E圏域では10.2%と他の地区よりもやや高い割合となっています。

②スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度を圏域別にみると、C圏域、D圏域では「週1回」、その他の圏域では「週2～3回」との回答が多くなっています。

③趣味関係のグループへの参加頻度を圏域別にみると、全ての圏域で「月1～3回」との回答が多くなっています。

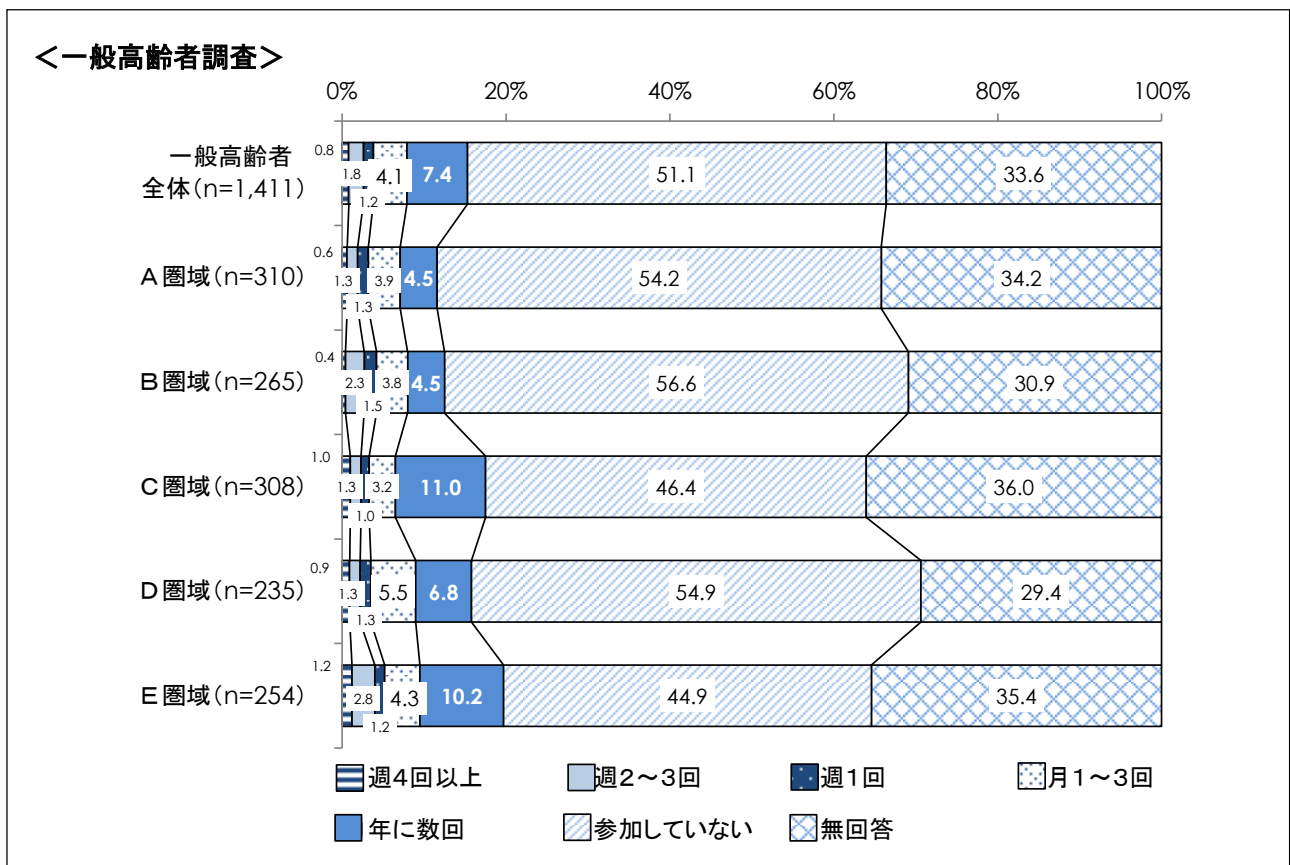
④学習・教養サークルへの参加頻度を圏域別にみると、他のグループ等への参加状況に比べて、「参加していない」割合が高く、すべての圏域で5割を超えています。

⑤老人クラブへの参加頻度を圏域別にみると、「年に数回」との回答が多くなっています。中でもC圏域では17.9%となっており、他の圏域に比べて参加率が高くなっています。

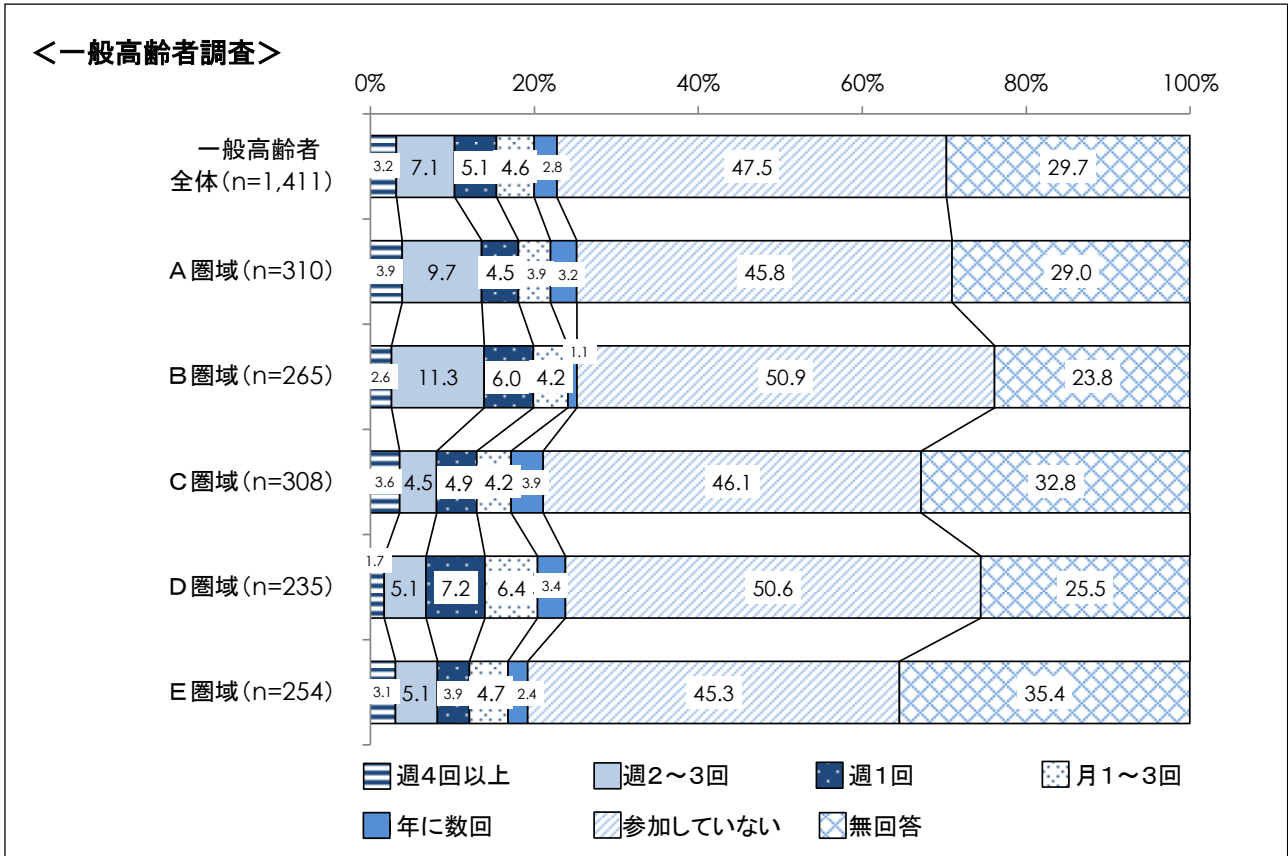
⑥町内会・自治会への参加頻度を圏域別にみると、「年に数回」との回答が約2割～4割を占め、他のグループ等に比べ、参加率が高くなっています。中でもC圏域では「年に数回」(41.9%)、E圏域では「月1～3回」(14.6%)がそれぞれ他の圏域よりも高い割合となっています。

⑦収入のある仕事への参加頻度を圏域別にみると、全ての圏域で「週4回以上」との回答が多くなっており、B圏域が14.7%と他の圏域よりも高い割合となっています。

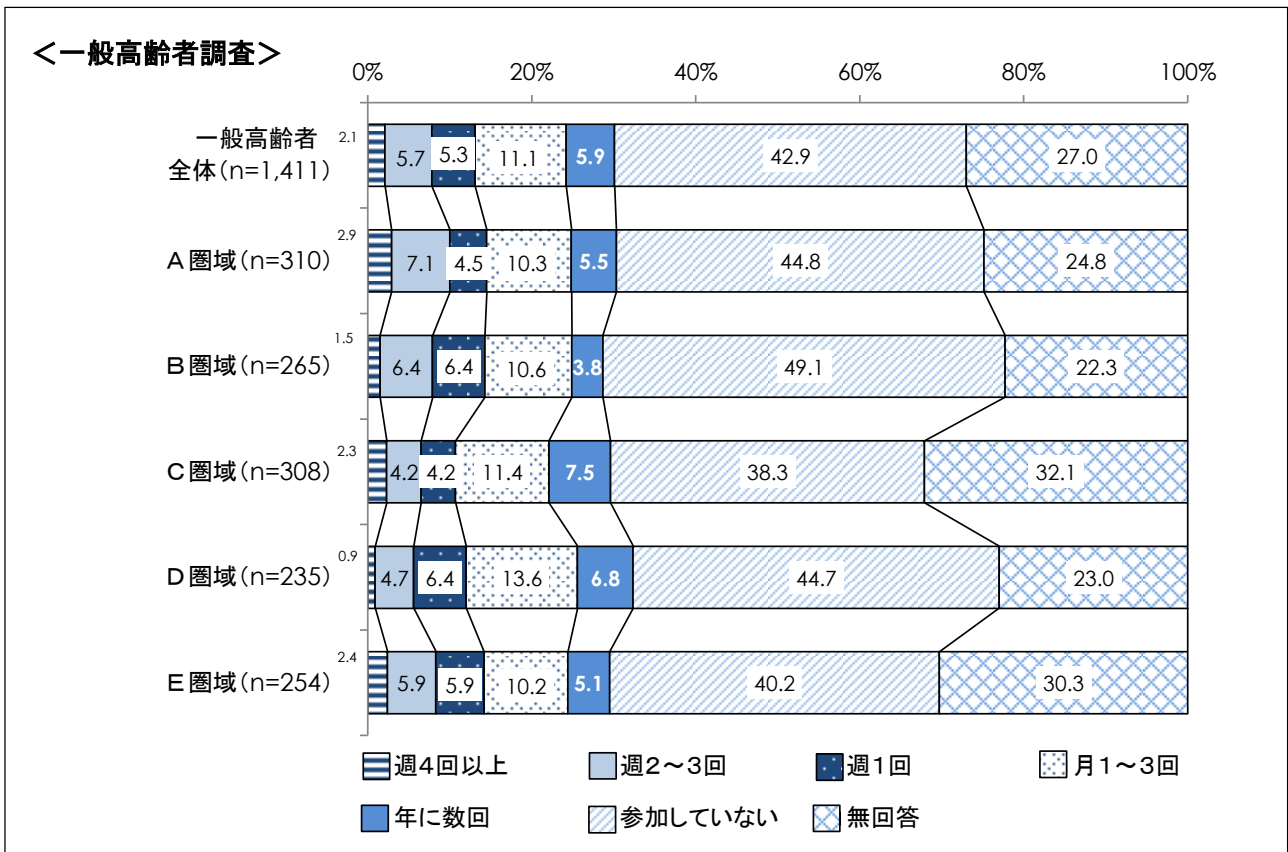
図表 42 ①ボランティアのグループ（全体、日常生活圏域別）



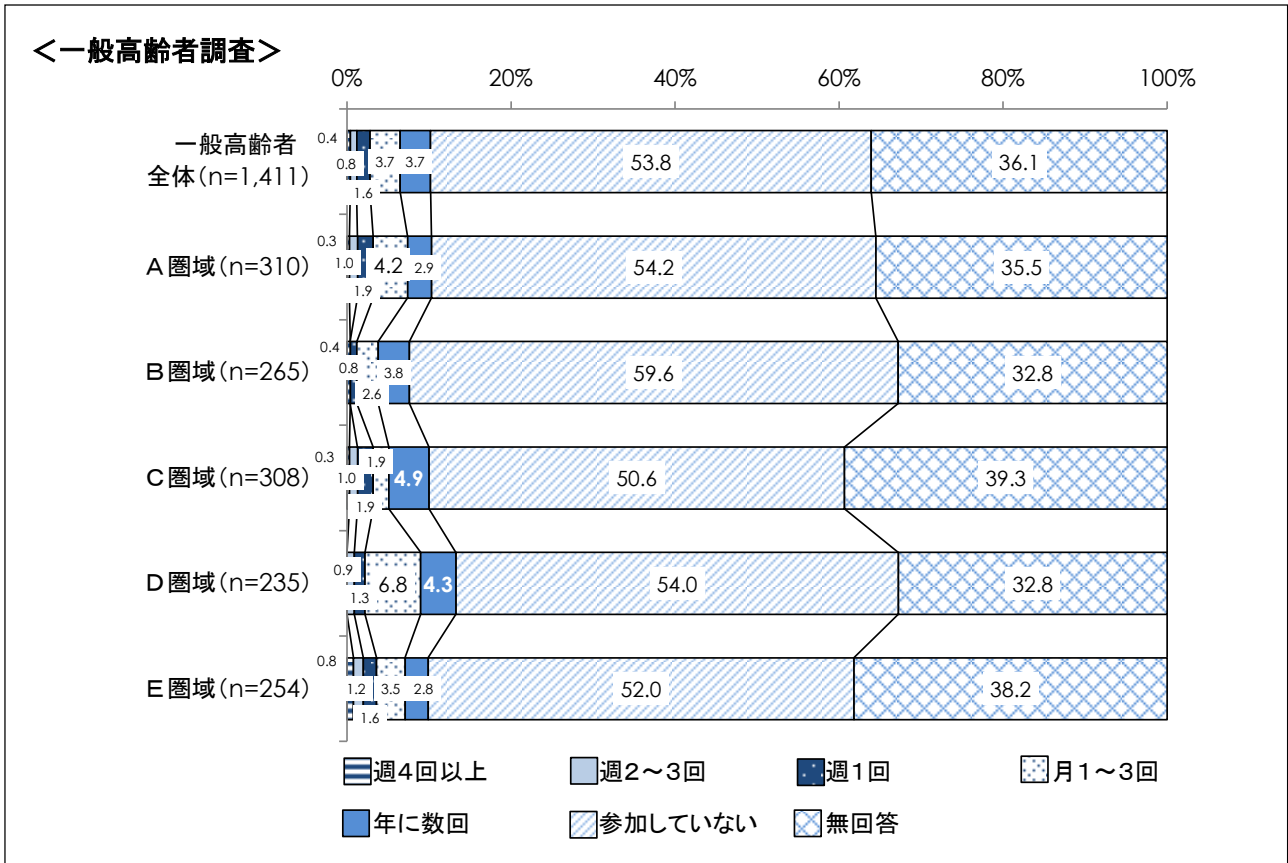
図表 43 ②スポーツ関係のグループやクラブ（全体，日常生活圏域別）



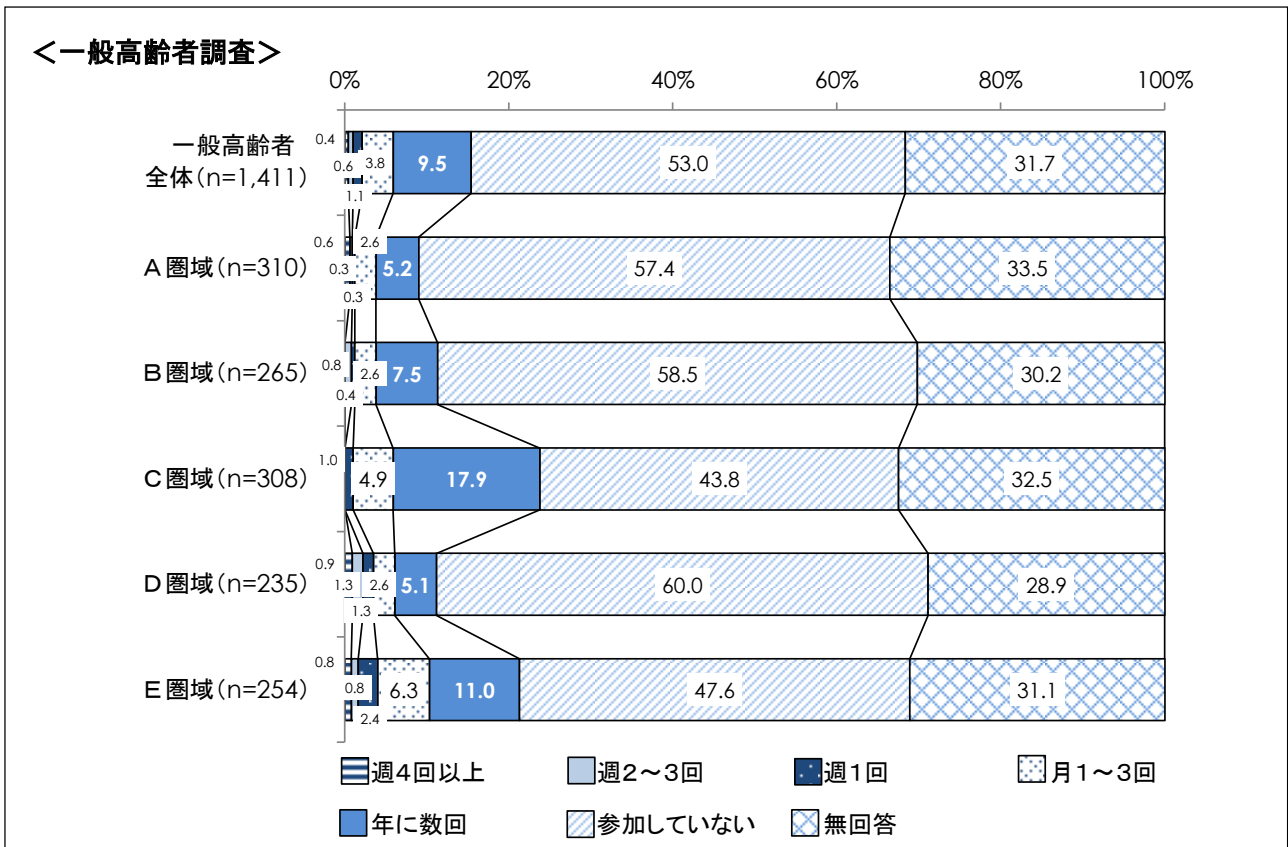
図表 44 ③趣味関係のグループ（全体，日常生活圏域別）



図表 45 ④学習・教養サークル（全体，日常生活圏域別）

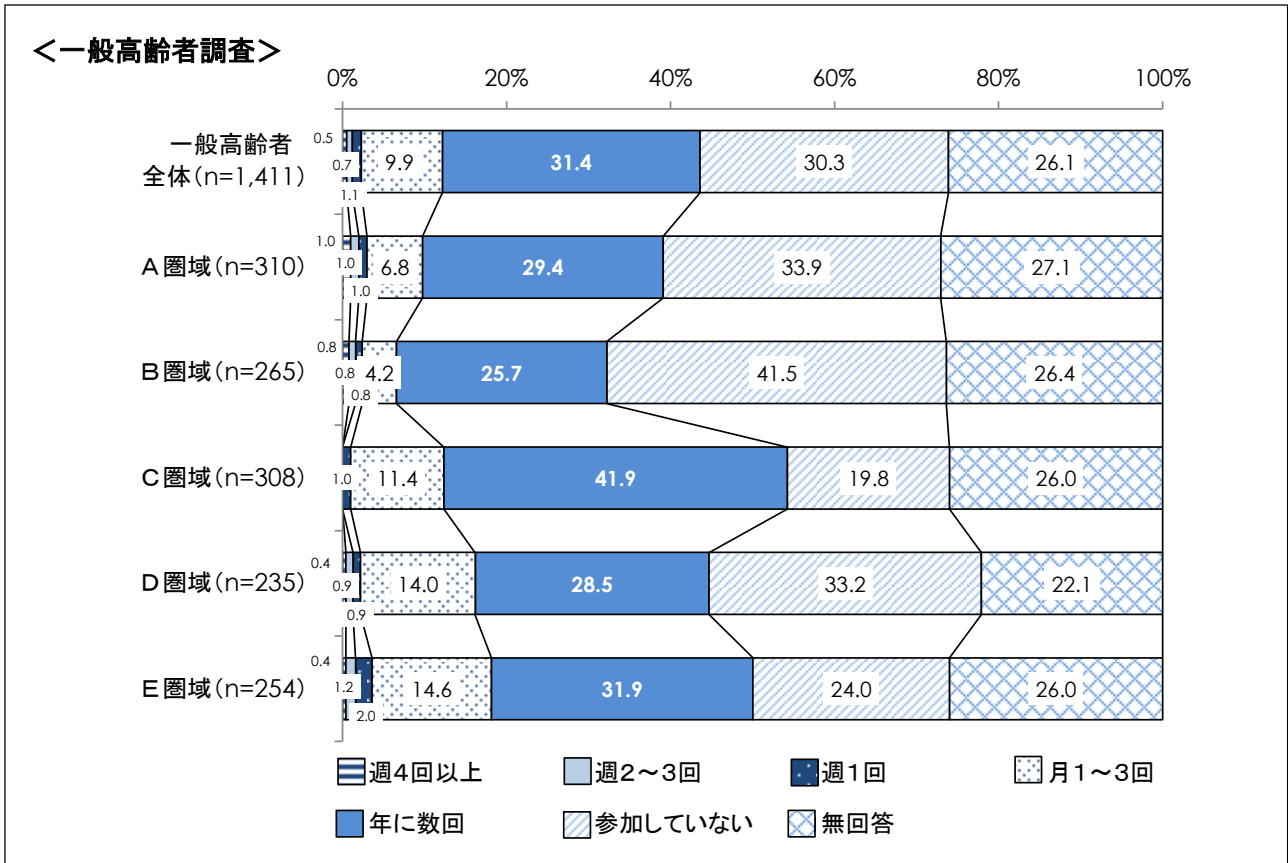


図表 46 ⑤老人クラブ（全体，日常生活圏域別）

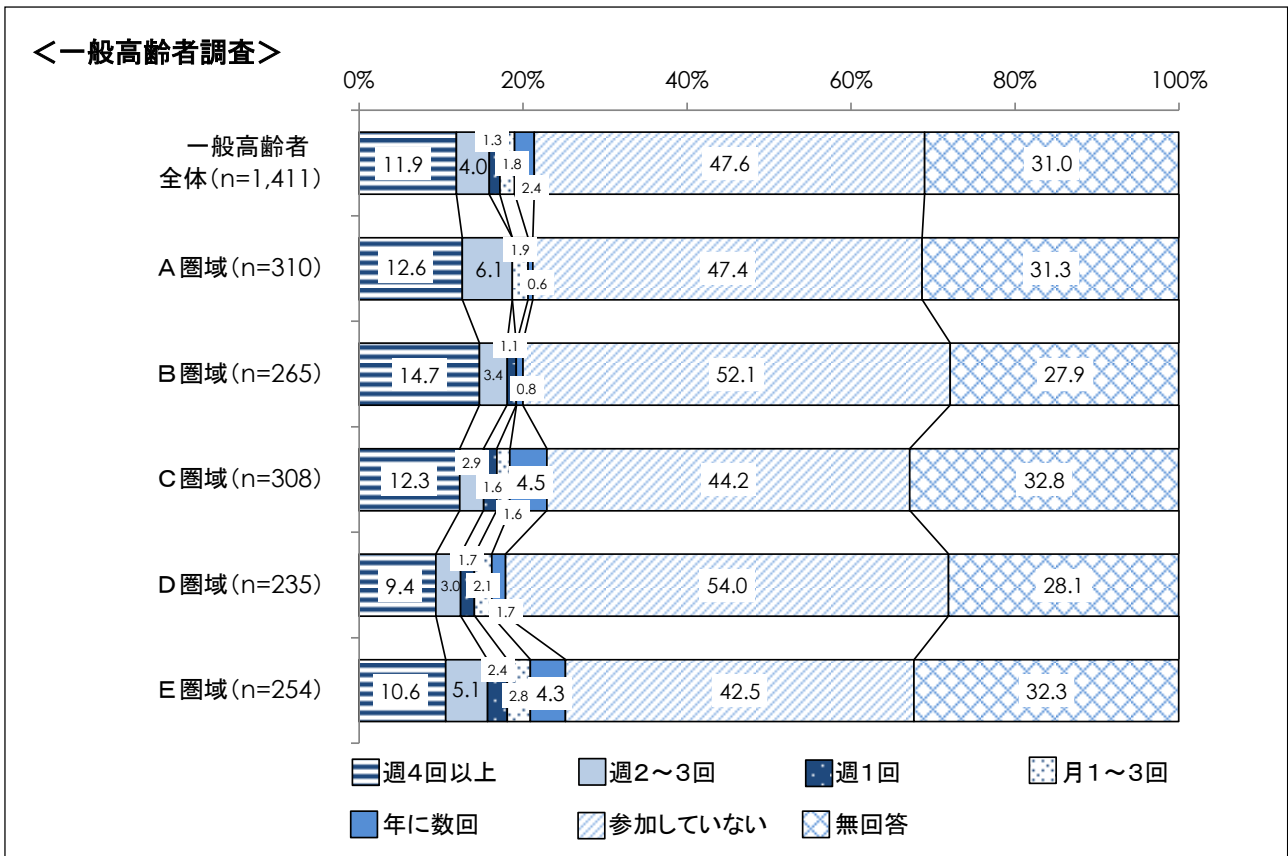




図表 47 ⑥町内会・自治会（全体，日常生活圏域別）



図表 48 ⑦収入のある仕事（全体，日常生活圏域別）



## (2) 地域づくりへの参加意向（参加者）

問5（2） 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

### 【全体の傾向】

地域づくり活動に参加者として参加してみたいかについてたずねたところ、一般高齢者では「参加してもよい」が50.7%と最も高く、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合計した『参加者として参加してもよい』の割合は60.1%と約6割を占めています。

要支援・要介護認定者では「参加したくない」が65.4%を占め、『参加者として参加してもよい』の割合は25.9%となっています。

### 【属性別の傾向】

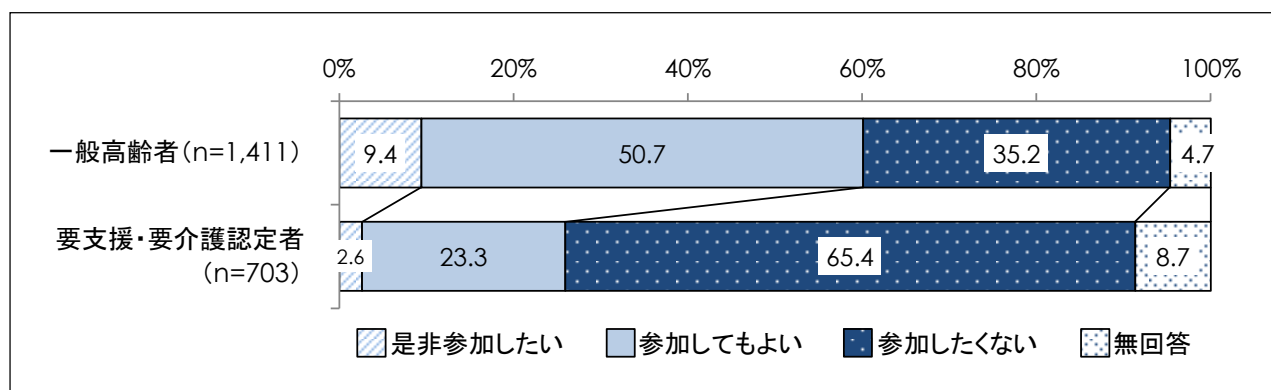
#### <一般高齢者調査>

圏域別にみると、『参加者として参加してもよい』の割合は、D圏域で65.5%と最も高くなっています。次いでC圏域（63.0%）、E圏域（60.2%）でも6割を超えており、他の圏域に比べて参加意欲の高い圏域となっています。

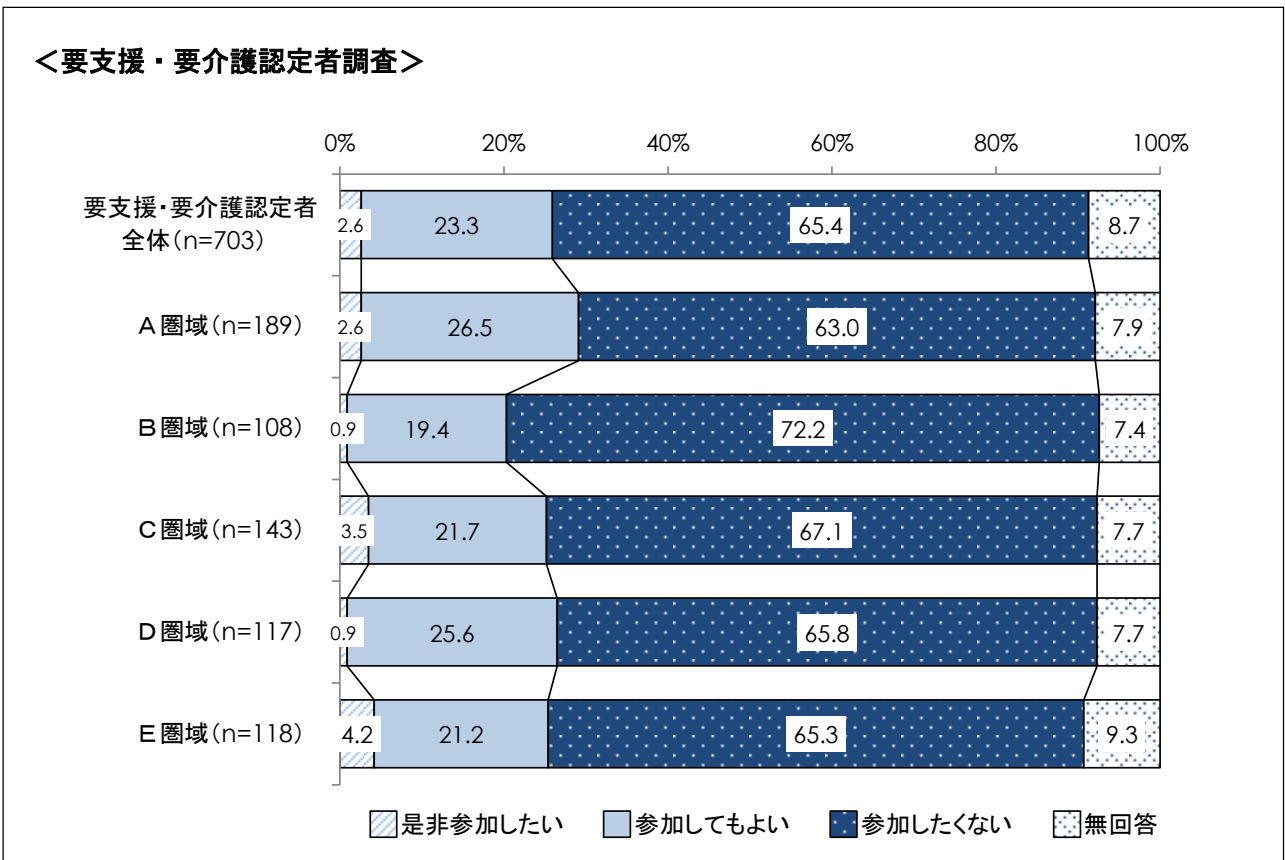
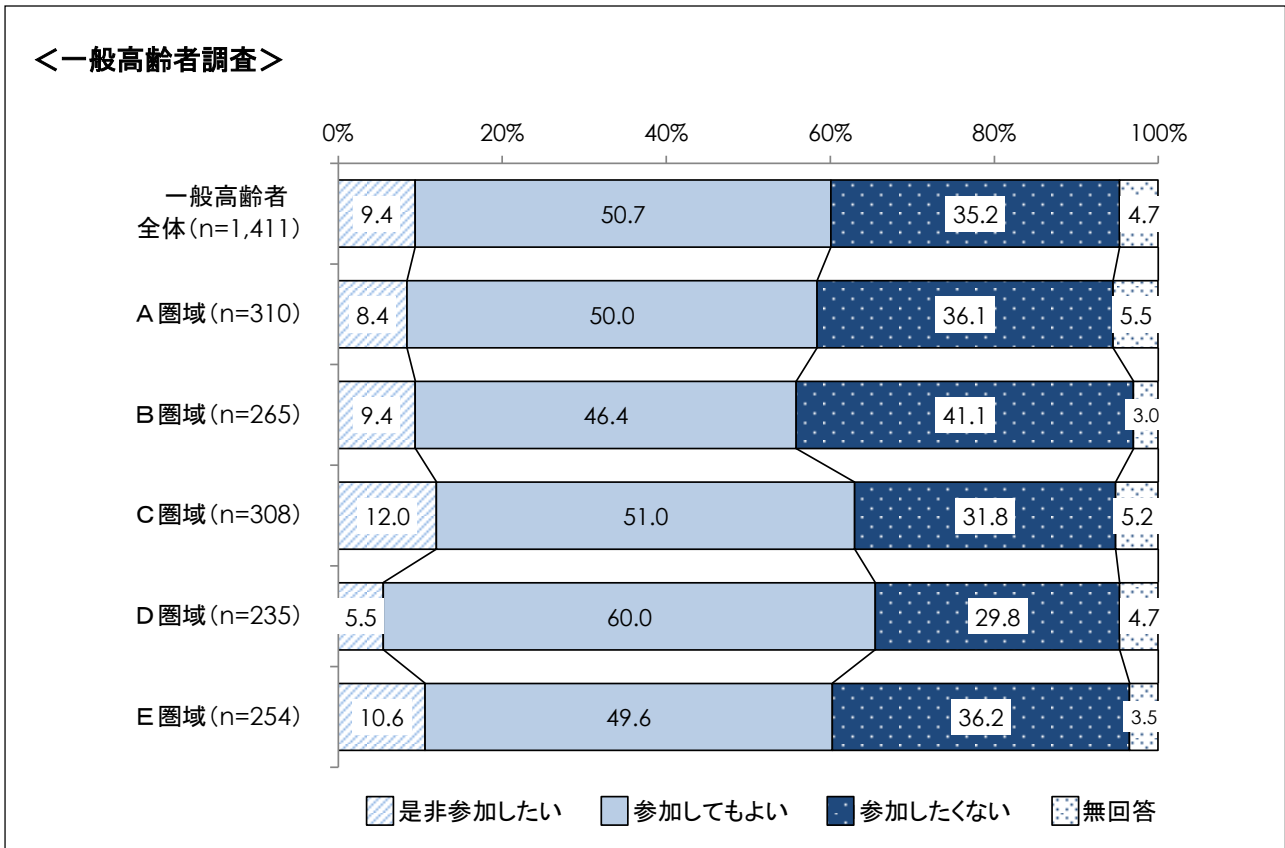
#### <要支援・要介護認定者調査>

圏域別にみると、全ての圏域で「参加したくない」が約6割～7割を占めています。『参加者として参加してもよい』の割合は、A圏域（29.1%）、D圏域（26.5%）、E圏域（25.4%）、C圏域（25.2%）、B圏域（20.3%）の順となっています。

図表 49 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体）



図表 50 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体，日常生活圏域別）



### (3) 地域づくりへの参加意向（企画・運営）

問5（3） 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

#### 【全体の傾向】

地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかについてたずねたところ、一般高齢者では「参加したくない」が59.9%と過半数を占めています。一方、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』の割合は34.5%にとどまり、前問の『参加者として参加してもよい』（60.1%）の割合に比べて25.6ポイント下回っています。

要支援・要介護認定者では「参加したくない」が80.1%を占めています。

#### 【属性別の傾向】

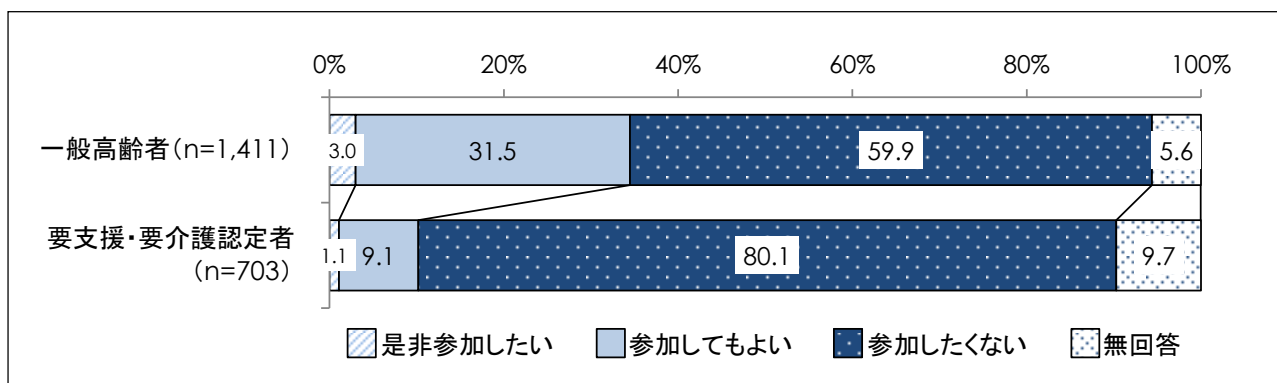
##### <一般高齢者調査>

圏域別にみると、全ての圏域で「参加したくない」が過半数を占めています。また、『企画・運営として参加してもよい』の割合は、C圏域で38.3%と最も高く、次いでA圏域(35.5%)、E圏域(35.4%)などでやや高くなっています。

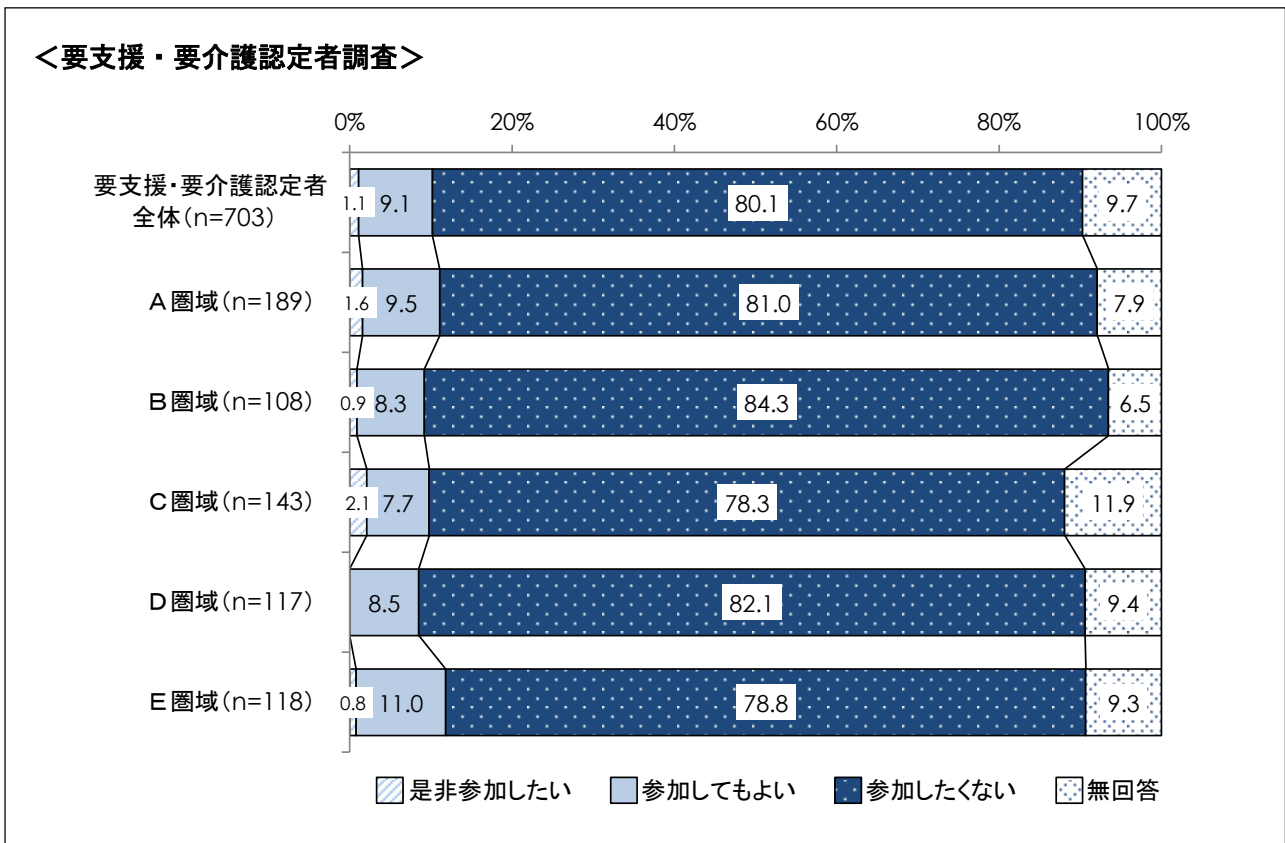
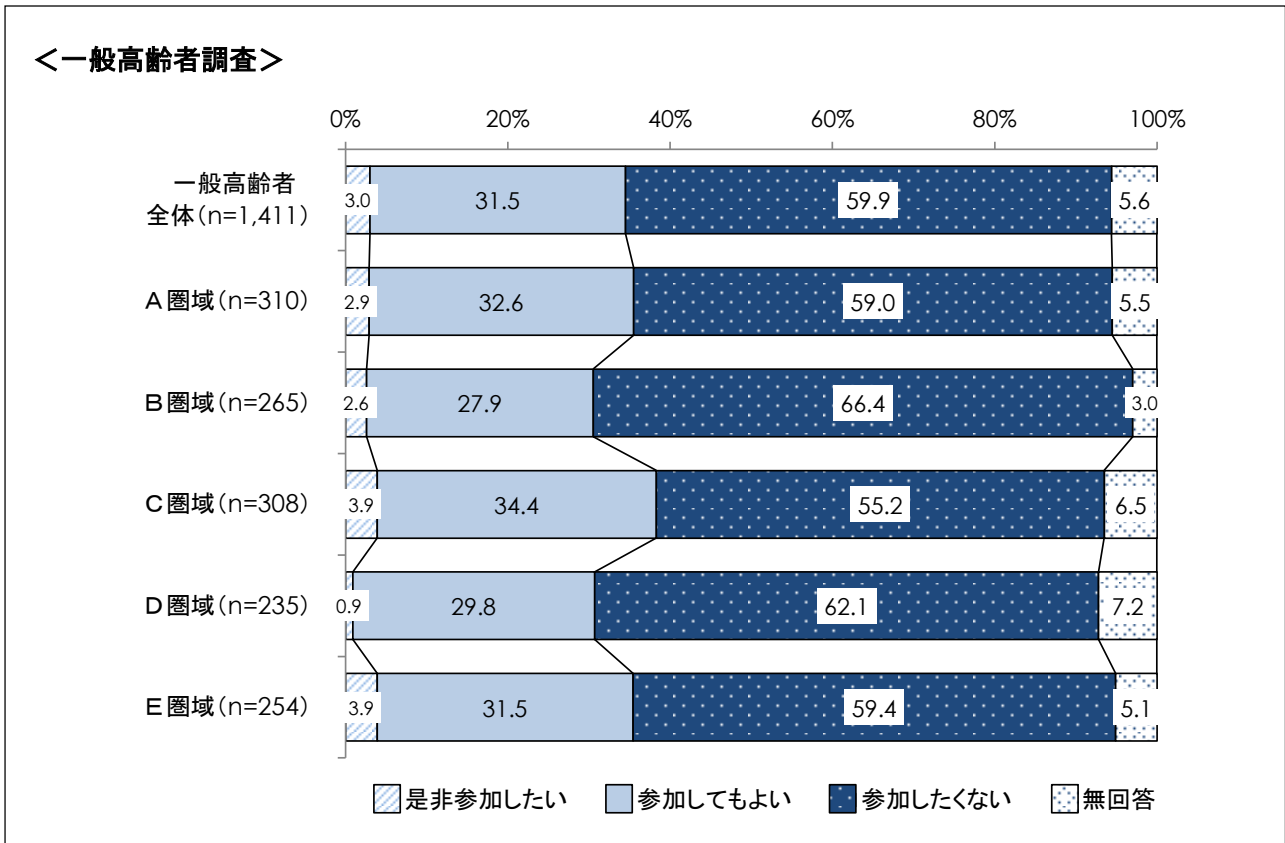
##### <要支援・要介護認定者調査>

圏域別にみると、全ての圏域で「参加したくない」が大半を占めており、中でもB圏域（84.3%）、D圏域（82.1%）、A圏域（81.0%）では8割を超えています。

図表 51 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体）



図表 52 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体，日常生活圏域別）



## 6 たすけあいについて

### (1) たすけあいの状況

問6(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人。(いくつでも)

#### 【全体の傾向】

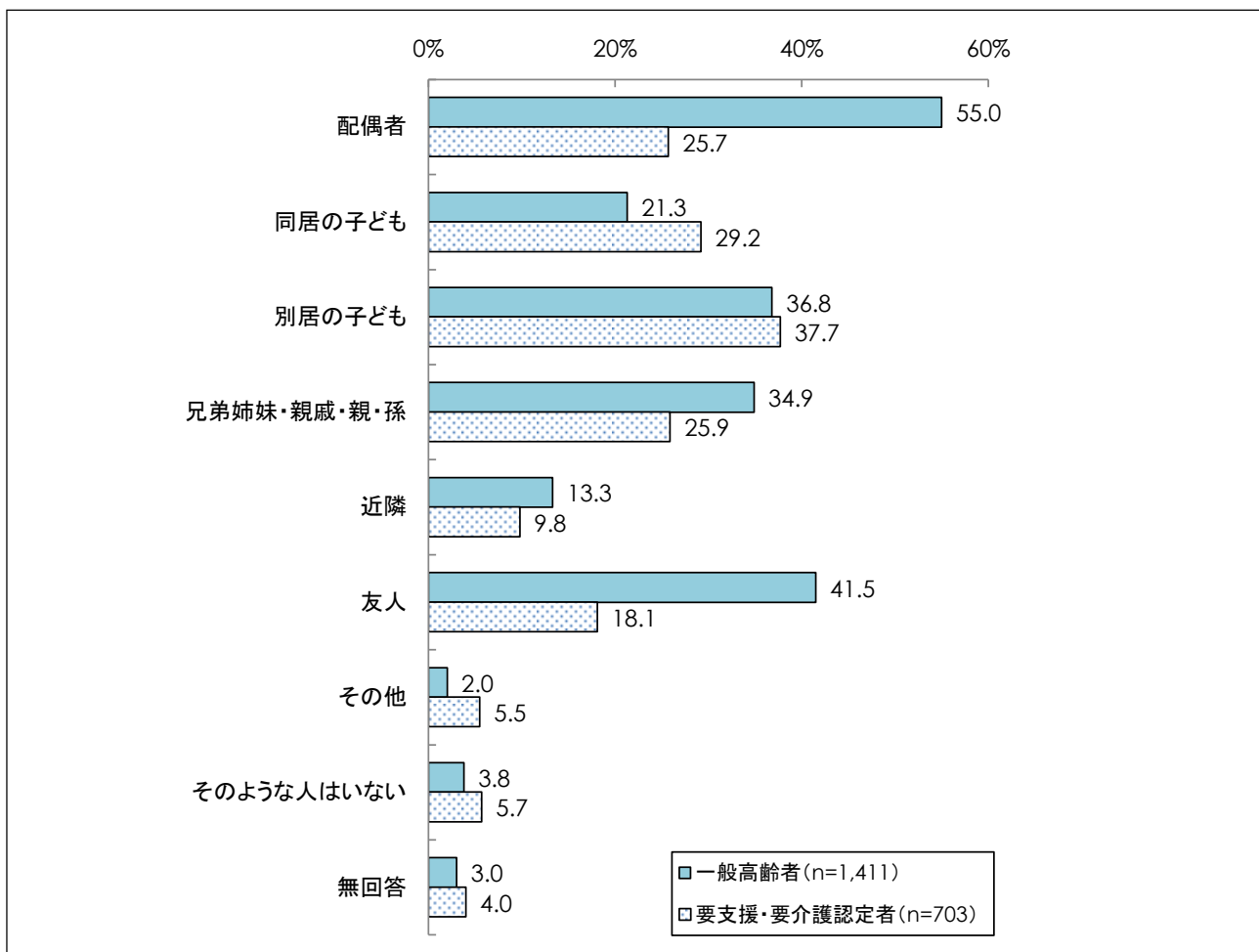
心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてたすねたところ、一般高齢者では「配偶者」(55.0%)、要支援・要介護認定者では「別居の子ども」(37.7%)が最も多くなっています。

#### 【属性別の傾向】

＜一般高齢者調査＞家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」(48.2%)、息子・娘との2世帯では「同居の子ども」(60.1%)が第1位となっています。

＜要支援・要介護認定者調査＞家族構成別にみると、配偶者の年齢に関わらず『夫婦2人暮らし』では「配偶者」が第1位、また、1人暮らしでは「別居の子ども」、息子・娘との2世帯、その他では「同居の子ども」がそれぞれ第1位となっています。

図表 53 心配事や愚痴を聞いてくれる人(全体/複数回答)



図表 54 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

<一般高齢者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,411)		配偶者	友人	別居の子ども
		55.0	41.5	36.8
家族構成別	1人暮らし (n=249)	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		48.2	43.0	38.6
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=553)	配偶者	別居の子ども	友人
		82.1	43.4	42.1
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=65)	配偶者	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人
		81.5	29.2	29.2(2位と同率)
息子・娘との 2世帯(n=278)	同居の子ども	配偶者	友人	
	60.1	46.8	41.4	
その他(n=228)	配偶者	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	
	53.1	42.1	37.7	

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=703)		別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		37.7	29.2	25.9
家族構成別	1人暮らし (n=200)	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人
		54.5	28.5	27.5
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=143)	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫
		74.8	39.2	19.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=12)	配偶者	友人	別居の子ども/兄弟姉妹・ 親戚・親・孫/近隣
		91.7	25.0	16.7
息子・娘との 2世帯(n=191)	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	
	64.4	27.2	23.6	
その他(n=128)	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	別居の子ども	
	48.4	32.8	31.3	

問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人。(いくつでも)

【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてあげる相手についてたずねたところ、一般高齢者では「配偶者」(52.4%)、要支援・要介護認定者では「そのような人はいない」(28.6%)が最も多くなっています。

【属性別の傾向】

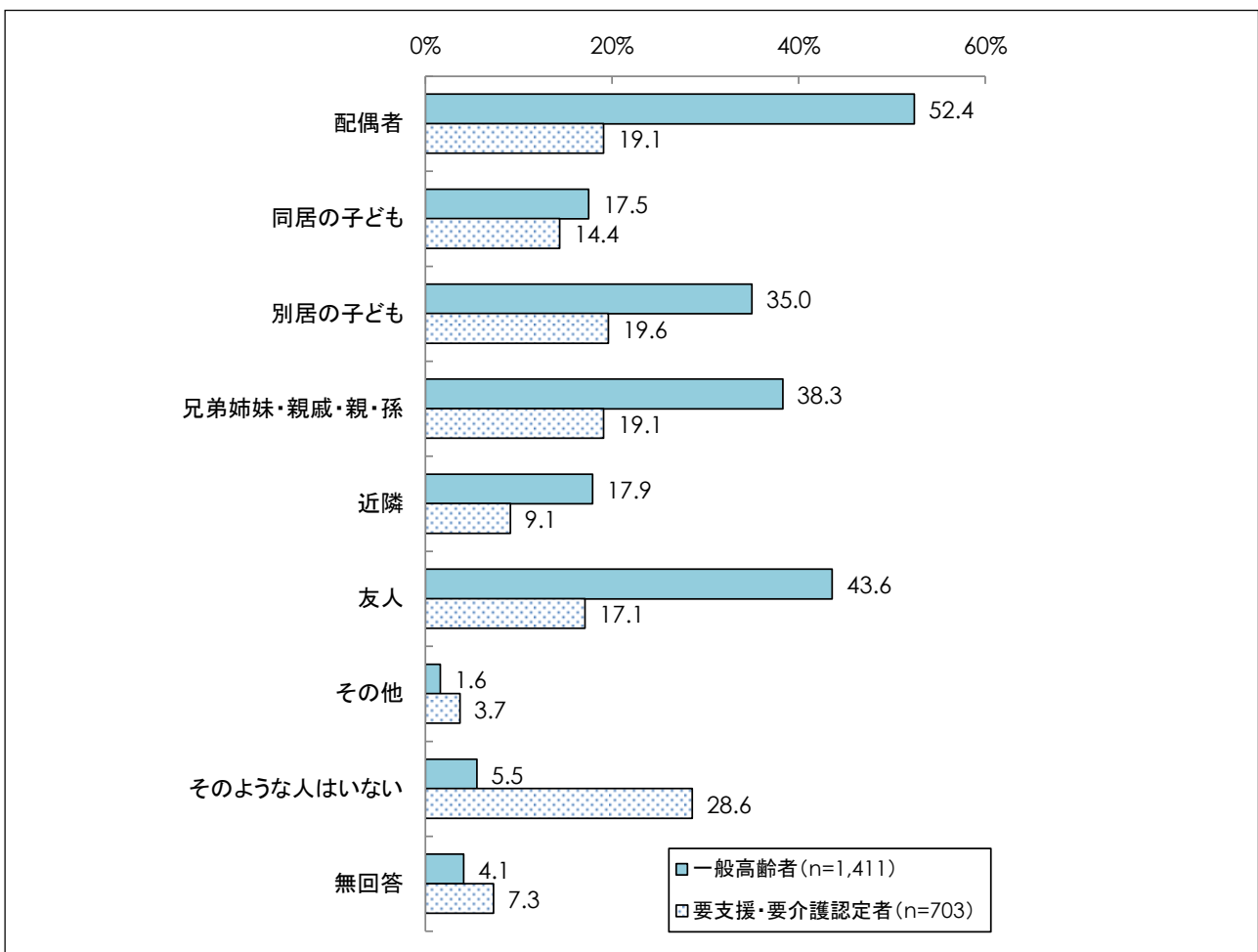
<一般高齢者調査>

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」(50.6%)、息子・娘との2世帯では「同居の子ども」(44.6%)が第1位となっています。

<要支援・要介護認定者調査>

家族構成別にみると、配偶者の年齢に関わらず『夫婦2人暮らし』では「配偶者」が第1位となっています。一方、それ以外の家族構成では「そのような人はいない」が第1位となっています。

図表 55 心配事や愚痴を聞いてあげる人(全体/複数回答)





図表 56 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

<一般高齢者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,411)		配偶者 52.4	友人 43.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 38.3
家族構成別	1人暮らし (n=249)	友人 50.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 38.2	別居の子ども 36.1
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=553)	配偶者 80.3	友人 43.9	別居の子ども 43.0
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=65)	配偶者 75.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 32.3	別居の子ども 29.2
	息子・娘との 2世帯(n=278)	同居の子ども 44.6	友人 44.2	配偶者 41.0
	その他(n=228)	配偶者 50.0	友人 40.8	兄弟姉妹・親戚・親・孫 40.4

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=703)		そのような人はいない 28.6	別居の子ども 19.6	配偶者/兄弟姉妹・親戚・親・孫 19.1
家族構成別	1人暮らし (n=200)	そのような人はいない 30.5	友人 29.0	別居の子ども 27.5
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=143)	配偶者 55.2	別居の子ども 21.0	そのような人はいない 18.2
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=12)	配偶者 66.7	そのような人はいない 25.0	別居の子ども/兄弟姉妹・親戚・親・孫/近隣 16.7
	息子・娘との 2世帯(n=191)	そのような人はいない 30.4	同居の子ども 28.8	兄弟姉妹・親戚・親・孫 16.8
	その他(n=128)	そのような人はいない 36.7	同居の子ども 25.0	兄弟姉妹・親戚・親・孫 21.1

問6（3） あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。（いくつでも）

【全体の傾向】

病気の際に看病や世話をしてくれる相手についてたずねたところ、一般高齢者では「配偶者」(59.0%)、要支援・要介護認定者では「別居の子ども」(39.4%)が最も多くなっています。

【属性別の傾向】

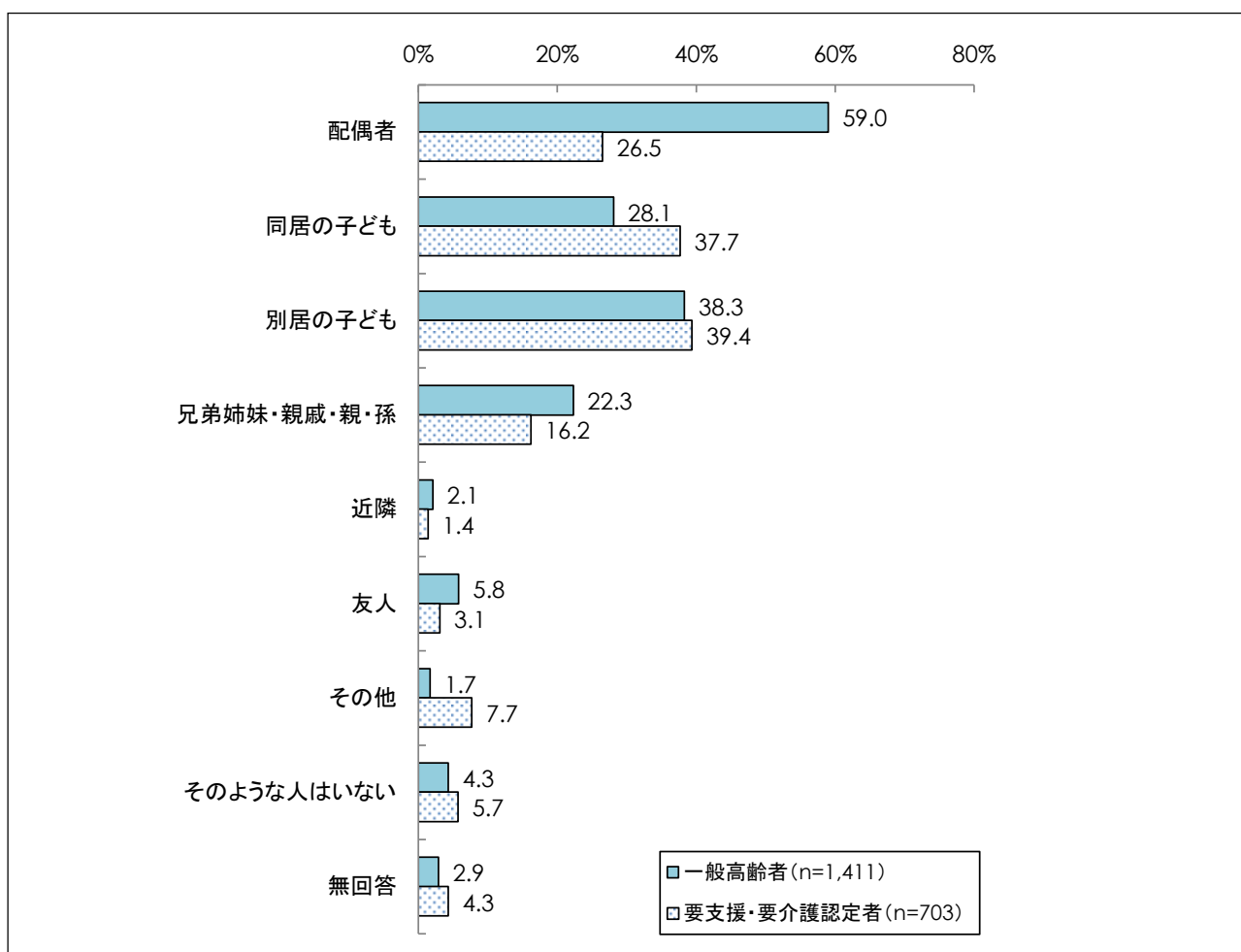
＜一般高齢者調査＞

家族構成別にみると、1人暮らしでは「そのような人はいない」が第3位となっています。また、配偶者の年齢に関わらず『夫婦2人暮らし』では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、息子・娘との2世帯、その他では「同居の子ども」が上位となっています。

＜要支援・要介護認定者調査＞

家族構成別にみると、1人暮らし、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「そのような人はいない」が上位となっています。息子・娘との2世帯、その他では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 57 看病や世話をしてくれる人（全体／複数回答）



図表 58 看病や世話をしてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

<一般高齢者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,411)		配偶者 59.0	別居の子ども 38.3	同居の子ども 28.1
家族構成別	1人暮らし (n=249)	別居の子ども 54.2	兄弟姉妹・親戚・親・孫 35.7	そのような人はいない 14.5
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=553)	配偶者 88.8	別居の子ども 46.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 16.6
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=65)	配偶者 89.2	別居の子ども 24.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 15.4
	息子・娘との2世帯 (n=278)	同居の子ども 76.3	配偶者 50.0	別居の子ども 25.2
	その他 (n=228)	同居の子ども 57.0	配偶者 53.1	別居の子ども 25.0

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=703)		別居の子ども 39.4	同居の子ども 37.7	配偶者 26.5
家族構成別	1人暮らし (n=200)	別居の子ども 60.0	兄弟姉妹・親戚・親・孫 17.5	そのような人はいない 12.0
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=143)	配偶者 79.7	別居の子ども 40.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 10.5
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=12)	配偶者 83.3	別居の子ども 25.0	そのような人はいない 8.3
	息子・娘との2世帯 (n=191)	同居の子ども 81.7	別居の子ども 26.7	配偶者 20.9
	その他 (n=128)	同居の子ども 62.5	別居の子ども 32.0	兄弟姉妹・親戚・親・孫 22.7

問6(4) 反対に、看病や世話をしあける人。(いくつでも)

【全体の傾向】

病気の際に看病や世話をしあける相手についてたずねたところ、一般高齢者では「配偶者」(60.9%), 要支援・要介護認定者では「そのような人はいない」(45.4%)が最も多くなっています。

【属性別の傾向】

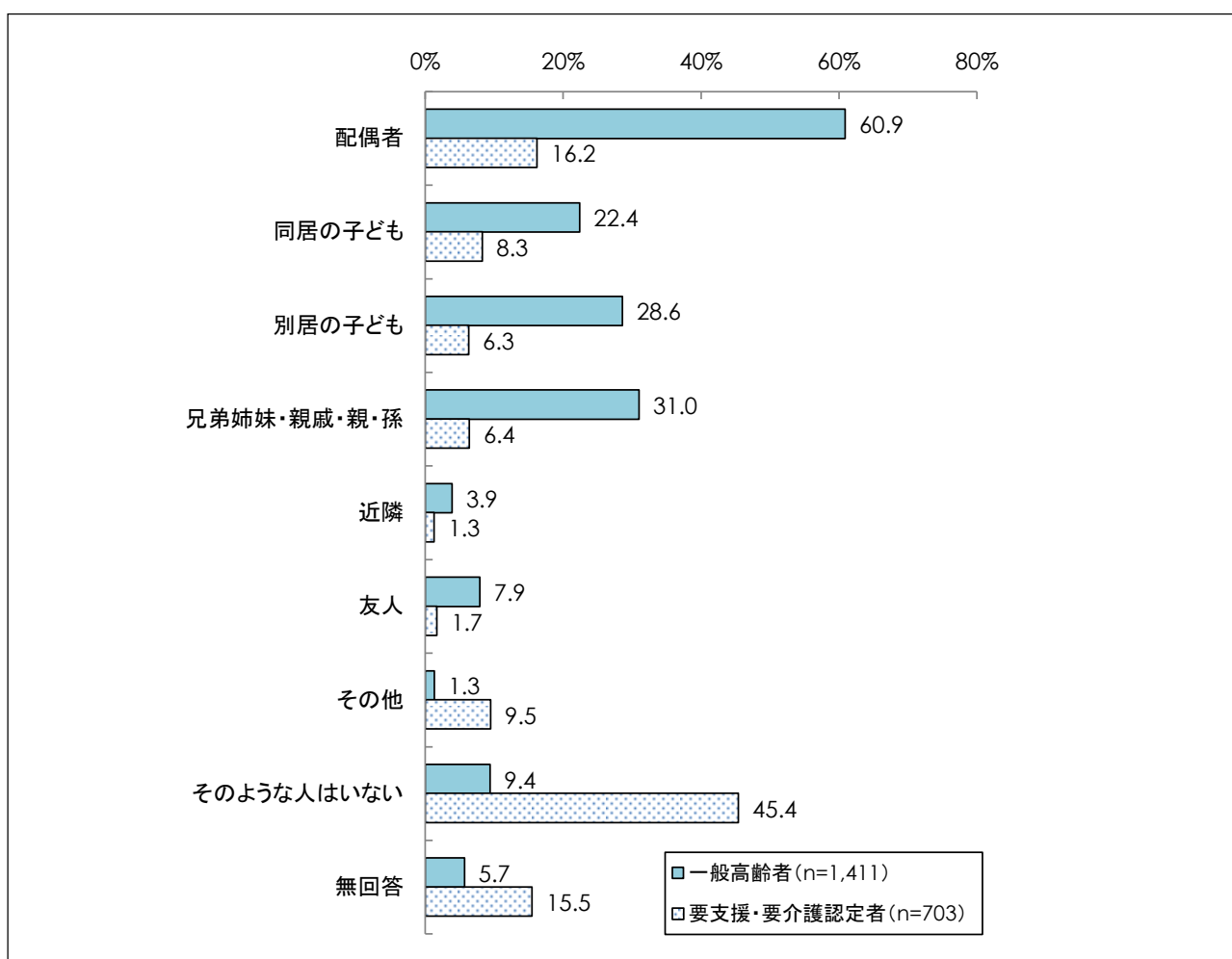
<一般高齢者調査>

家族構成別にみると、全ての家族構成で「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が上位3位以内となっています。また、1人暮らしでは「そのような人はいない」が第3位となっています。

<要支援・要介護認定者調査>

家族構成別にみると、全ての家族構成で「そのような人はいない」が上位3位以内となっています。また、息子・娘との2世帯、その他では「同居の子ども」が第2位となっています。

図表 59 看病や世話をしあける人 (全体/複数回答)



図表 60 看病や世話をしあける人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

<一般高齢者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,411)		配偶者 60.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 31.0	別居の子ども 28.6
家族構成別	1人暮らし (n=249)	兄弟姉妹・親戚・親・孫 36.5	別居の子ども 34.5	そのような人はいない 22.9
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=553)	配偶者 92.8	別居の子ども 36.7	兄弟姉妹・親戚・親・孫 28.0
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=65)	配偶者 83.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 26.2	別居の子ども 24.6
	息子・娘との 2世帯(n=278)	同居の子ども 58.3	配偶者 51.8	兄弟姉妹・親戚・親・孫 28.8
	その他(n=228)	配偶者 53.9	同居の子ども 46.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 35.5

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=703)		そのような人はいない 45.4	配偶者 16.2	その他 9.5
家族構成別	1人暮らし (n=200)	そのような人はいない 54.5	別居の子ども 11.0	その他 8.5
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=143)	配偶者 46.9	そのような人はいない 25.2	その他 9.1
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=12)	配偶者 75.0	そのような人はいない 25.0	別居の子ども 8.3
	息子・娘との 2世帯(n=191)	そのような人はいない 47.1	同居の子ども 17.3	その他 13.1
	その他(n=128)	そのような人はいない 57.0	同居の子ども 11.7	その他 8.6

## (2) 地域の相談窓口の活用状況

問6(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

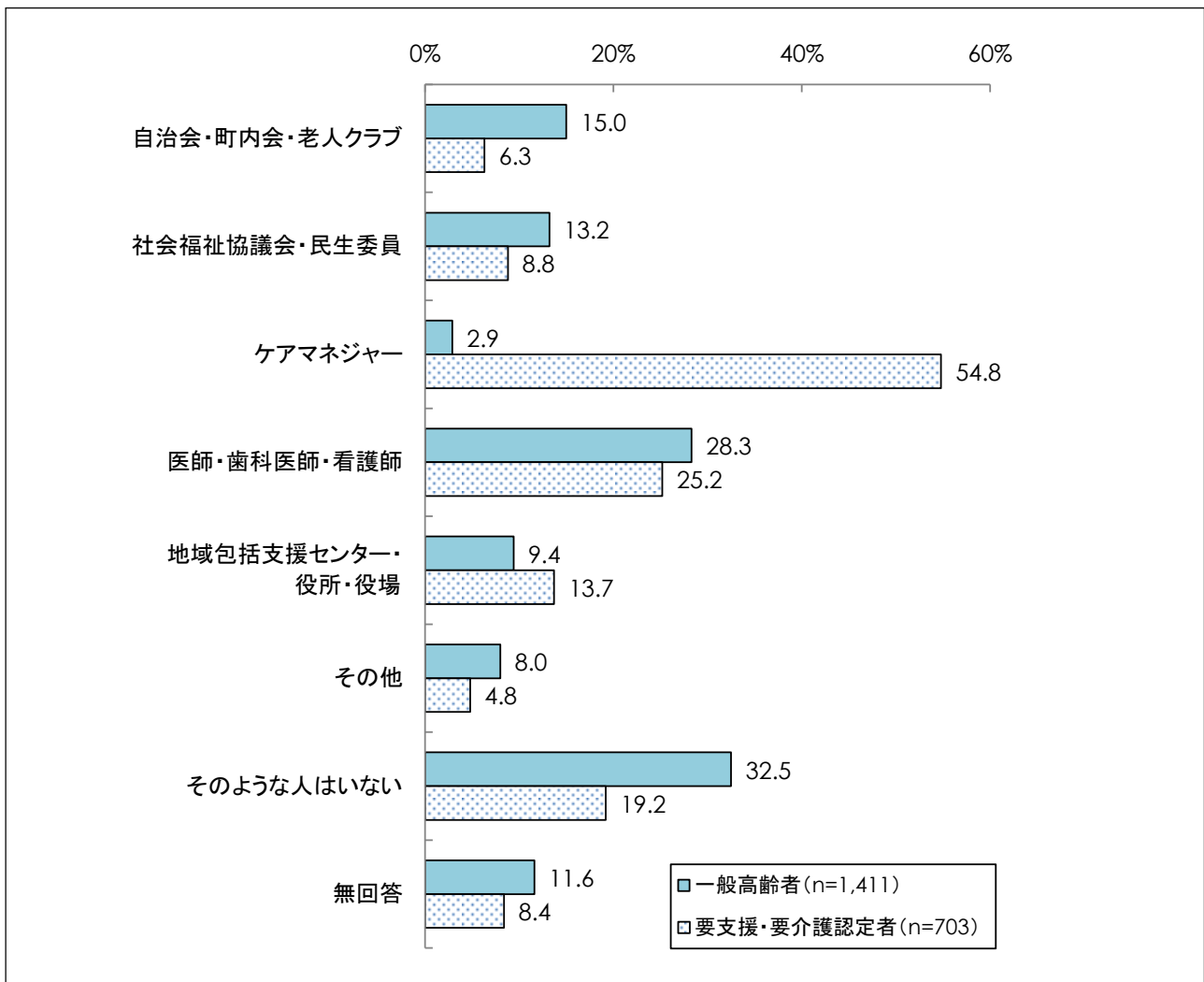
### 【全体の傾向】

家族や友人・知人以外の相談相手についてたずねたところ、一般高齢者では「そのような人はいない」が32.5%となっており、家族や友人以外の相談相手はいない人が最も多くなっています。

次いで相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」(28.3%),「自治会・町内会・老人クラブ」(15.0%)などとなっています。

要支援・要介護認定者では、「ケアマネジャー」が54.8%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「医師・歯科医師・看護師」(25.2%)が続いていますが、「そのような人はいない」が19.2%で第3位となっています。

図表 61 何かあったときに家族や友人・知人以外で相談する相手 (全体/複数回答)



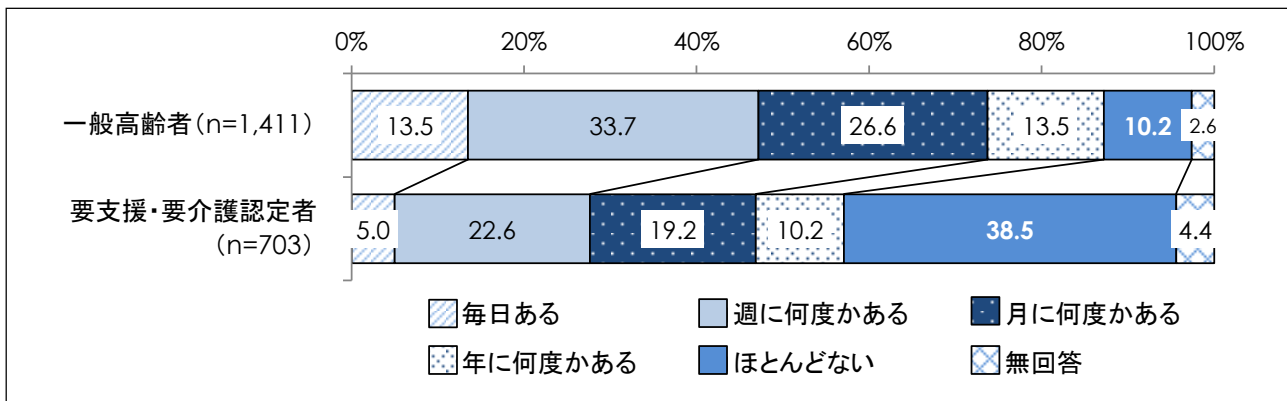
### (3) 友人関係について

問6(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

#### 【全体の傾向】

友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、一般高齢者では「週に何度かある」が33.7%と最も高くなっています。また、要支援・要介護認定者では「ほとんどない」が38.5%と最も高く、次いで「週に何度かある」が22.6%となっています。

図表 62 友人・知人と会う頻度（全体）

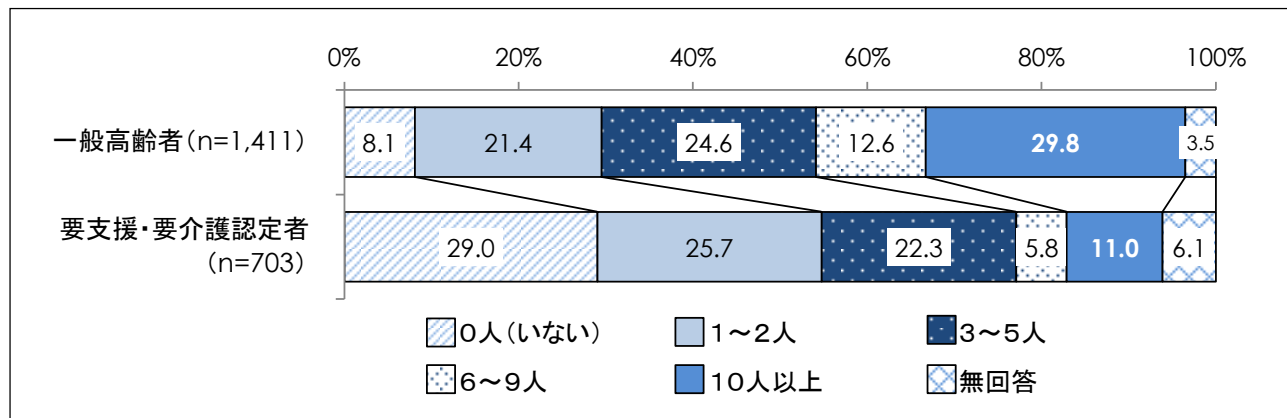


問6(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。  
(同じ人には何度会っても1人と数えることとします)

#### 【全体の傾向】

この1か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、一般高齢者では「10人以上」が29.8%と約3割を占め、最も高くなっています。また、要支援・要介護認定者では「0人(いない)」が29.0%と最も高く、次いで「1~2人」(25.7%)となっています。

図表 63 1か月間に会った友人・知人の人数（全体）



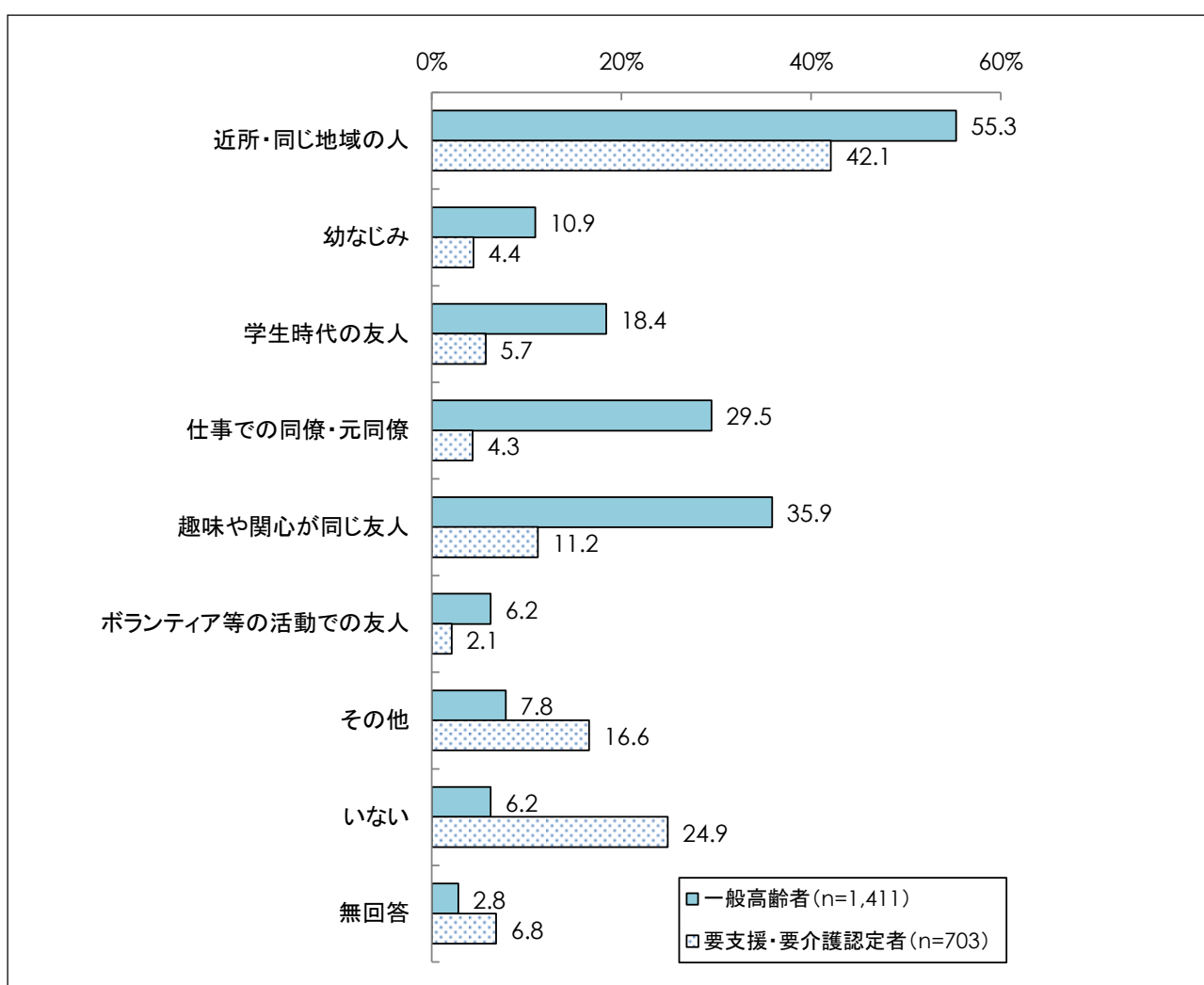
問6（8） よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

よく会う友人・知人との間柄についてたずねたところ、一般高齢者では「近所・同じ地域の人」が55.3%と最も多くなっています。次いで「趣味や関心が同じ友人」(35.9%),「仕事での同僚・元同僚」(29.5%) などとなっています。

要支援・要介護認定者では「近所・同じ地域の人」が42.1%と最も多くなっていますが、次いで「いない」が24.9%で続いており、よく会う友人や知人はいない人の割合が2割を超えています。

図表 64 よく会う友人・知人との間柄について（全体／複数回答）





## 7 健康について

### (1) 主観的健康感

問7(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

#### 【全体の傾向】

現在の健康状態についてたずねたところ、一般高齢者では全体の69.2%が「まあよい」と回答しており、「とてもよい」(10.6%)と合計すると、健康状態が『よい』が79.8%と約8割を占めています。

要支援・要介護認定者では「まあよい」が44.4%と最も高いものの、「あまりよくない」が36.6%と3割を超えており、「よくない」(13.7%)を合計すると、健康状態が『よくない』が50.3%と5割を超えています。

#### 【属性別の傾向】

##### <一般高齢者調査>

性別にみると、健康状態が『よい』の割合は、女性(80.6%)が男性(78.8%)を1.8ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、健康状態が『よい』の割合は70~74歳で86.1%と最も高く、80~84歳で69.1%と最も低くなっています。

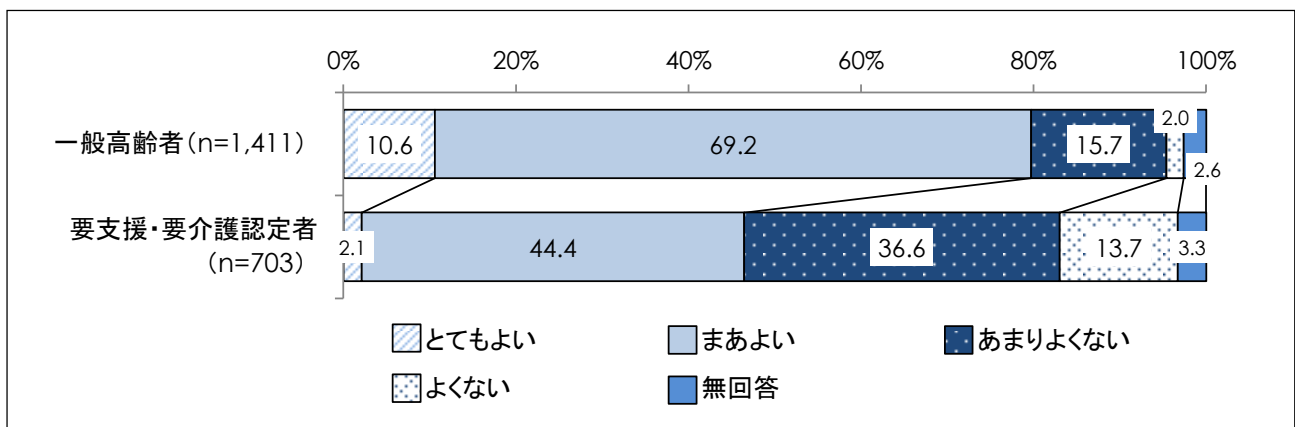
##### <要支援・要介護調査>

性別にみると、女性では『よい』(49.1%)が『よくない』(48.1%)を1.0ポイント上回っており、健康状態が『よい』の方がやや多くなっています。一方、男性では『よくない』が56.9%となっており、半数以上の方が健康状態が『よくない』と回答しています。

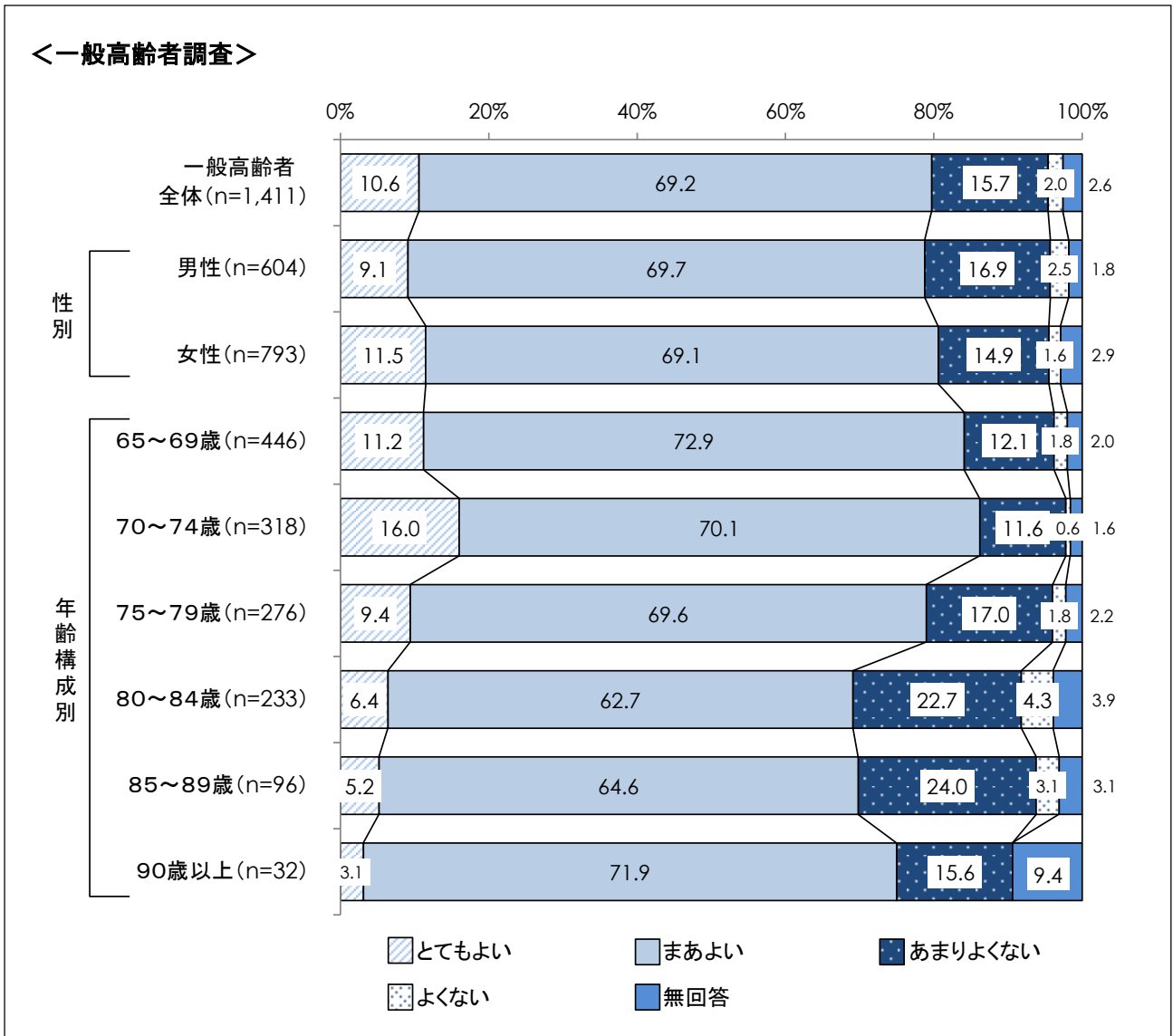
年齢構成別にみると、健康状態が『よい』の割合は90歳以上で58.6%と最も高くなっています。一方、65~69歳では『よくない』が81.0%と8割を超えています。

認定状況別にみると、健康状態が『よい』の割合は、要介護1・2で51.1%と最も高くなっています。

図表 65 主観的健康感 (全体)

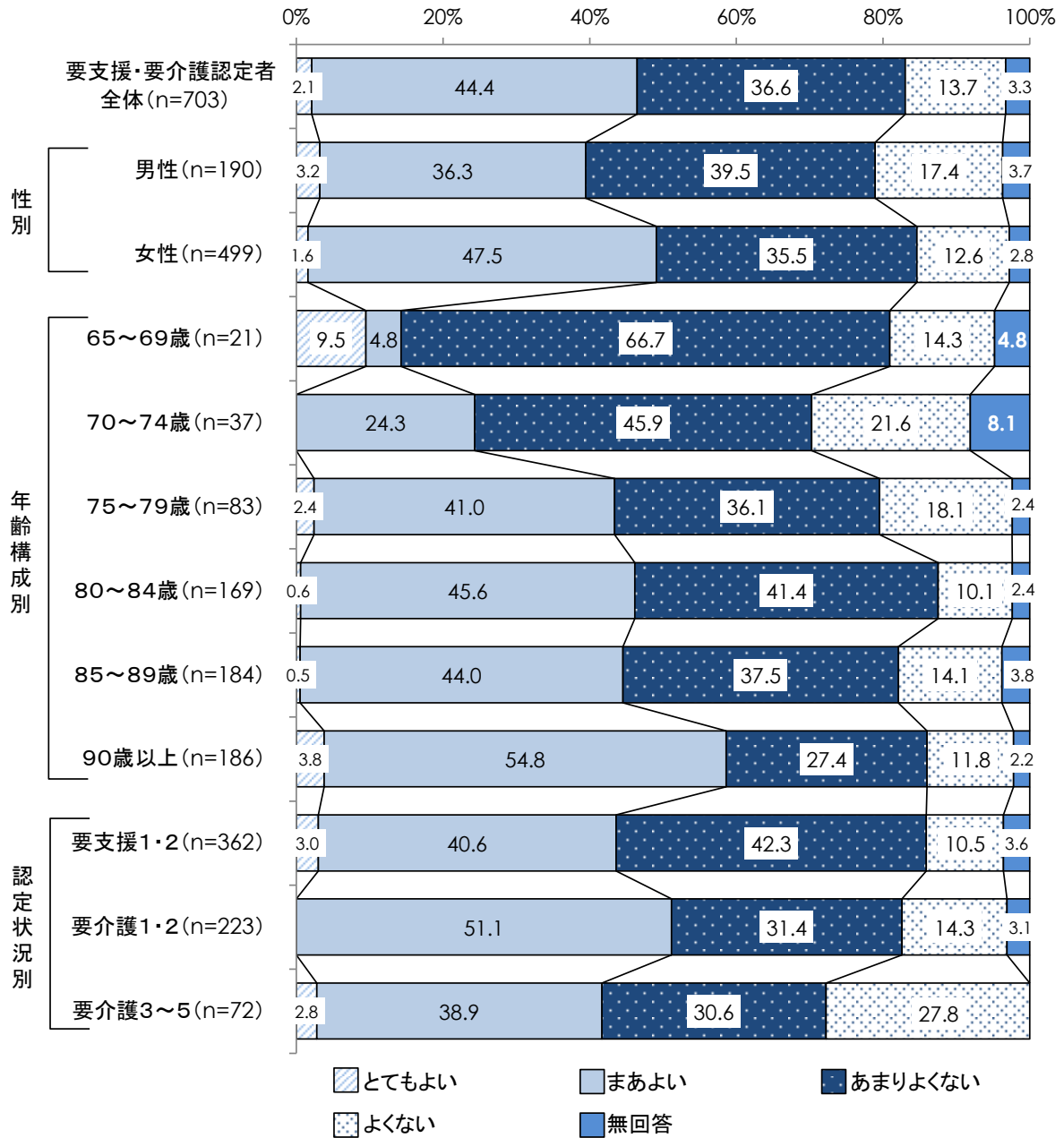


図表 66 主観的健康感（全体，性別，年齢構成別）



図表 67 主観的健康感（全体，性別，年齢構成別，認定状況別）

<要支援・要介護認定者調査>



## (2) 主観的幸福感

問7(2) あなたは、現在どの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

### 【全体の傾向】

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、一般高齢者では「8点」が20.6%と最も高く、次いで「5点」(19.9%)、「10点(とても幸せ)」(17.9%)などとなっており、平均は7.16点となっています。5点を中間とすると、『幸せ』と回答した人の方が多くなっています。

要支援・要介護認定者では「5点」が29.4%と最も高く、約3割を占めています。次いで「8点」(13.2%)、「10点(とても幸せ)」(11.7%)などとなっており、平均は6.12点となっています。

### 【属性別の傾向】

#### <一般高齢者調査>

性別に平均点をみると、女性(7.36点)が男性(6.87点)を0.49点上回っています。

年齢構成別にみると、90歳以上で7.87点と最も高く、65~69歳で6.94点と最も低くなっています。

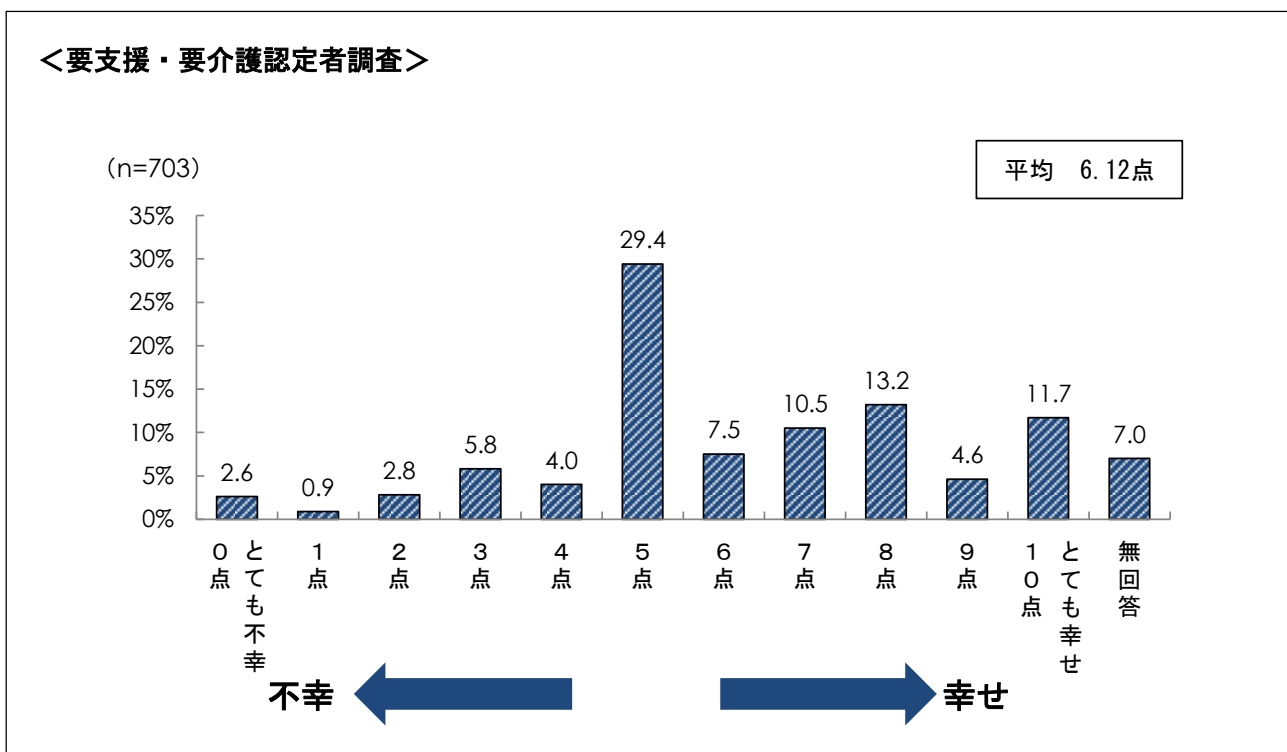
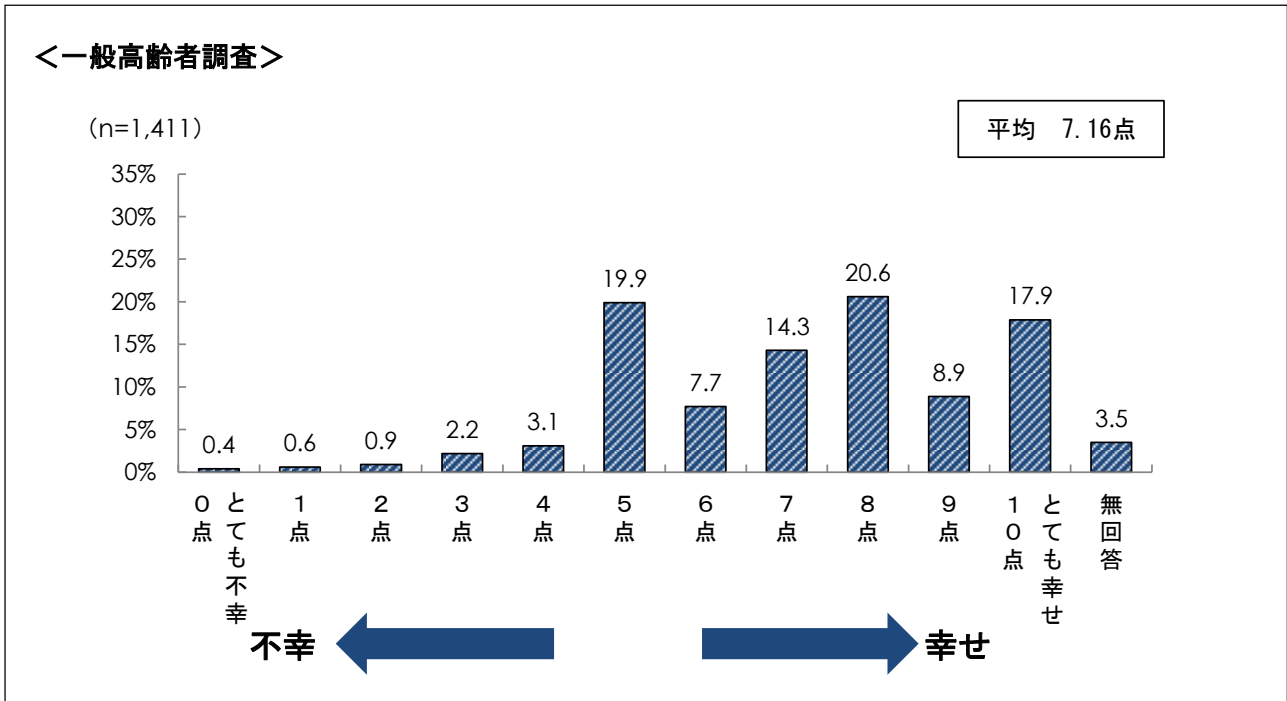
#### <要支援・要介護調査>

性別に平均点をみると、女性(6.33点)が男性(5.60点)を0.73点上回っています。

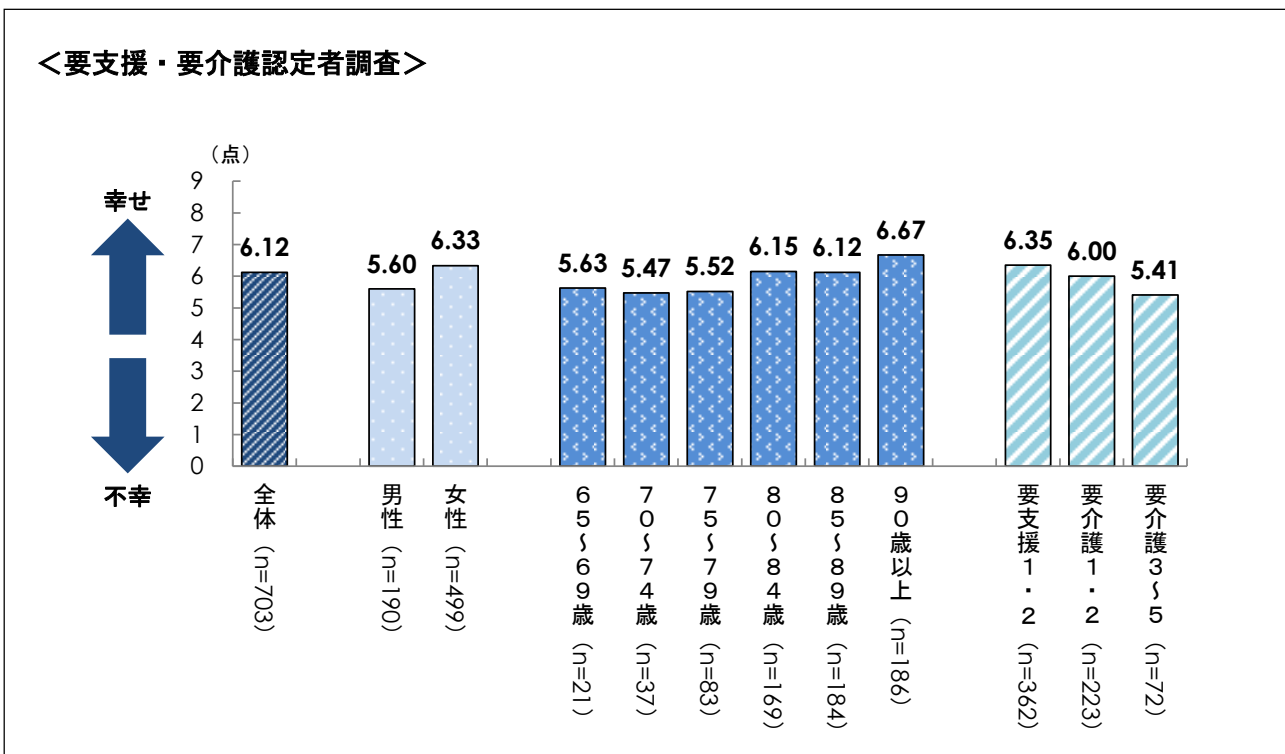
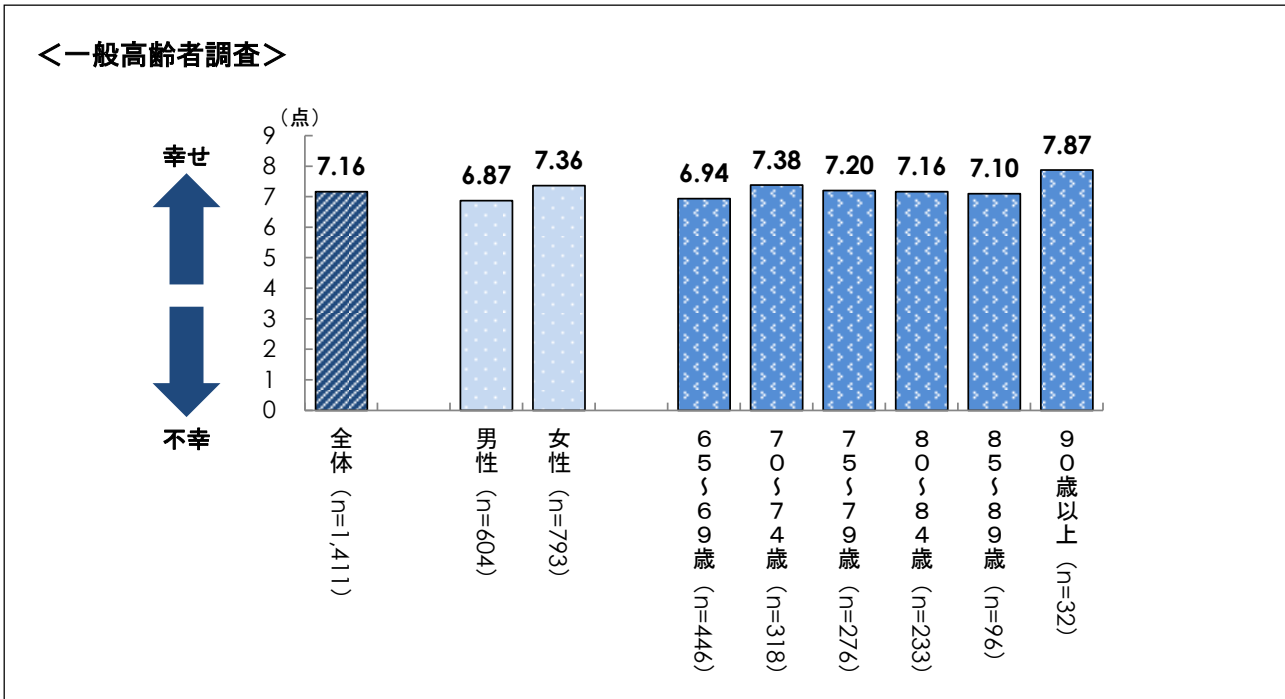
年齢構成別にみると、90歳以上で6.67点と最も高く、70~74歳で5.47点と最も低くなっています。

認定状況別にみると、要支援1・2の認定者で6.35点と最も高くなっています。

図表 68 主観的幸福感（全体，平均点）



図表 69 主観的幸福感の平均点比較（全体，性別，年齢構成別，認定状況別〈要支援・要介護認定者のみ〉）



### (3) うつ傾向について

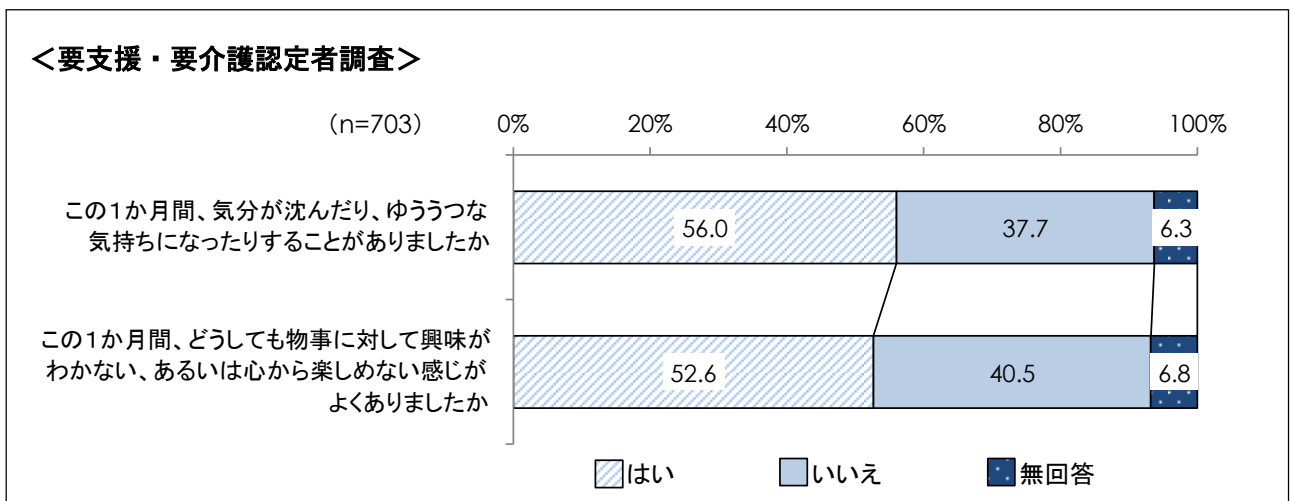
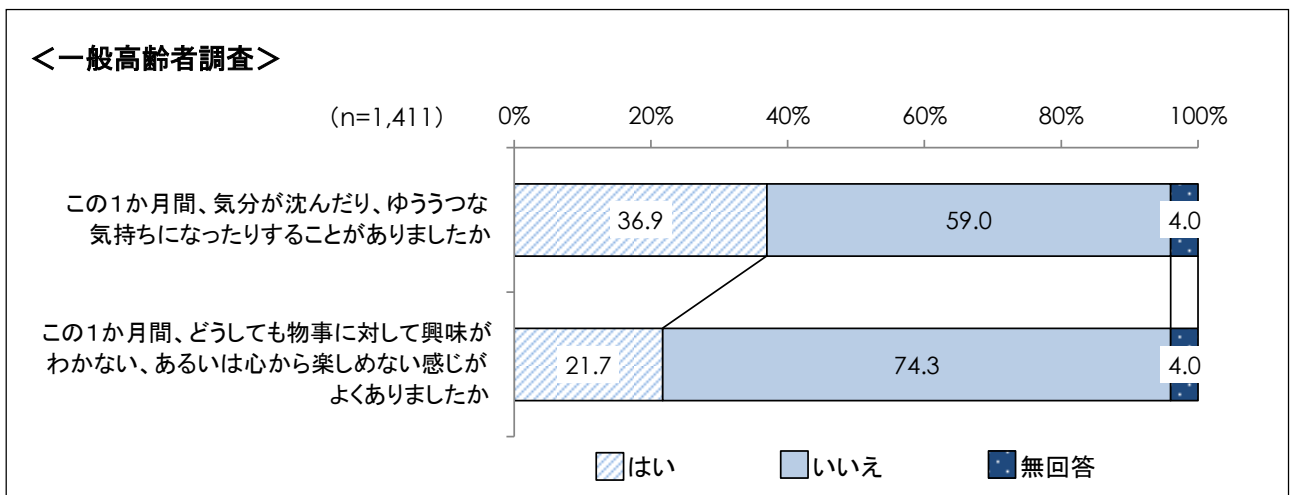
- 問7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。  
 問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

#### 【全体の傾向】

この1か月間のうつ傾向についてたずねたところ、一般高齢者ではどちらの設問に対しても「いいえ」との回答が多くなっていますが、『この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか』については、「はい」が36.9%と3割を超えています。

要支援・要介護認定者では『この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか』、『この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか』のどちらについても「はい」が5割を超えており、半数以上の人々が、気持ちが沈んだり、心から楽しめない感じがあったと回答しています。

図表 70 うつ傾向について（全体）



#### (4) 飲酒の習慣

問7(5) お酒は飲みますか。

##### 【全体の傾向】

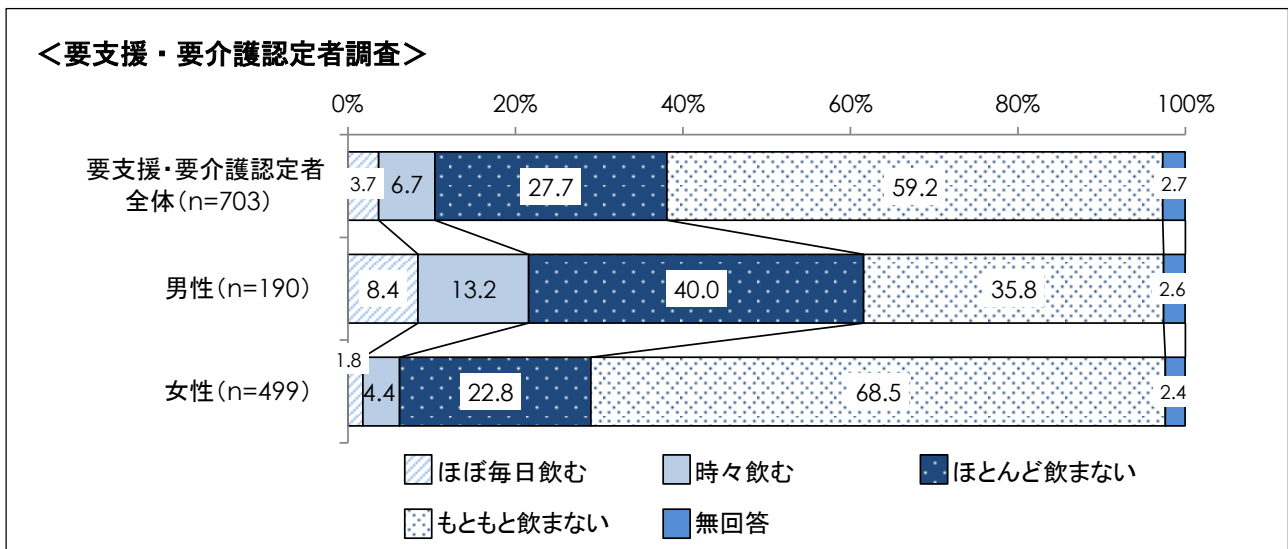
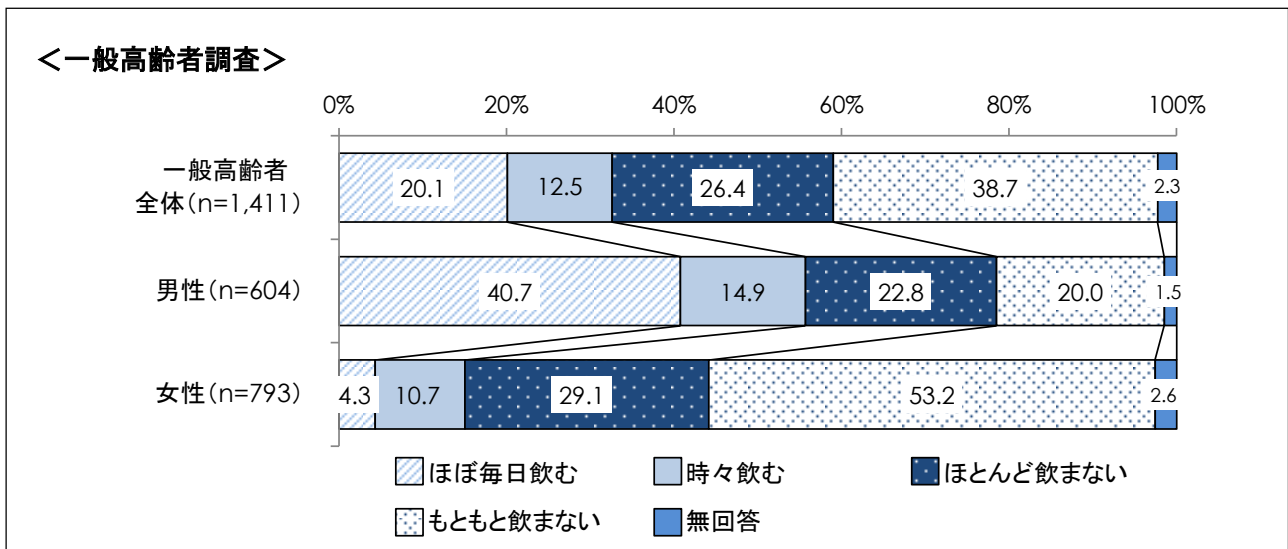
飲酒の習慣についてたずねたところ、一般高齢者では「もともと飲まない」が38.7%を占め最も高く、要支援・要介護認定者では「もともと飲まない」が59.2%を占めています。

##### 【属性別の傾向】

＜一般高齢者調査＞性別にみると、男性では「ほぼ毎日飲む」(40.7%)が最も高く、女性では「もともと飲まない」(53.2%)が最も高くなっています。

＜要支援・要介護認定者調査＞性別にみると、男性では「ほとんど飲まない」(40.0%)が最も高く、女性では「もともと飲まない」(68.5%)が最も高くなっています。

図表 71 飲酒の習慣（全体，性別）





## (5) 喫煙の習慣

問7(6) タバコは吸っていますか。

### 【全体の傾向】

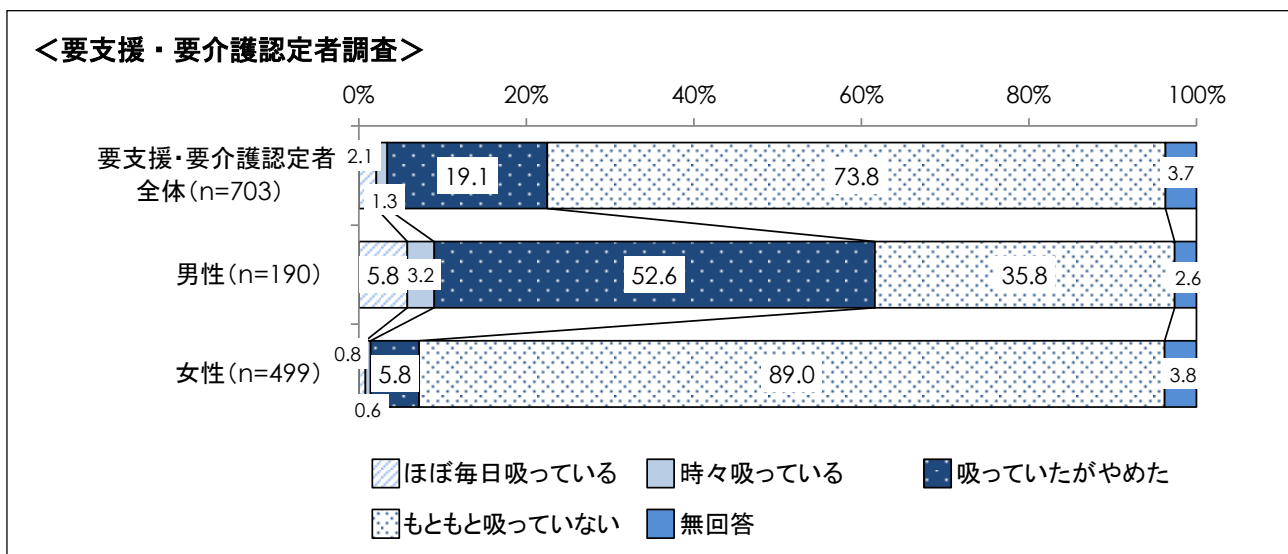
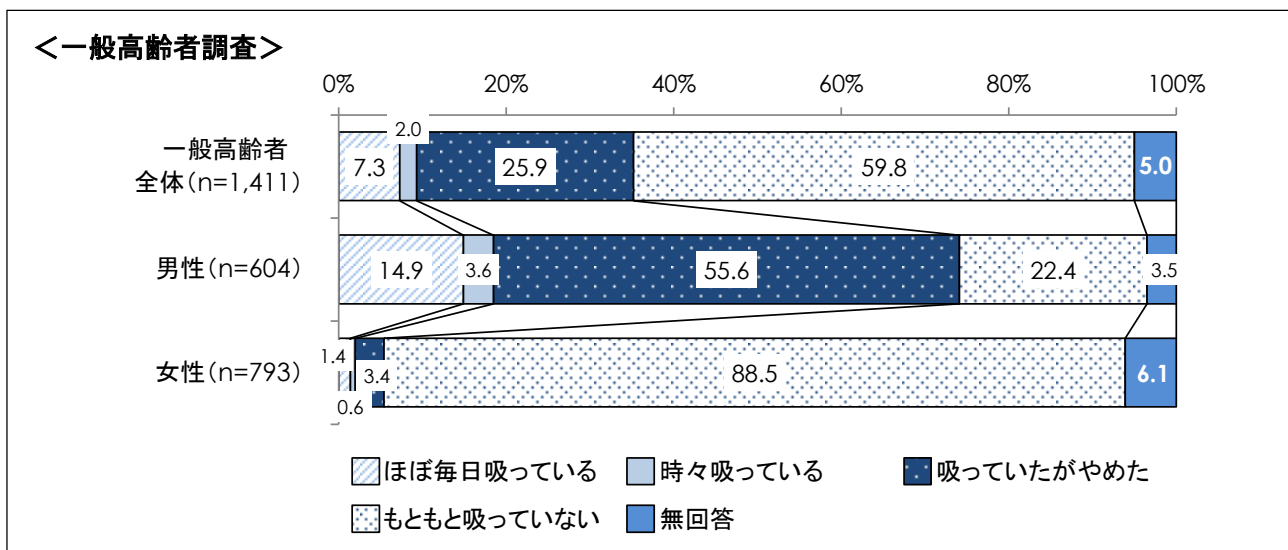
喫煙の習慣についてたずねたところ、一般高齢者では「もともと吸っていない」が59.8%と最も高く、要支援・要介護認定者では「もともと吸っていない」が73.8%と7割を超えています。

### 【属性別の傾向】

＜一般高齢者調査＞性別にみると、男性では「吸っていたがやめた」(55.6%)が最も高く、女性では「もともと吸っていない」が88.5%と大半を占めています。

＜要支援・要介護認定者調査＞性別にみると、男性では「吸っていたがやめた」(52.6%)が最も高く、女性では「もともと吸っていない」が89.0%と大半を占めています。

図表 72 喫煙の習慣（全体、性別）



## (6) 現在治療中、後遺症のある病気について

問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

### 【全体の傾向】

現在治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、一般高齢者では「高血圧」(40.9%)が最も多く、次いで「目の病気」(16.3%)、「糖尿病」(12.8%)などとなっています。

また、治療中や、後遺症のある病気が「ない」は14.3%となっており、全体では第3位の割合となっています。

要支援・要介護認定者では同様に「高血圧」(44.0%)が最も多く、次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(26.3%)、「認知症(アルツハイマー病等)」(23.9%)などとなっています。

### 【属性別の傾向】

#### <一般高齢者調査>

性別にみると、男性では「糖尿病」が18.7%で第2位、「腎臓・前立腺の病気」(18.4%)が第3位、心臓病(14.1%)が第4位となっています。

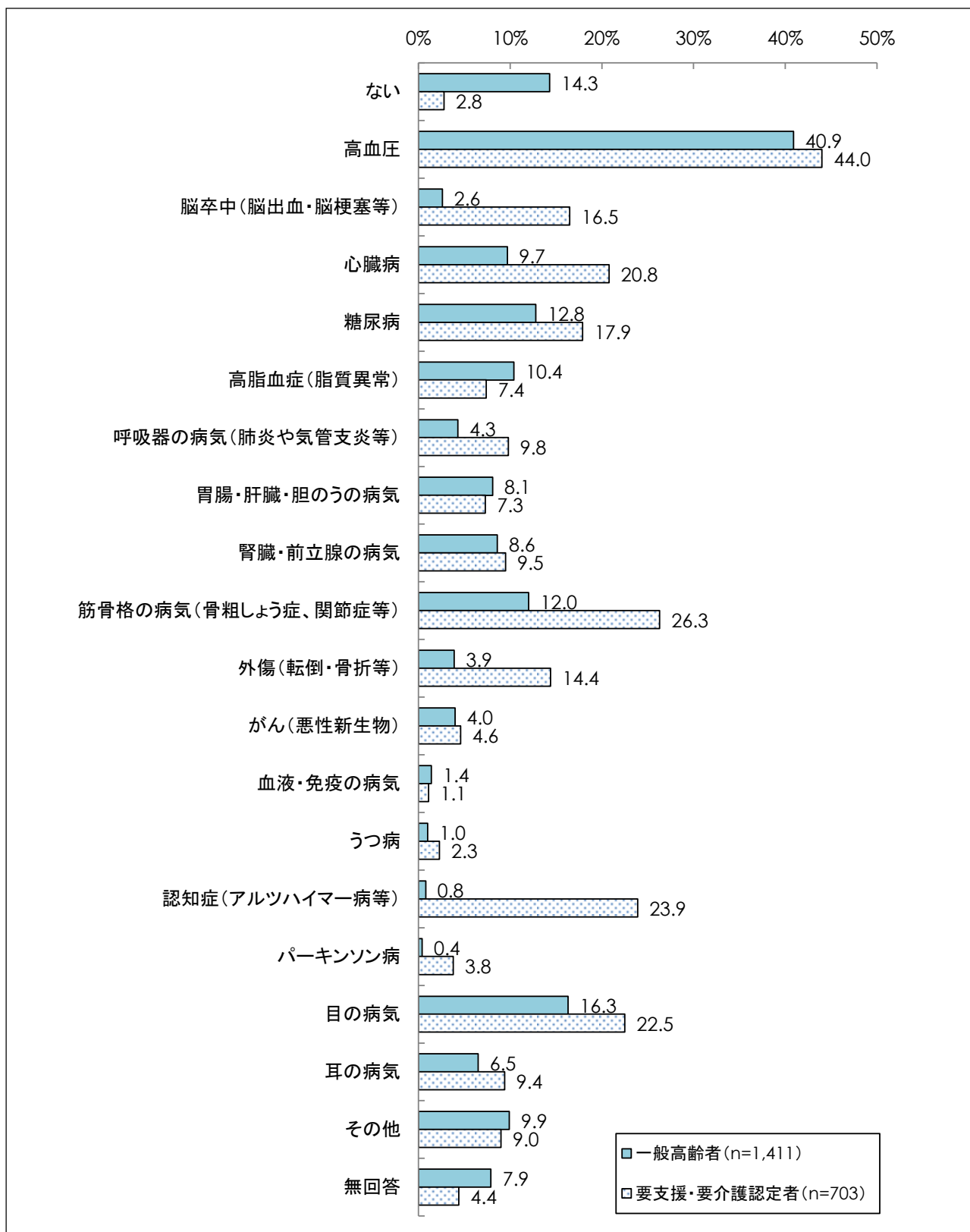
女性では、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(17.2%)が第3位、「高脂血症(脂質異常)」(13.1%)が第5位となっています。また、「ない」(16.0%)が第4位と上位に入っています。

#### <要支援・要介護認定者調査>

性別にみると、男性では「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(27.9%)が第2位、「腎臓・前立腺の病気」(23.7%)が第5位となっています。

女性では「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(34.1%)が第2位、「目の病気」(25.7%)が第3位となっています。

図表 73 現在治療中、後遺症のある病気（全体／複数回答）



図表 74 現在治療中、後遺症のある病気（全体、性別／複数回答）

<上位5位/単位%>

<一般高齢者調査>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=1,411)		高血圧	目の病気	ない	糖尿病	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、 関節症等)
		40.9	16.3	14.3	12.8	12.0
性別	男性(n=604)	高血圧	糖尿病	腎臓・前立腺の 病気	心臓病	目の病気
		41.7	18.7	18.4	14.1	13.6
	女性(n=793)	高血圧	目の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、 関節症等)	ない	高脂血症(脂質 異常)
		40.2	18.4	17.2	16.0	13.1

<要支援・要介護認定者調査>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=703)		高血圧	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等)	認知症(アルツ ハイマー病等)	目の病気	心臓病
		44.0	26.3	23.9	22.5	20.8
性別	男性(n=190)	高血圧	脳卒中(脳出 血・脳梗塞等)	心臓病	認知症(アルツ ハイマー病等)	腎臓・前立腺の 病気
		35.3	27.9	27.4	24.2	23.7
	女性(n=499)	高血圧	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等)	目の病気	認知症(アルツ ハイマー病等)	心臓病
		47.9	34.1	25.7	24.0	18.8

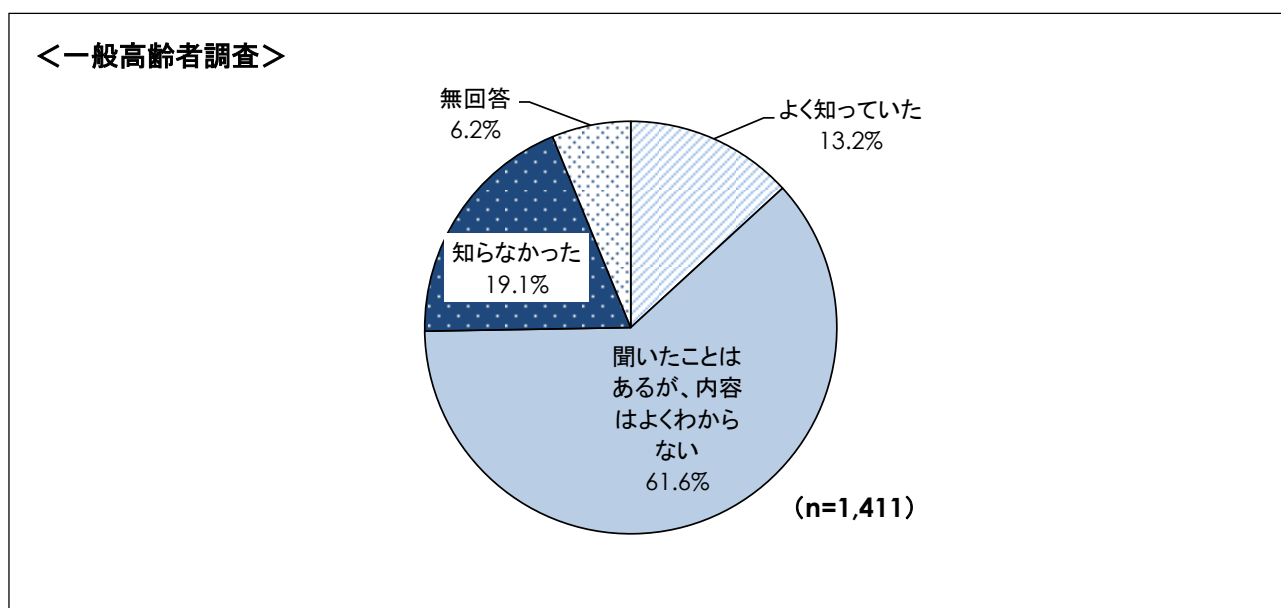
## 8-1 介護・福祉サービスについて〈一般高齢者調査〉

### (1) 介護予防について

問8(1) 平均寿命が80歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命をも伸ばすことが大切です。そのためには常日頃から高齢者の皆さん自らが介護予防を行う手助けとして市町では様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う介護予防事業について当てはまるものを1つだけ選んでください。

市が行う介護予防事業の認知度についてたずねたところ、「よく知っていた」は13.2%にとどまり、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が61.6%と約6割を占めています。また、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」と「知らなかった」(19.1%)を合計すると80.7%となり、約8割の人が、よくわからない、知らないと回答しています。

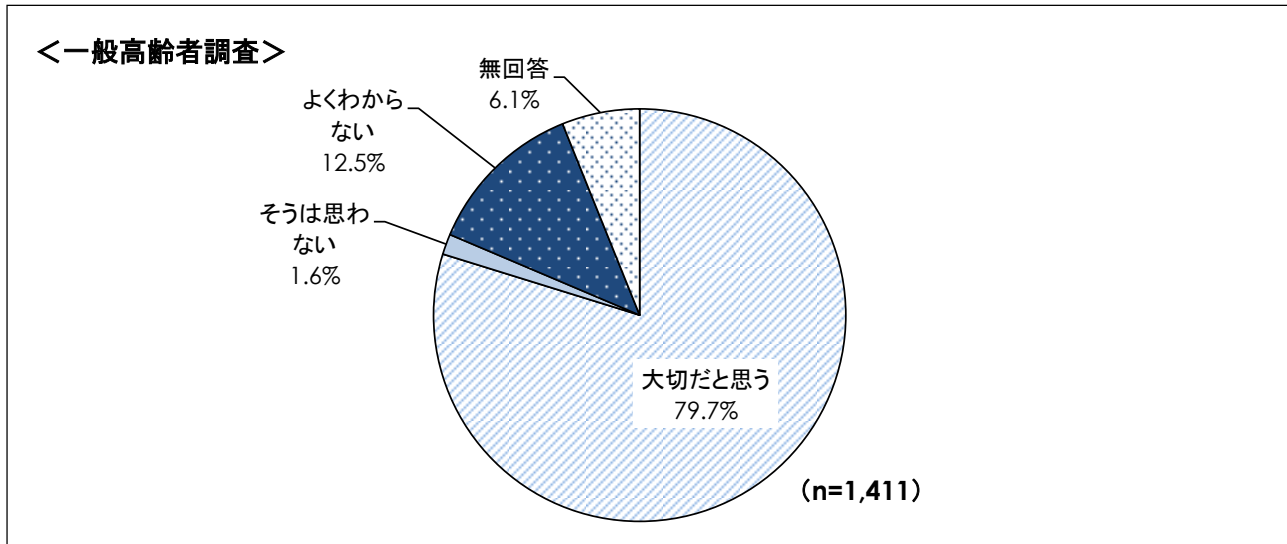
図表 75 介護予防事業の認知度（全体）



問8（2） 介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思いますか。

介護予防の取り組みを推進することについてたずねたところ、「大切だと思う」が79.7%と約8割を占めています。

図表 76 介護予防の取り組みについて（全体）

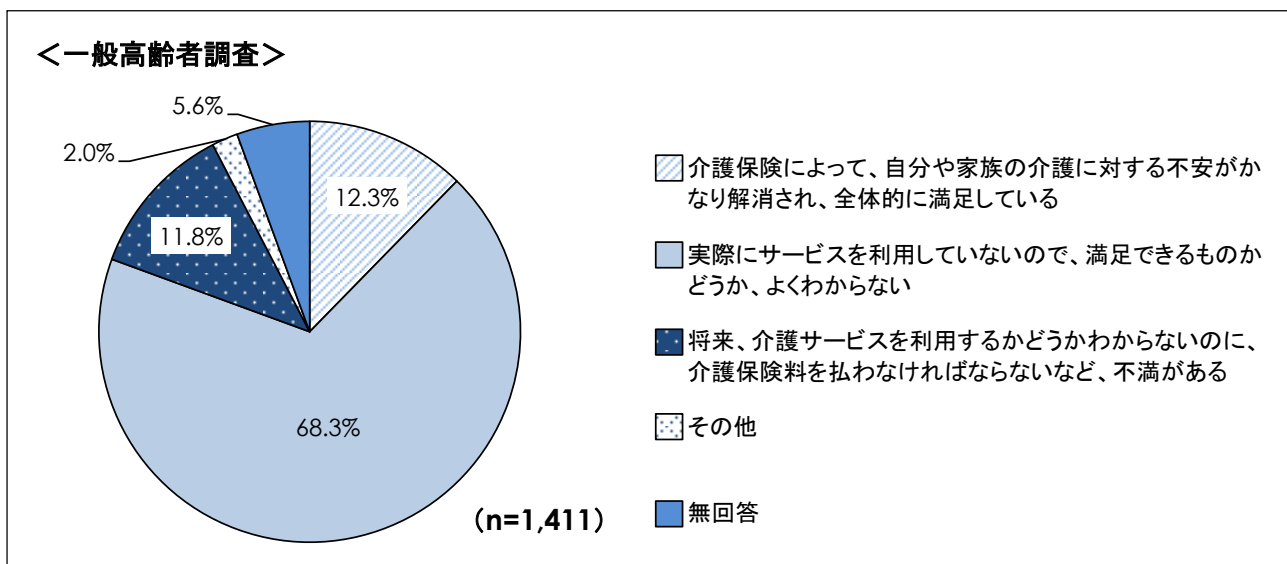


## （2）介護保険について

問8（3） 現在の介護保険に対するあなたの評価として一番近いものを1つだけ選んでください。

現在の介護保険に対する評価についてたずねたところ、「実際にサービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」が68.3%と約7割を占めています。

図表 77 介護保険に対する評価（全体）



問8(4) 現在納付されている介護保険料の額についてどのように感じていますか。  
あてはまるものを1つだけ選んでください。

【全体の傾向】

現在の介護保険料の額についてたずねたところ、「高いと思う」が53.0%と5割を超え、半数以上の人が現在の介護保険料の額は高いと感じています。

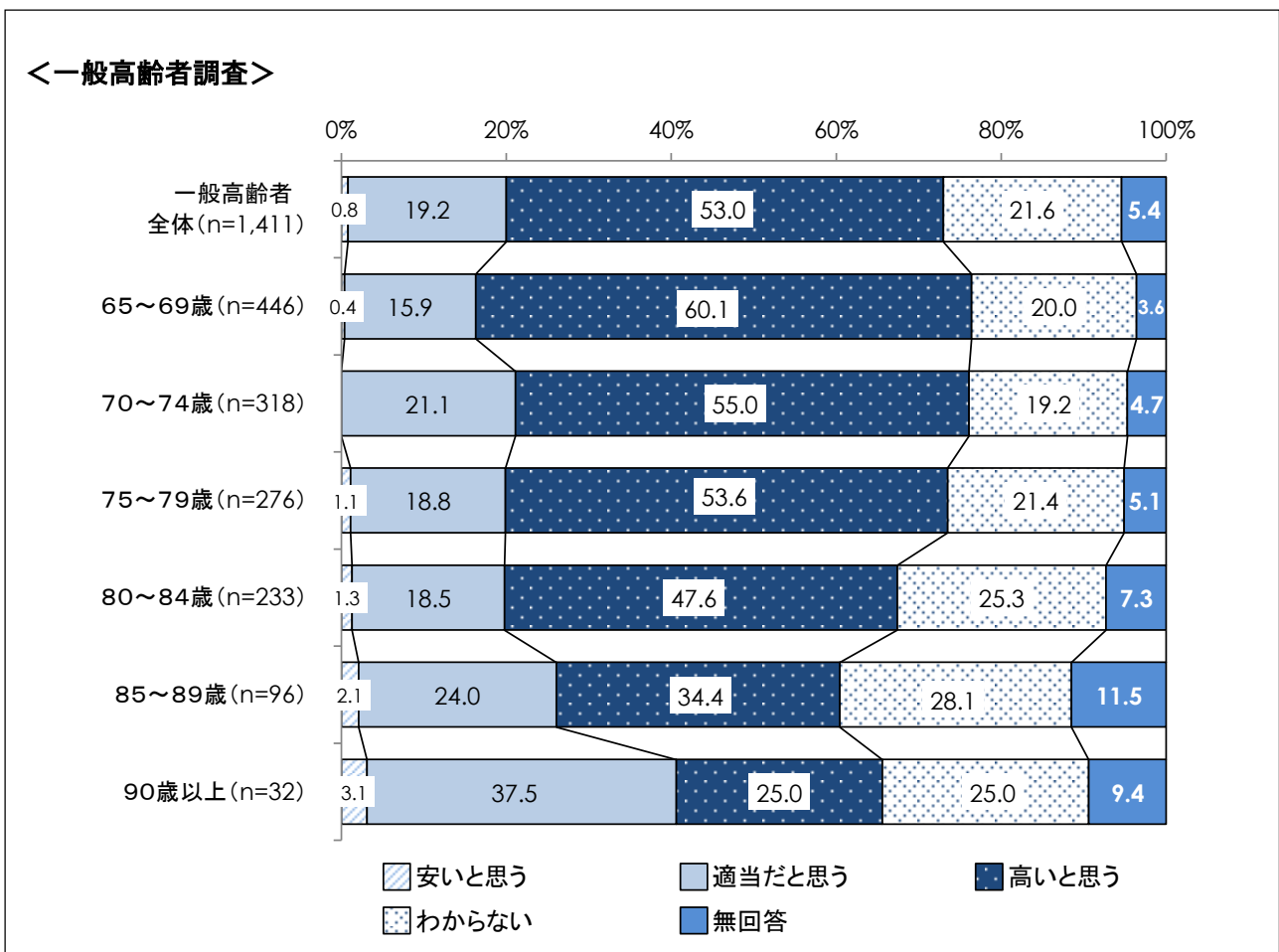
【属性別の傾向】

年齢構成別にみると、65歳以上79歳以下の年齢層では「高いと思う」が約5割～6割を占め、最も高くなっています。

一方、80～84歳では「高いと思う」が47.6%と最も高くなっているものの、5割を下回っており、年齢が上がるにつれ「高いと思う」の割合は減少しています。

また、90歳以上では「適当だと思う」(37.5%)が最も高くなっています。

図表 78 介護保険料の額について（全体，年齢構成別）



問8(5) 介護サービスを利用する人が増えたり、1人当たりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなる仕組みになっています。このことを踏まえた上で、介護保険のあり方についてあなたの考え方に最も近いものを1つだけ選んでください。

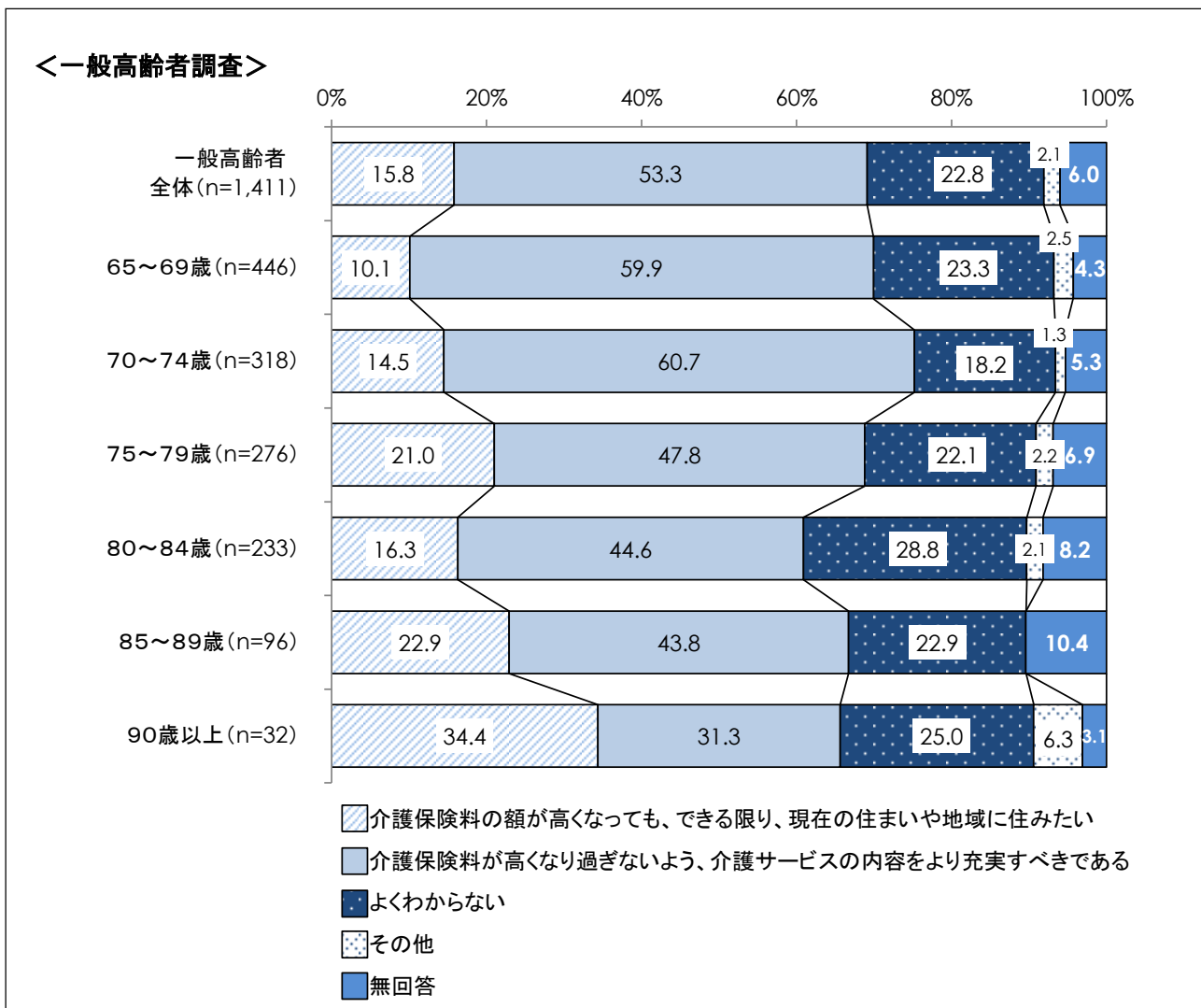
【全体の傾向】

現在の介護保険のあり方についてたずねたところ、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容をより充実すべきである」が53.3%と最も高くなっています。

【属性別の傾向】

年齢構成別にみると、「介護保険料の額が高くなっても、できる限り、現在の住まいや地域に住みたい」については、90歳以上で34.4%と他の年齢層に比べて割合が高くなっています。また、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容をより充実すべきである」については、65歳以上74歳以下の年齢層では約6割を占めています。

図表 79 介護保険のあり方について（全体、年齢構成別）





### (3) 将来の住まいと介護サービスについて

問8(6) 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。  
一番近いものを1つだけ選んでください。

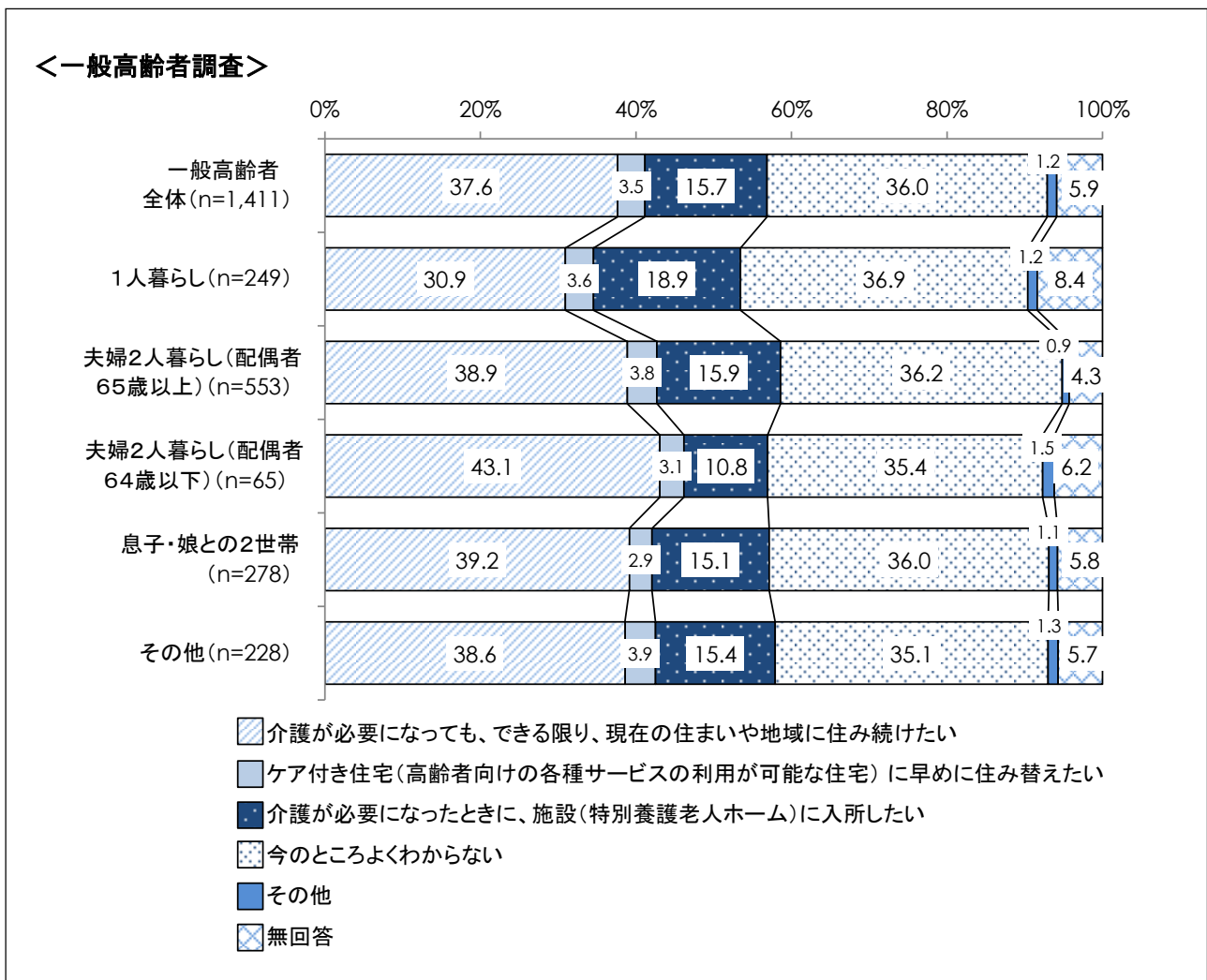
#### 【全体の傾向】

将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が37.6%と最も高くなっています。次いで「今のところよくわからない」が36.0%と僅差で続いています。

#### 【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「今のところよくわからない」が36.9%と最も高くなっています。また、それ以外の家族構成では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高く、中でも、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では43.1%と4割を超えています。

図表 80 将来の住まいと介護サービスの利用について（全体，家族構成別）



問8(7) 【(6)で「3.介護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホーム)に入所したい」の方のみ】  
施設入所を希望される主な理由を次の中から1つだけ選んでください。

【全体の傾向】

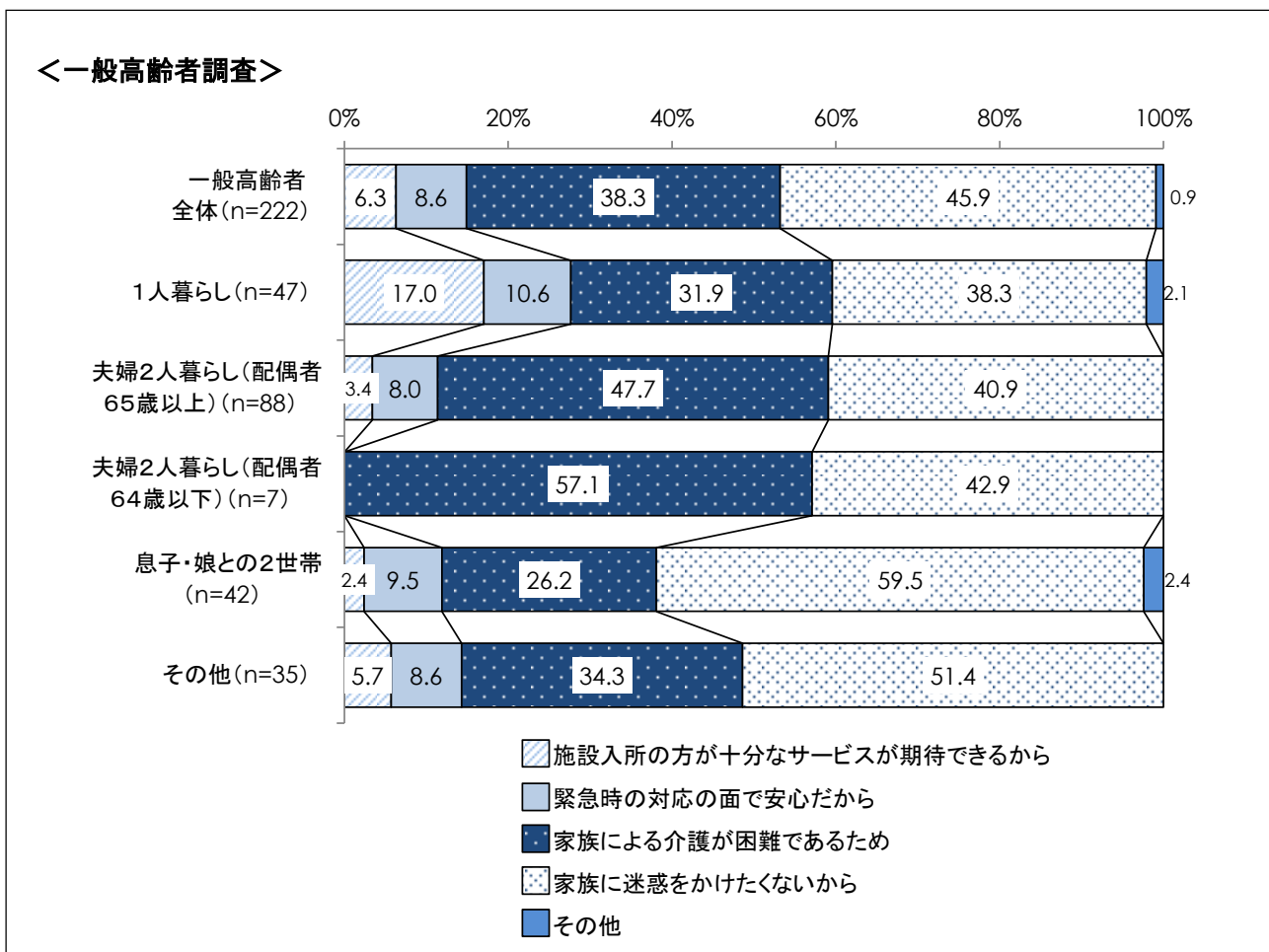
介護が必要になったときに、施設(特別養護老人ホーム)に入所したいと回答した人に対し、施設入所を希望する主な理由をたずねたところ、「家族に迷惑をかけたくないから」が45.9%と最も高くなっており、次いで「家族による介護が困難であるため」が38.3%となっています。

【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」が17.0%と、他の家族構成に比べてやや高めの割合となっています。

また、配偶者の年齢に関わらず『夫婦2人暮らし』では「家族による介護が困難であるため」、息子・娘との2世帯、その他の家族構成では「家族に迷惑をかけたくないから」が最も高くなっています。

図表 81 施設入所を希望する主な理由(全体, 家族構成別)



#### (4) 地域の高齢者への手助けについて

問8(8) 地域で何らかの日常生活の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについてあなたの考えに近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

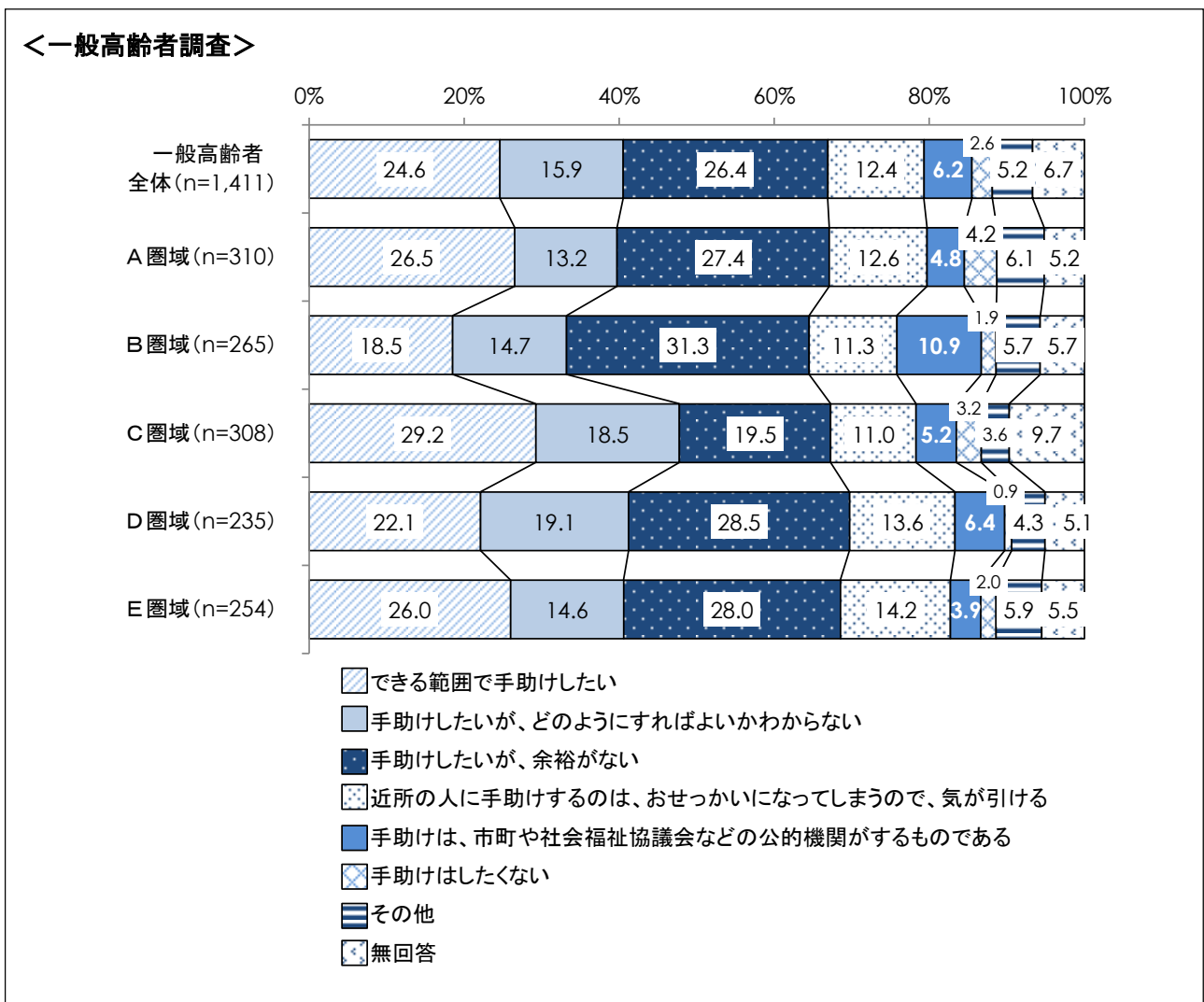
##### 【全体の傾向】

地域の高齢者への手助けに対する考えをたずねたところ、「手助けしたいが、余裕がない」が26.4%と最も高く、「できる範囲で手助けしたい」(24.6%)、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」(15.9%)を合計すると66.9%となり、6割以上の人が高齢者への手助けしたい気持ちはあると回答しています。

##### 【属性別の傾向】

圏域別にみると、C圏域では「できる範囲で手助けしたい」が29.2%と最も高くなっていますが、その他の圏域では「手助けしたいが、余裕がない」が約3割を占め、最も高くなっています。

図表 82 地域の高齢者への手助けについて (全体, 日常生活圏域別)

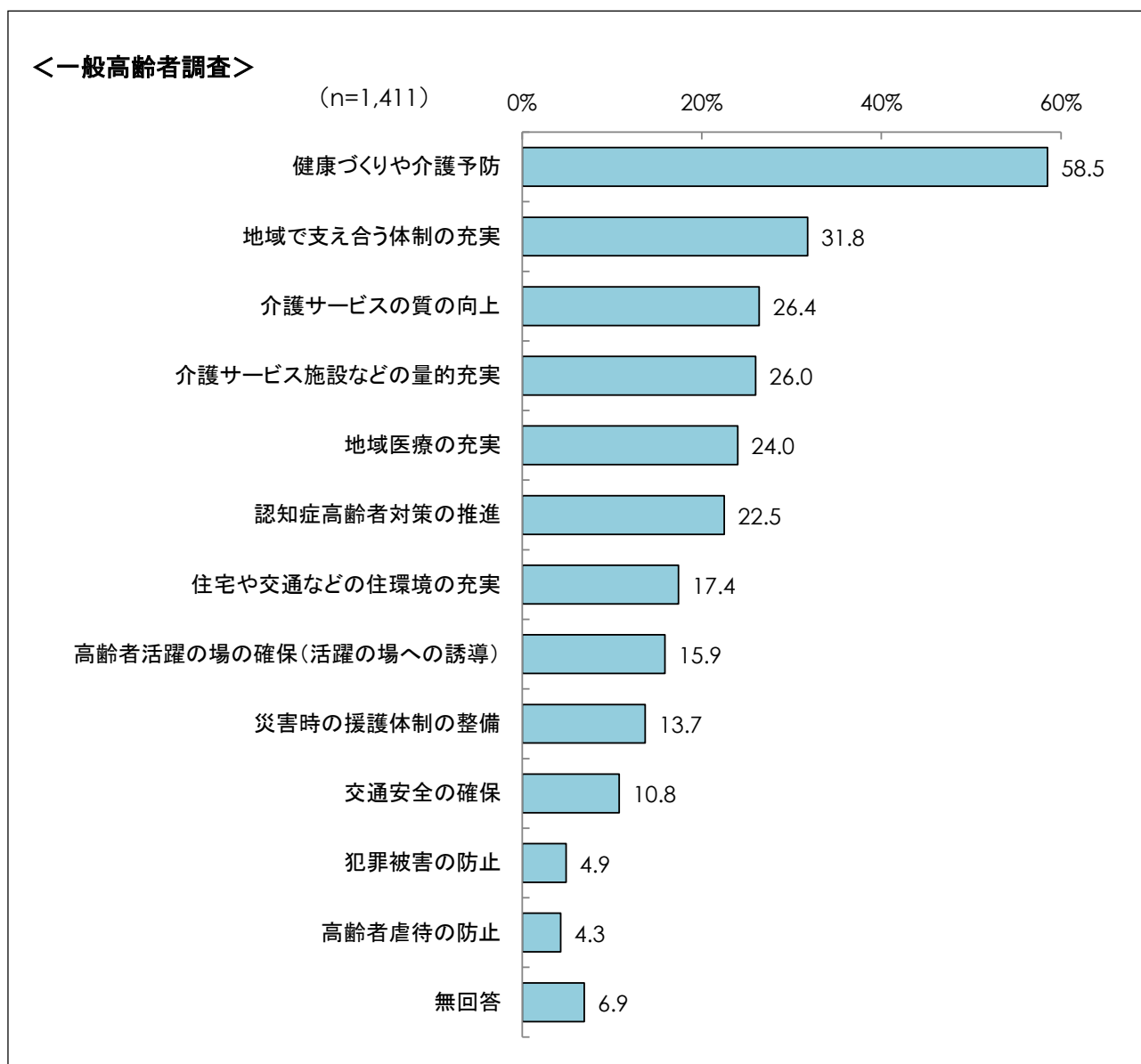


## (5) 高齢化社会において重要な方策

問8(9) 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

高齢化社会において、重要だと思える方策についてたずねたところ、「健康づくりや介護予防」が58.5%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「地域で支え合う体制の充実」(31.8%)、「介護サービスの質の向上」(26.4%)、「介護サービス施設などの量的充実」(26.0%) などとなっています。

図表 83 高齢化社会において重要な方策（全体／複数回答）

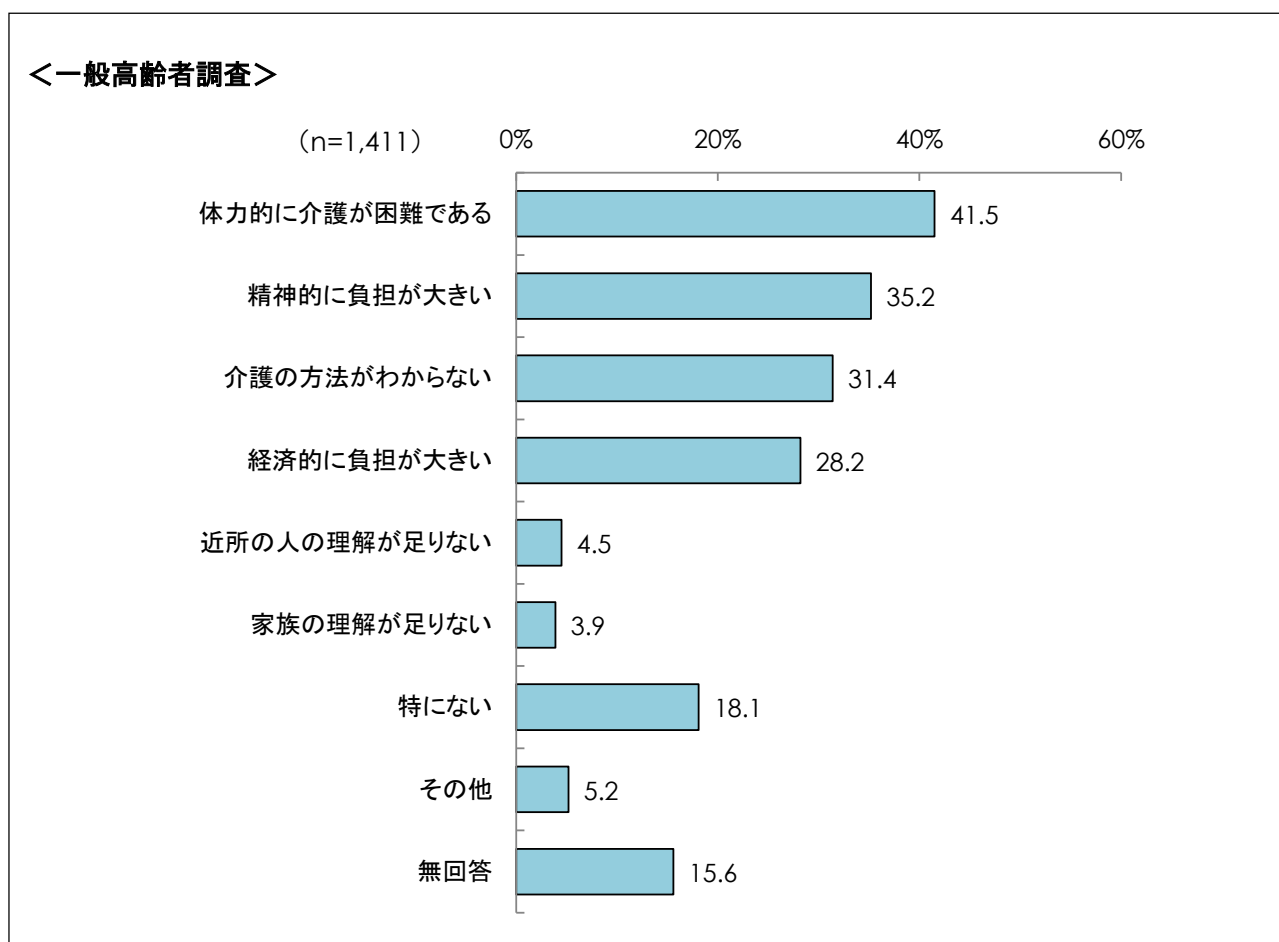


## (6) 介護を行う際や外出の際に困っていること

問8(10) 介護を行う上で、困っていることを3つまで選んでください。

介護を行う上で困っていることをたずねたところ、「体力的に介護が困難である」が41.5%と最も多く、次いで「精神的に負担が大きい」(35.2%)、「介護の方法がわからない」(31.4%)、「経済的に負担が大きい」(28.2%)などが主な内容となっています。

図表 84 介護を行う上で困っていること (全体/複数回答)



問8（11） 外出する際、困ることを3つまで選んでください。

【全体の傾向】

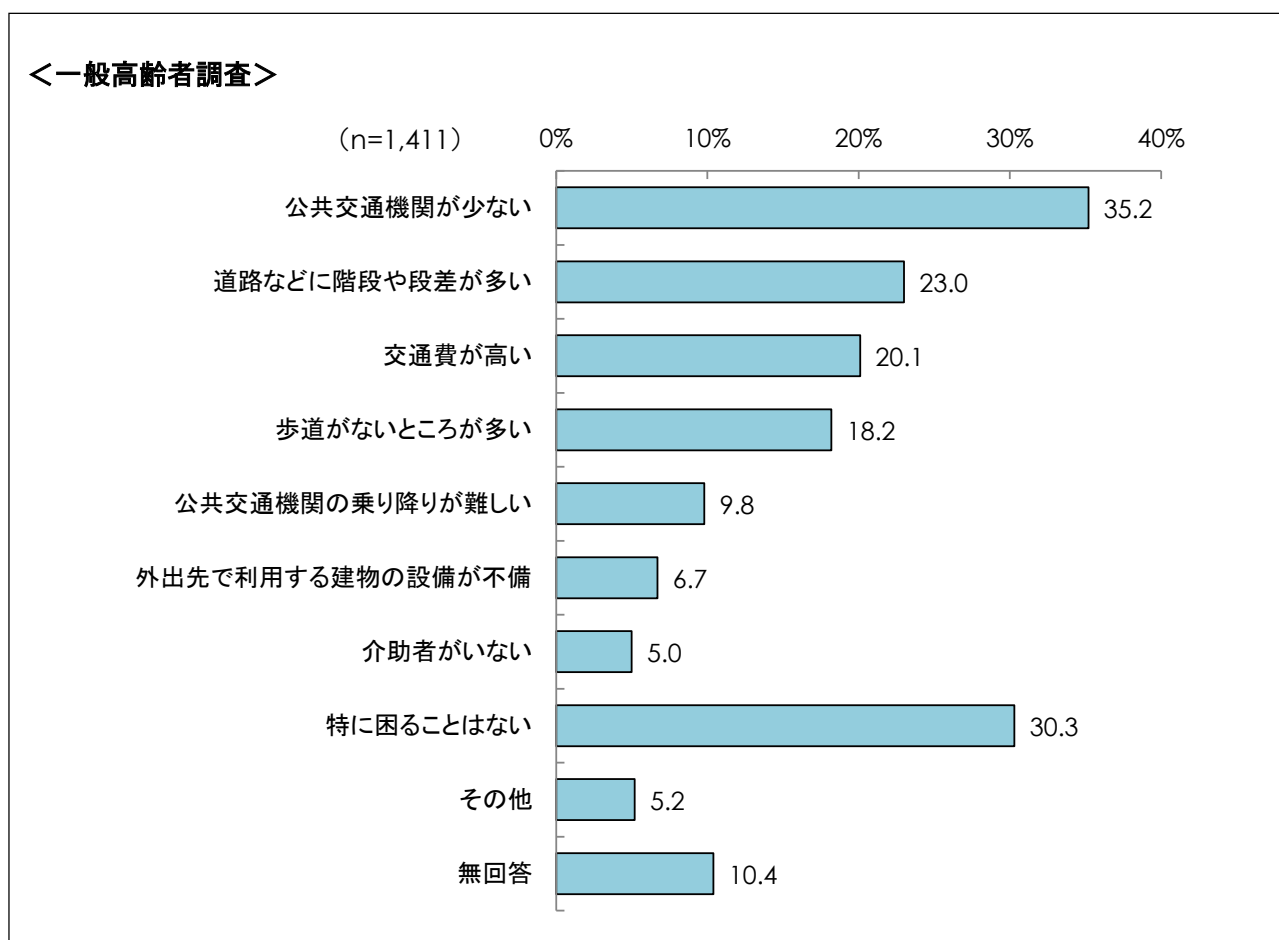
外出する際、困ることをたずねたところ、「公共交通機関が少ない」が35.2%と最も多く、次いで「道路などに階段や段差が多い」(23.0%)、「交通費が高い」(20.1%)、「歩道がないところが多い」(18.2%)、「公共交通機関の乗り降りが難しい」(9.8%) などとなっています。

【属性別の傾向】

日常生活圏域別にみると、A圏域、B圏域では「特に困ることはない」、C圏域、D圏域、E圏域では「公共交通機関が少ない」が第1位となっています。

また、C圏域では「交通費が高い」が第2位となっています。

図表 85 外出する際に困ること（全体／複数回答）



図表 86 外出する際に困ること（全体，日常生活圏域別／複数回答）

〈上位3位/単位%〉

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,411)		公共交通機関が少ない 35.2	特に困ることはない 30.3	道路などに階段や段差が多い 23.0
日常生活圏域別	A圏域(n=310)	特に困ることはない 33.2	道路などに階段や段差が多い 27.4	公共交通機関が少ない 25.5
		B圏域(n=265)	特に困ることはない 34.3	道路などに階段や段差が多い 26.8
	C圏域(n=308)	公共交通機関が少ない 46.8	交通費が高い 26.3	特に困ることはない 24.7
		D圏域(n=235)	公共交通機関が少ない 34.9	特に困ることはない 34.0
	E圏域(n=254)	公共交通機関が少ない 42.1	特に困ることはない 28.3	道路などに階段や段差が多い 24.0

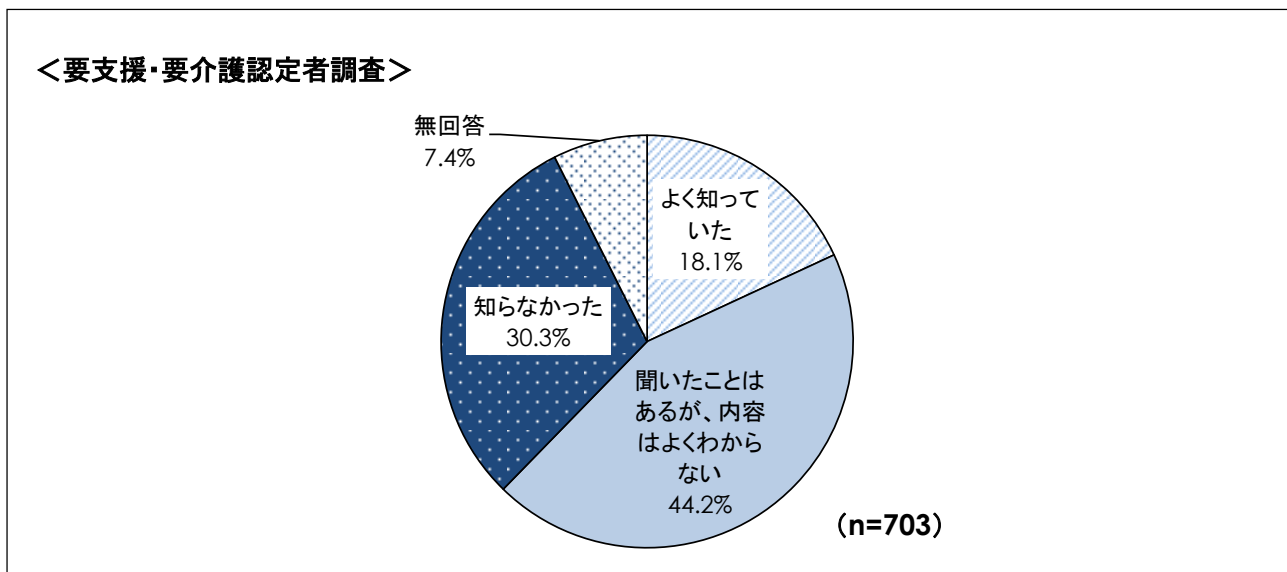
## 8-2 介護・福祉サービスについて〈要支援・要介護認定者調査〉

### (1) 介護予防について

問8(1) 平均寿命が80歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命をも伸ばすことが大切です。そのためには常日頃から高齢者の皆さん自らが介護予防を行う手助けとして市町では様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う介護予防事業について当てはまるものを1つだけ選んでください。

介護予防事業の認知度をたずねたところ、「よく知っていた」は18.1%と2割を下回っています。一方、「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」(44.2%),「知らなかった」(30.3%)を合計すると74.5%となり、7割以上の方がよくわからない、知らないと回答しており、認知度は低くなっています。

図表 87 介護予防事業の認知度（全体）

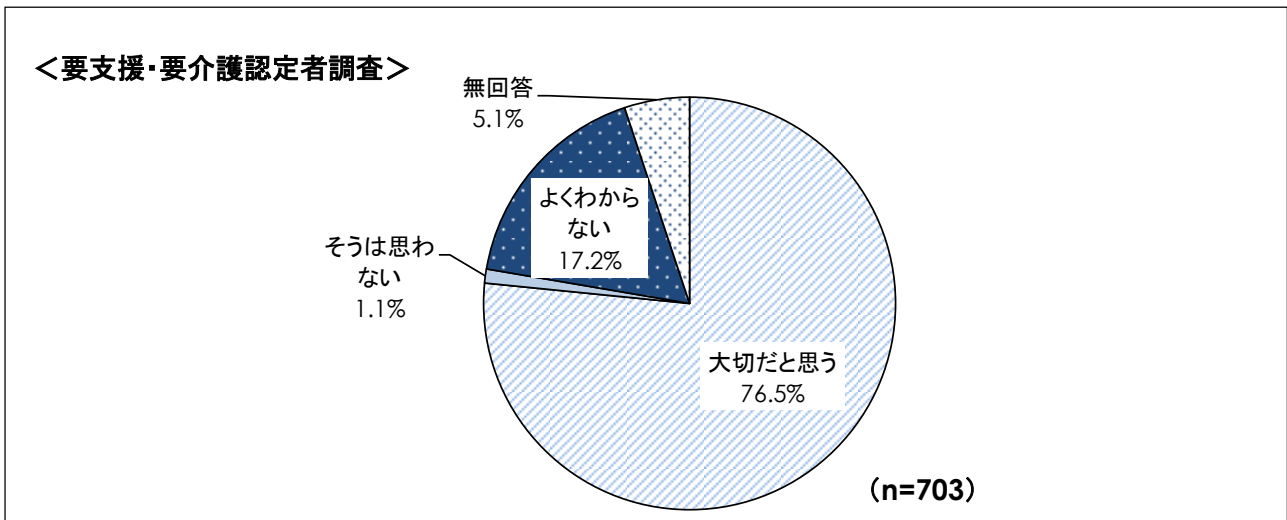




問8（2） 介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思いますか。

介護予防の取り組みについてたずねたところ、「大切だと思う」が76.5%と7割を超えています。次いで「よくわからない」が17.2%、「そうは思わない」（1.1%）となっています。

図表 88 介護予防の取り組みについて（全体）



## (2) 介護サービスについて

問8(3) 現在介護サービスを利用していますか。

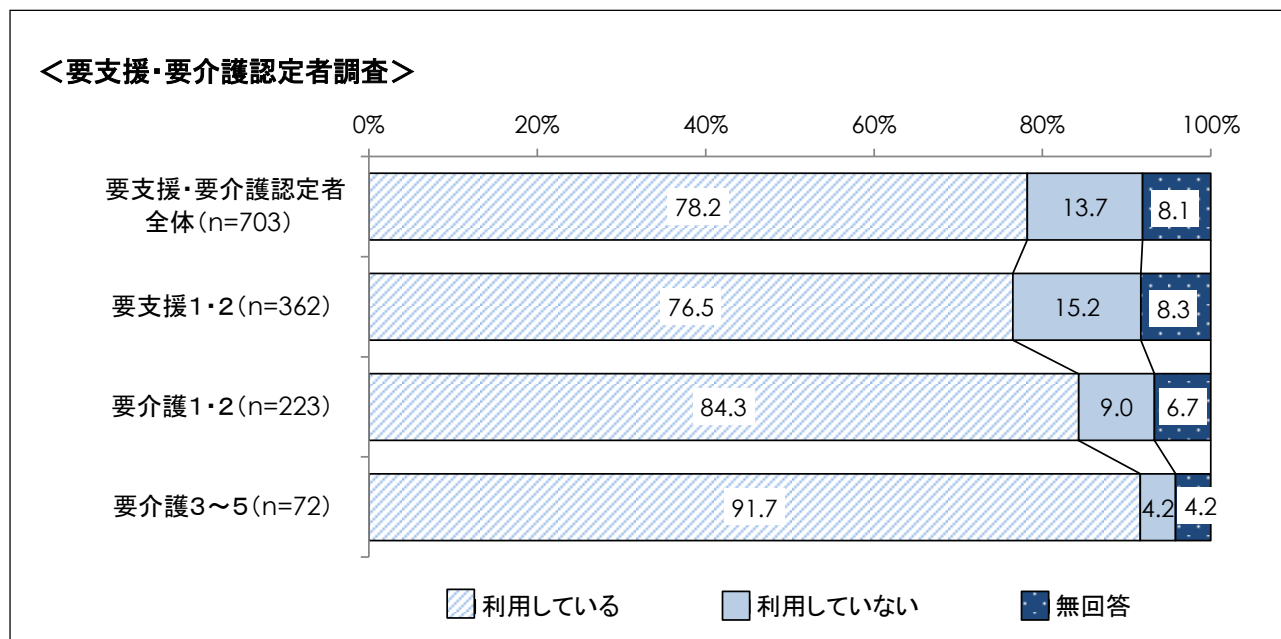
### 【全体の傾向】

現在の介護サービスの利用状況をたずねたところ、「利用している」が78.2%となっており、約8割の人が介護サービスを利用しています。

### 【属性別の傾向】

認定状況別にみると、要支援1・2では「利用している」は76.5%、要介護1・2では84.3%、要介護3～5では91.7%と大半の人が介護サービスを利用しており、要介護度が上がるにつれ、利用している割合も増加しています。

図表 89 介護サービスの利用状況（全体，認定状況別）



【(3)で「1.利用している」の方のみ】

問8(4) 利用されている介護サービスの内容に満足していますか。

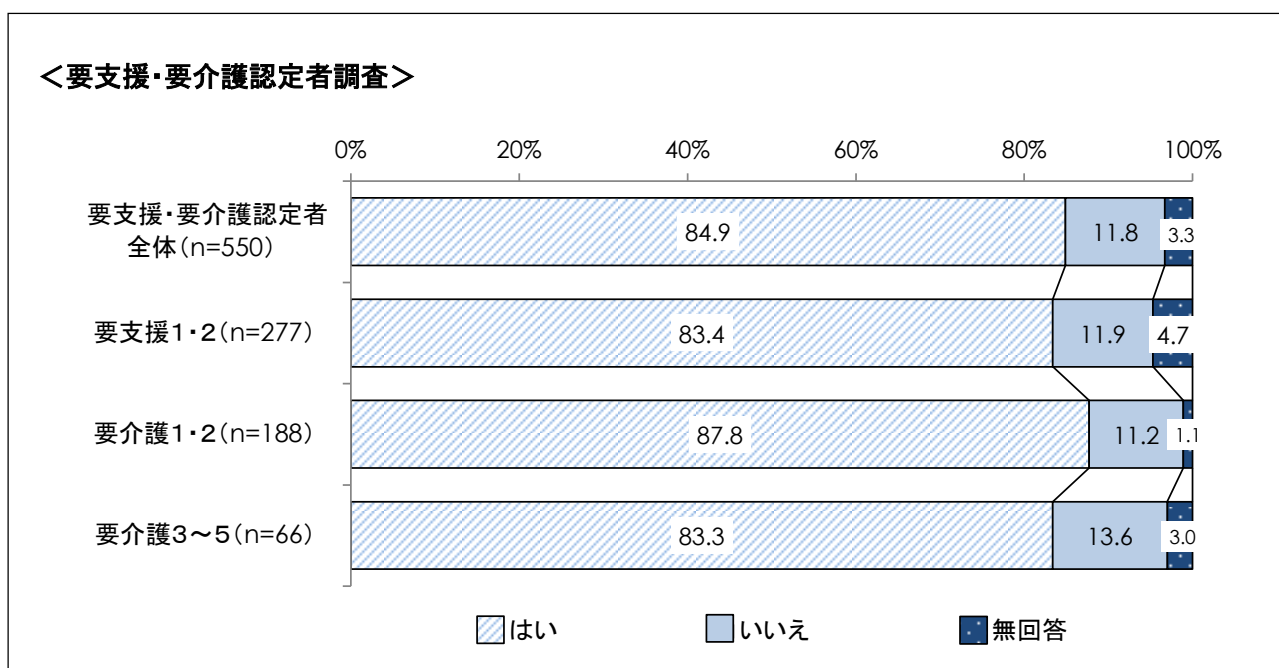
### 【全体の傾向】

現在利用している介護サービスの満足度をたずねたところ、84.9%の人が「はい(満足している)」と回答しており、利用している人の大半が満足しているという結果となっています。

### 【属性別の傾向】

認定状況別にみると、要支援1・2、要介護1・2、要介護3～5のすべてで「はい(満足している)」が8割を超えています。中でも要介護1・2では「はい」が87.8%と約9割を占め、大半の人が満足していると回答しています。

図表 90 利用している介護サービスの満足度(全体, 認定状況別)



【(4)で「2.いいえ」の方のみ】

問8(5) 満足していない理由を1つだけ選んでください。

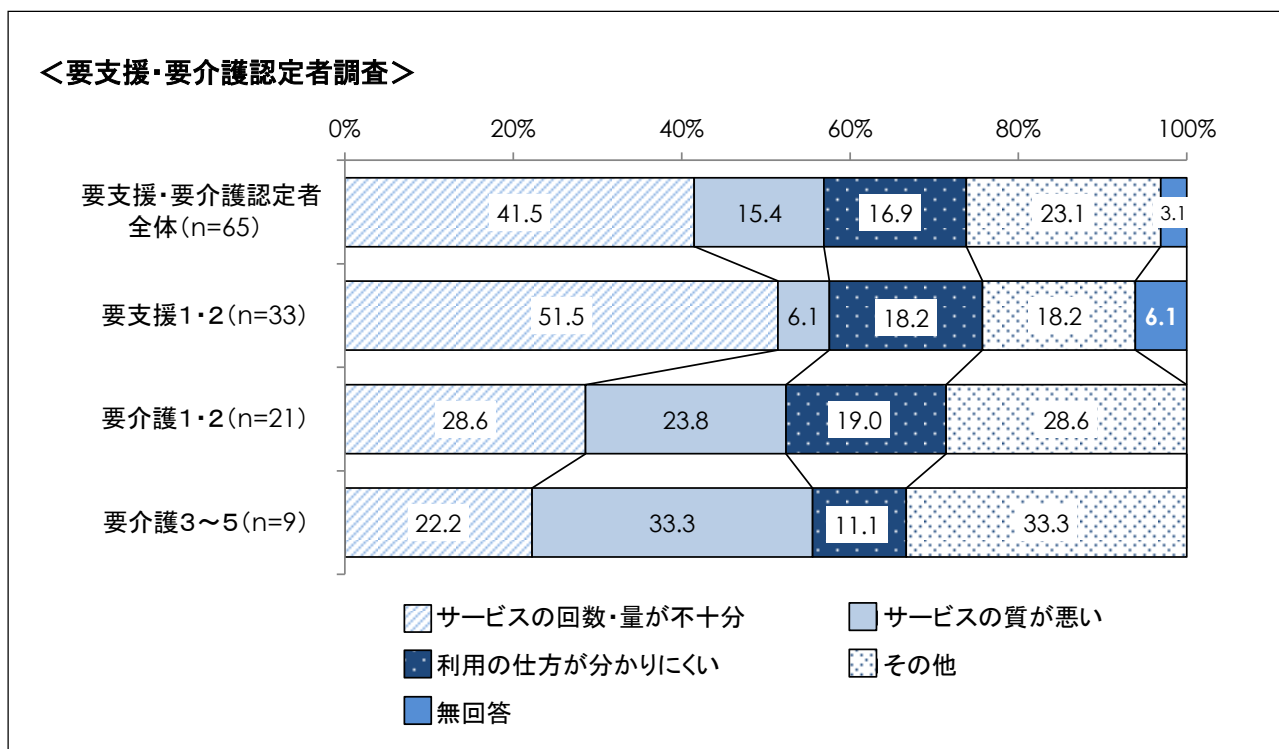
### 【全体の傾向】

現在利用している介護サービスの内容に満足していないと回答した人に対し、満足していない理由をたずねたところ、「サービスの回数・量が不十分」が41.5%と最も高くなっています。また、「利用の仕方が分かりにくい」は16.9%、「サービスの質が悪い」は15.4%となっています。

### 【属性別の傾向】

認定状況別にみると、要支援1・2では「サービスの回数・量が不十分」が51.5%と約5割を占めています。また、要介護1・2では「サービスの回数・量が不十分」、「その他」がともに28.6%を占め、要介護3～5では「サービスの質が悪い」、「その他」がともに33.3%を占めています。

図表 91 介護サービスに満足していない理由（全体，認定状況別）



【(3)で「2.利用していない」の方のみ】

問8(6) 利用していない理由を1つだけ選んでください。

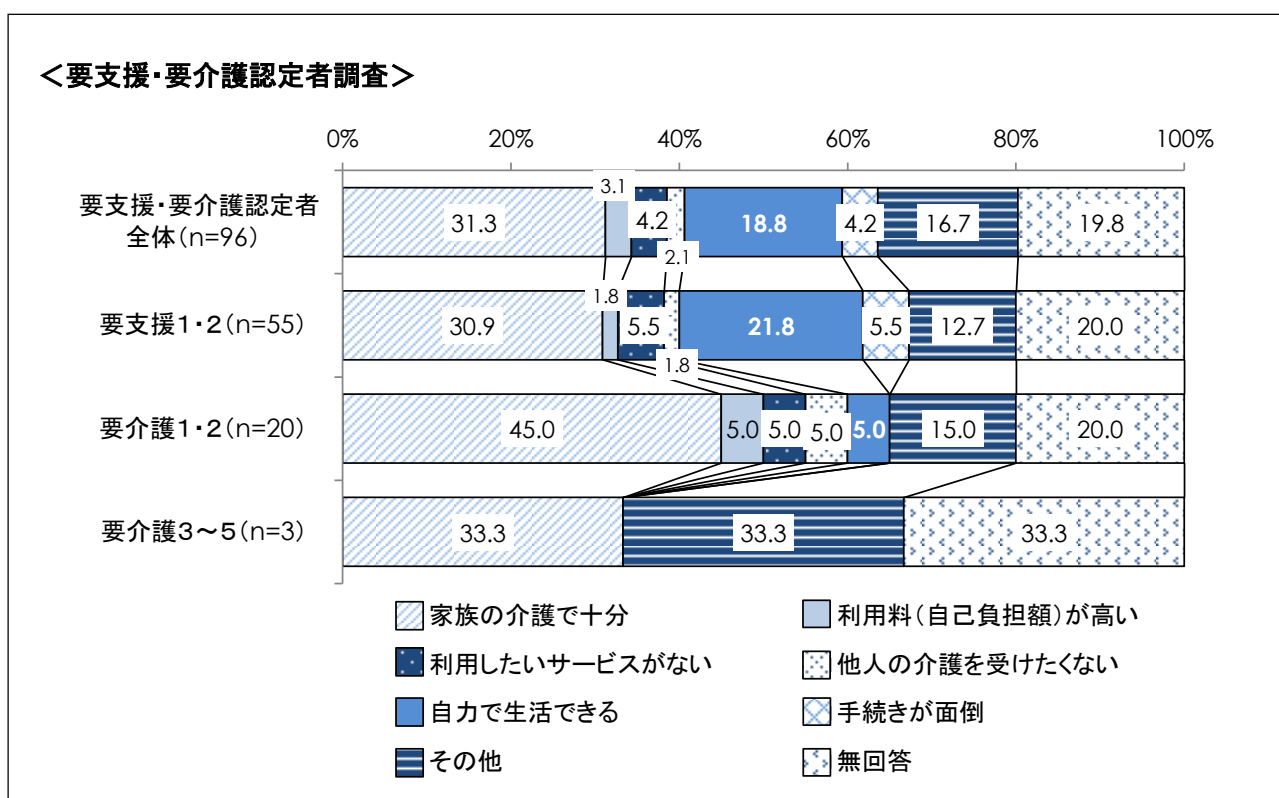
【全体の傾向】

現在介護サービスを利用していないと回答した人に対し、利用していない理由をたずねたところ、「家族の介護で十分」が31.3%と最も高く、次いで「自力で生活できる」が18.8%となっています。

【属性別の傾向】

認定状況別にみると、要支援1・2、要介護1・2では「家族の介護で十分」が最も高くなっています。また、要支援1・2では「自力で生活できる」が21.8%と約2割を占めています。

図表 92 介護サービスを利用していない理由（全体，認定状況別）



### (3) 介護保険について

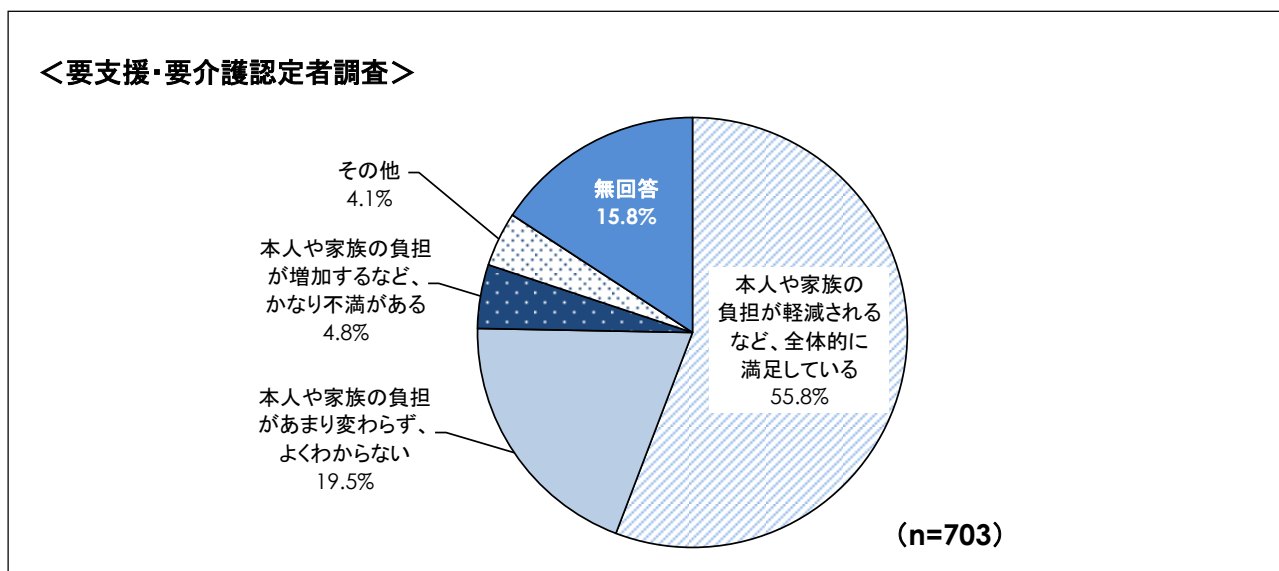
問8(7) 介護保険制度に対するあなたの評価として、最も近いものを1つだけ選んでください。

現在の介護保険制度に対する評価についてたずねたところ、「本人や家族の負担が軽減されるなど、全体的に満足している」が55.8%を占め、半数以上の人々が満足していると回答しています。

次いで、「本人や家族の負担があまり変わらず、よくわからない」は19.5%となっており、約2割の人が介護保険制度による変化がよくわからないと感じています。

また、「本人や家族の負担が増加するなど、かなり不満がある」はわずか4.8%となっており、不満を感じている人の割合は低い傾向となっています。

図表 93 介護保険制度に対する評価（全体）



問8(8) 介護サービスを利用する人が増えたり、1人当たりのサービス利用額が増えたりすると、介護保険料の額は高くなる仕組みになっています。このことを踏まえた上で、介護保険のあり方についてあなたの考え方に最も近いものを1つだけ選んでください。

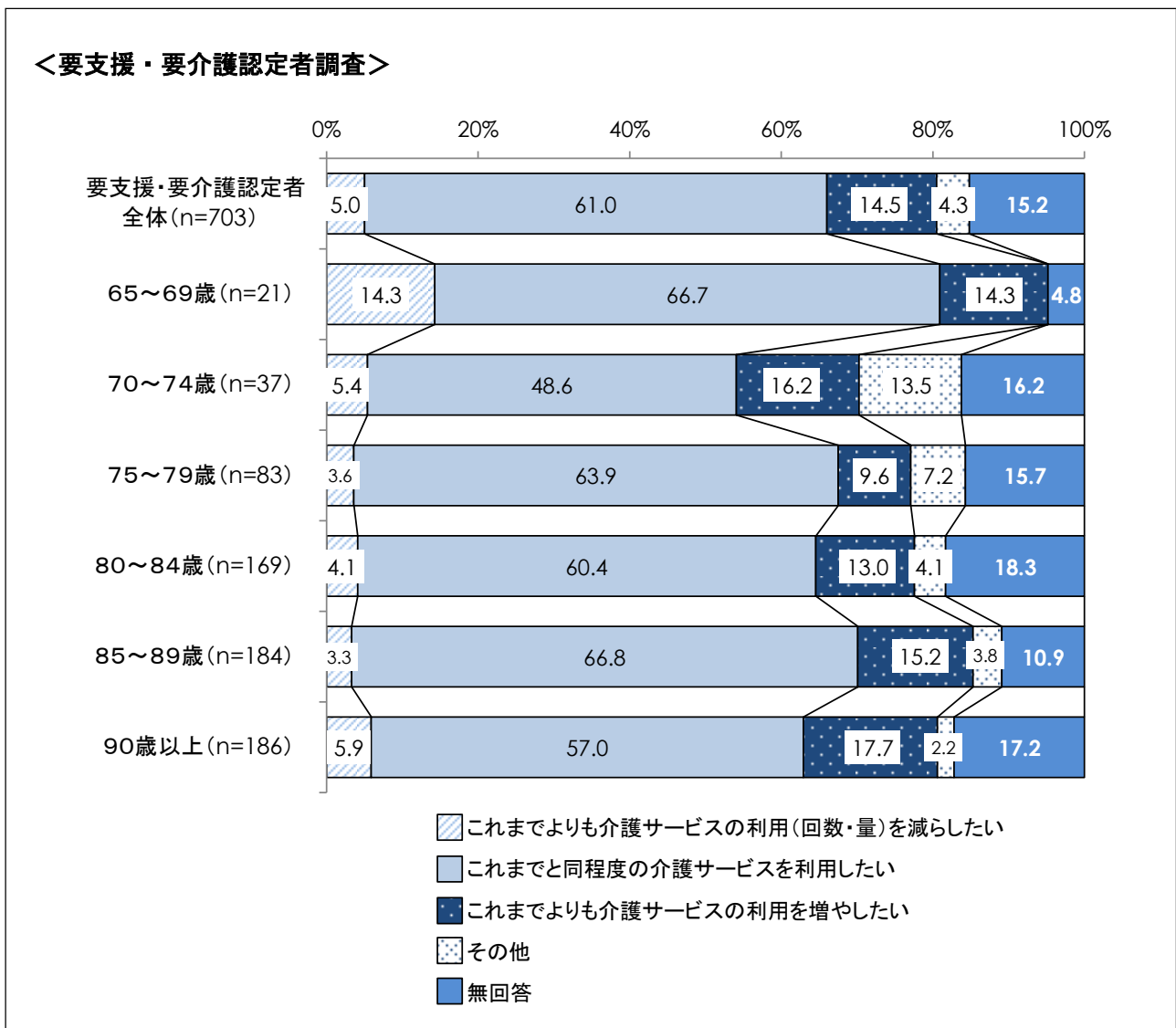
【全体の傾向】

介護保険のあり方についてたずねたところ、「これまでと同程度の介護サービスを利用したい」が61.0%と最も高くなっています。これに対し、「これまでよりも介護サービスの利用(回数・量)を減らしたい」は5.0%、「これまでよりも介護サービスの利用を増やしたい」は14.5%となっています。

【属性別の傾向】

年齢構成別にみると、「これまでよりも介護サービスの利用(回数・量)を減らしたい」については「65～69歳」で14.3%、また、「これまでよりも介護サービスの利用を増やしたい」については90歳以上で17.7%となっており、それぞれ他の年齢層に比べてやや割合が高くなっています。

図表 94 介護保険のあり方について (全体, 年齢構成別)



### (3) 将来の住まいと介護サービスについて

問8(9) 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。  
一番近いものを1つだけ選んでください。

#### 【全体の傾向】

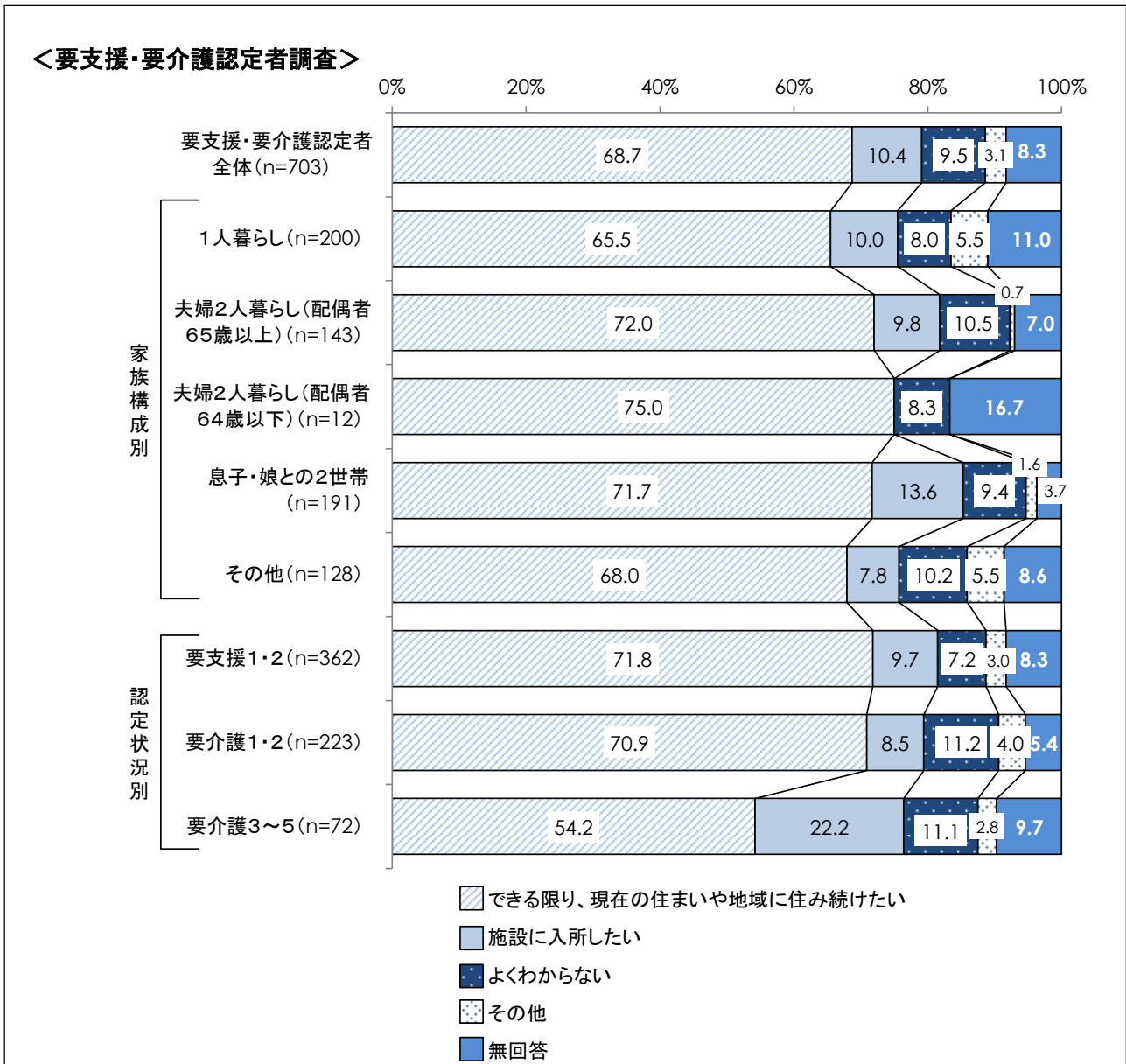
将来の住まいと介護サービスの利用についてたずねたところ、「できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が68.7%と最も高くなっています。

#### 【属性別の傾向】

家族構成別にみると、息子・娘との2世帯では「施設に入所したい」(13.6%)の割合が他の家族構成に比べてやや高くなっています。

認定状況別にみると、要介護3～5で「施設に入所したい」が22.2%と2割を超えています。

図表 95 将来の住まいと介護サービスの利用について（全体、家族構成別、認定状況別）





問8 (10) 【(9)で「2.施設に入所したい」の方のみ】

施設入所を希望される主な理由を次の中から 1つだけ選んでください。

【全体の傾向】

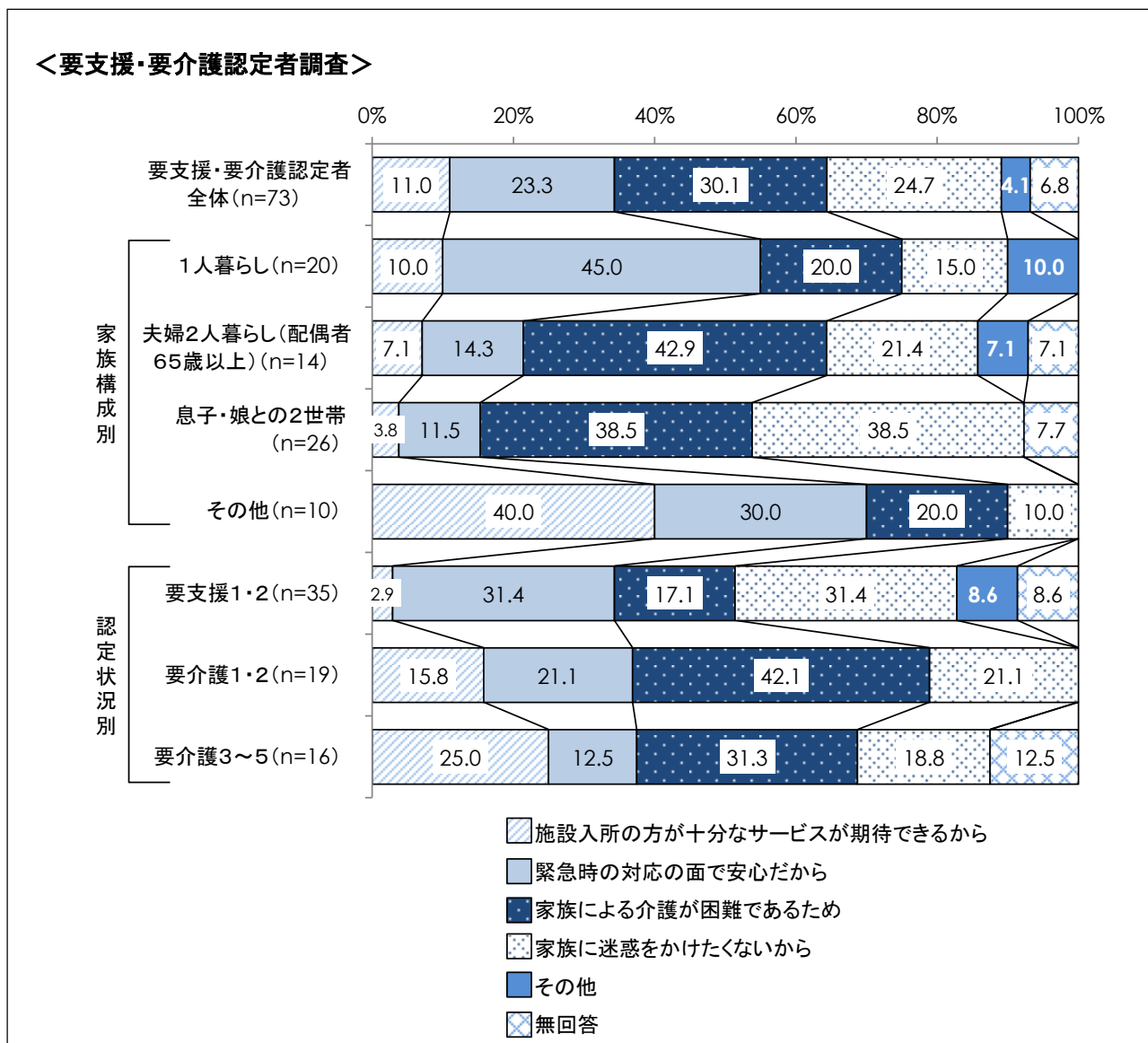
将来の住まいとして施設入所を希望した人に対し、その理由をたずねたところ、「家族による介護が困難であるため」が30.1%と最も高くなっています。

【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「緊急時の対応の面で安心だから」(45.0%)、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)では「家族による介護が困難であるため」(42.9%)が最も高くなっています。

認定状況別にみると、要介護1・2、要介護3～5では「家族による介護が困難であるため」が約3割～4割を占め、最も高くなっています。

図表 96 施設入所を希望する主な理由 (全体, 家族構成別, 認定状況別)



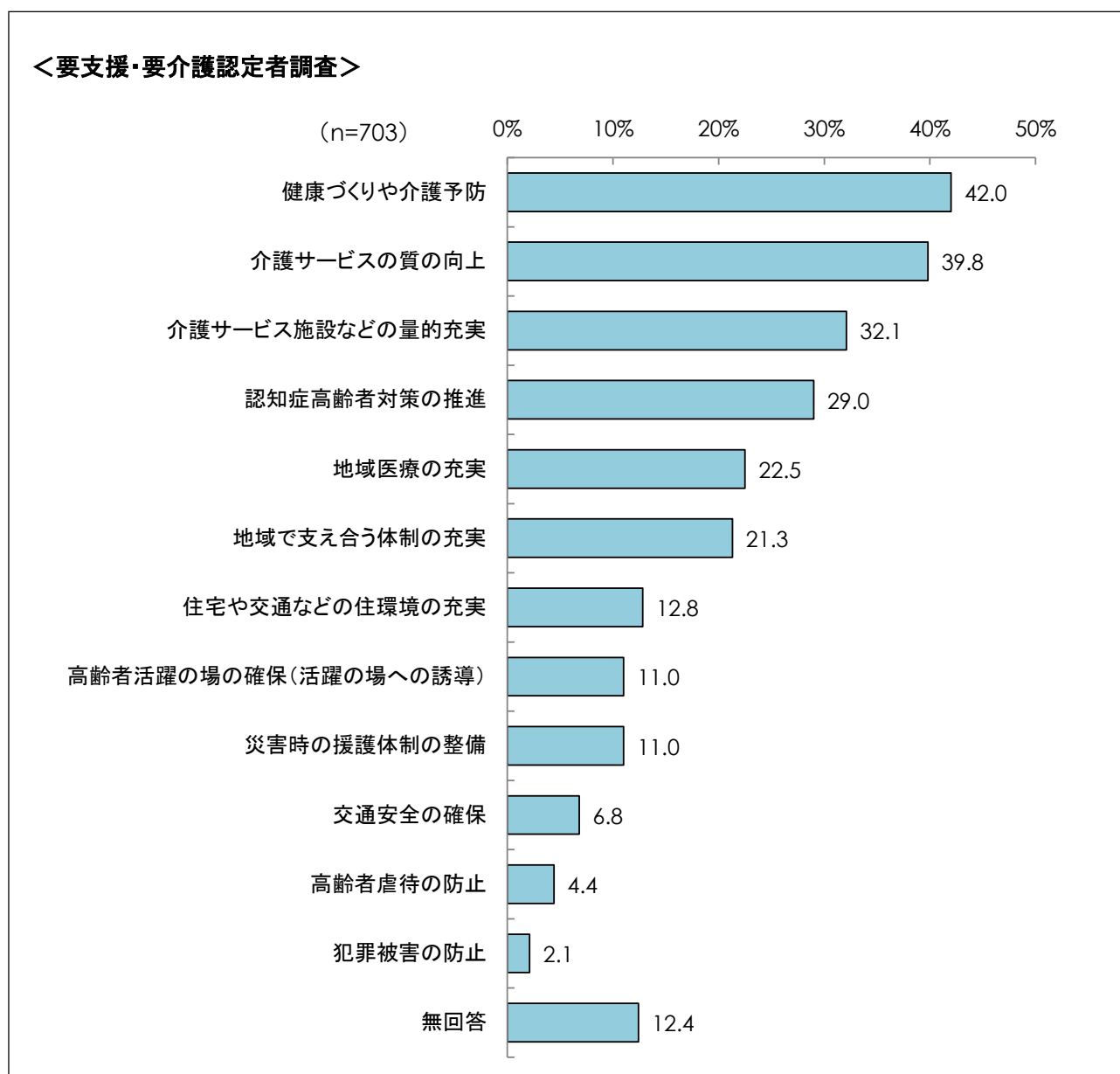
※「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」の回答者は無し (n=0)

#### (4) 高齢化社会において重要な方策

問8(11) 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

高齢化社会において、重要だと思ふ方策についてたずねたところ、「健康づくりや介護予防」が42.0%と最も多く、次いで「介護サービスの質の向上」(39.8%)、「介護サービス施設などの量的充実」(32.1%)、「認知症高齢者対策の推進」(29.0%)、「地域医療の充実」(22.5%)などとなっています。

図表 97 高齢化社会において重要な方策（全体／複数回答）



## (5) 介護サービス利用後の変化などについて

問8(12) これまでの要介護度と比べて、どのように変化していますか。

### 【全体の傾向】

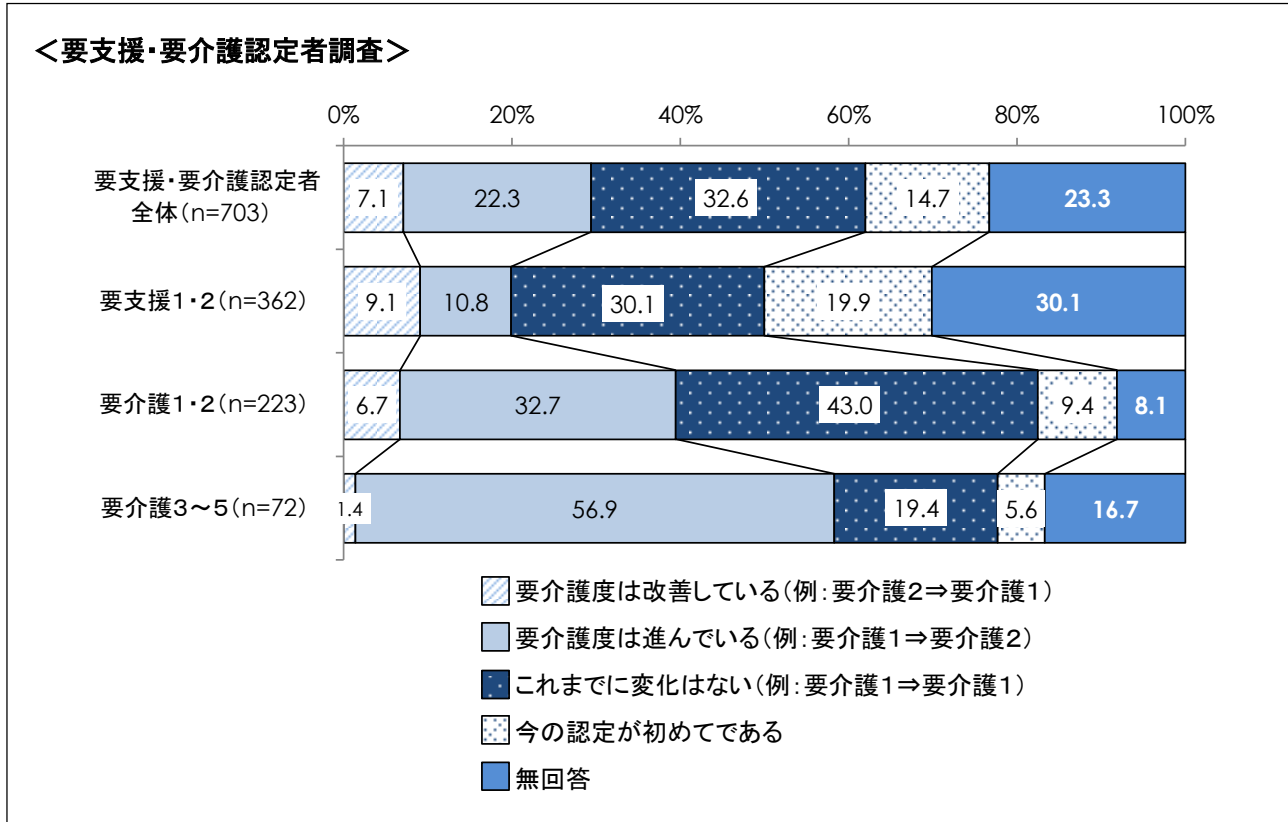
現在の要介護度の変化状況をたずねたところ、「これまでに変化はない(例:要介護1⇒要介護1)」が32.6%と最も高く、約3割を占めています。また「要介護度は進んでいる(例:要介護1⇒要介護2)」は22.3%と2割を超えていますが、「要介護度は改善している(例:要介護2⇒要介護1)」は7.1%と低くなっています。

### 【属性別の傾向】

認定状況別にみると、要支援1・2では「これまでに変化はない(例:要介護1⇒要介護1)」(30.1%)、「今の認定が初めてである」(19.9%)の割合が高く、要介護1・2では「これまでに変化はない(例:要介護1⇒要介護1)」(43.0%)、「要介護度は進んでいる(例:要介護1⇒要介護2)」(32.7%)が高くなっています。

一方、要介護3～5では「要介護度は進んでいる(例:要介護1⇒要介護2)」が56.9%と過半数を占めています。

図表 98 要介護度の変化について (全体, 認定状況別)

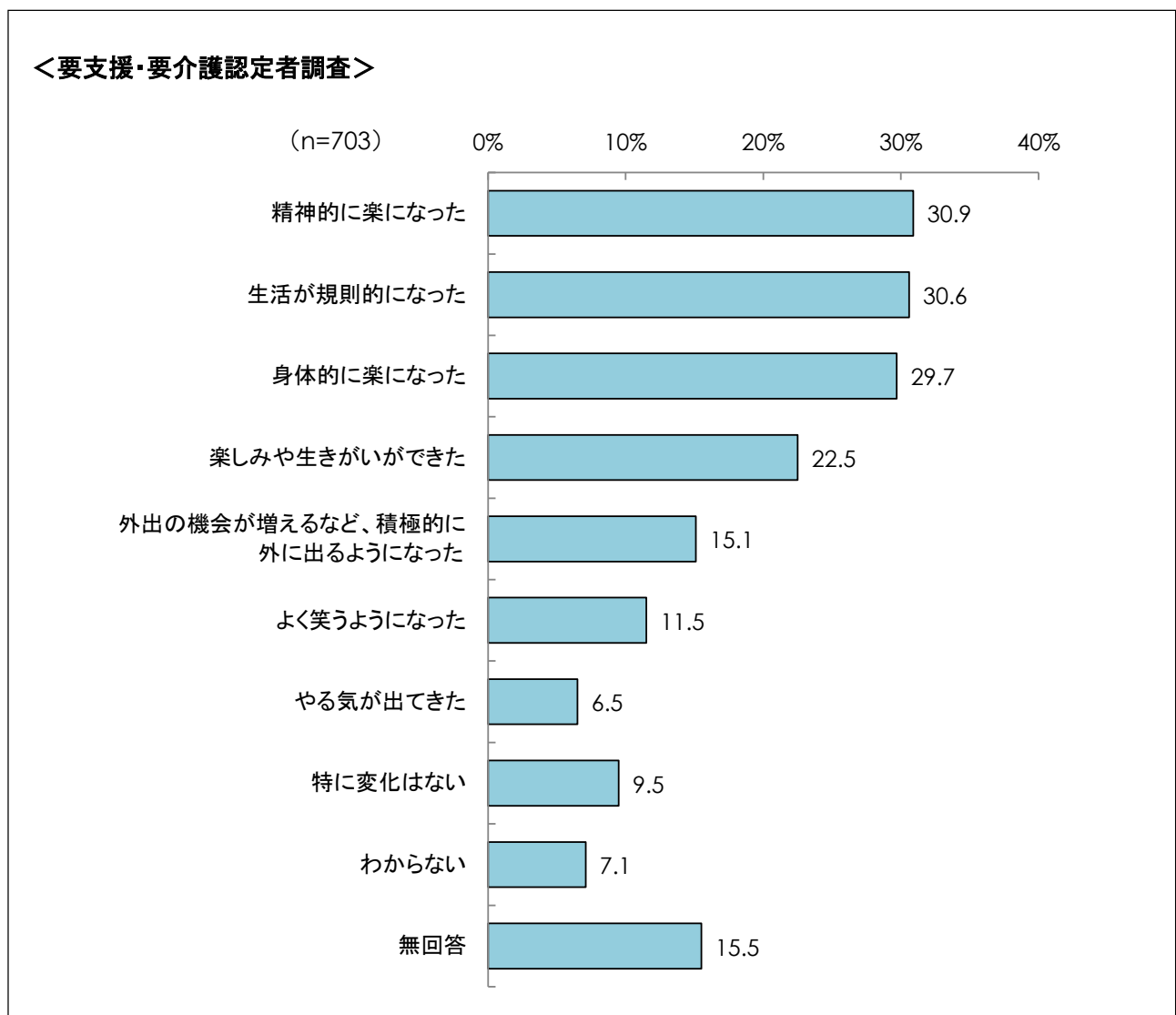


問8(13) 介護サービスを利用することにより、あなた自身にどのような変化がありましたか。  
次の中から3つまで選んでください。

介護サービスの利用後の自身の変化についてたずねたところ、「精神的に楽になった」が30.9%と最も多く、僅差で「生活が規則的になった」(30.6%)が続いています。さらに「身体的に楽になった」(29.7%)、「楽しみや生きがいがあった」(22.5%)、「外出の機会が増えるなど、積極的に外に出るようになった」(15.1%)の順となっています。

また、「特に変化はない」は9.5%、「わからない」は7.1%となっています。

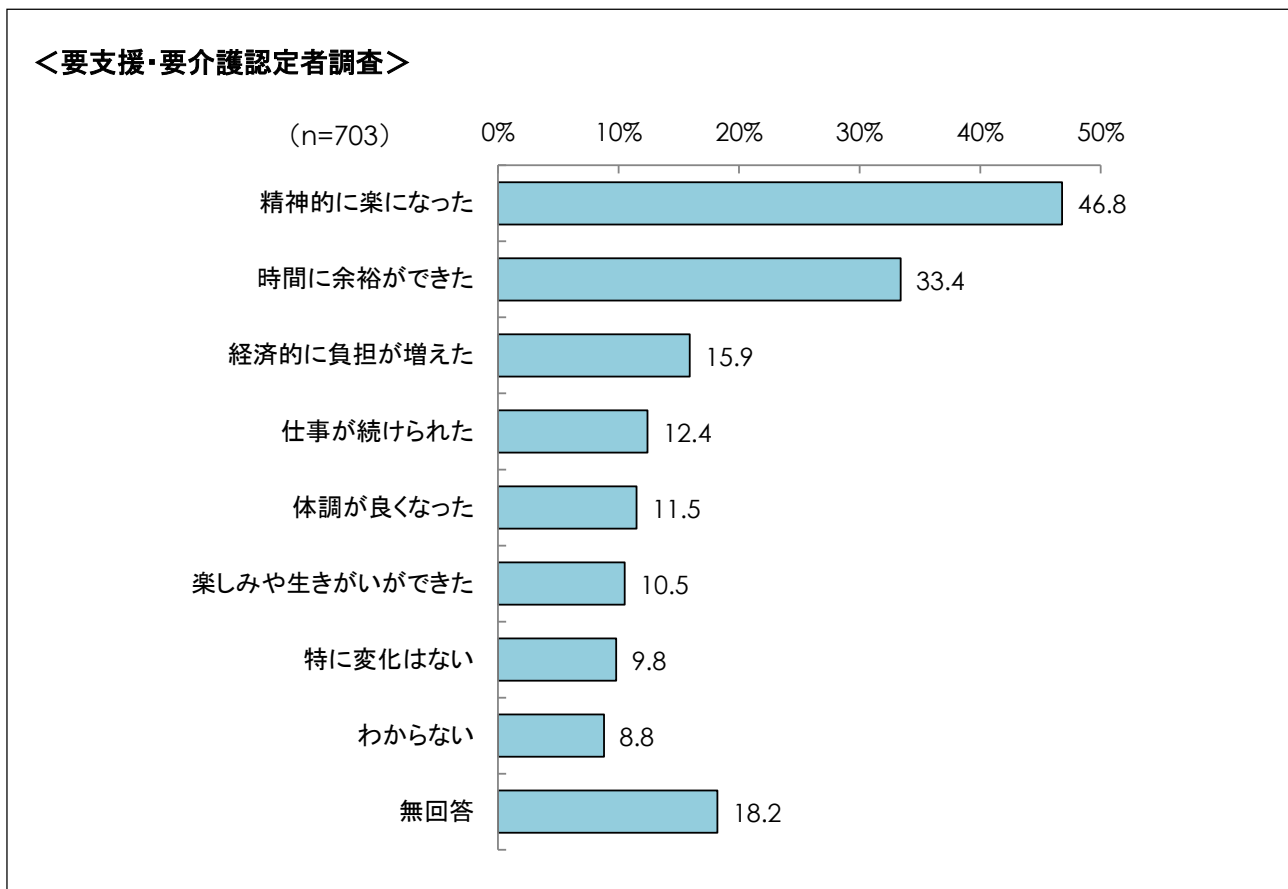
図表 99 介護サービス利用後の自身の変化について（全体／複数回答）



問8（14） 介護サービスを利用することにより、家族（介護者）にどのような変化がありましたか。次の中から3つまで選んでください。

介護サービスを利用後の家族（介護者）の変化についてたずねたところ、「精神的に楽になった」が46.8%と最も多く、次いで「時間に余裕ができた」（33.4%）、「経済的に負担が増えた」（15.9%）、「仕事が続けられた」（12.4%）、「体調が良くなった」（11.5%）などとなっており、概ね良い方向への変化がみられています。

図表 100 介護サービス利用後の家族や介護者の変化について（全体／複数回答）



## (6) 外出する際に困ること

問8 (15) 外出する際、困ることを3つまで選んでください。

### 【全体の傾向】

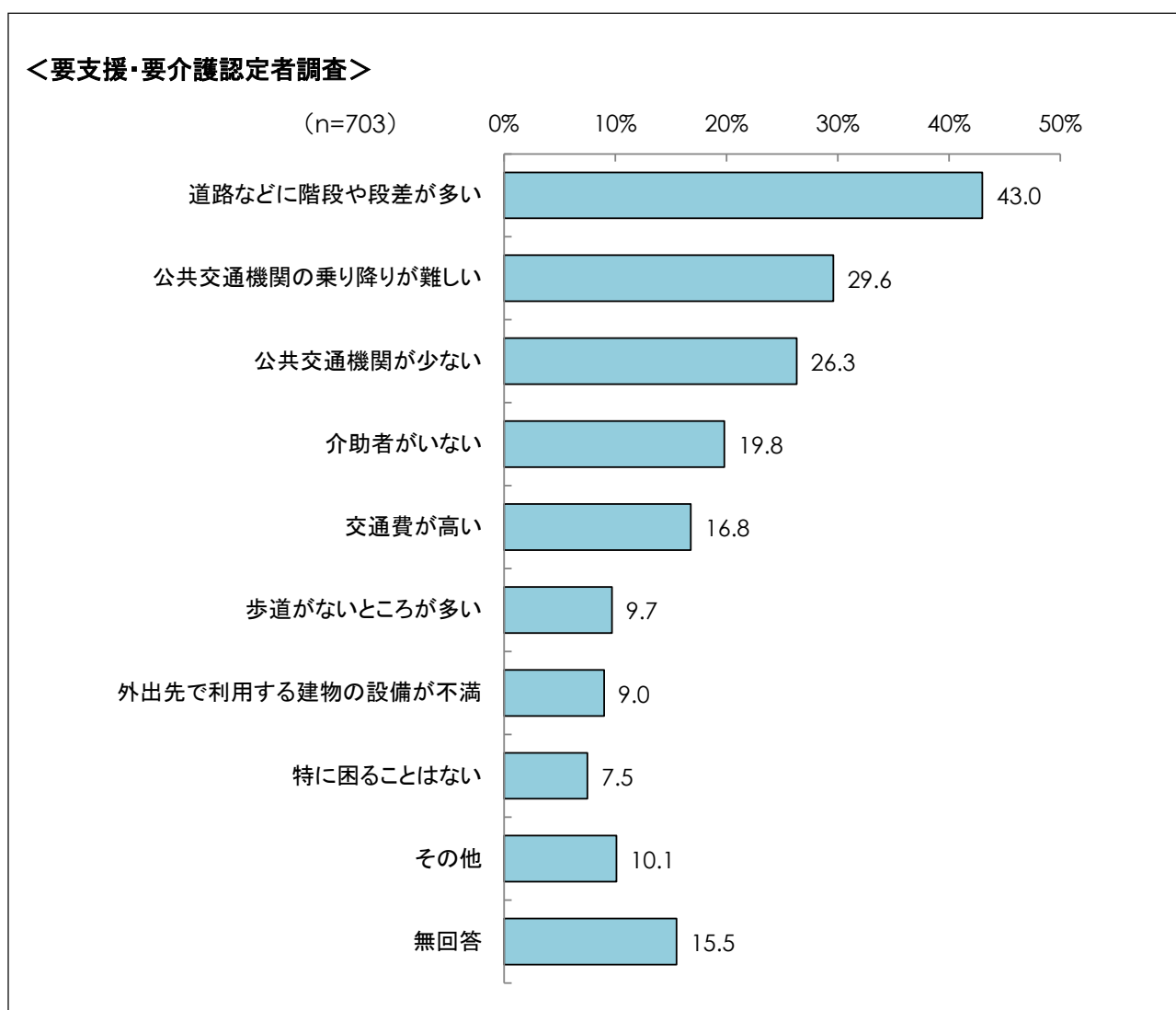
外出する際に困ることをたずねたところ、「道路などに階段や段差が多い」(43.0%)が最も多く、次いで「公共交通機関の乗り降りが難しい」(29.6%)、「公共交通機関が少ない」(26.3%)、「介助者がいない」(19.8%)、「交通費が高い」(16.8%)などとなっています。

### 【属性別の傾向】

日常生活圏域別にみると、C圏域においては「公共交通機関が少ない」が第1位となっており、その他の圏域においては「道路などに階段や段差が多い」が第1位となっています。

また、B圏域においては「介助者がいない」(20.4%)が第3位となっています。

図表 101 外出する際に困ること (全体/複数回答)



図表 102 外出する際に困ること（日常生活圏域別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体 (n=703)		道路などに階段や段差が多い 43.0	公共交通機関の乗り降りが難しい 29.6	公共交通機関が少ない 26.3
日常生活圏域別	A圏域 (n=189)	道路などに階段や段差が多い 46.0	公共交通機関の乗り降りが難しい 34.9	公共交通機関が少ない 22.2
		B圏域 (n=108)	道路などに階段や段差が多い 50.9	公共交通機関の乗り降りが難しい 25.9
	C圏域 (n=143)	公共交通機関が少ない 34.3	道路などに階段や段差が多い 31.5	公共交通機関の乗り降りが難しい 28.0
		D圏域 (n=117)	道路などに階段や段差が多い 44.4	公共交通機関の乗り降りが難しい 27.4
	E圏域 (n=118)	道路などに階段や段差が多い 44.1	公共交通機関が少ない 34.7	公共交通機関の乗り降りが難しい 29.7

## ・判定方法

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
機能低下の 運動器	問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
	問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」
	問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」or 「2. やや不安である」
リスク 転倒	問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」or 「2. 1度ある」
閉じこ り傾向	問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」or 「2. 週1回」
状態 栄養	問3(1)	身長、体重	BMI<18.5
	問3(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
口腔 機能 低下	問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
	問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
	問3(4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
認知 機能 低下	問4(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ 傾向	問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

■判定方法……該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

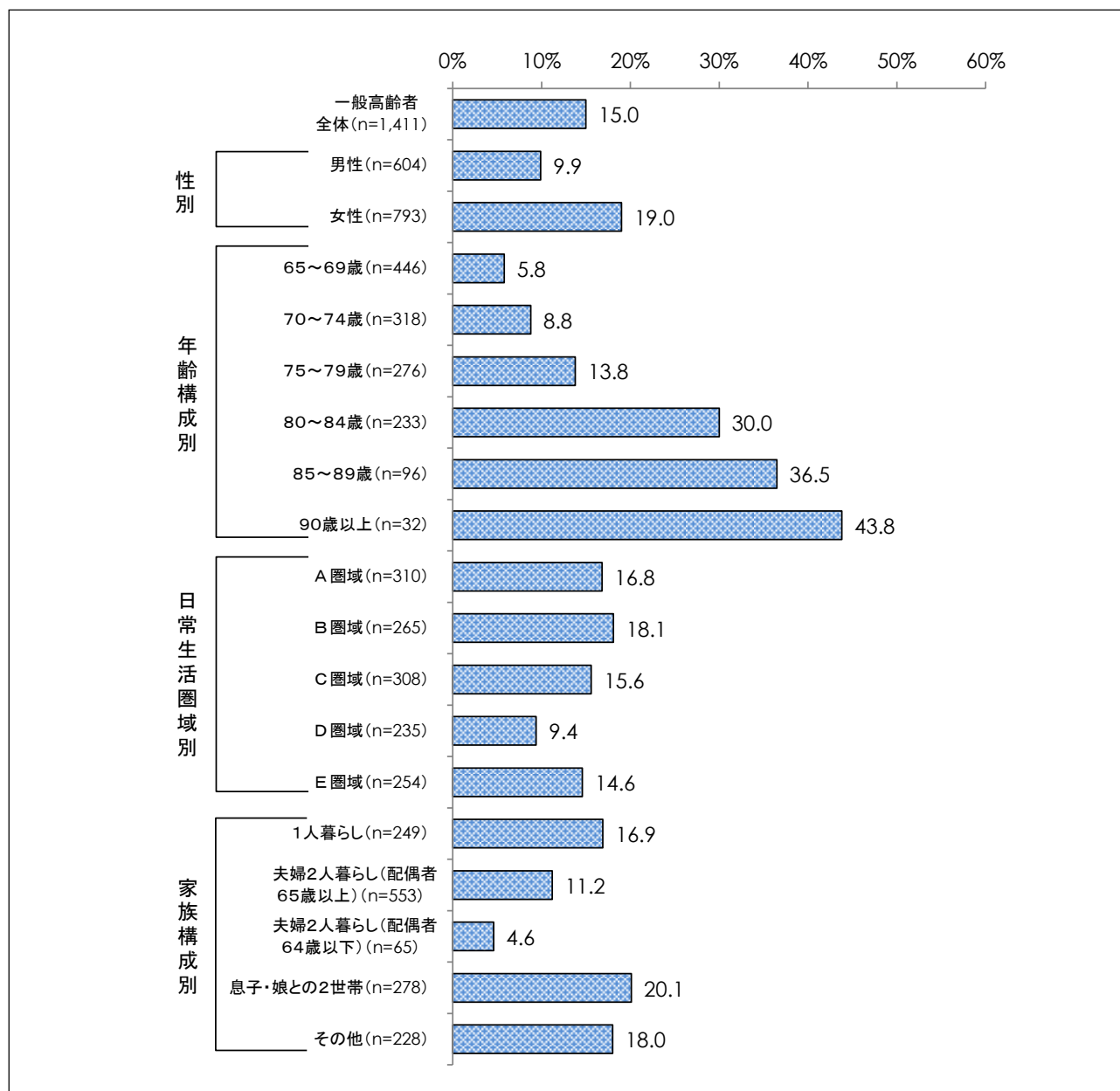
- ①運動器の機能低下…該当: 3点以上
- ②転倒リスク…リスクあり: 該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向…リスクあり: 該当選択肢を回答した場合
- ④低栄養状態…該当: 2点
- ⑤口腔機能低下…該当: 2点以上
- ⑥認知機能の低下…該当: 該当選択肢を回答した場合
- ⑦うつ傾向…リスクあり: 1点以上



## (1) 運動器の機能低下

- 運動器の機能低下のリスク該当者の割合は、全体では 15.0%となっています。
- 性別にみると、女性（19.0%）が男性（9.9%）を 9.1 ポイント上回っています。
- 年齢構成別にみると、65～69歳では 5.8%，70～74歳では 8.8%と 1 割未満ですが、年齢が上がるにつれ該当者の割合が増加しており、90歳以上では 43.8%と 4 割を超えています。
- 日常生活圏域別にみると、B圏域で 18.1%と最も高く、D圏域で 9.4%と最も低くなっています。
- 家族構成別にみると、息子・娘との 2 世帯で 20.1%と最も高く、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64歳以下）で 4.6%と最も低くなっています。

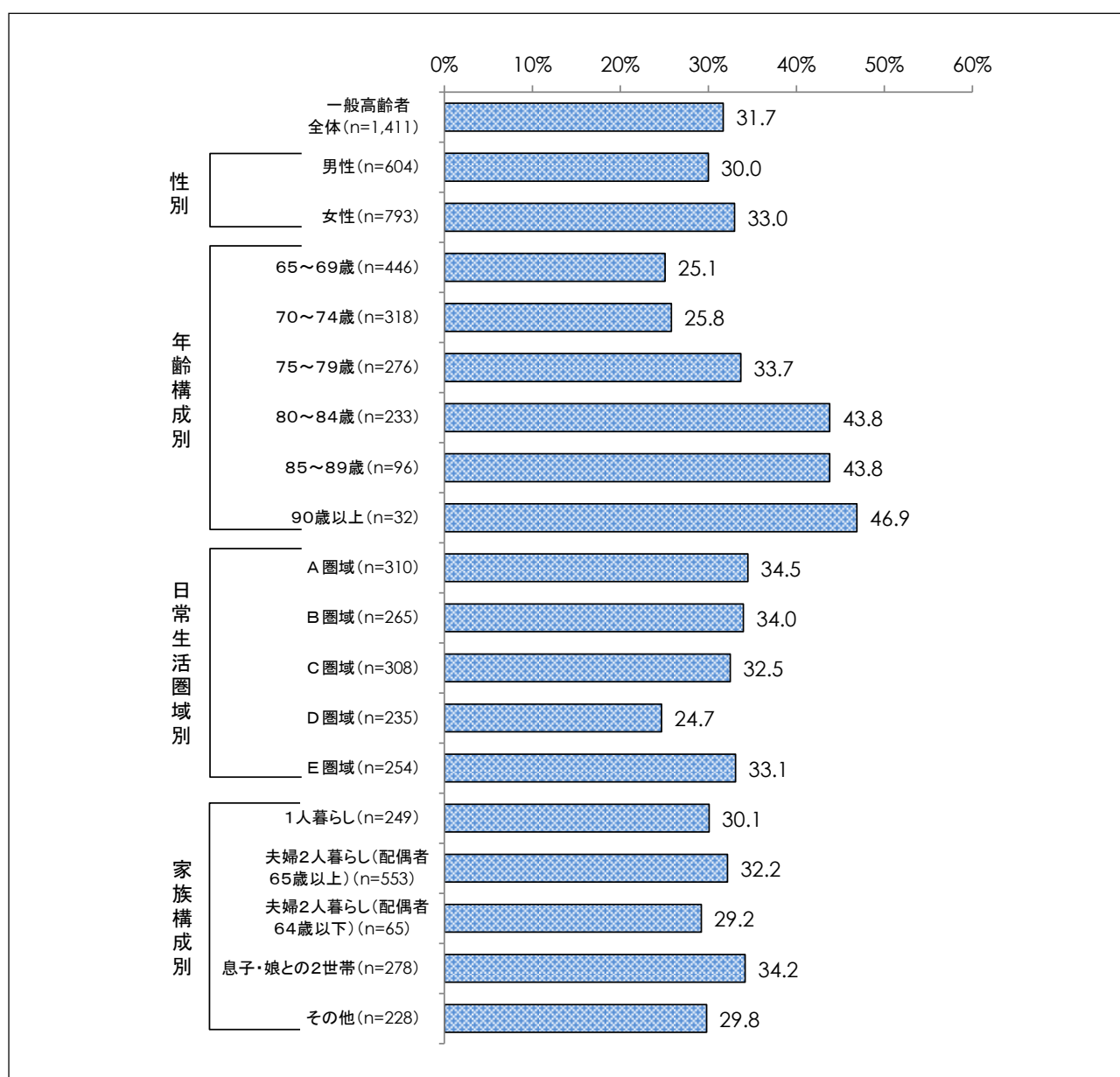
図表 103 運動器の機能低下のリスク該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別)



## (2) 転倒リスク

- ・転倒のリスク該当者の割合は、全体では31.7%と3割を超えています。
- ・性別にみると、女性が33.0%、男性が30.0%となっており、大差はみられません。
- ・年齢構成別にみると、65～69歳で25.1%、90歳以上では46.9%となっており、年齢が上がるにつれ該当者の割合が増加しています。
- ・日常生活圏域別にみると、A圏域で34.5%と最も高く、D圏域で24.7%と最も低くなっています。
- ・家族構成別にみると、息子・娘との2世帯で34.2%と最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で29.2%と最も低くなっています。

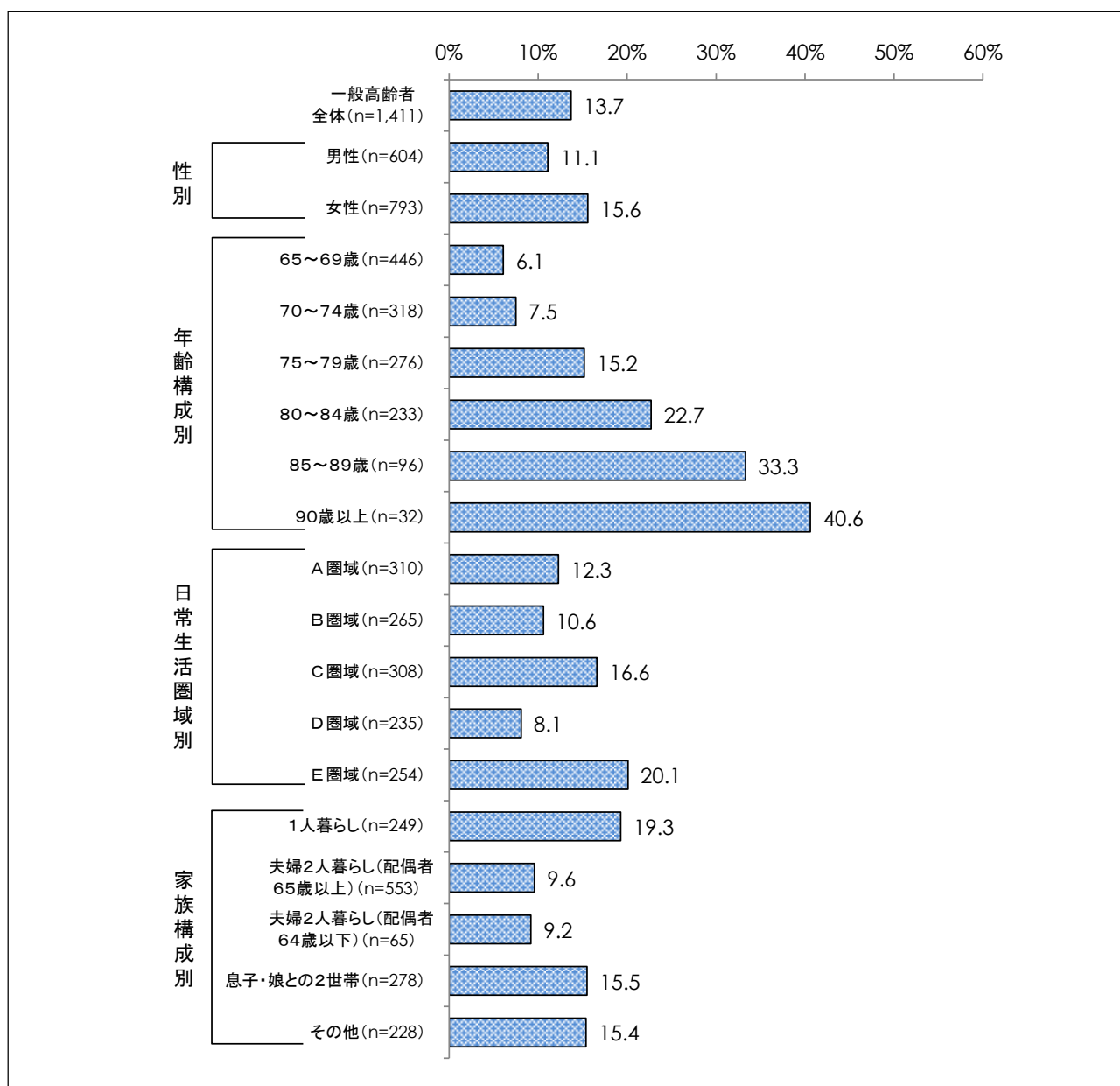
図表 104 転倒リスクの該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別)



### (3) 閉じこもり傾向

- ・閉じこもり傾向のリスク該当者の割合は、全体では 13.7%となっています。
- ・性別にみると、女性（15.6%）が男性（11.1%）を 4.5 ポイント上回っています。
- ・年齢構成別にみると、65～69歳（6.1%）、70～74歳（7.5%）では1割未満ですが、年齢が上がるにつれ該当者の割合は高くなっており、90歳以上では 40.6%と4割以上の人が閉じこもり傾向にあります。
- ・日常生活圏域別にみると、E圏域で 20.1%と最も高く、D圏域で 8.1%と最も低くなっています。
- ・家族構成別にみると、1人暮らしで 19.3%と最も高く、他の家族構成に比べて、閉じこもり傾向にある人がやや多くなっています。

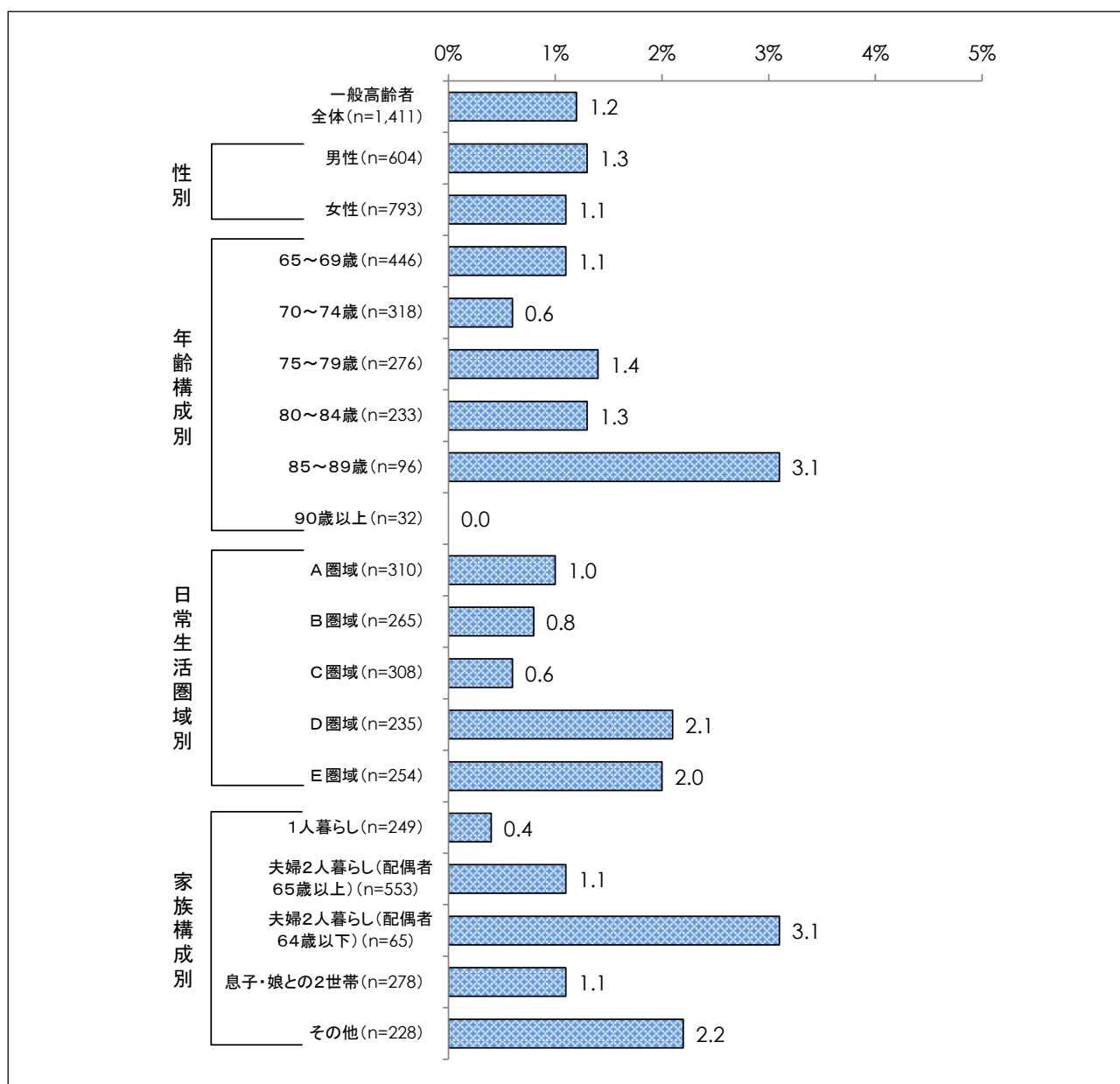
図表 105 閉じこもり傾向のリスク該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別)



#### (4) 低栄養の傾向

- 低栄養のリスク該当者の割合は、全体では 1.2%とかなり低い割合となっています。
- 性別にみると、男性では 1.3%、女性では 1.1%とともに低くなっています。
- 年齢構成別にみると、85～89歳で 3.1%と最も高く、その割合は突出しています。
- 日常生活圏域別にみると、C圏域で 0.6%と最も低くなっています。一方、D圏域は 2.1%、E圏域は 2.0%と他の圏域に比べて高くなっています。
- 家族構成別にみると、1人暮らしで 0.4%と最も低く、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では 3.1%と最も高くなっています。

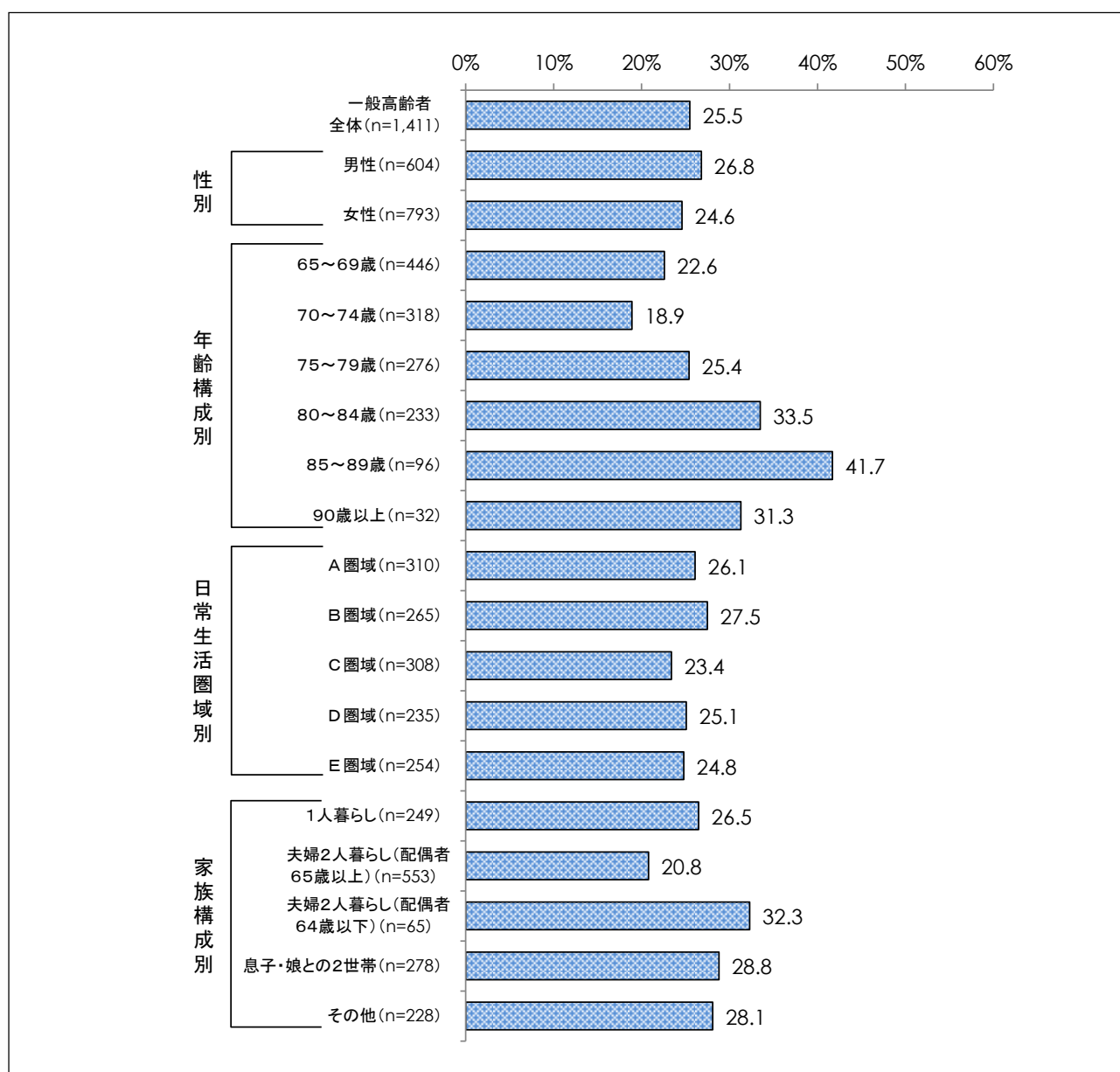
図表 106 低栄養の傾向のリスク該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別)



## (5) 口腔機能の低下

- 口腔機能の低下のリスク該当者の割合は、全体では 25.5%となっています。
- 性別にみると、男性は 26.8%、女性は 24.6%となっており、大差はみられません。
- 年齢構成別にみると、85～89歳では 41.7%と最も高く、4割を超えています。
- 日常生活圏域別にみると、すべての圏域において2割以上となっています。
- 家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では 32.3%と3割を超えており、他の家族構成に比べてやや割合が高くなっています。

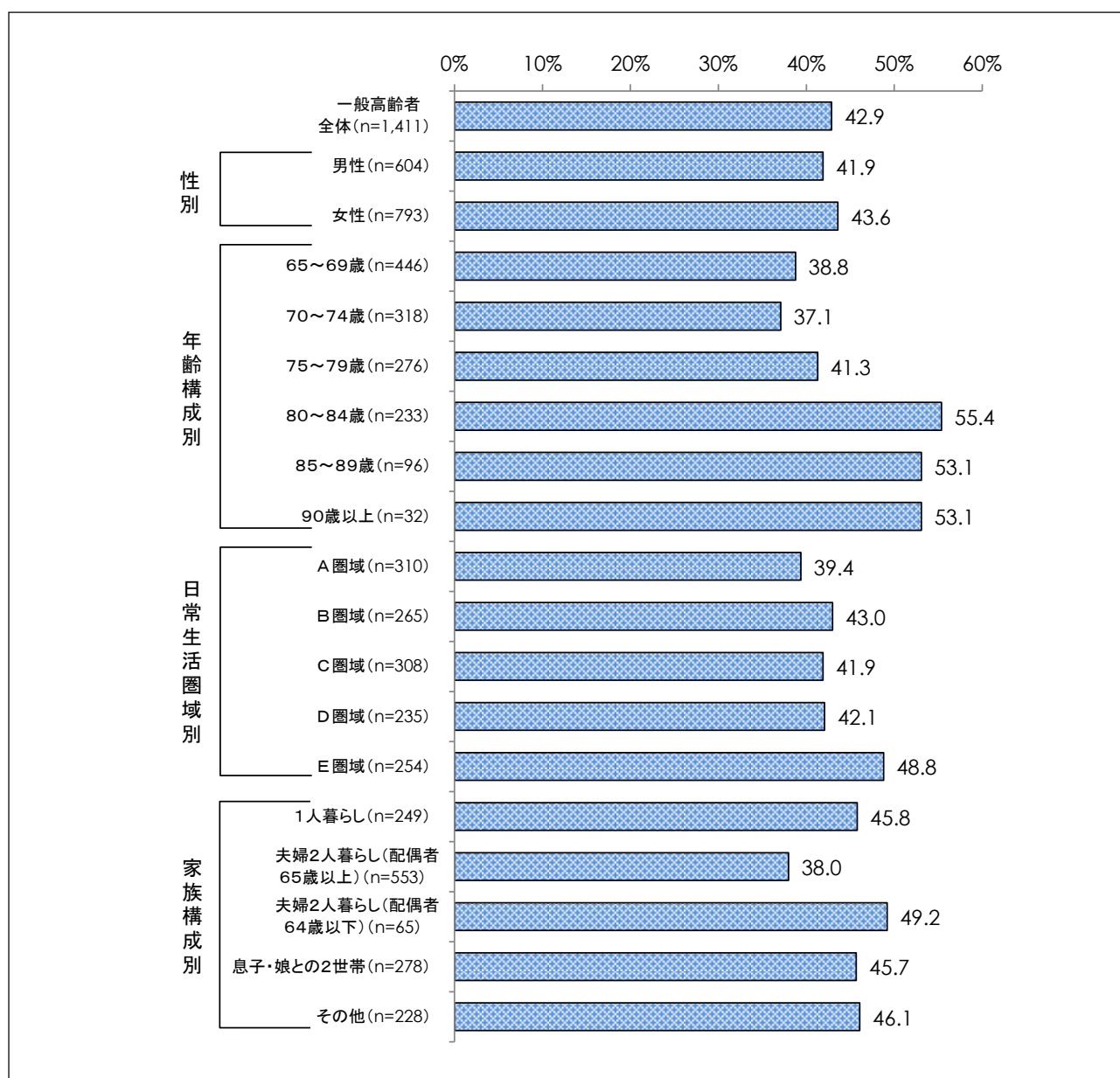
図表 107 口腔機能の低下のリスク該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別)



## (6) 認知機能の低下

- 認知機能の低下のリスク該当者の割合は、全体では42.9%とやや高め傾向にあります。
- 性別にみると、男性では41.9%、女性でも43.6%と4割を超えています。
- 年齢構成別にみると、80歳以上の年齢層では5割を超えています。
- 日常生活圏域別にみると、E圏域で48.8%と最も高く、約5割を占めています。
- 家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で49.2%と最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で38.0%と最も低くなっています。

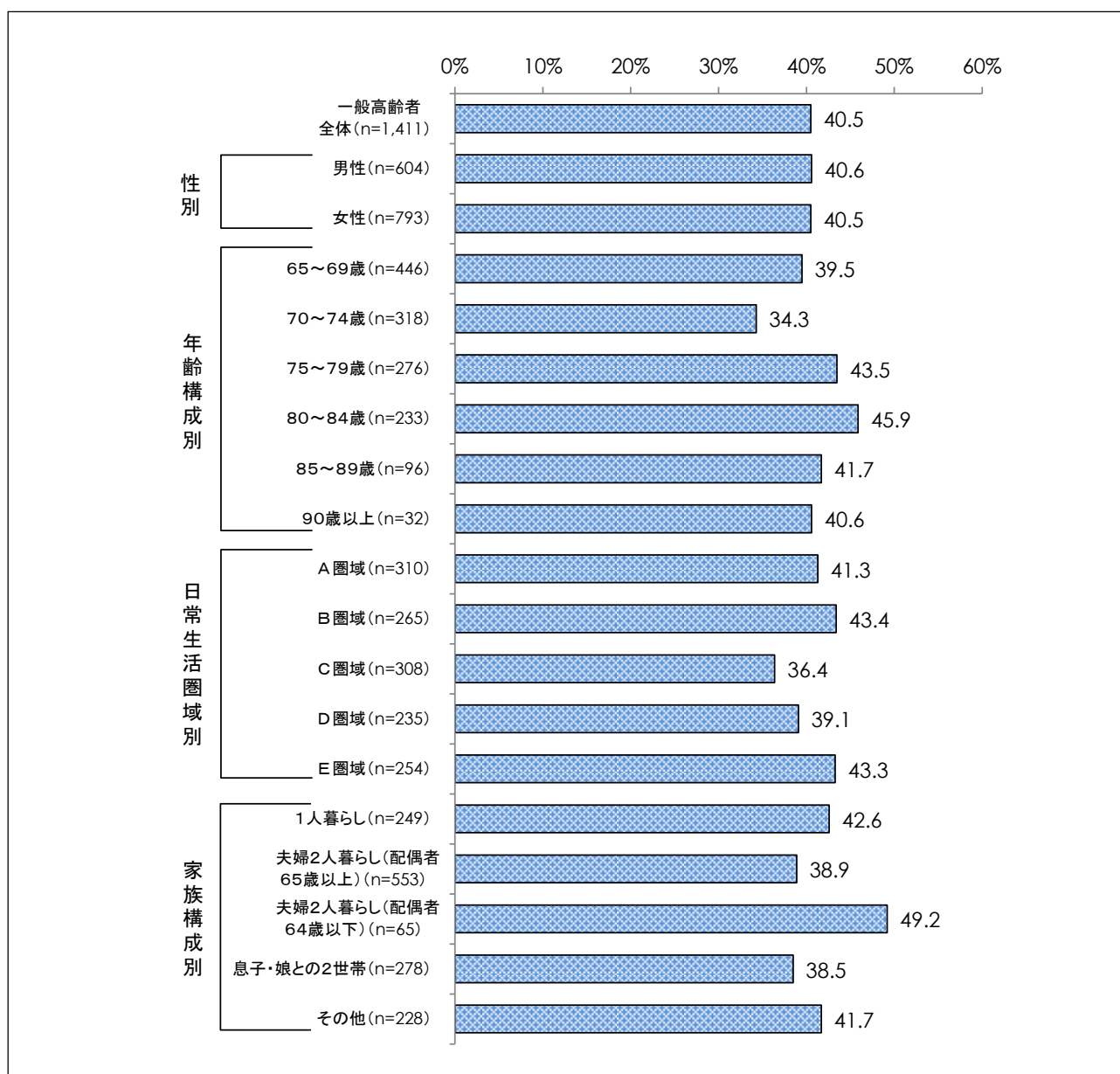
図表 108 認知機能の低下のリスク該当者の割合  
(全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別)



## (7) うつ傾向

- うつ傾向のリスク該当者の割合は、全体では 40.5%と 4 割を超えています。
- 性別にみると、男性が 40.6%，女性が 40.5%とともに 4 割を超えています。
- 年齢構成別にみると、80～84 歳で 45.9%と最も高く、70～74 歳で 34.3%と最も低くなっています。
- 日常生活圏域別にみると、C 圏域（36.4%），D 圏域（39.1%）では 4 割を下回っていますが，A 圏域，B 圏域，E 圏域では 4 割を超えており，やや高めの傾向となっています。
- 家族構成別にみると，夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）が 49.2%と最も高くなっています。

図表 109 うつ傾向のリスク該当者の割合  
（全体，性別，年齢構成別，日常生活圏域別，家族構成別）



・判定方法（老研式活動能力指標）

①IADL(老研指標)

設問		選択肢
問4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「1. できるし、している」 or 「2. できるけどしていない」 1点
問4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4(6)	自分で食事の用意をしていますか	
問4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

- 5点: 高い  
○4点: やや低い  
○0~3点: 低い

②社会参加

・知的能動性(老研指標)

設問		選択肢
問4(9)	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」:1点
問4(10)	新聞を読んでいますか	
問4(11)	本や雑誌を読んでいますか	
問4(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	

- 4点: 高い  
○3点: やや低い  
○0~2点: 低い

・社会的役割(老研指標)

設問		選択肢
問4(13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」:1点
問4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	
問4(15)	病人を見舞うことができますか	
問4(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	

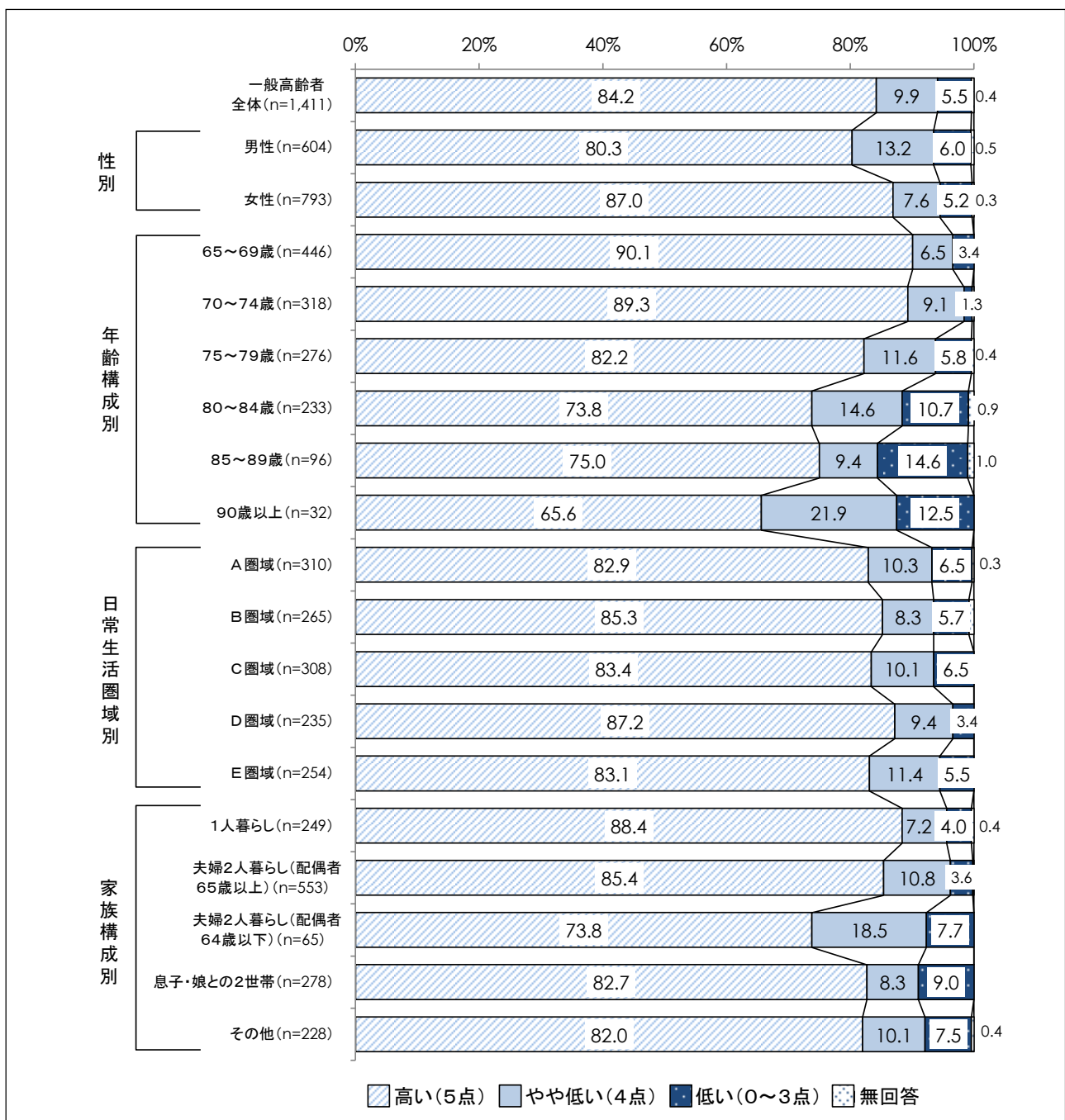
- 4点: 高い  
○3点: やや低い  
○0~2点: 低い



## (8) IADL—手段的日常生活動作

- ・ IADLのスコアについては、全体では「高い(5点)」が84.2%となっています。
- ・ 性別にみると「高い(5点)」の割合は女性(87.0%)が男性(80.3%)を6.7ポイント上回っています。
- ・ 年齢構成別にみると、90歳以上では「やや低い(4点)」が21.9%と他の年齢に比べて高く、「低い(0~3点)」と合わせると、34.4%と3割を超えています。
- ・ 日常生活圏域別にみると、E圏域で「やや低い(4点)」(11.4%)が他の圏域よりもやや高くなっています。
- ・ 家族構成別にみると、「高い(5点)」の割合は、一人暮らしが88.4%と最も高くなっています。

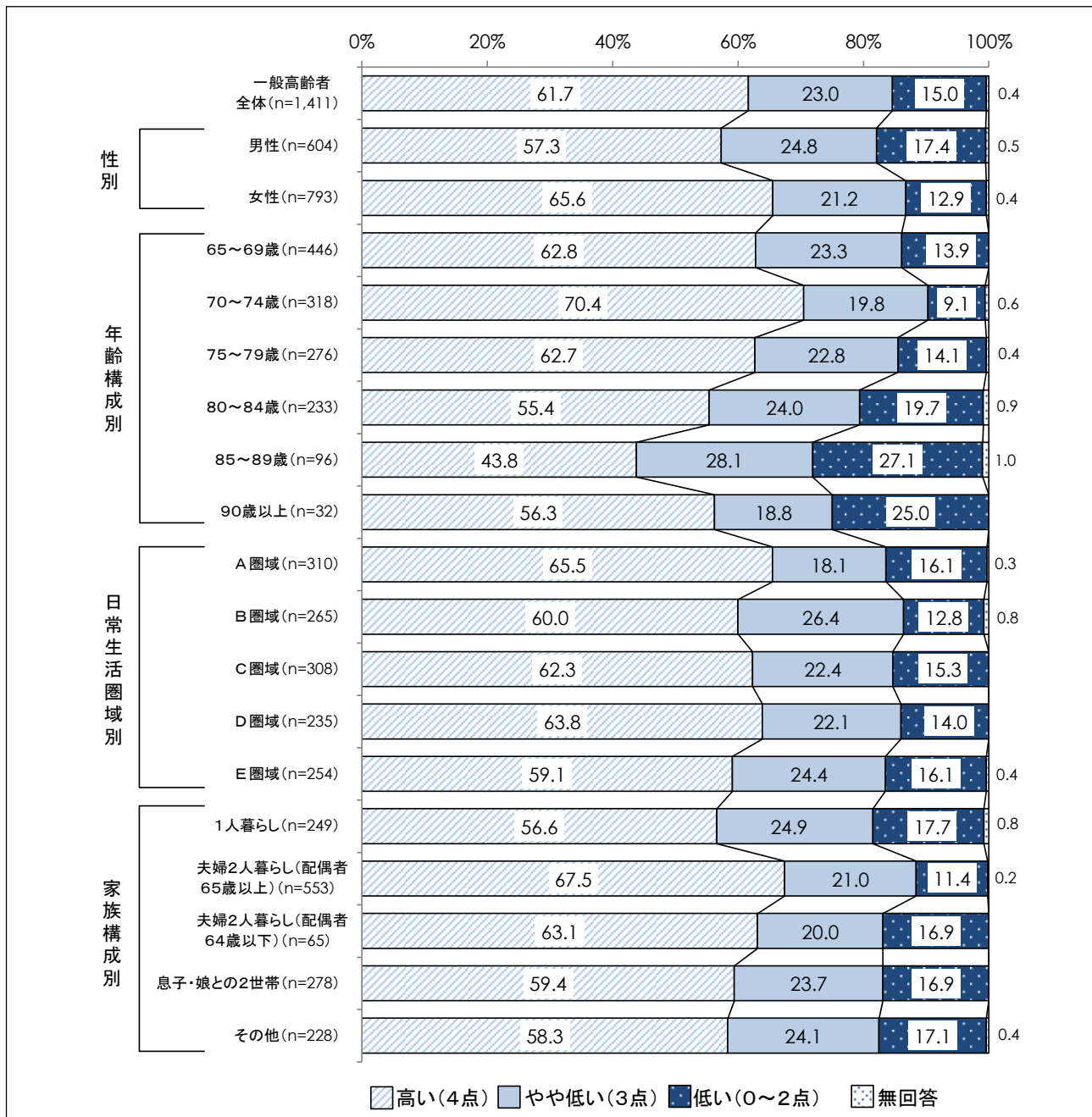
図表 110 IADL (全体, 性別, 年齢構成別, 日常生活圏域別, 家族構成別)



## (9) 社会参加—知的能動性

- ・知的能動性のスコアについては、全体では「高い(4点)」が61.7%となっています。
- ・性別にみると、「高い(4点)」の割合は、女性(65.6%)が男性(57.3%)を8.3ポイント上回っています。
- ・年齢構成別にみると、「高い(4点)」の割合は、70~74歳で70.4%と最も高く、85~89歳で43.8%と最も低くなっています。
- ・日常生活圏域別にみると、「高い(4点)」の割合は、A圏域で65.5%と最も高くなっています。
- ・家族構成別にみると、「高い(4点)」の割合は、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)で67.5%と最も高く、1人暮らしで56.6%と最も低くなっています。

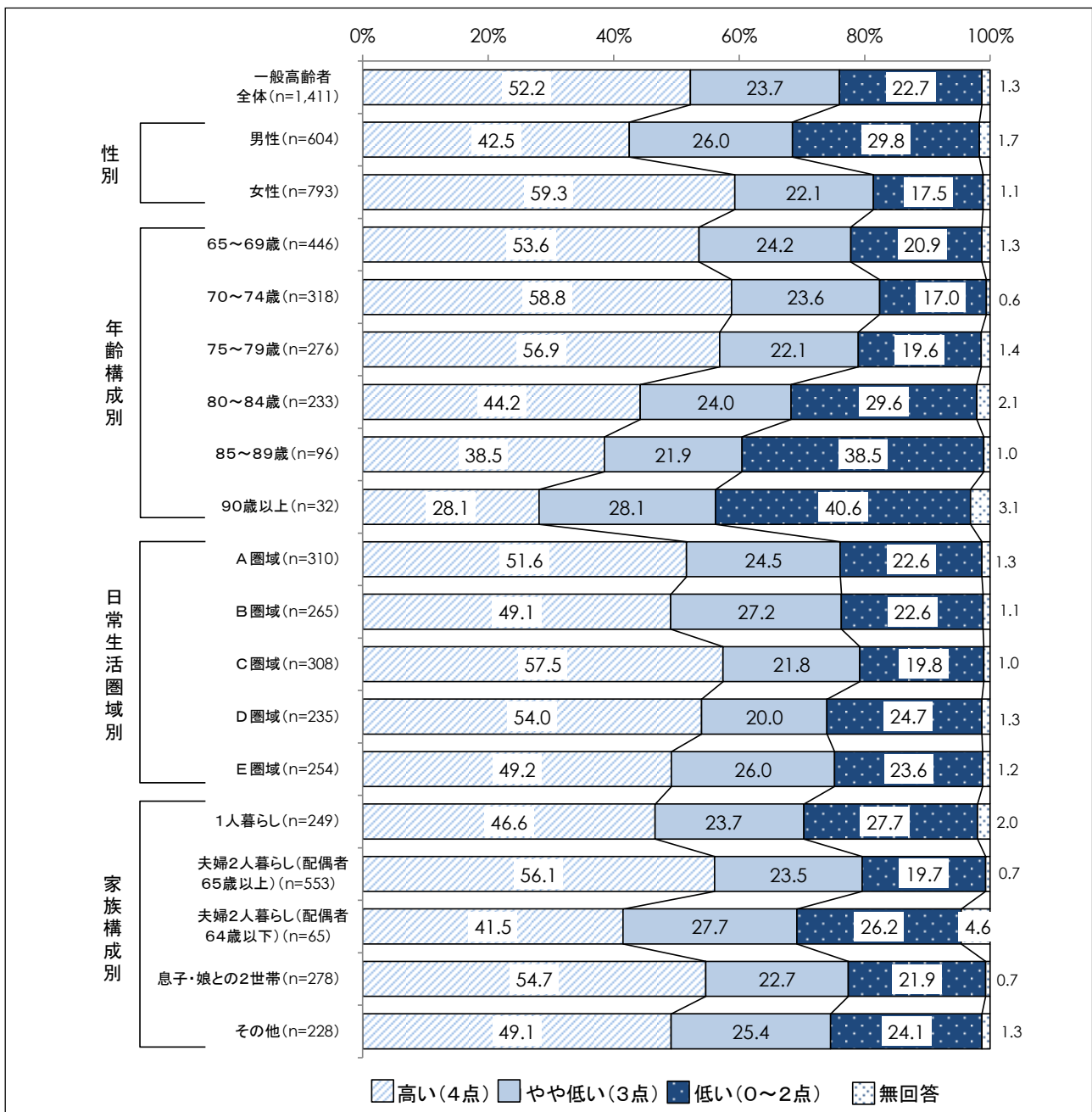
図表 111 社会参加—知的能動性(全体, 性別, 年齢構成別, 日常生活圏域別, 家族構成別)



## (10) 社会参加—社会的役割

- 社会的役割のスコアについては、全体では「高い（4点）」が52.2%となっています。
- 性別にみると、女性（59.3%）が男性（42.5%）を16.8ポイント大きく上回っています。
- 年齢構成別にみると、「高い（4点）」の割合は、70～74歳で58.8%と最も高く、90歳以上で28.1%と最も低くなっています。
- 日常生活圏域別にみると、「高い（4点）」の割合は、C圏域で57.5%と最も高くなっています。
- 家族構成別にみると、1人暮らしで「低い（0～2点）」の割合が27.7%と他の家族構成に比べて高くなっています。

図表 112 社会参加—社会的役割（全体、性別、年齢構成別、日常生活圏域別、家族構成別）



## ●判定方法

## ＜ステップ1＞

問4(20)

その日の活動(食事をする, 衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか  
 「1. 困難なくできる」  
 「2. いくらか困難であるが, できる」  
 「3. 判断するときに, 他人からの合図や見守りが必要」

「4. ほとんど判断できない」の場合,  
ステップ4へ

「1～3」の回答の場合, ステップ2へ

## ＜ステップ2＞

問4(19)

5分前のことが思い出せますか  
 「2. いいえ」

問4(20)

その日の活動(食事をする, 衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか  
 「2. いくらか困難であるが, できる」  
 「3. 判断するときに, 他人からの合図や見守りが必要」

問4(21)

人に自分の考えをうまく伝えられますか  
 「2. いくらか困難であるが, 伝えられる」  
 「3. あまり伝えられない」  
 「4. ほとんど伝えられない」

該当なし

0レベル  
障害なし

1項目該当

1レベル  
境界的

2項目以上該当の場合, ステップ3へ

## ＜ステップ3＞

問4(20)

その日の活動(食事をする, 衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか  
 「3. 判断するときに, 他人からの合図や見守りが必要」

問4(21)

人に自分の考えをうまく伝えられますか  
 「3. あまり伝えられない」  
 「4. ほとんど伝えられない」

該当なし

2レベル  
軽度の障害

1項目該当

3レベル  
中等度の障害

2項目該当

4レベル  
やや重度の障害

## ＜ステップ4＞

問3(9)

食事は自分で食べられますか  
 「1. できる」  
 「2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる」  
 「3. できない」

選択肢「1, 2」

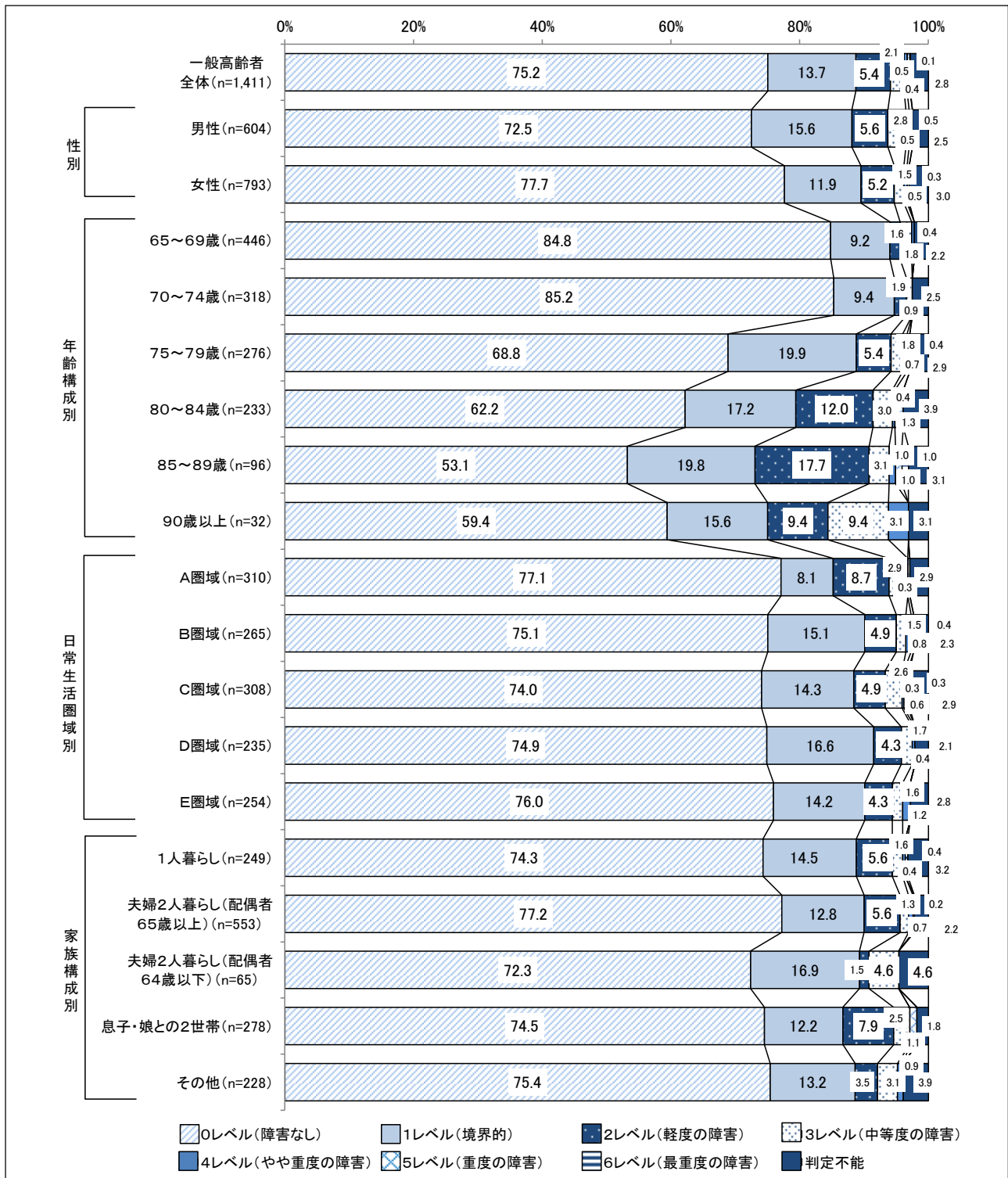
5レベル  
重度の障害

選択肢「3」

6レベル  
最重度の障害

- 全体では75.2%が「0レベル（障害なし）」となっています。
- 性別にみると、「0レベル（障害なし）」は女性が5.2ポイント高く、なっています
- 年齢構成別にみると、年齢が上がるにつれて「0レベル（障害なし）」の割合がやや減少傾向にあります。75歳以上では、「1レベル（境界的）」、「2レベル（軽度の障害）」を合わせた割合が、全体の約2割から3割を占めています。

図表 113 認知機能障害程度  
(全体, 性別, 年齢構成別, 日常生活圏域別, 家族構成別)



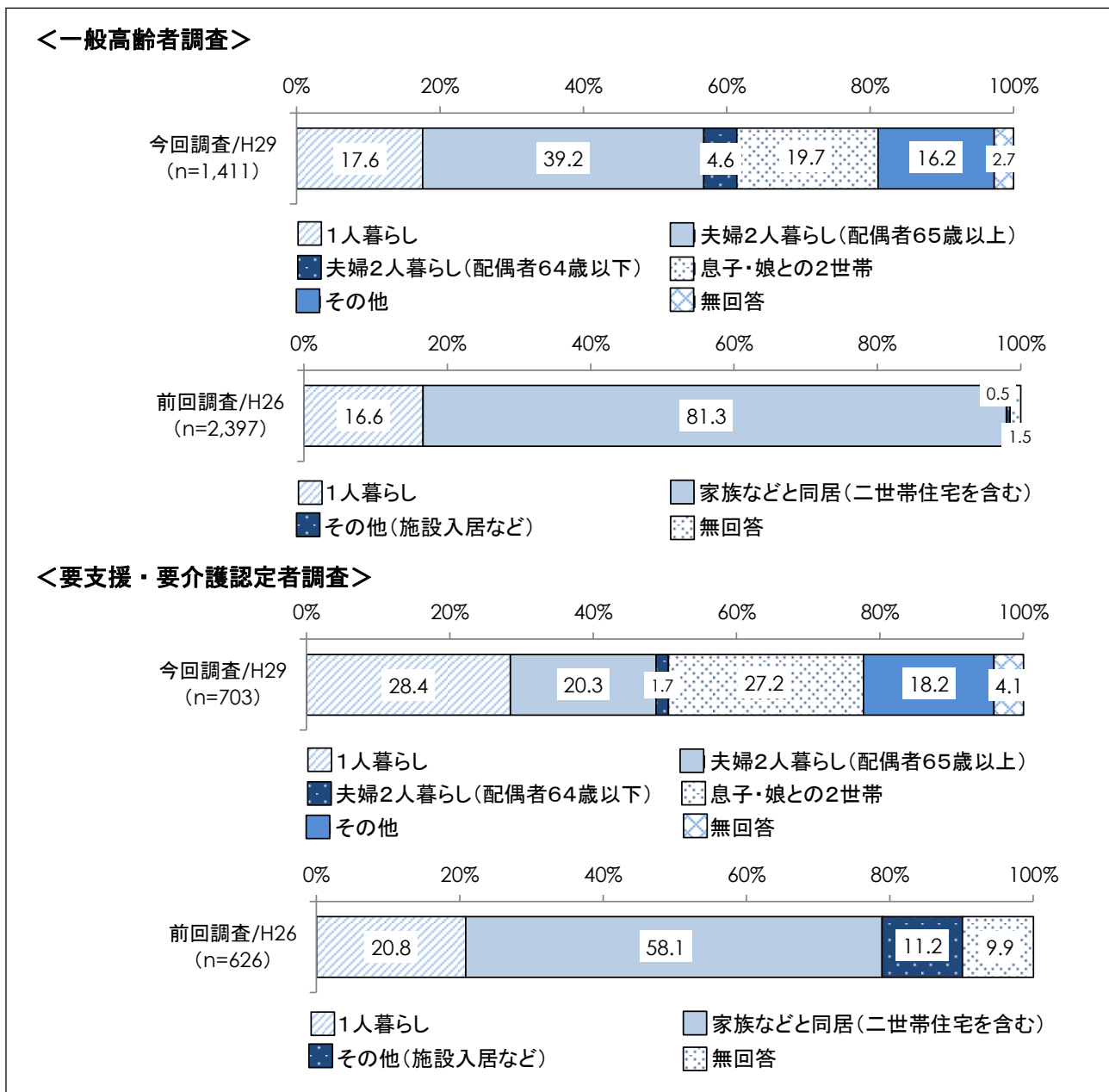
## IV 前回調査との比較

### 1 家族や生活状況について

問1 (2) 家族構成をお教えてください。

家族構成について前回調査と比較すると、一般高齢者では「夫婦2人暮らし」、「息子・娘との2世帯」など、『家族など同居』の割合が17.8ポイント減少しています。また、要支援・要介護認定者では、「一人暮らし」が7.6ポイント増加し、『家族など同居』の割合が8.9ポイント減少しています。

図表 114 家族構成について（前回との比較）

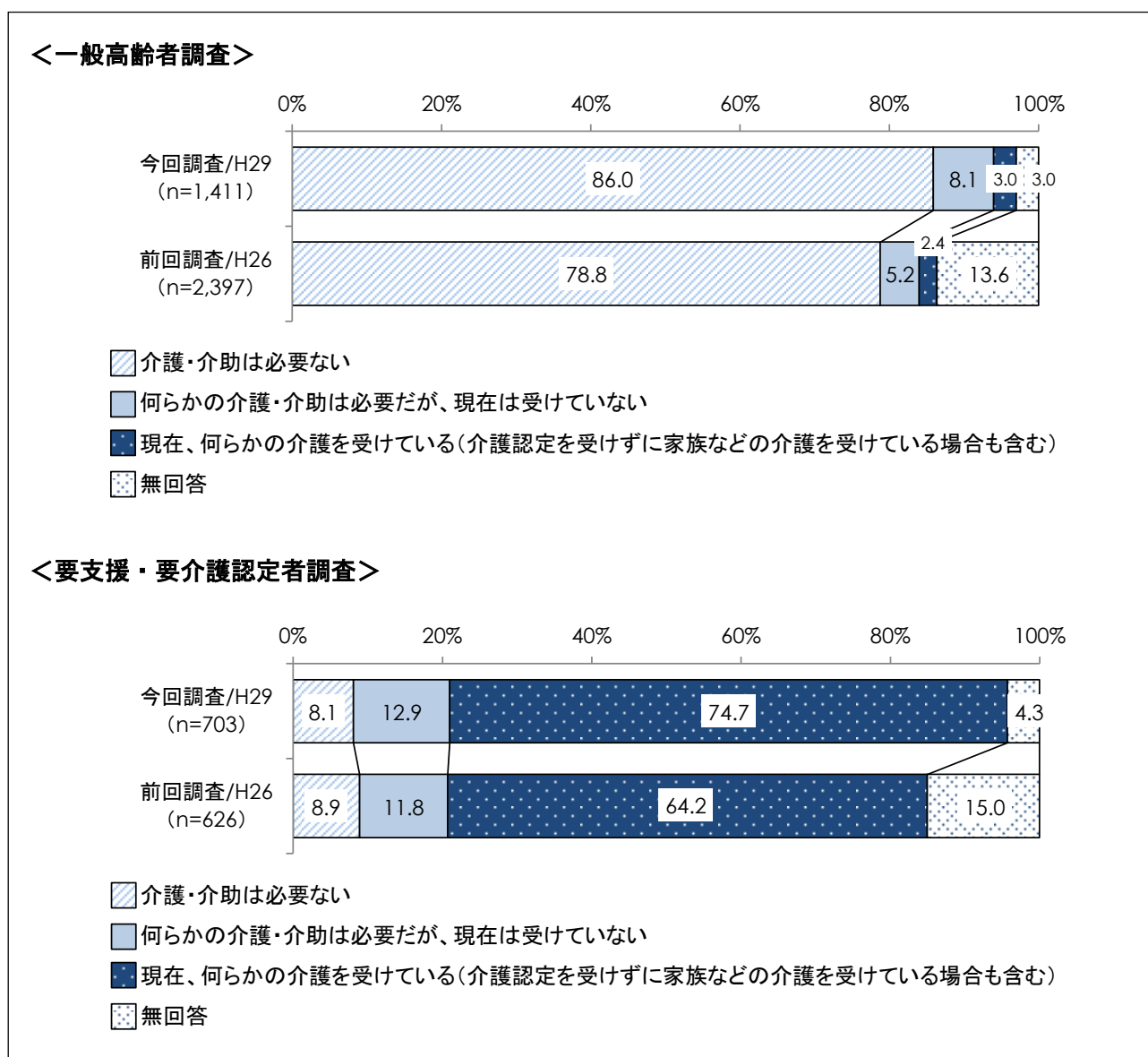


問1 (3) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

介護、介助の必要性を前回調査と比較すると、一般高齢者については「介護・介助は必要ない」(86.0%)が前回(78.8%)より7.2ポイント増加しています。

要支援・要介護認定者については「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」(74.7%)が前回(64.2%)より10.5ポイントの増加となっています。

図表 115 介護・介助の必要性 (前回との比較)



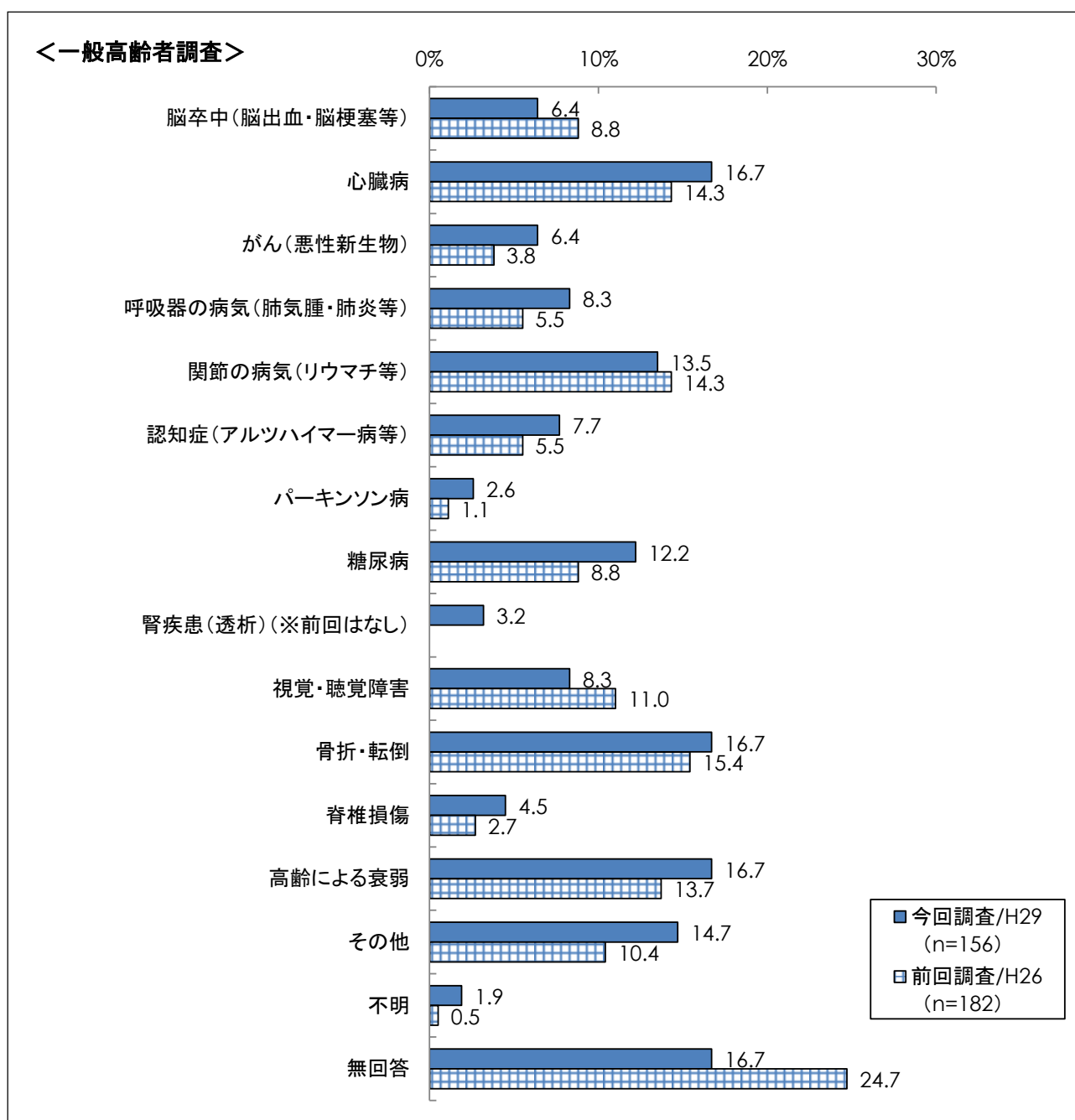
【(3)で「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

問1 (3) ① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも)

介護・介助が必要になった主な原因について前回調査と比較すると、一般高齢者では、「糖尿病」の割合が前回調査での8.8%から12.2%と3.4ポイント増加し、今回調査では原因の第3位となっています。

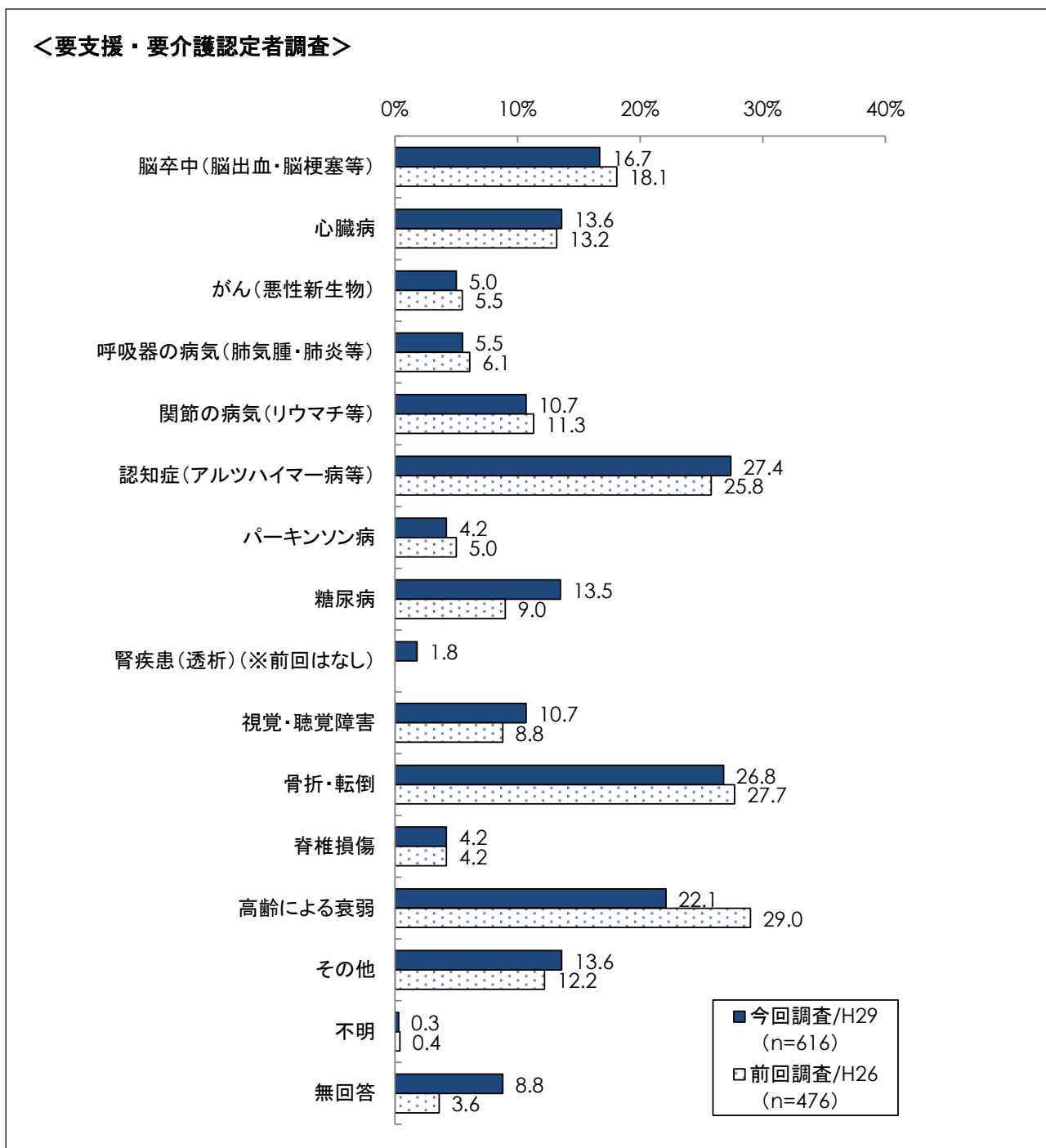
要支援・要介護認定者については、前回調査では「高齢による衰弱」が第1位となっていました。今回調査では「認知症(アルツハイマー病等)」が原因の第1位となっています。

図表 116 介護・介助が必要になった主な原因について (前回との比較/複数回答)





図表 117 介護・介助が必要になった主な原因について（前回との比較／複数回答）

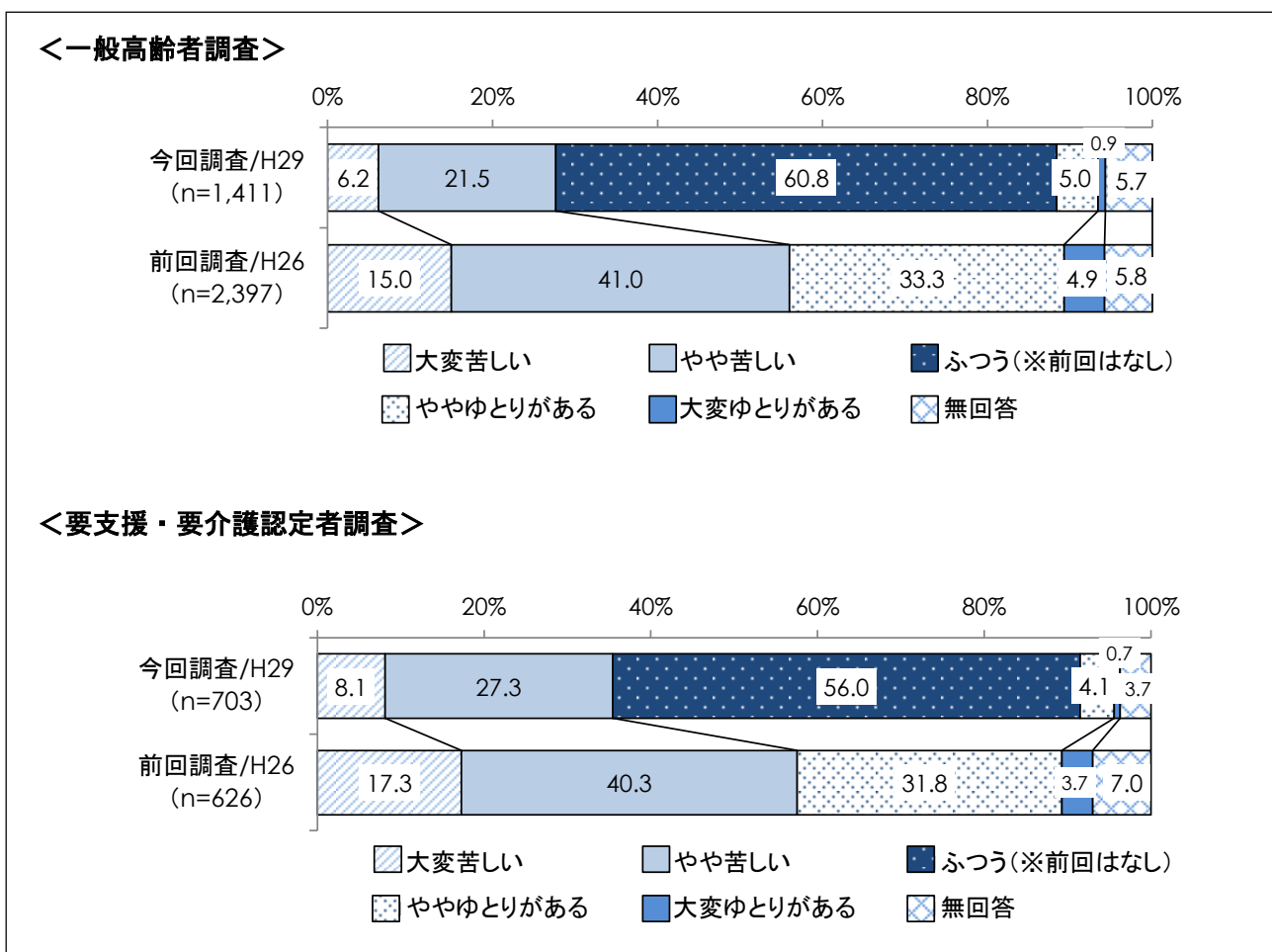


問1 (4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の暮らしについて前回調査と比較すると、一般高齢者については、「やや苦しい」が19.5ポイント減少し、「ややゆとりがある」が28.3ポイント減少と大きく変化しています。この結果は、前回調査での「やや苦しい」または「ややゆとりがある」との回答が、今回調査では「ふつう」(60.8%)へと移行しているためとも考えられます。また、「大変苦しい」については8.8ポイント減少、「大変ゆとりがある」は4.0ポイント減少しています。

また、要支援・要介護認定者についても同様の傾向がみられます。また、「大変苦しい」は9.2ポイント減少、「大変ゆとりがある」は3.0ポイント減少しています。

図表 118 現在の暮らしの状況について (前回との比較)

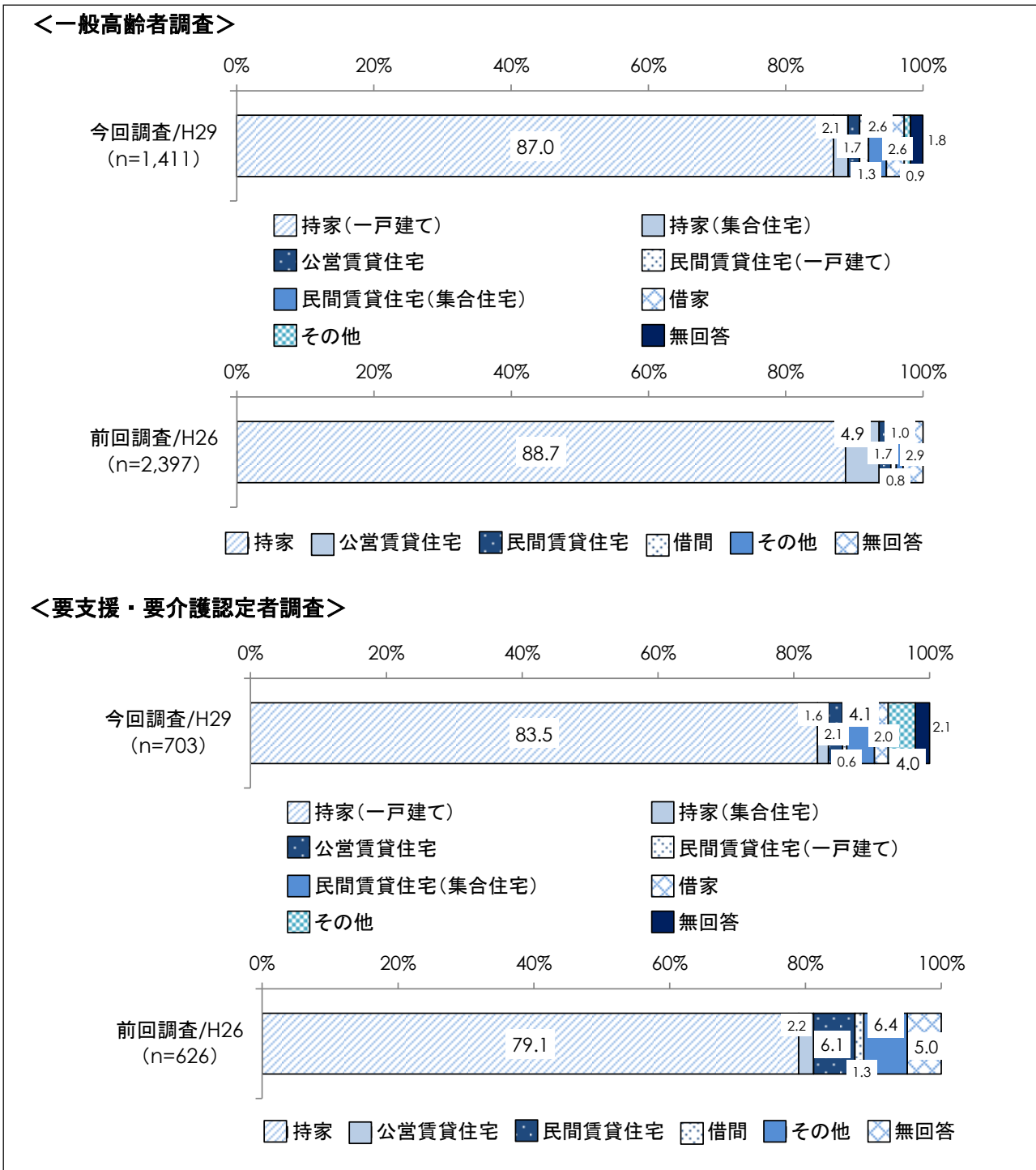


問1(5) お住まいは一人暮らし、または集合住宅のどちらですか。

住まいの状況について前回調査と比較すると、一般高齢者については持家（一人暮らし・集合住宅）が約9割を占めており、前回とほぼ同様の結果となっています。

要支援・要介護認定者についてもほぼ同様の結果となっていますが、持家（一人暮らし・集合住宅）の割合についてみると、3.8ポイント増加し、8割を超えています。

図表 119 現在の住まいの状況について（前回との比較）



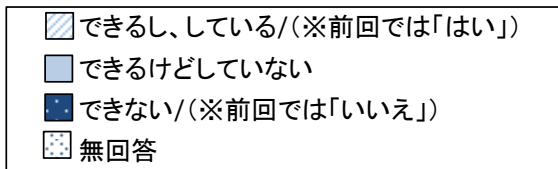
## 2 からだを動かすことについて

### 問2 (1)～(3) 運動器の機能について

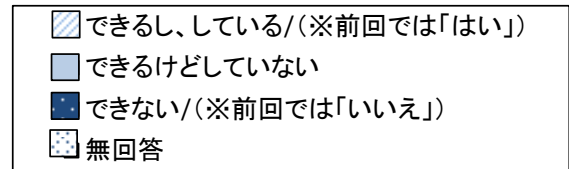
からだを動かすことについて前回調査と比較すると、(3) 15分くらい続けて歩いていますかの間については、「できるし、している(※前回では『はい』)」の割合が、一般高齢者では7.7ポイント減少、要支援・要介護認定者では、6.5ポイント減少しており、15分程度の歩行をする人が少なくなっていると言えます。

図表 120 からだを動かすことについて (前回との比較)

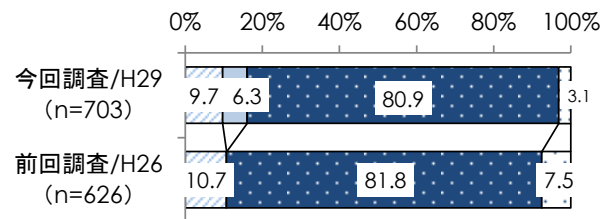
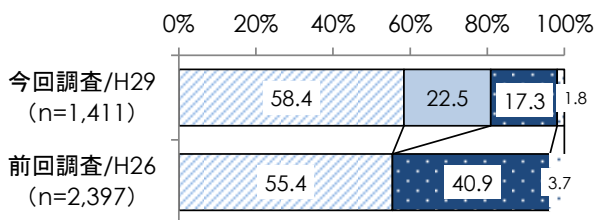
#### <一般高齢者調査>



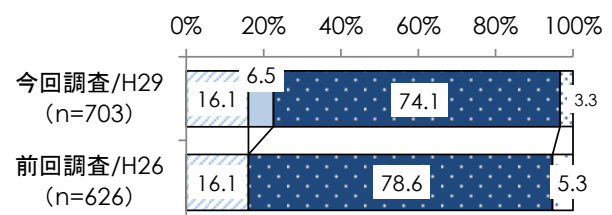
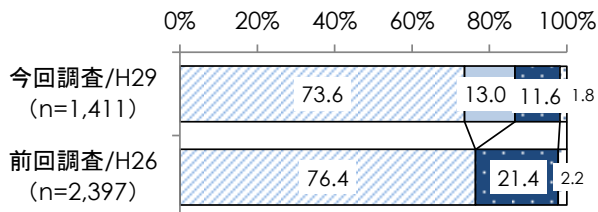
#### <要支援・要介護認定者調査>



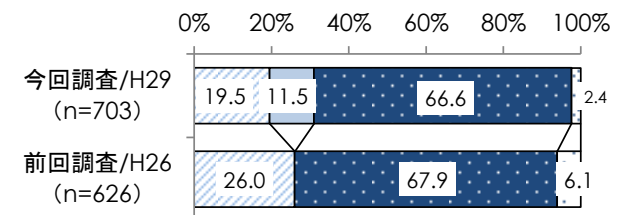
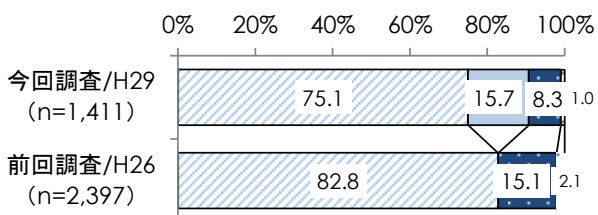
#### (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。



#### (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。



#### (3) 15分くらい続けて歩いていますか。

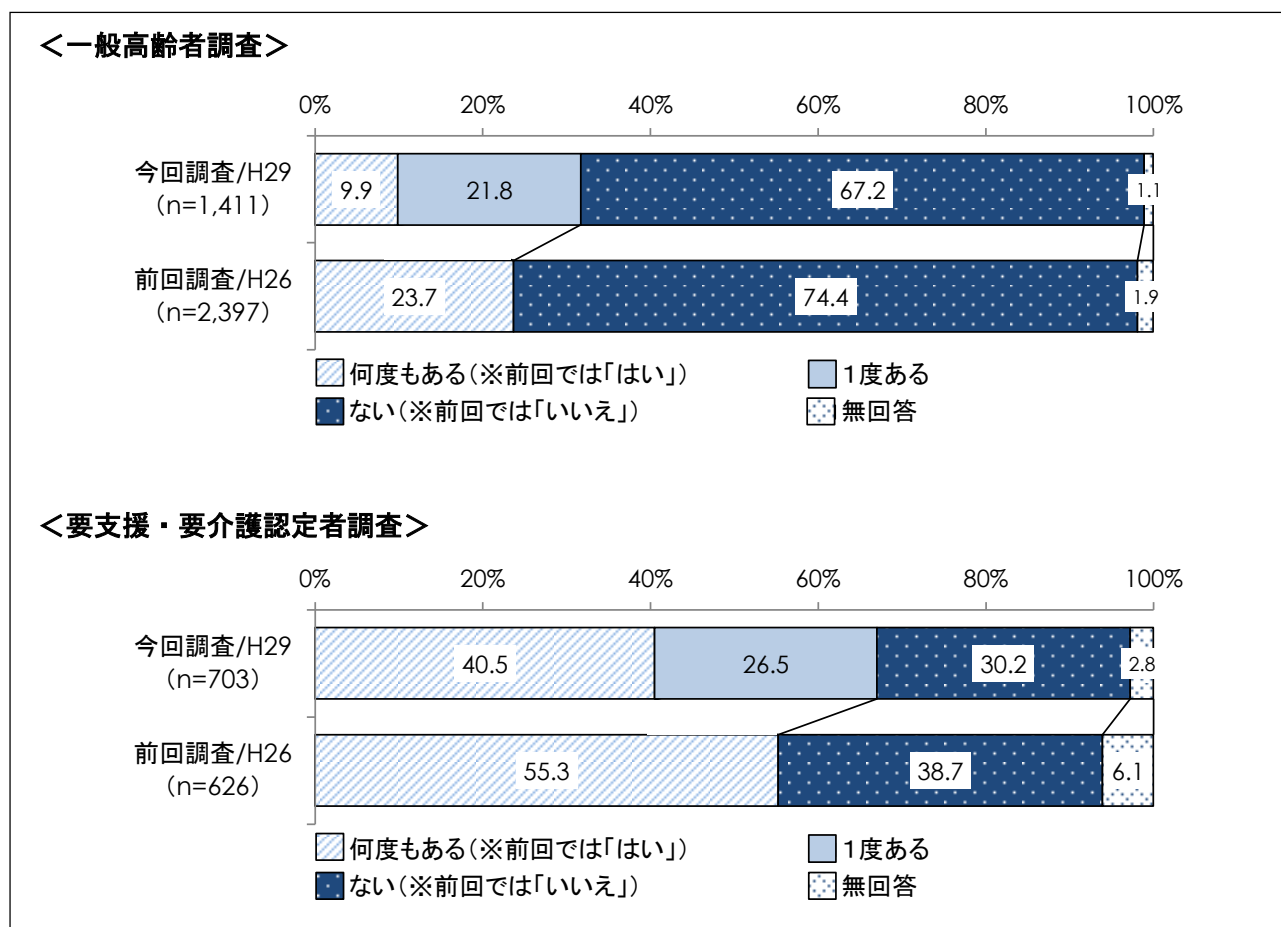


問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか。

転倒経験について、今回調査での「何度もある（※前回では『はい』）」と「1度ある」を合わせた『転倒経験がある』の割合と、前回調査での「はい」の割合を比較すると、一般高齢者については、今回調査では31.7%と8.0ポイント増加しています。

また、要支援・要介護認定者では『転倒経験がある』の割合が今回調査では67.0%と11.7ポイント増加しており、転倒経験者が増加傾向にあります。

図表 121 転倒経験について（前回との比較）

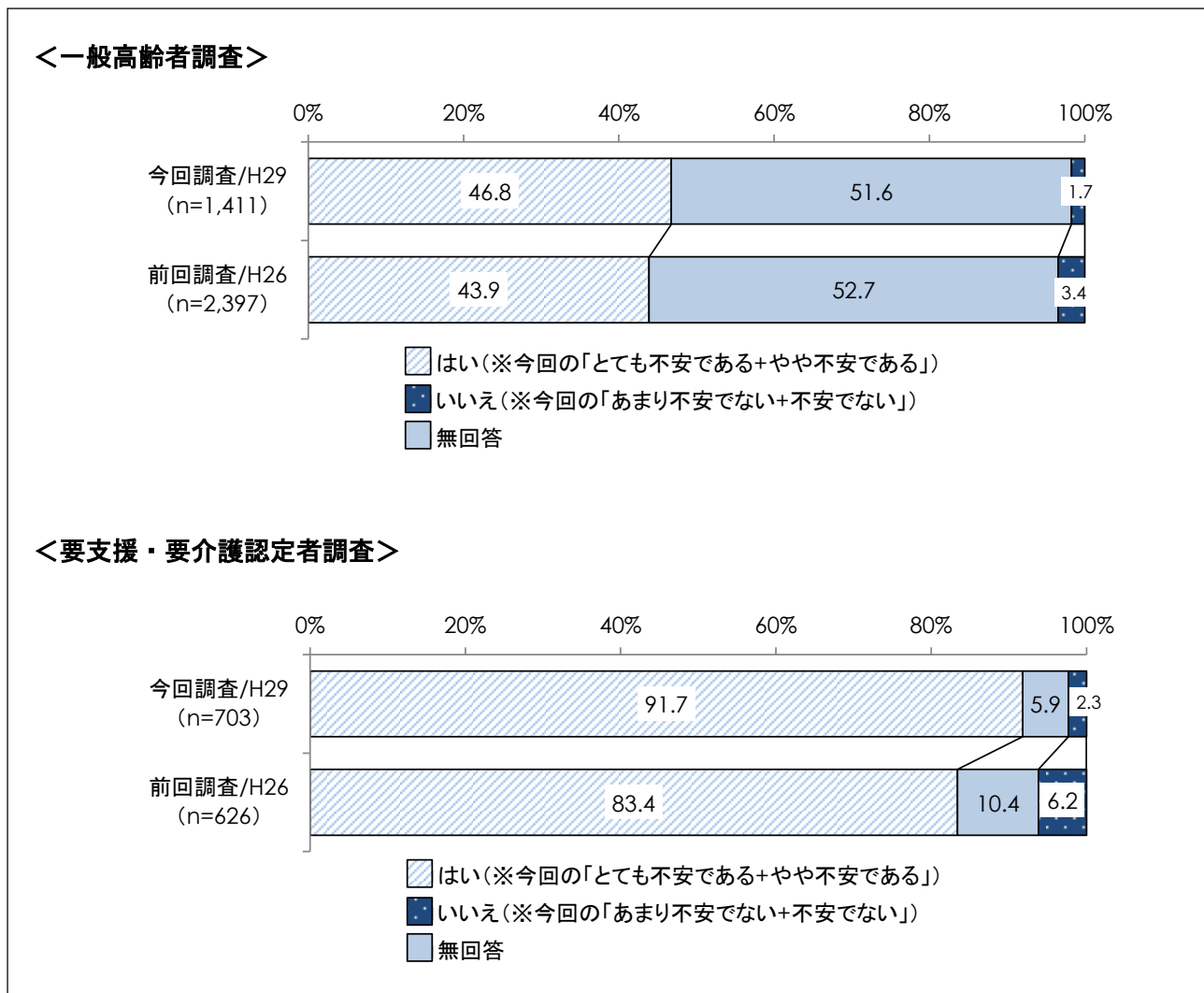


問2（5）転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安について、今回調査での「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』の割合と前回調査での「はい」の割合を比較すると、一般高齢者については、今回調査では46.8%と2.9ポイント増加しています。

また、要支援・要介護認定者については、『不安である』の割合が、83.4%から91.7%と8.3ポイントの増加となり、今回調査では不安を持っている人が約9割を占める結果となっています。

図表 122 転倒に対する不安について（前回との比較）

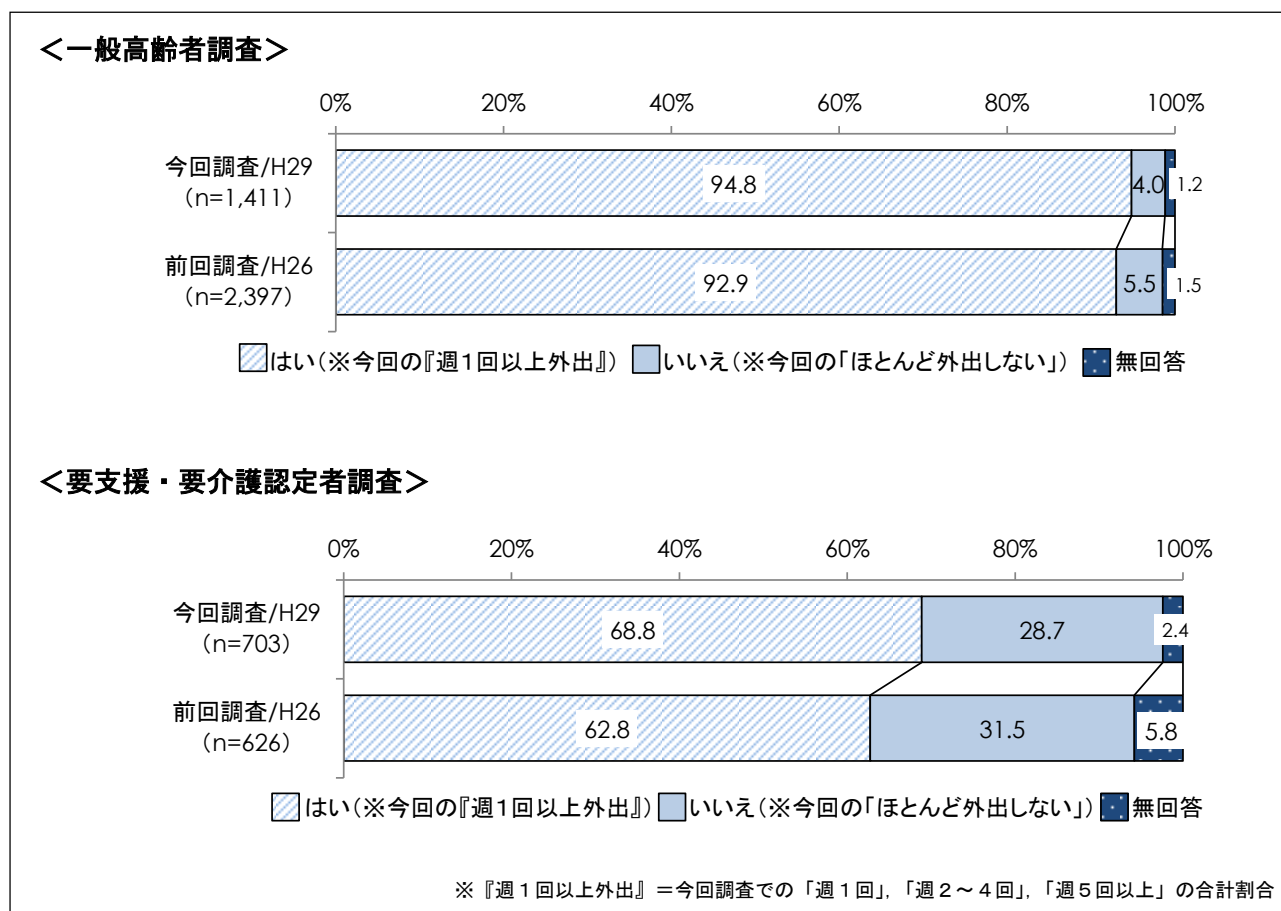


問2（6）週に1回以上は外出していますか。

週に1回以上外出しているかについて、今回調査で、「週1回」以上外出している人の割合と、前回調査での「はい」の割合を比較すると、一般高齢者については今回調査では94.8%と1.9ポイント増加しています。

また、要支援・要介護認定者についても同様に比較すると、今回調査では68.8%と6.0ポイント増加しており、外出している人の割合がやや増加傾向にあります。

図表 123 1週間当たりの外出について（前回との比較）



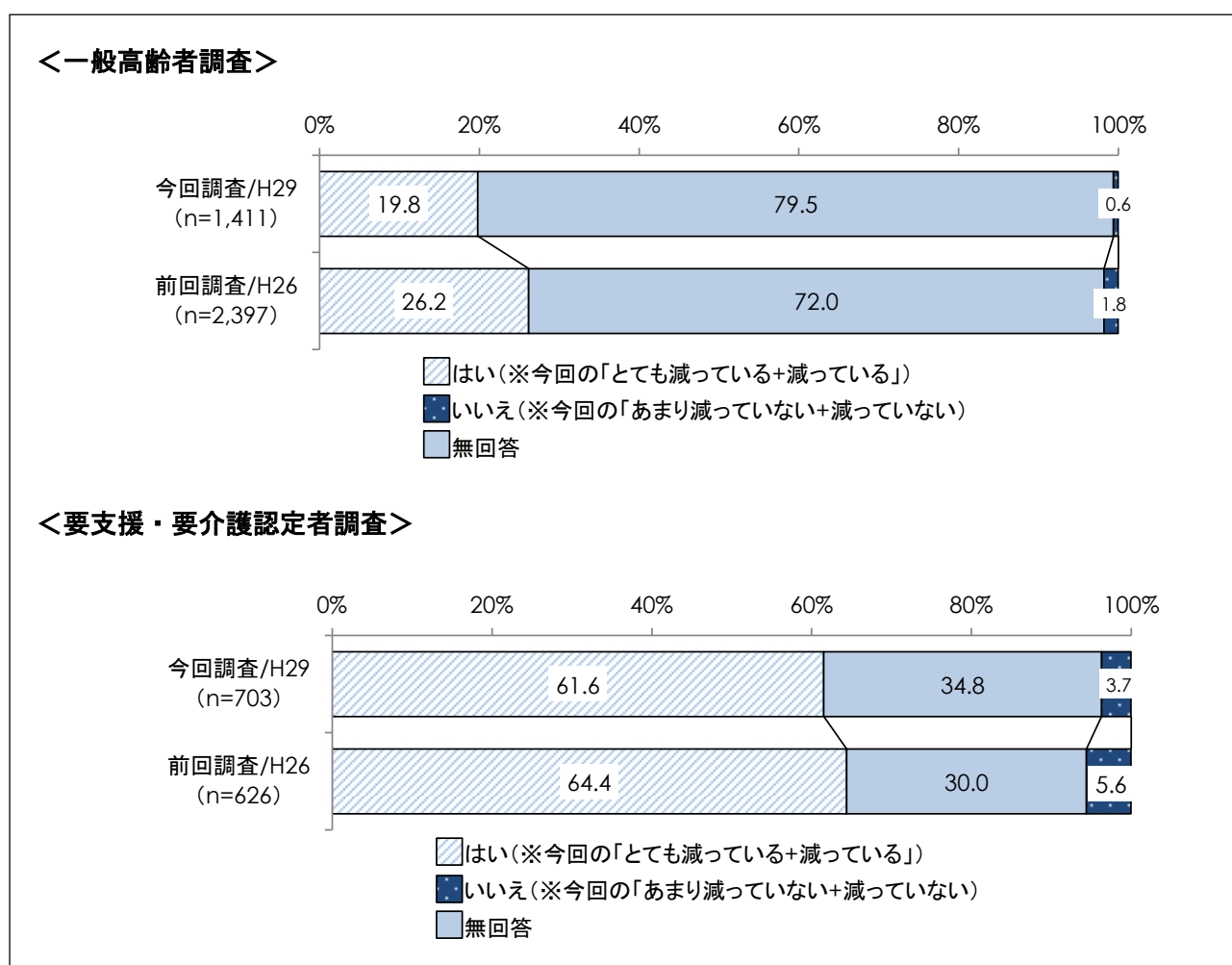
問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

外出の頻度について、今回調査での「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』の割合と、前回調査での「はい」の割合を比較すると、一般高齢者については、今回調査では 19.8%と 6.4 ポイント減少しています。

また、要支援・要介護認定者については、『減っている』の割合が、今回調査では 61.6%と 2.8 ポイント減少しています。

一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに、外出する機会が減っているとの回答は減少傾向にあります。

図表 124 外出回数の頻度について（前回との比較）



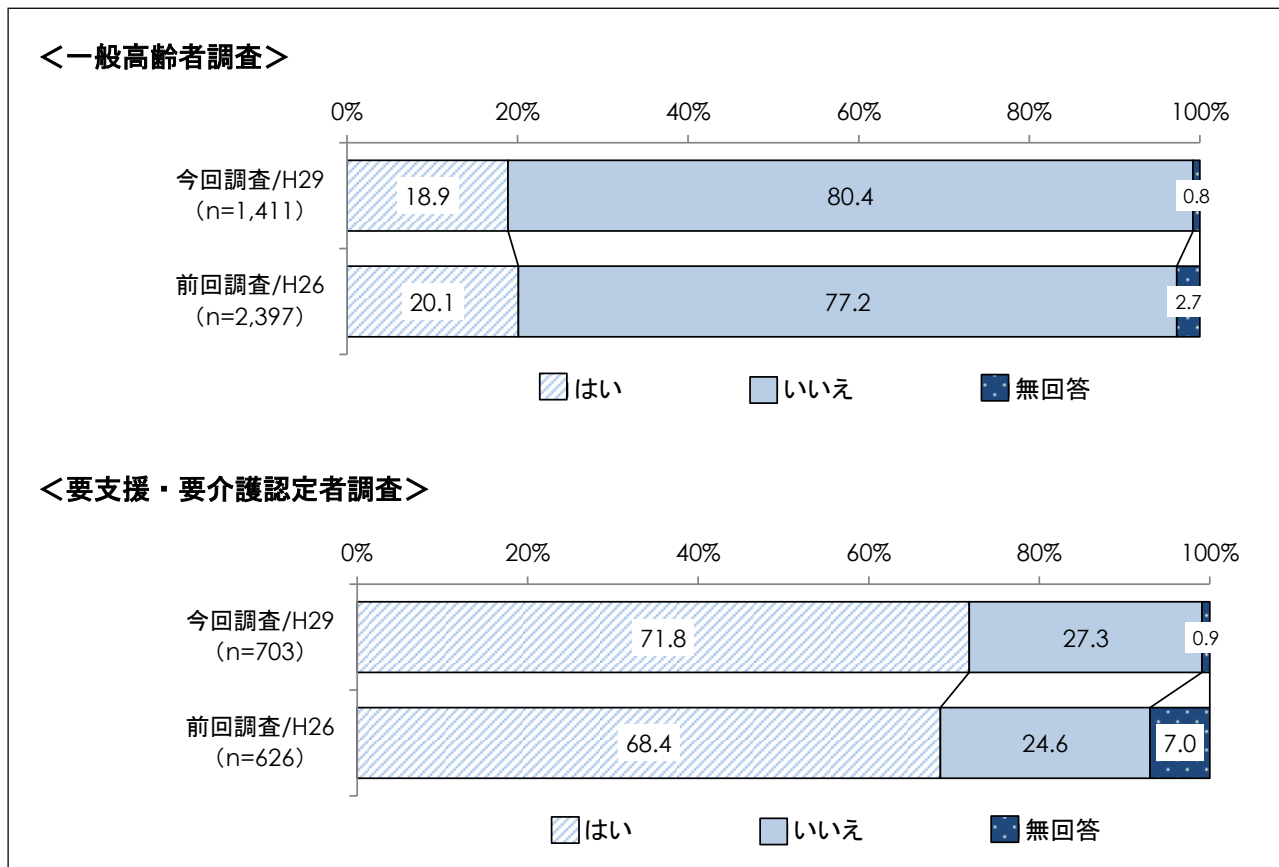


問2（8） 外出を控えていますか。

外出を控えているかについて前回調査と比較すると、一般高齢者については、「はい」の割合が今回調査では18.9%となっており、1.2ポイントの減少となっています。

また、要支援・要介護認定者では、「はい」の割合が今回調査では71.8%と3.4ポイント増加しており、外出を控える人が増えています。

図表 125 外出を控えているかについて（前回との比較）

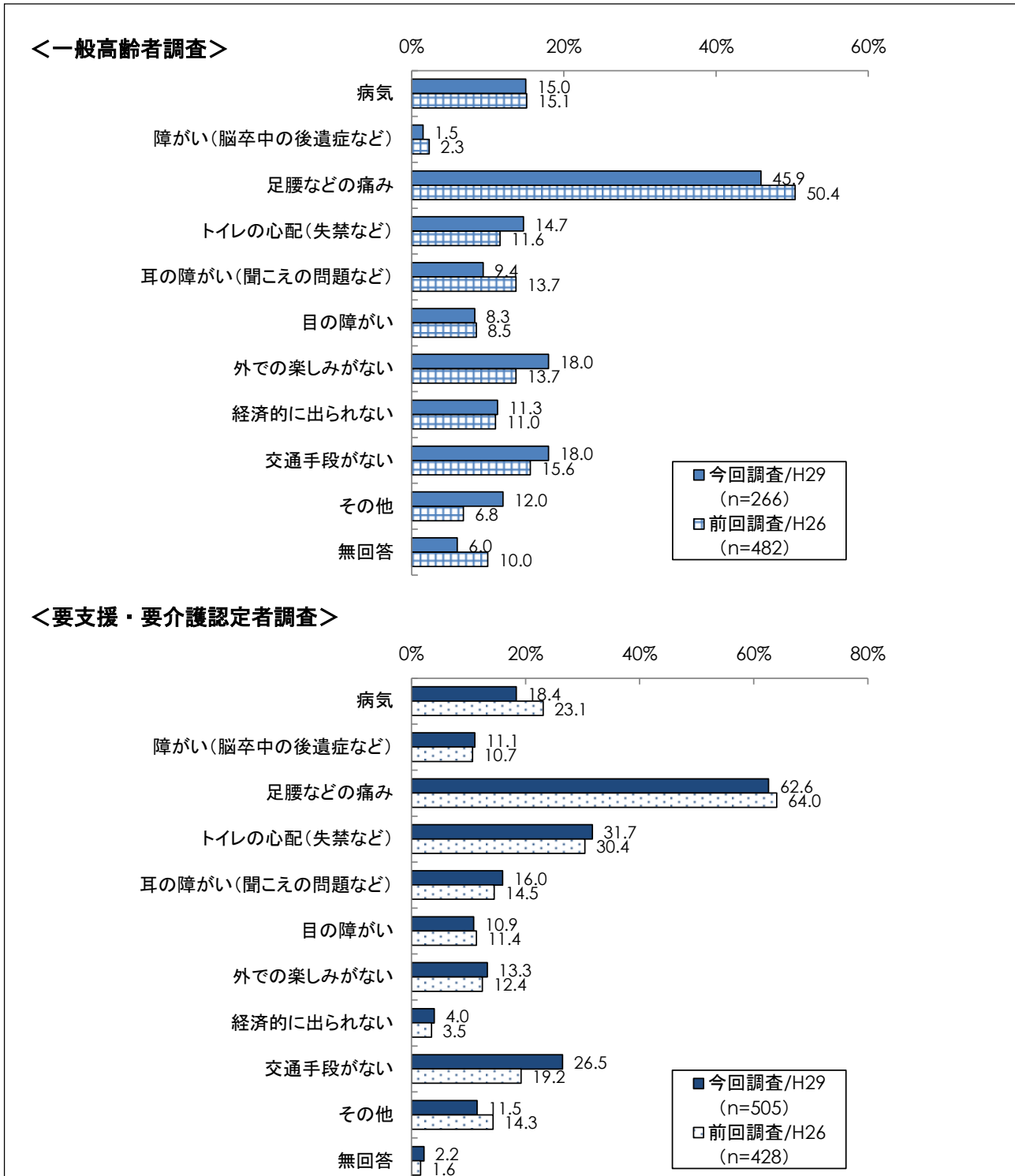


【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

問2(8)① 外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

外出を控えている理由は、一般高齢者については、今回調査では「外での楽しみがない」が前回の第4位から第2位にあがっています。要支援・要介護認定者については、前回調査では「病気」が第3位でしたが、今回調査では「交通手段がない」が第3位となっています。

図表 126 外出を控えている理由(前回との比較/複数回答)

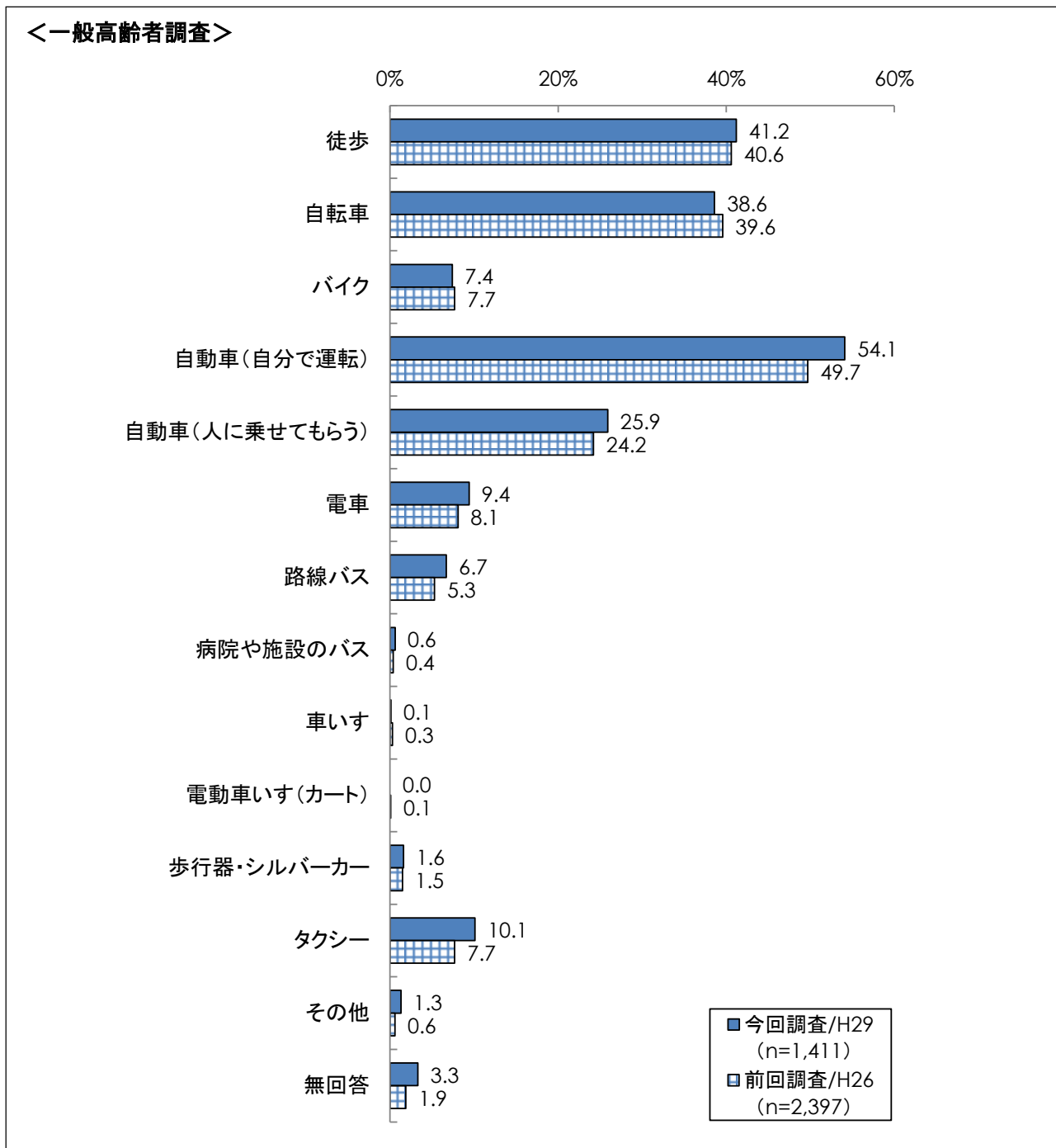


問2（9） 外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

外出する際の移動手段についてみると、一般高齢者については、第1位の「自動車（自分で運転）」が、今回調査では54.1%となっており、前回より4.4ポイント増えています。

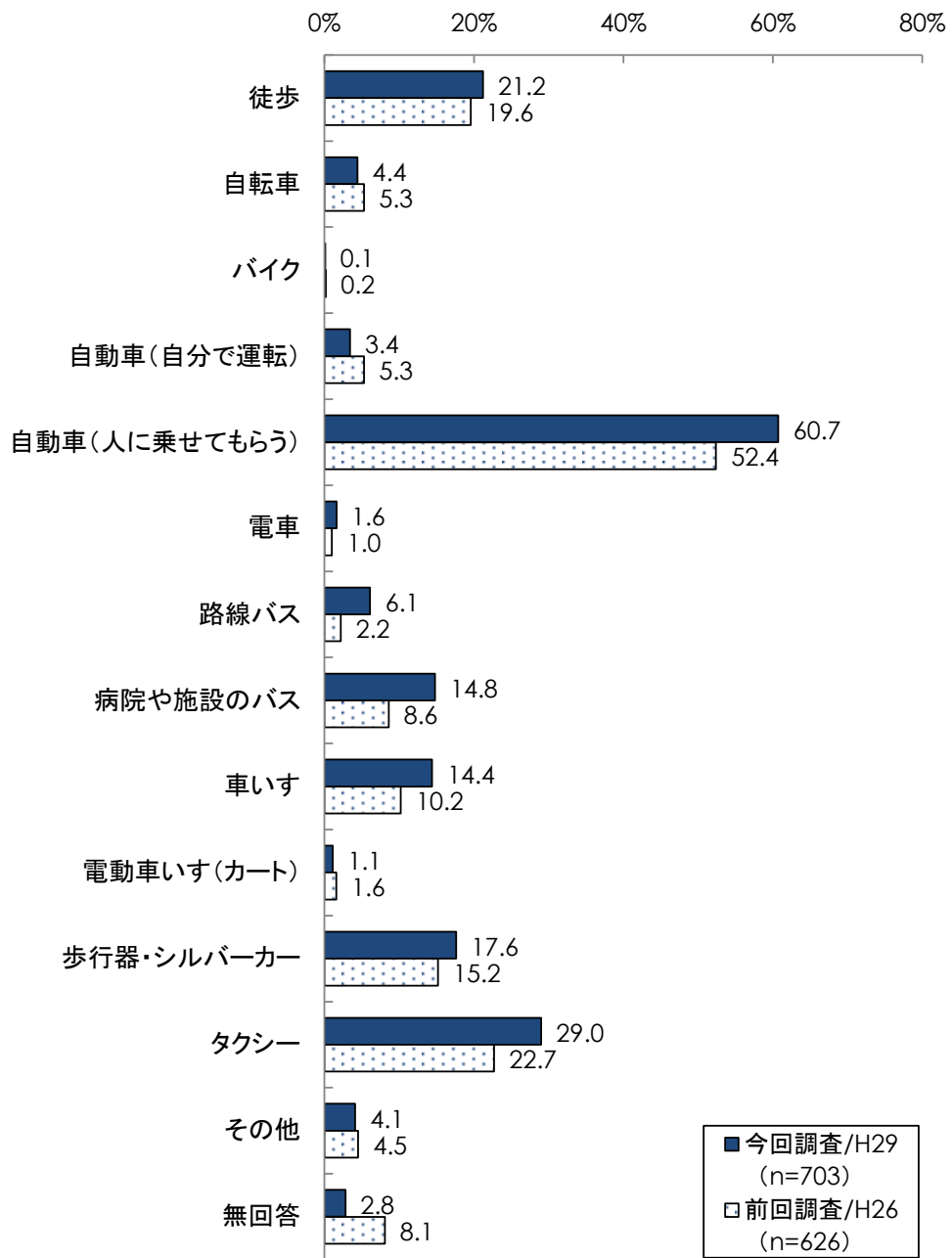
また、要支援・要介護認定者については、第1位の「自動車（人に乗せてもらう）」が今回調査では60.7%と、前回より8.3ポイント増えており、移動手段に自動車を利用する人が多くなっています。

図表 127 外出する際の移動手段（前回との比較／複数回答）



図表 128 外出する際の移動手段（前回との比較／複数回答）

<要支援・要介護認定者調査>



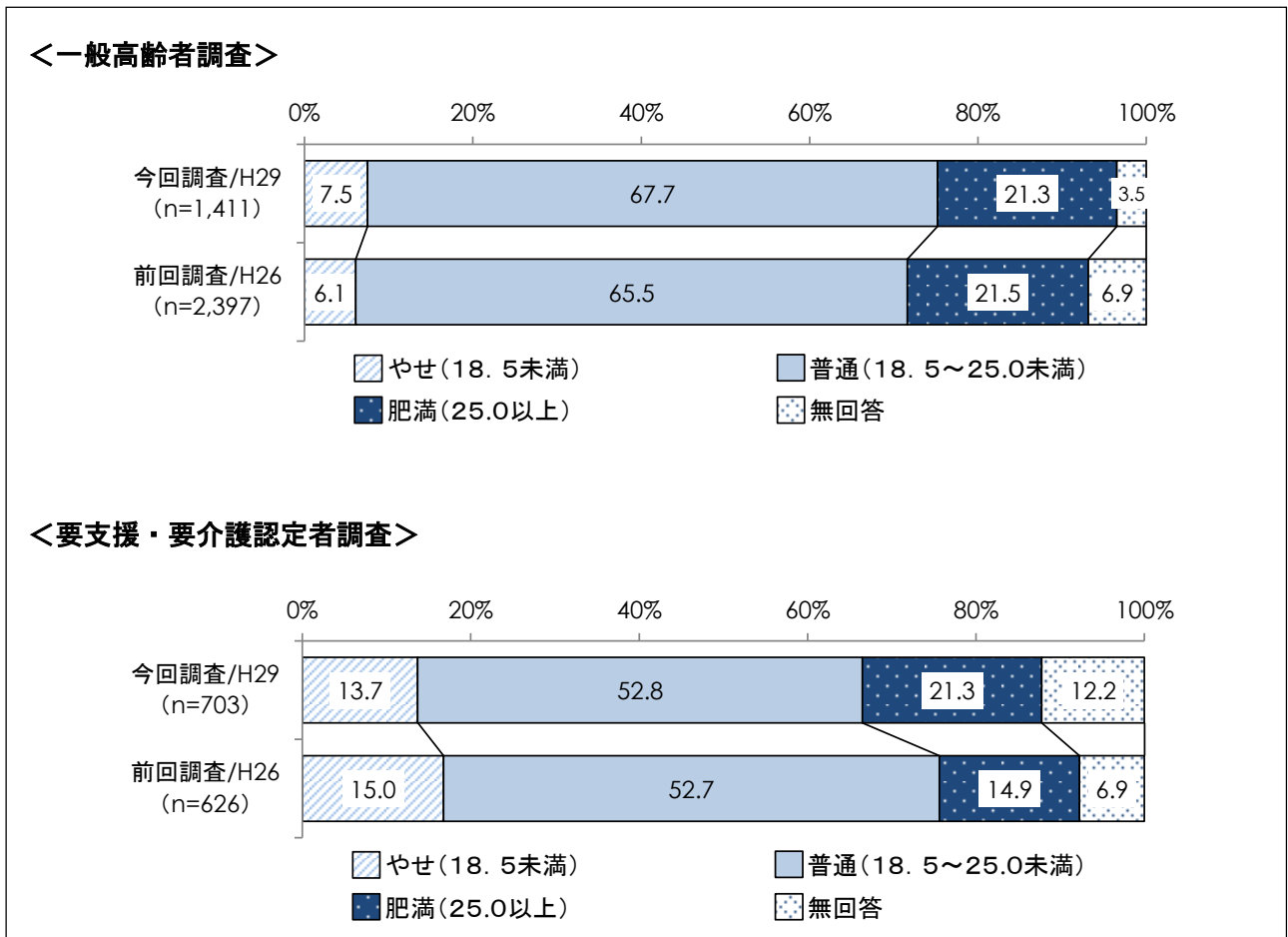
### 3 食べることに ついて

#### 問3(1) BMI算出

身長、体重より算出したBMI判定の結果を前回調査と比較すると、一般高齢者については「やせ(18.5未満)」、「普通(18.5~25.0未満)」がやや増加していますが、大きな変化はみられません。

要支援・要介護認定者については「肥満(25.0以上)」が6.4ポイント増加し、今回調査では21.3%を占めています。

図表 129 BMI判定(前回との比較)



### 問3(2)～(4) 口腔機能について

口腔機能について前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援認定者ともに大きな変化はみられません。

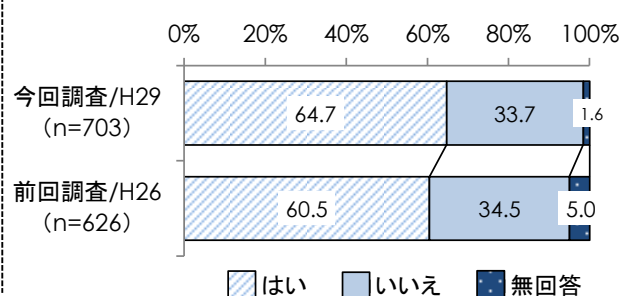
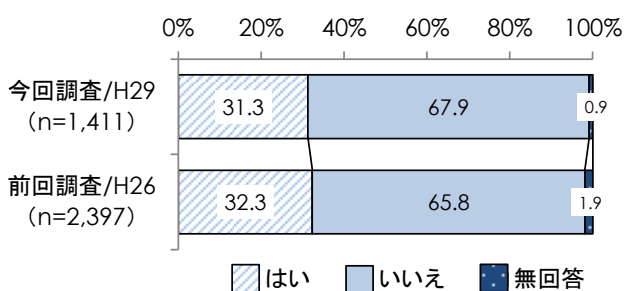
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたかの間については、要支援・要介護認定者では「はい」の割合が今回調査では64.7%となっており、4.2ポイント増加しています。

図表 130 口腔機能について（前回との比較）

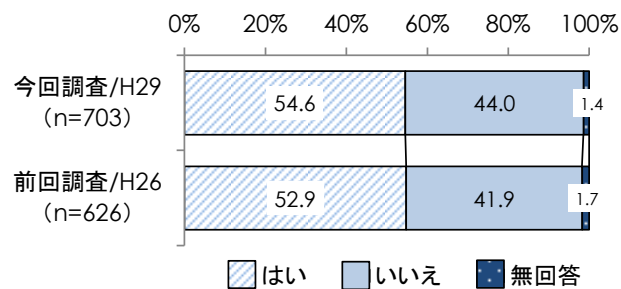
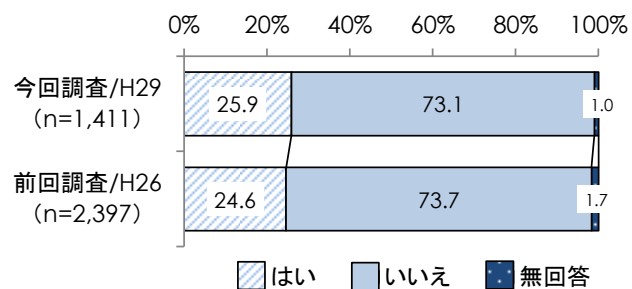
#### <一般高齢者調査>

#### <要支援・要介護認定者調査>

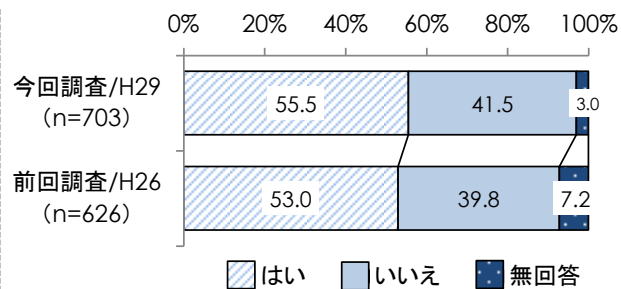
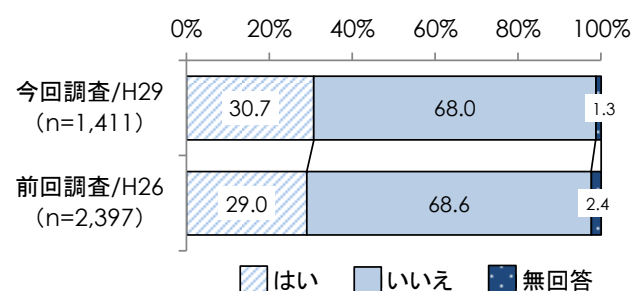
#### (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。



#### (3) お茶や汁物等でむせることがありますか。



#### (4) 口の渇きが気になりますか。

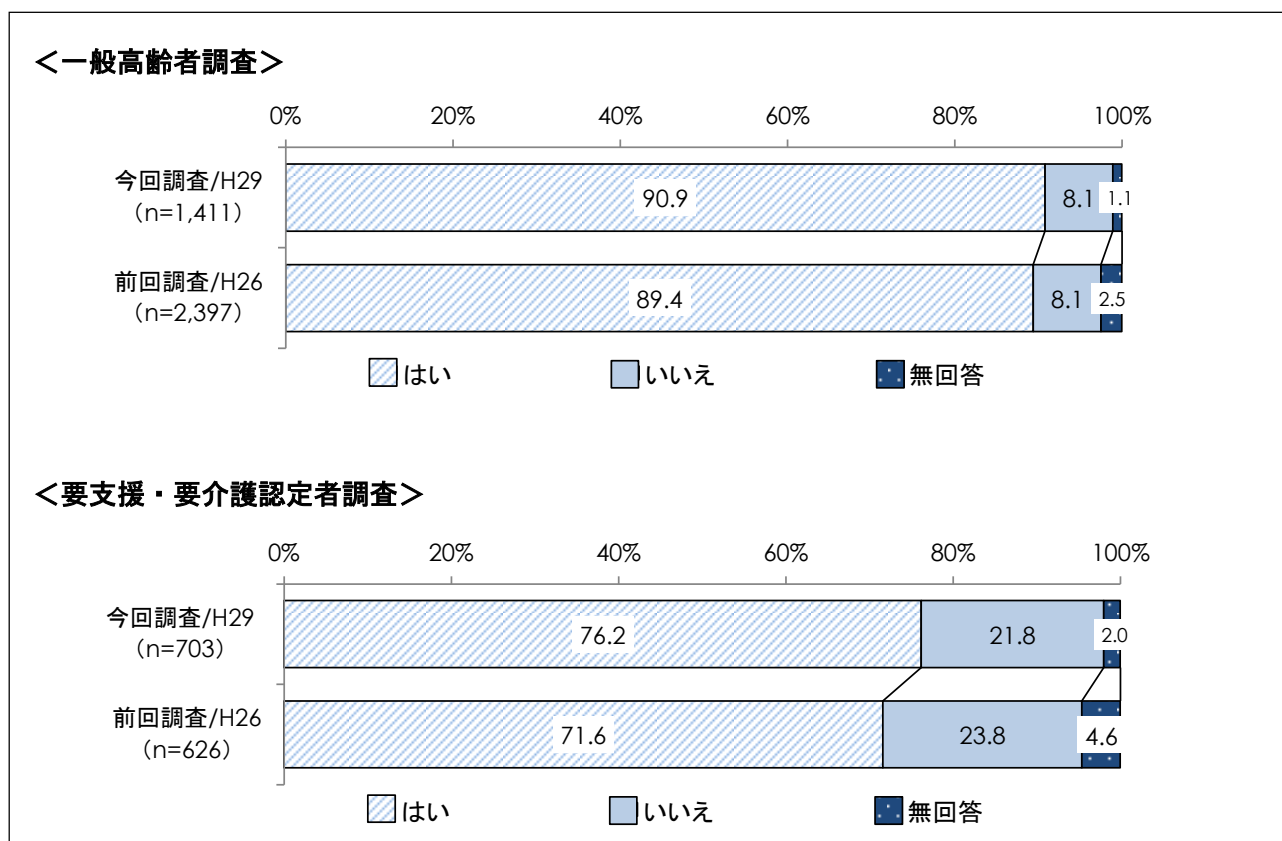


問3(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。

毎日の歯磨き(人にやってもらう場合も含む)について前回調査と比較すると、一般高齢者については、「はい」の割合が今回調査では90.9%と前回より1.5ポイント増加しています。

また、要支援・要介護認定者でも、「はい」の割合が今回調査では76.2%と前回より4.6ポイント増加しています。

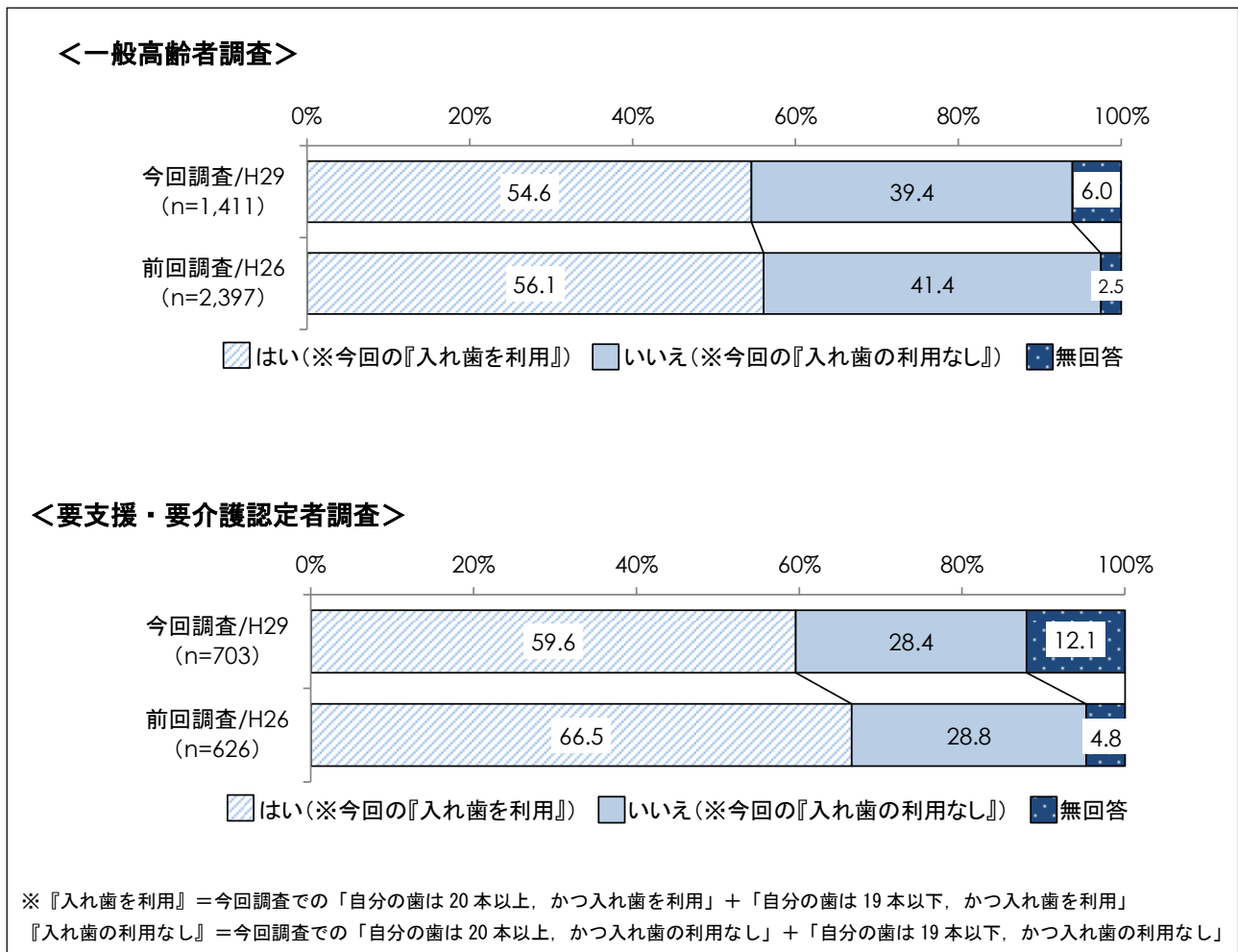
図表 131 毎日の歯磨きについて(前回との比較)



問3(6) 入れ歯を利用していますか。

入れ歯の利用状況について、今回調査での『入れ歯を利用』の割合と、前回調査での「はい」の割合とを比較すると、一般高齢者については、今回調査では54.6%と1.5ポイント減少、要支援・要介護認定者では59.6%と6.9ポイント減少しています。

図表 132 入れ歯の利用について（前回との比較）





【(6)で「1. 自分の歯は20本以上, かつ入れ歯を利用」「3.自分の歯は19本以下, かつ入れ歯を利用」(前問グラフでの『入れ歯を利用』の方のみ)

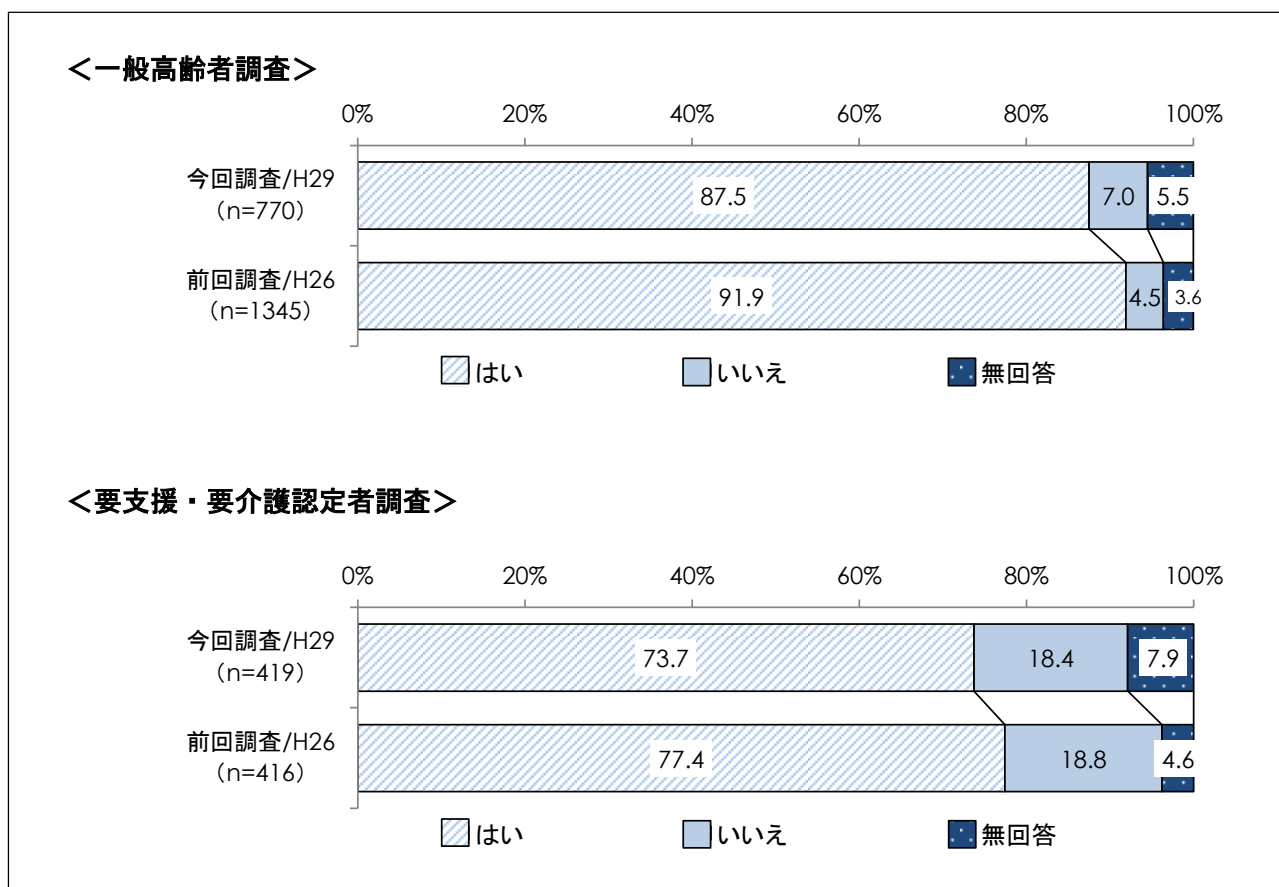
問2 (6) ②毎日入れ歯の手入れをしていますか。

毎日の入れ歯の手入れについて前回調査と比較すると、一般高齢者では「はい(毎日している)」が今回調査では87.5%と前回より4.4ポイント減少しています。

要支援・要介護認定者では「はい(毎日している)」が今回調査では73.7%と前回より3.7ポイント減少しています。

※前回調査は「入れ歯を利用している」で「はい」と回答した人のみ

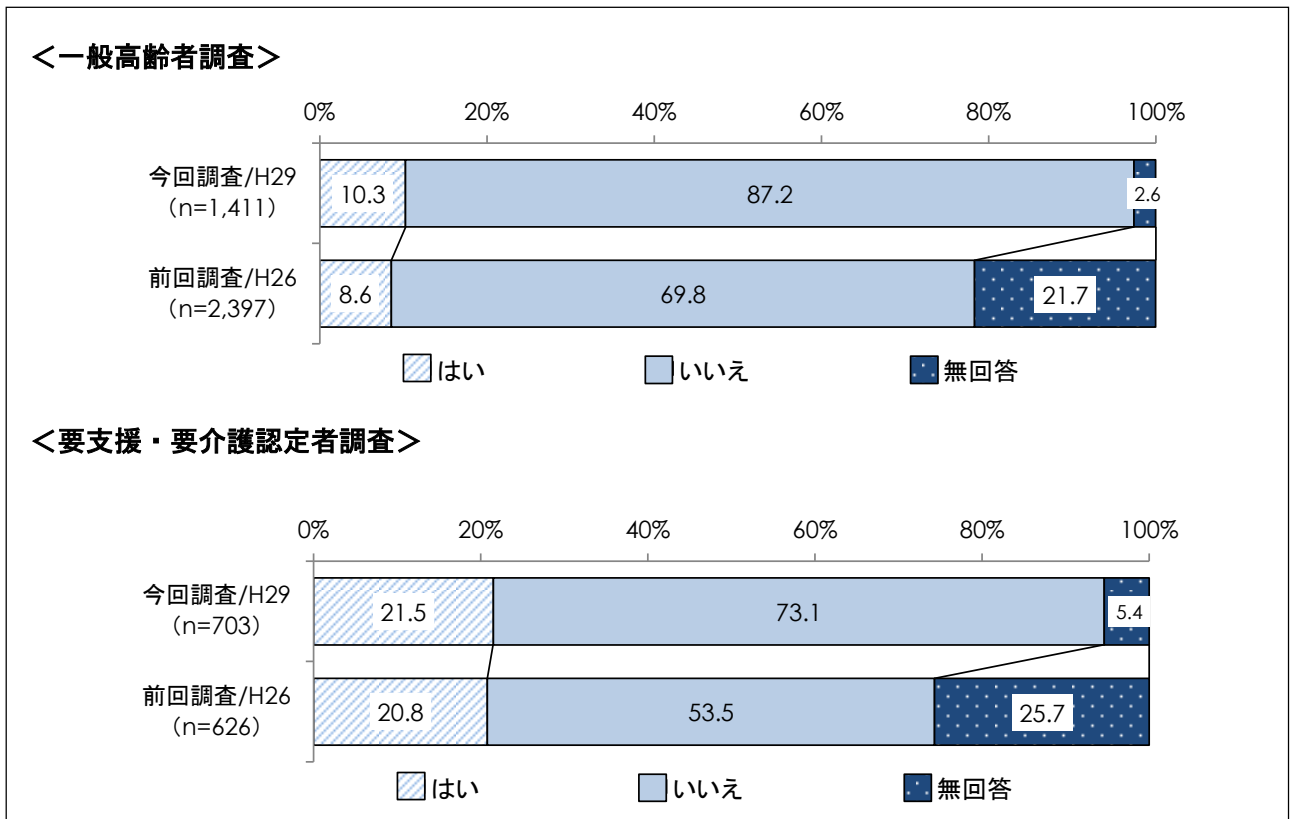
図表 133 入れ歯の手入れについて(前回との比較)



問3(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

体重減少について前回調査と比較すると、「いいえ(減少していない)」の割合が、一般高齢者については、今回調査では87.2%と17.4ポイント増加、要支援・要介護認定者については、今回調査では73.1%と19.6ポイント増加しています。

図表 134 体重減少について(前回との比較)

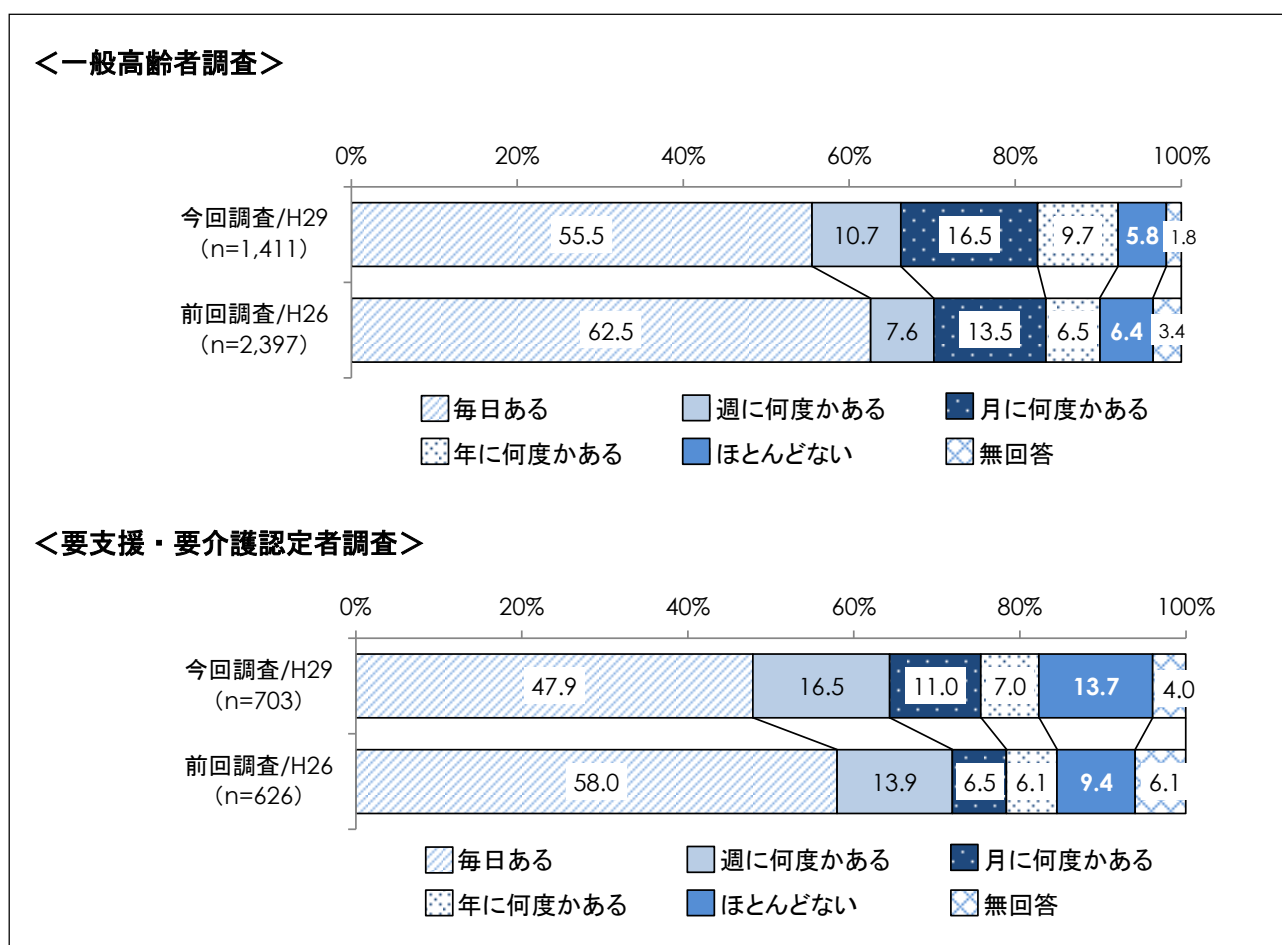


問3(8) どなたかと食事をとる機会がありますか。

どなたかと食事をとる機会について前回調査と比較すると、一般高齢者については「毎日ある」が今回調査では55.5%と7.0ポイント減少しています。

また、要支援・要介護認定者についても「毎日ある」が今回調査では47.9%と10.1ポイント減少しています。一方、「ほとんどない」の割合は4.3ポイント増加しており、孤食の傾向がやや増加しています。

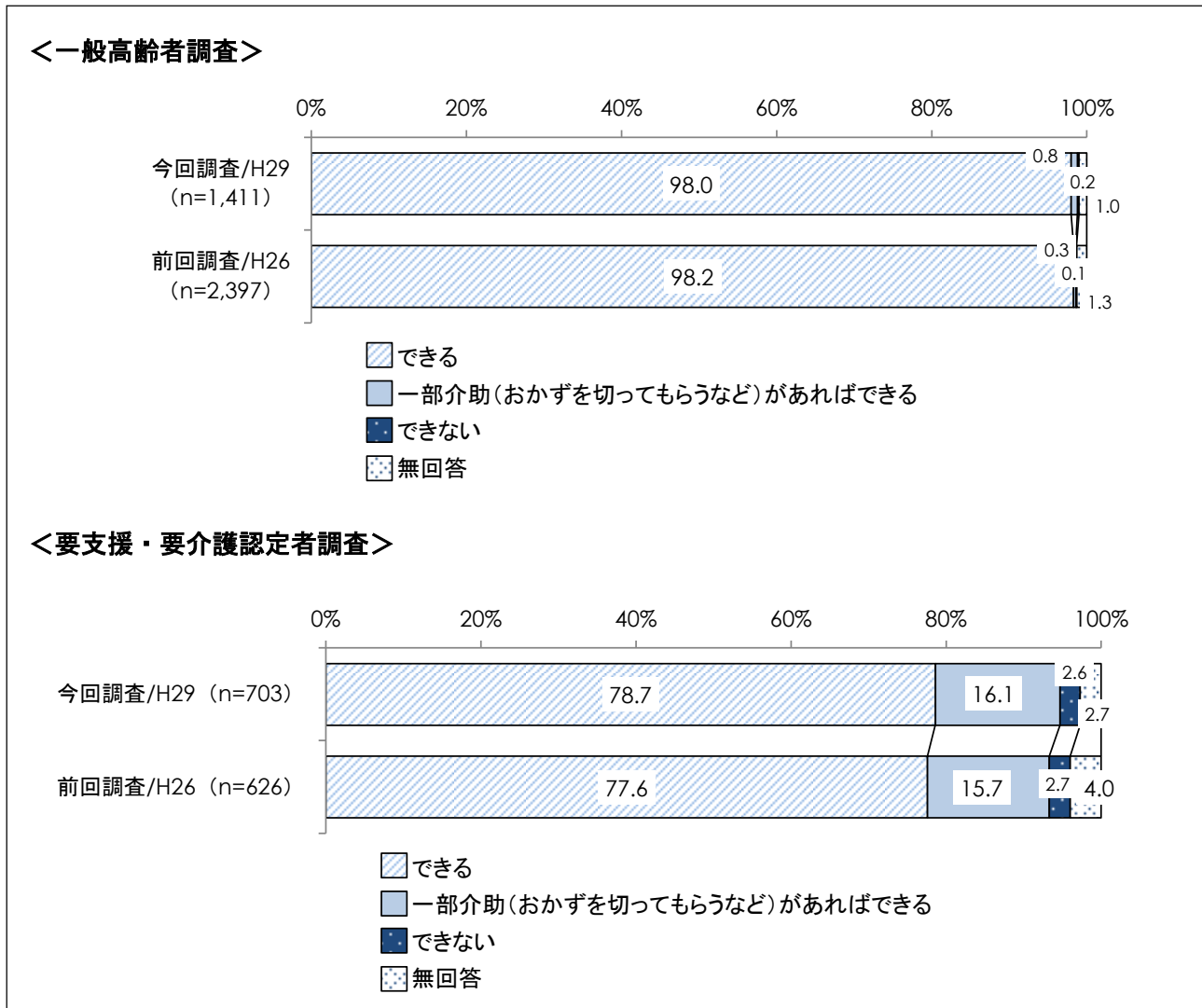
図表 135 食事の機会について（前回との比較）



問3(9) 食事は自分で食べられますか。

食事は自分で食べられるかについて前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに、ほぼ同様の結果となっています。

図表 136 食事の際の介助の必要性について（前回との比較）



## 4 毎日の生活について

### 問4（2）～（3）認知機能について

（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますかの問について前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに前回と同様の結果となっています。

（3）今日が何月何日かわからない時がありますかの問については、一般高齢者では前回と同様の結果となっています。

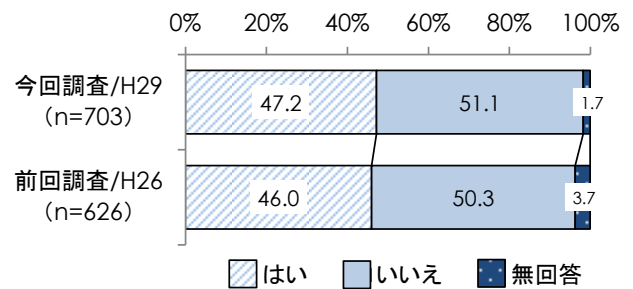
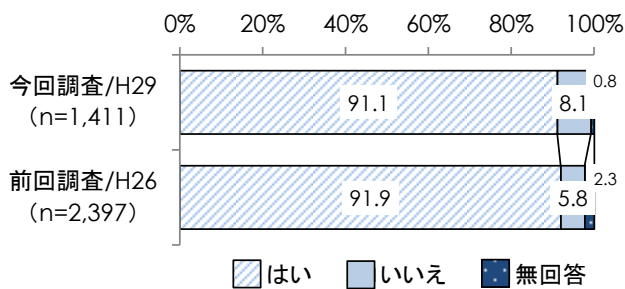
要支援・要介護認定者では「はい」と回答した人が、今回調査では64.3%と前回より4.6ポイント増加する結果となっています。

図表 137 認知機能について（前回との比較）

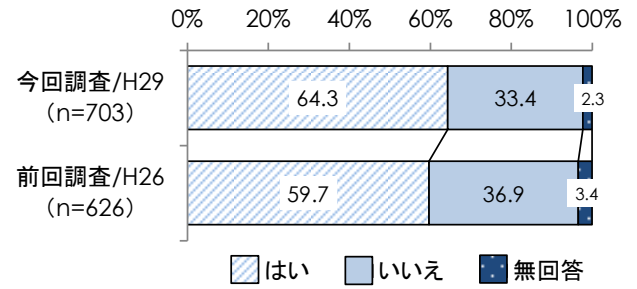
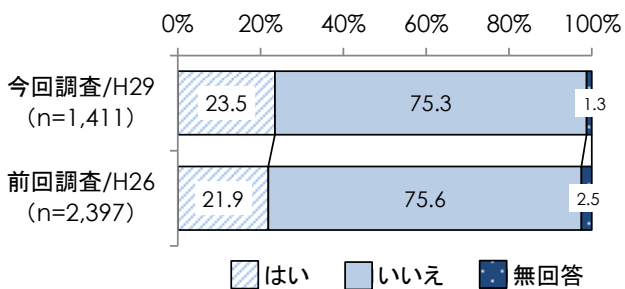
#### <一般高齢者調査>

#### <要支援・要介護認定者調査>

### （2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。



### （3）今日が何月何日かわからない時がありますか。



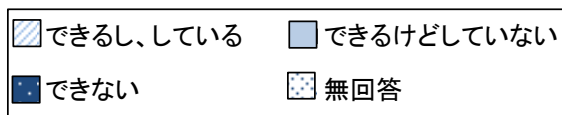
問4（4）～（8） I ADL＜手段的日常生活動作＞について（老研式活動能力指標）

手段的日常生活動作について「できるし、している」と回答した人の割合を前回調査と比較すると、一般高齢者では、（6）自分で食事の用意をしていますかの間で、今回調査では70.4%と前回より3.6ポイント増加しています。

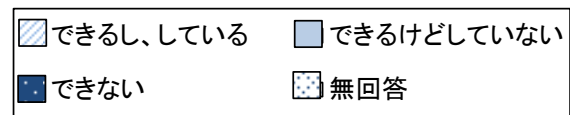
要支援・要介護認定者では、（7）自分で請求書の支払いをしていますかの間で、今回調査では32.9%と4.0ポイント減少、また、（8）自分の預貯金の出し入れをしていますかの間で、今回調査では29.2%と4.8ポイント減少しています。

図表 138 I ADL＜手段的日常生活動作＞について（老研式活動能力指標）（前回との比較）

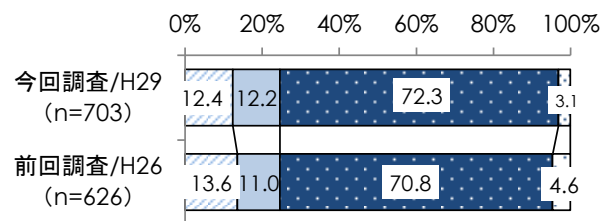
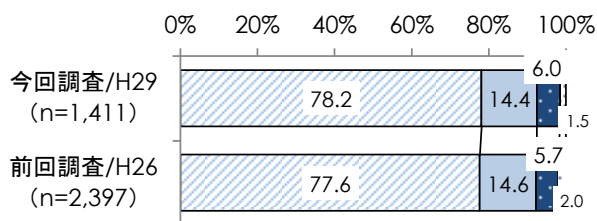
＜一般高齢者調査＞



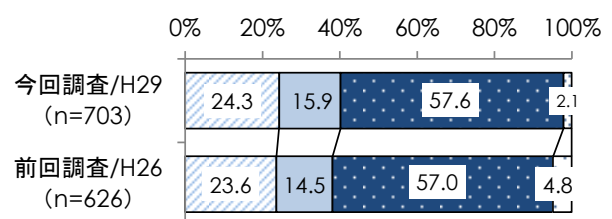
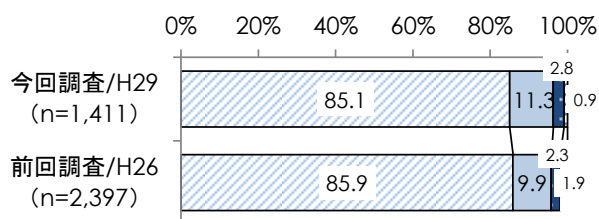
＜要支援・要介護認定者調査＞



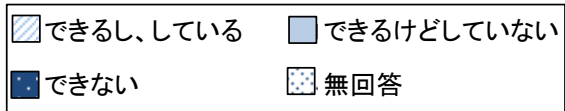
（4） バスや電車を使って1人で外出していますか。



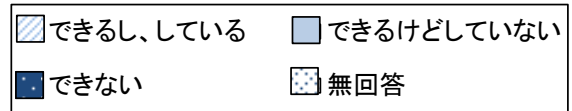
（5） 自分で食品・日用品の買物をしていますか。



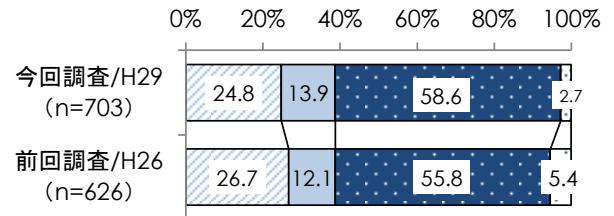
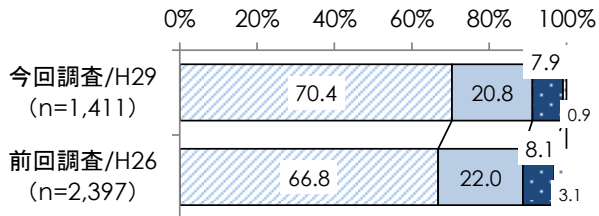
<一般高齢者調査>



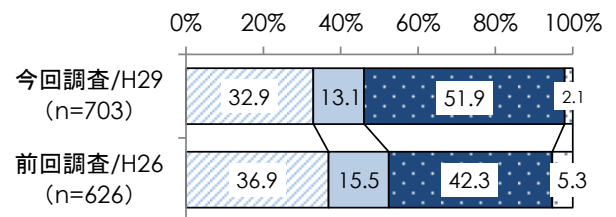
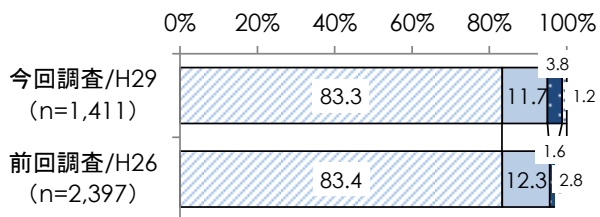
<要支援・要介護認定者調査>



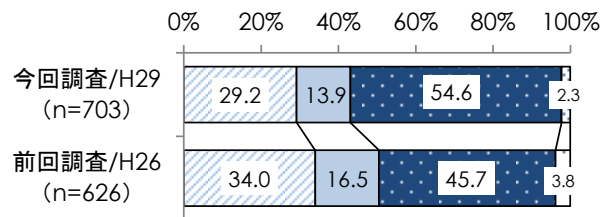
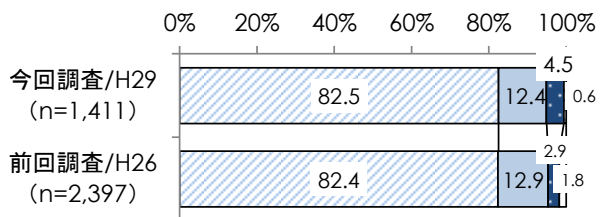
(6) 自分で食事の用意をしていますか。



(7) 自分で請求書の支払いをしていますか。



(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。



問4（9）～（12）社会参加—知的能動性（老研式活動能力指標）

社会参加（知的能動性）について「はい」と回答した人の割合を前回調査と比較すると、一般高齢者については、（10）新聞を読んでいますかの間で4.6ポイント、（11）本や雑誌を読んでいますかの間で前回より3.0ポイント減少しています。

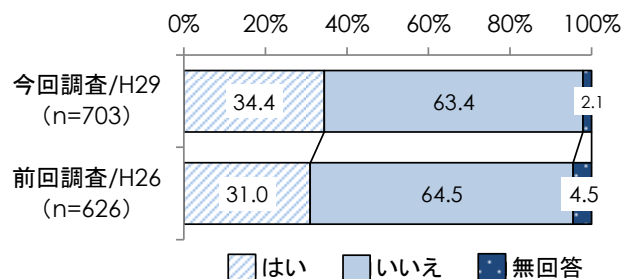
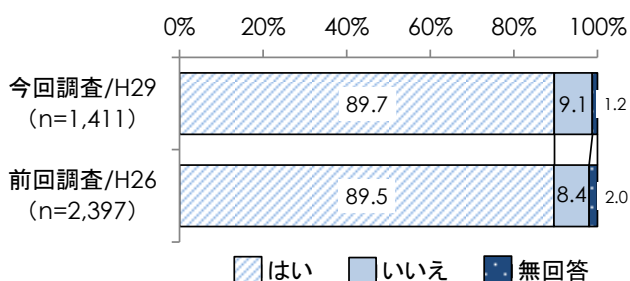
要支援・要介護認定者については、（9）年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますかの間で3.4ポイント増加しています。

図表 139 社会参加—知的能動性（老研式活動能力指標）（前回との比較）

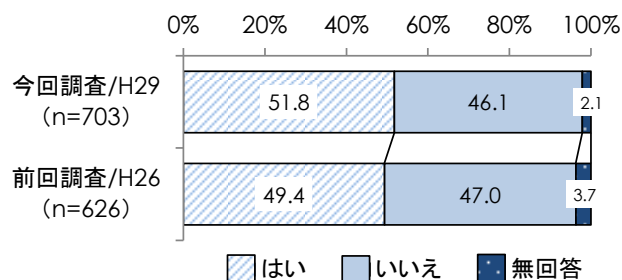
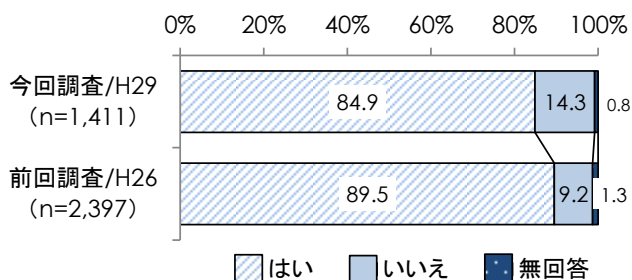
<一般高齢者調査>

<要支援・要介護認定者調査>

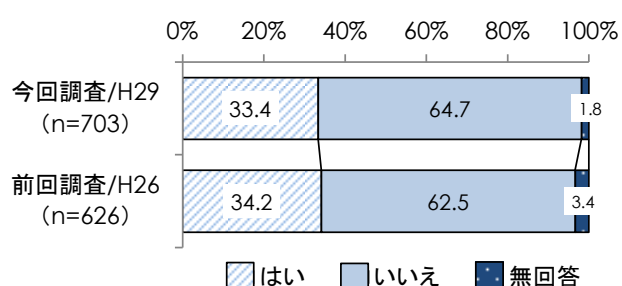
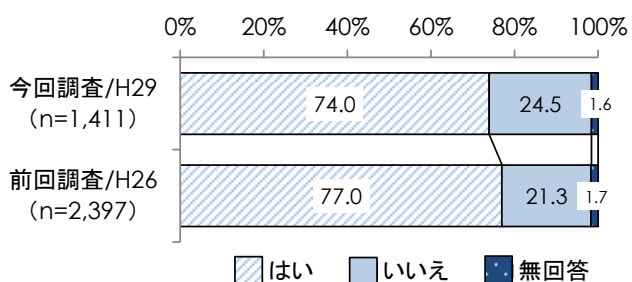
（9）年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。



（10）新聞を読んでいますか。



（11）本や雑誌を読んでいますか。

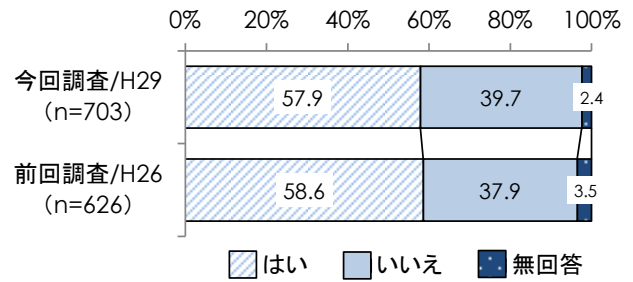
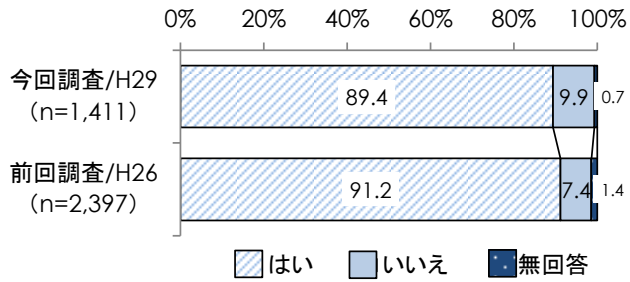




<一般高齢者調査>

<要支援・要介護認定者調査>

(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか。



問4 (13) ~ (16) 社会参加—社会的役割 (老研式活動能力指標)

社会参加 (社会的役割) について前回調査と比較してみると、一般高齢者については、(13) 友人の家を訪ねていますかの間で、「はい」と回答した人が、今回調査では61.7%と前回より4.2ポイント減少しています。また、(16) 若い人に自分から話しかけることがありますかの間で「はい」と回答した人が、今回調査では78.5%と前回より3.7ポイント減少しています。

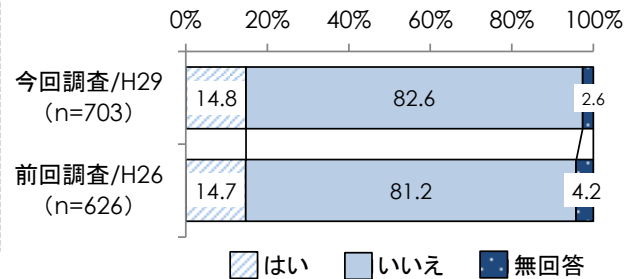
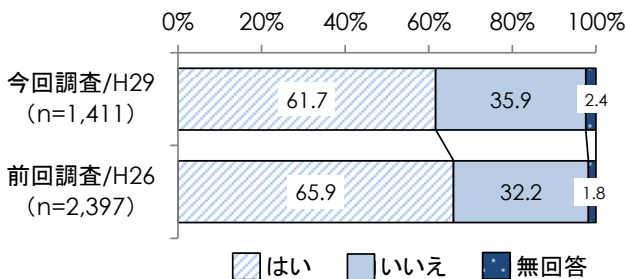
一方、要支援・要介護認定者では、前回とほぼ同様の結果となっています。

図表 140 社会参加—社会的役割 (老研式活動能力指標) (前回との比較)

<一般高齢者調査>

<要支援・要介護認定者調査>

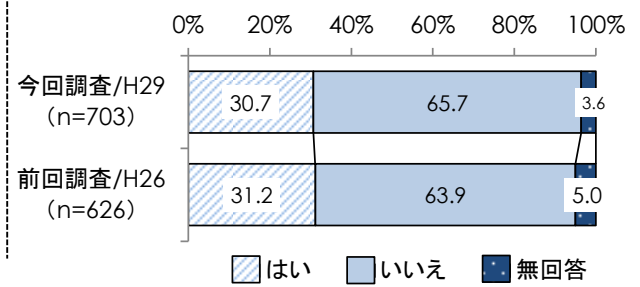
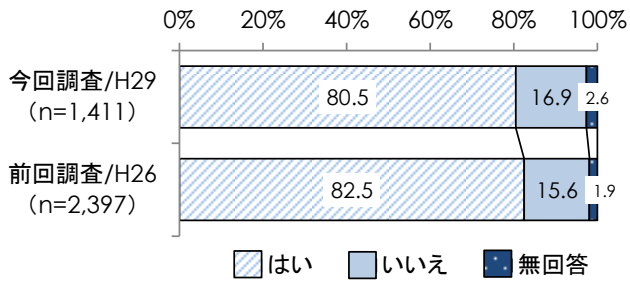
(13) 友人の家を訪ねていますか。



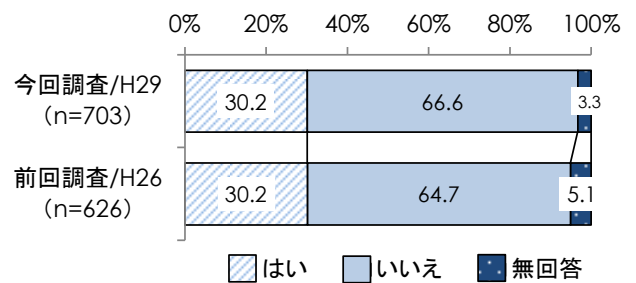
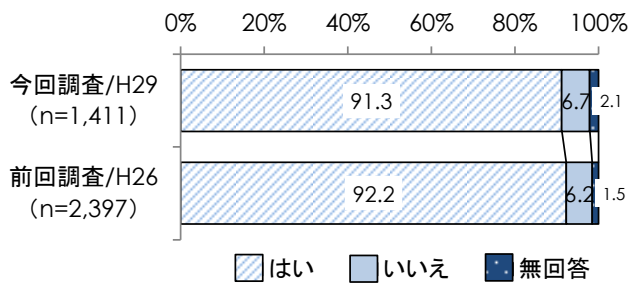
<一般高齢者調査>

<要支援・要介護認定者調査>

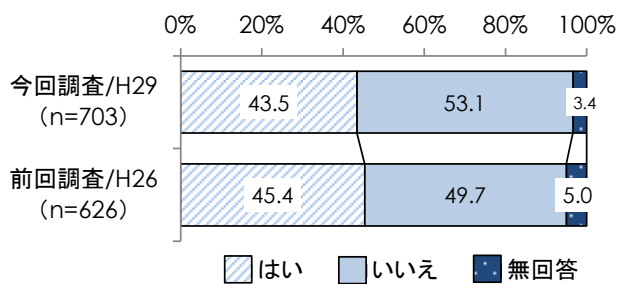
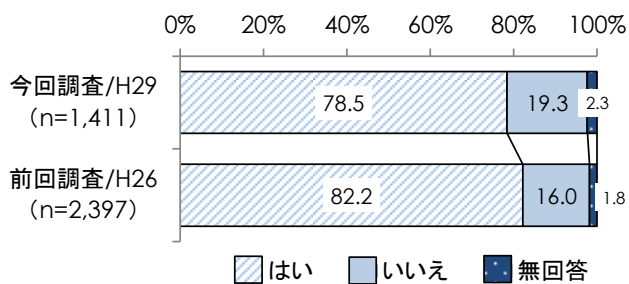
(14) 家族や友人の相談にのっていますか。



(15) 病人を見舞うことができますか。



(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか。

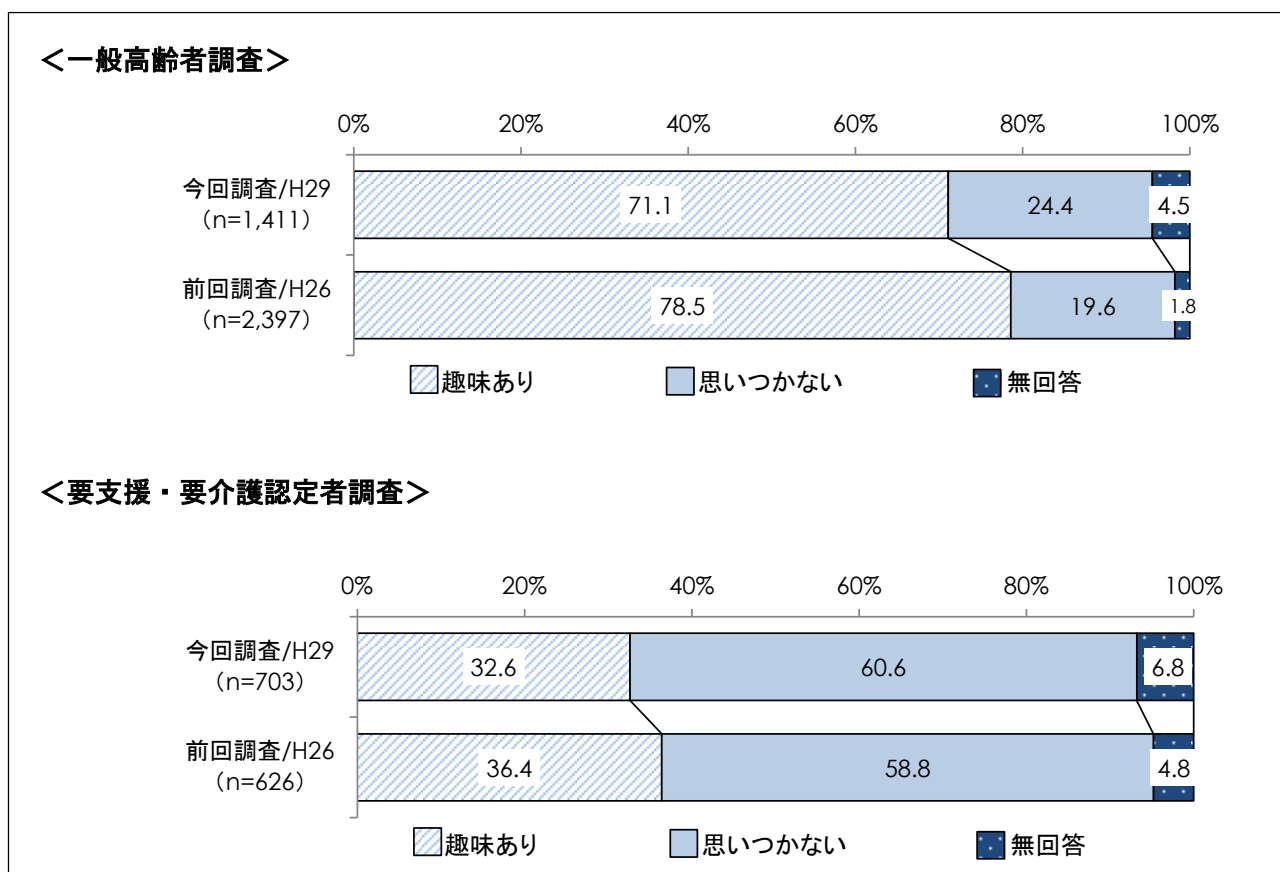


問4（17） 趣味はありますか。

趣味の有無について前回調査と比較すると、一般高齢者については「趣味あり」が、今回調査では71.1%と前回より7.4ポイント減少しています。

要支援・要介護認定者については「趣味あり」が、今回調査では32.6%と前回より3.8ポイント減少しています。

図表 141 趣味の有無について（前回との比較）



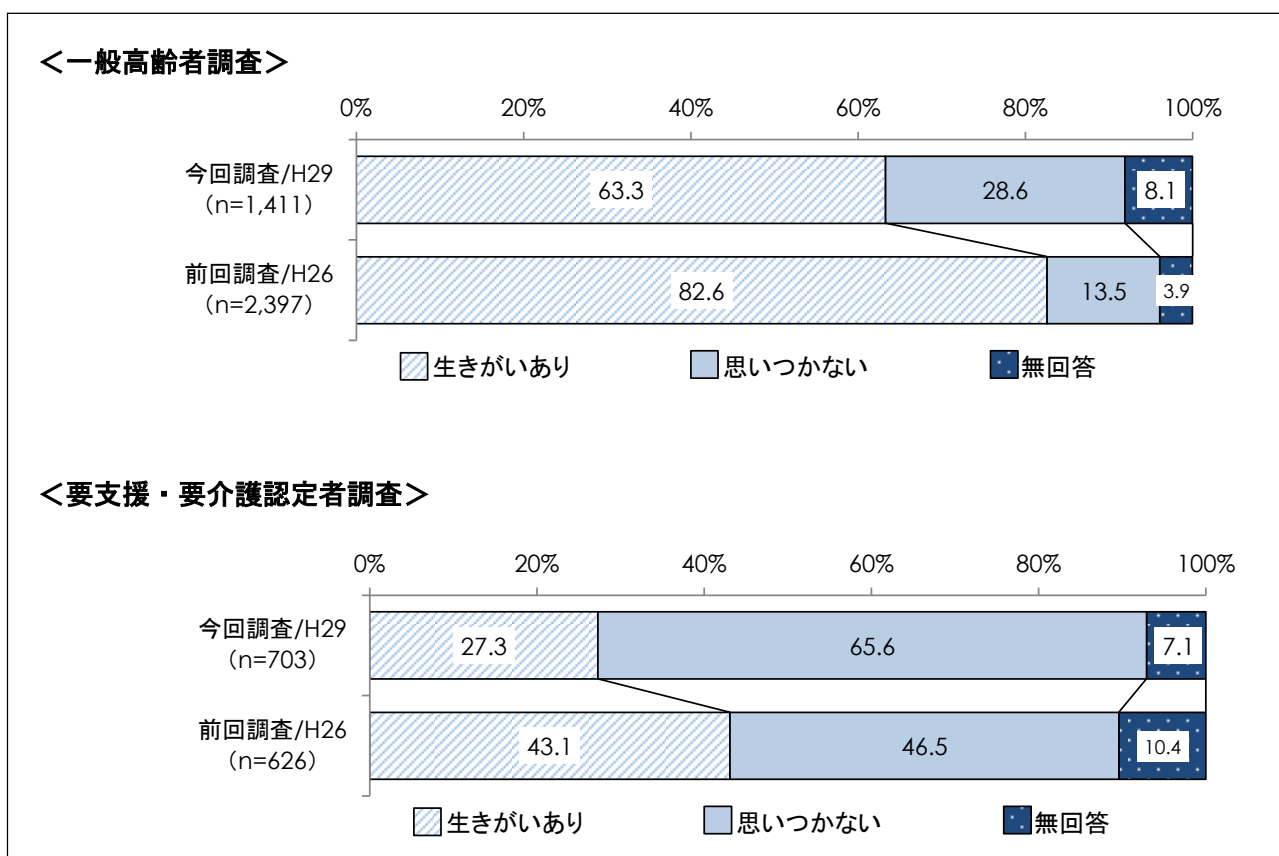
問4（18） 生きがいがありますか。

生きがいの有無について前回調査と比較すると、一般高齢者については、「生きがいあり」が、今回調査では63.3%と前回より19.3ポイント減少しています。

要支援・要介護認定者では「生きがいあり」が、今回は27.3%と前回より15.8ポイント減少しています。

一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに、生きがいを持った人の割合が大きく減少する結果となっています。

図表 142 生きがいについて（前回との比較）

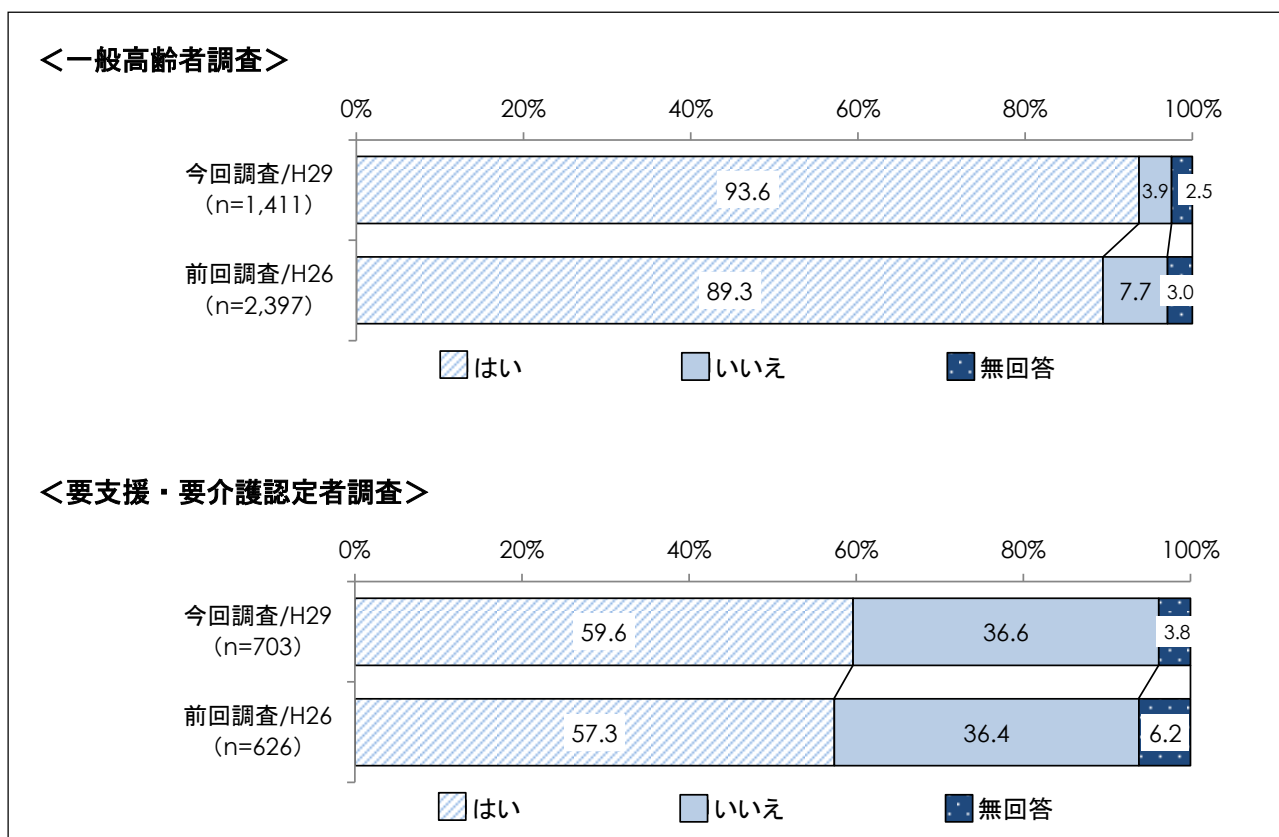


問4（19）5分前のことが思い出せますか。

5分前の事が思い出せるかについて前回調査と比較してみると、一般高齢者については、「はい」の割合が、今回調査では93.6%と前回より4.3ポイント増加しています。

要支援・要介護認定者については、「はい」が今回調査では59.6%と前回より2.3ポイント増加しています。

図表 143 5分前のことが思い出せるかについて（前回との比較）



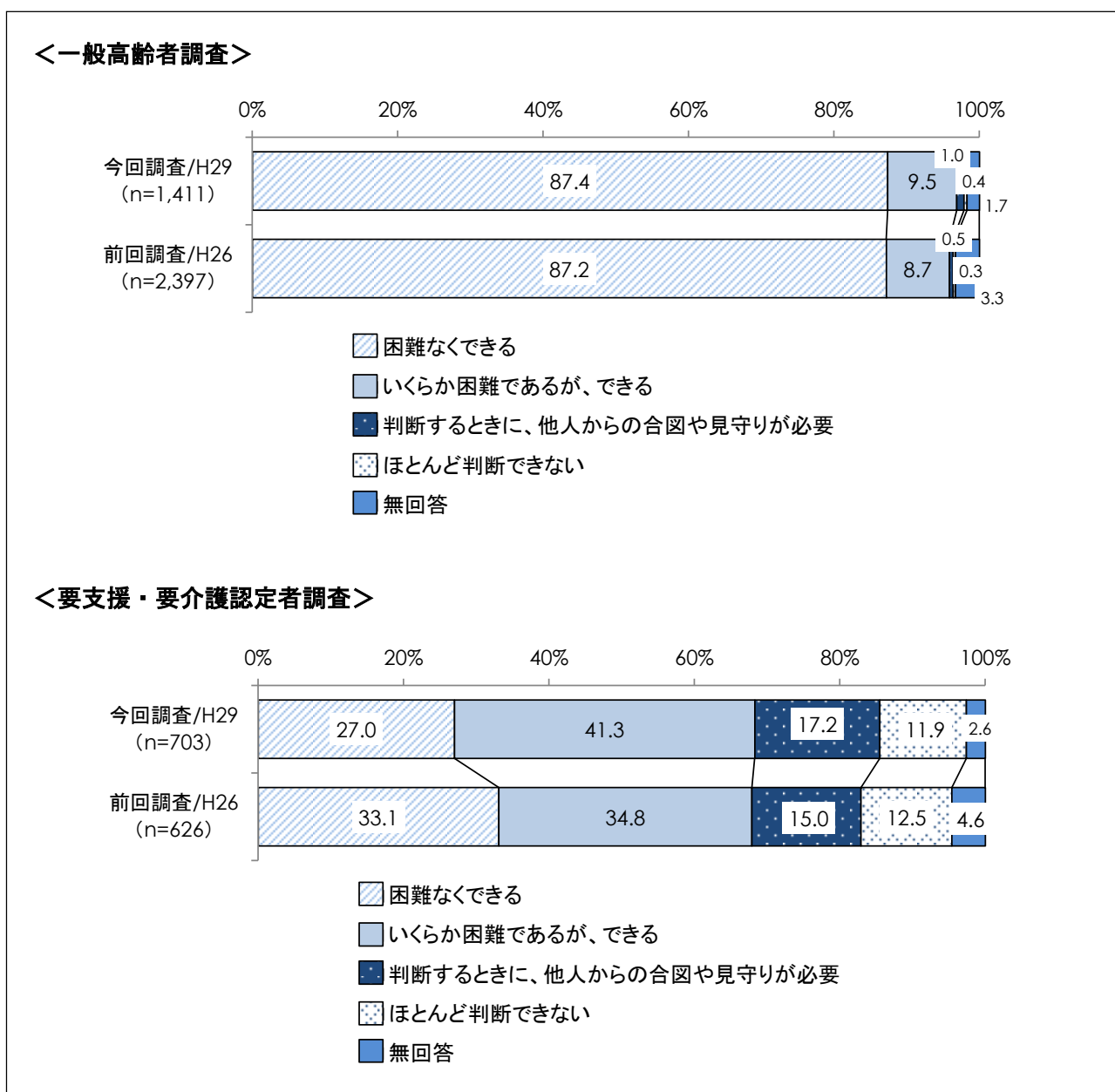
問4（20）その日の活動（食事をする，衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。

その日の活動の判断の可否について前回調査と比較すると，一般高齢者については前回とほぼ同様の結果となっています。

要支援・要介護認定者については，「困難なくできる」が，今回調査では27.0%と前回より6.1ポイント減少し，「いくらか困難であるが，できる」が，41.3%と前回より6.5ポイント増加しています。

「困難なくできる」と「いくらか困難であるができる」を合わせた『できる』の割合では，今回調査が68.3%，前回調査が67.9%となっており，大きな変化はみられません。

図表 144 その日の活動の判断の可否について（前回との比較）

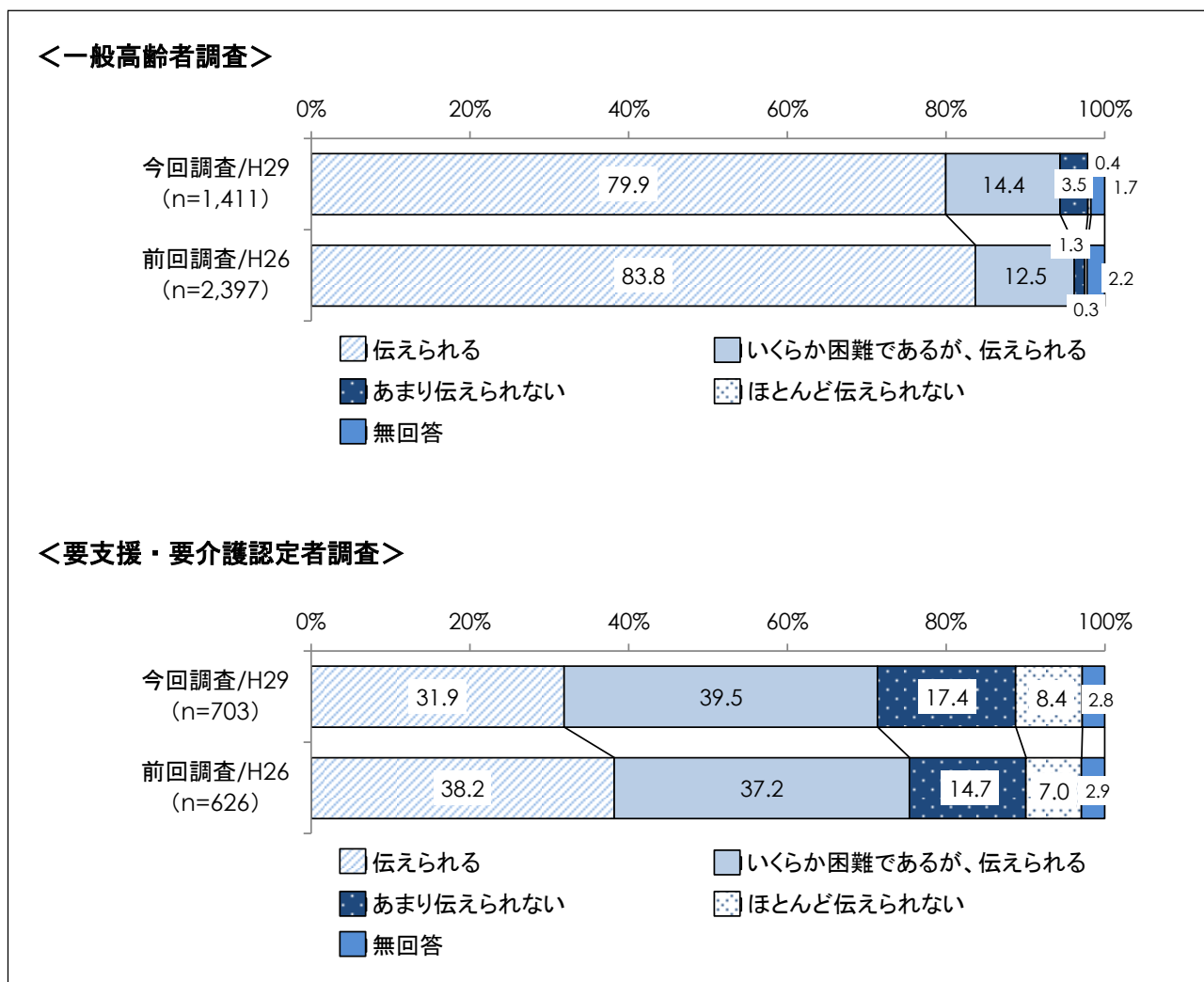


問4（21）人に自分の考えをうまく伝えられますか。

人に自分の考えをうまく伝えられるかについて前回調査と比較すると、一般高齢者については、「伝えられる」の割合が、今回調査では79.9%と前回より3.9ポイント減少しています。

要支援・要介護認定者については、「伝えられる」の割合が、今回調査では31.9%と前回より6.3ポイント減少しています。

図表 145 自分の考えをうまく伝えられるかについて（前回との比較）



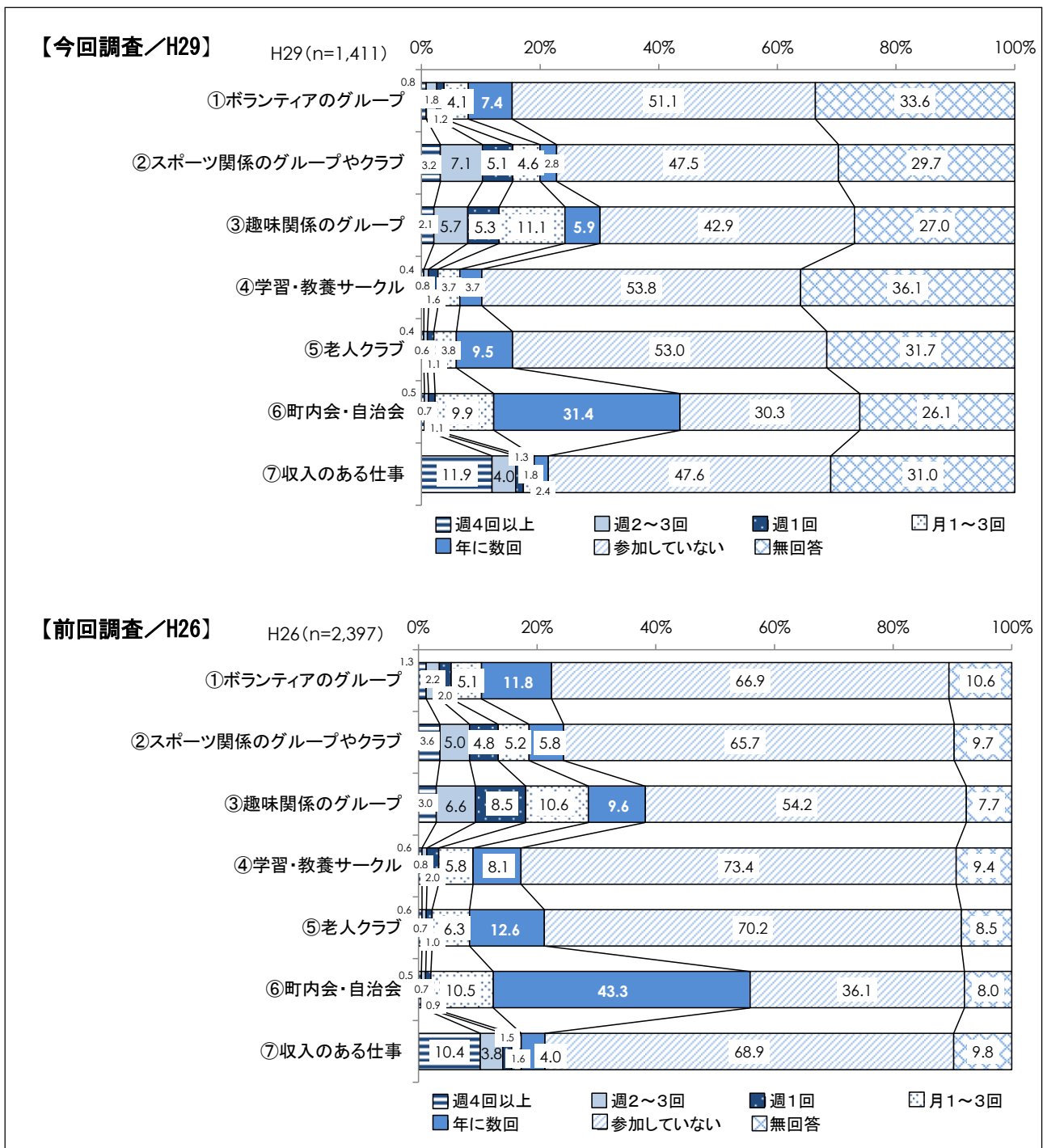
## 5 地域での活動について

問5(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

社会参加の状況について前回調査と比較すると、一般高齢者では、「⑥町内会・自治会」の「年に数回参加」の割合が今回調査では31.4%と前回より11.9ポイント減少しています。

要支援・要介護認定者については、「年に数回参加」の割合が「③趣味関係のグループ」では1.8%と前回より2.4ポイント減少、「⑥町内会・自治会」では8.7%と2.2ポイント減少しています。

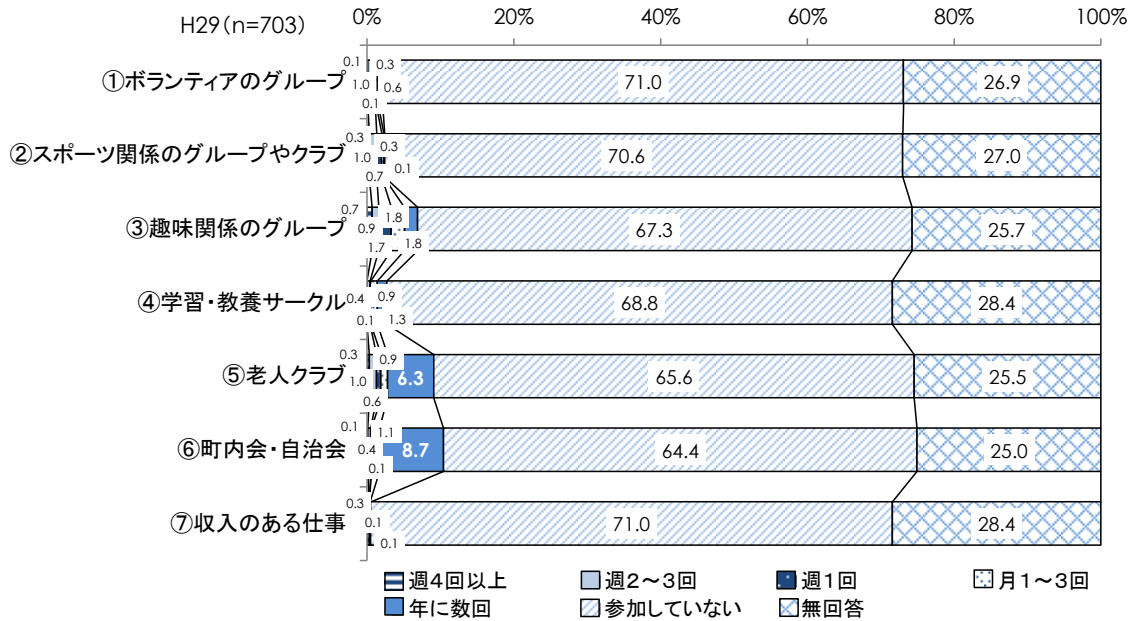
図表 146 社会参加の状況＜一般高齢者調査＞（前回との比較）



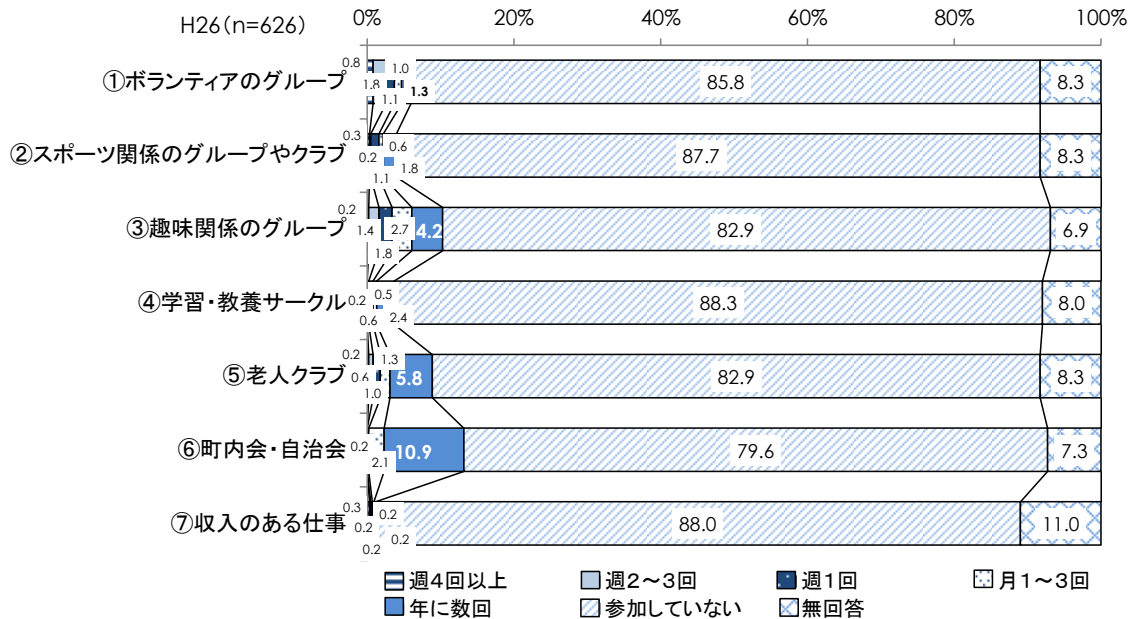


図表 147 社会参加の状況<要支援・要介護認定者調査> (前回との比較)

【今回調査／H29】



【前回調査／H26】



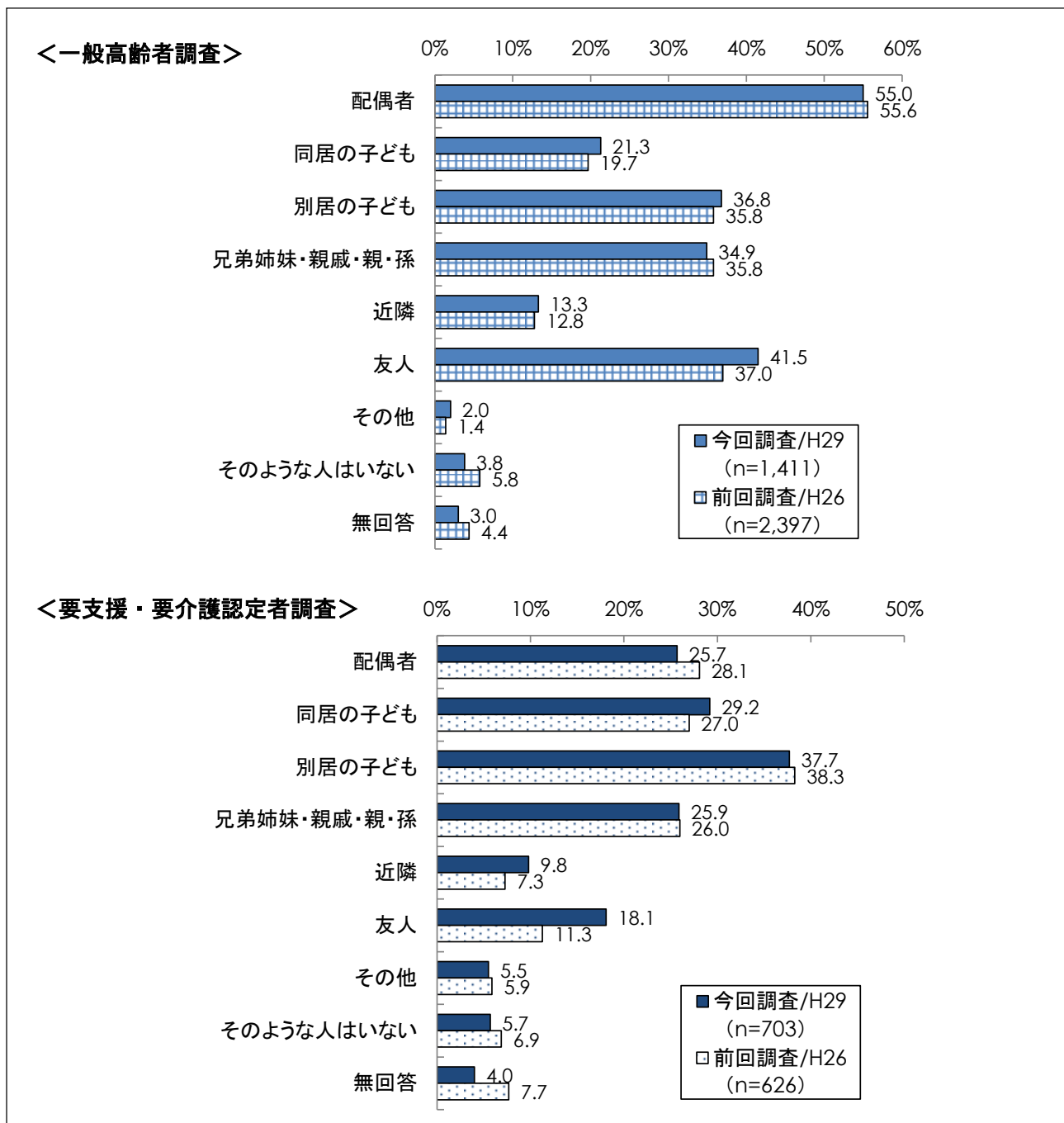
## 6 たすけあいについて

問6(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人について前回調査と比較すると、一般高齢者では第2位の「友人」の割合が、今回調査では41.5%と前回より4.5ポイント増加しています。

要支援・要介護認定者では、前回とほぼ同様の結果となっています。

図表 148 心配事や愚痴を聞いてくれる人（前回との比較／複数回答）

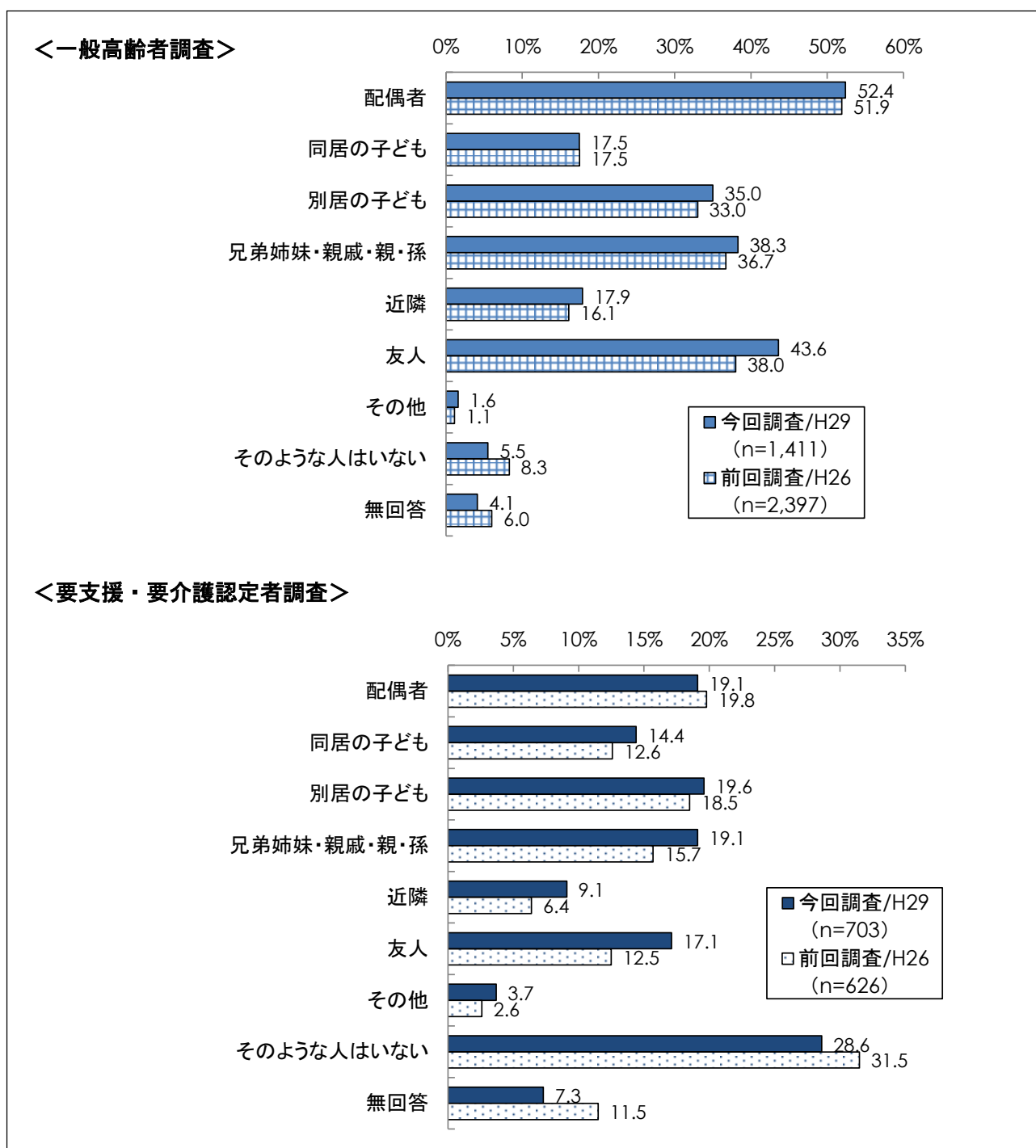


問6（2） 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。（いくつでも）

反対に心配事や愚痴を聞いてあげる人について前回調査と比較すると、一般高齢者では前回と同様の結果となっています。

要支援・要介護認定者では、前回調査では第2位が「配偶者」、第3位が「別居の子ども」となっていますが、今回調査では第2位が「別居の子ども」、第3位が「配偶者」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」となっており、順位に変化がみられます。

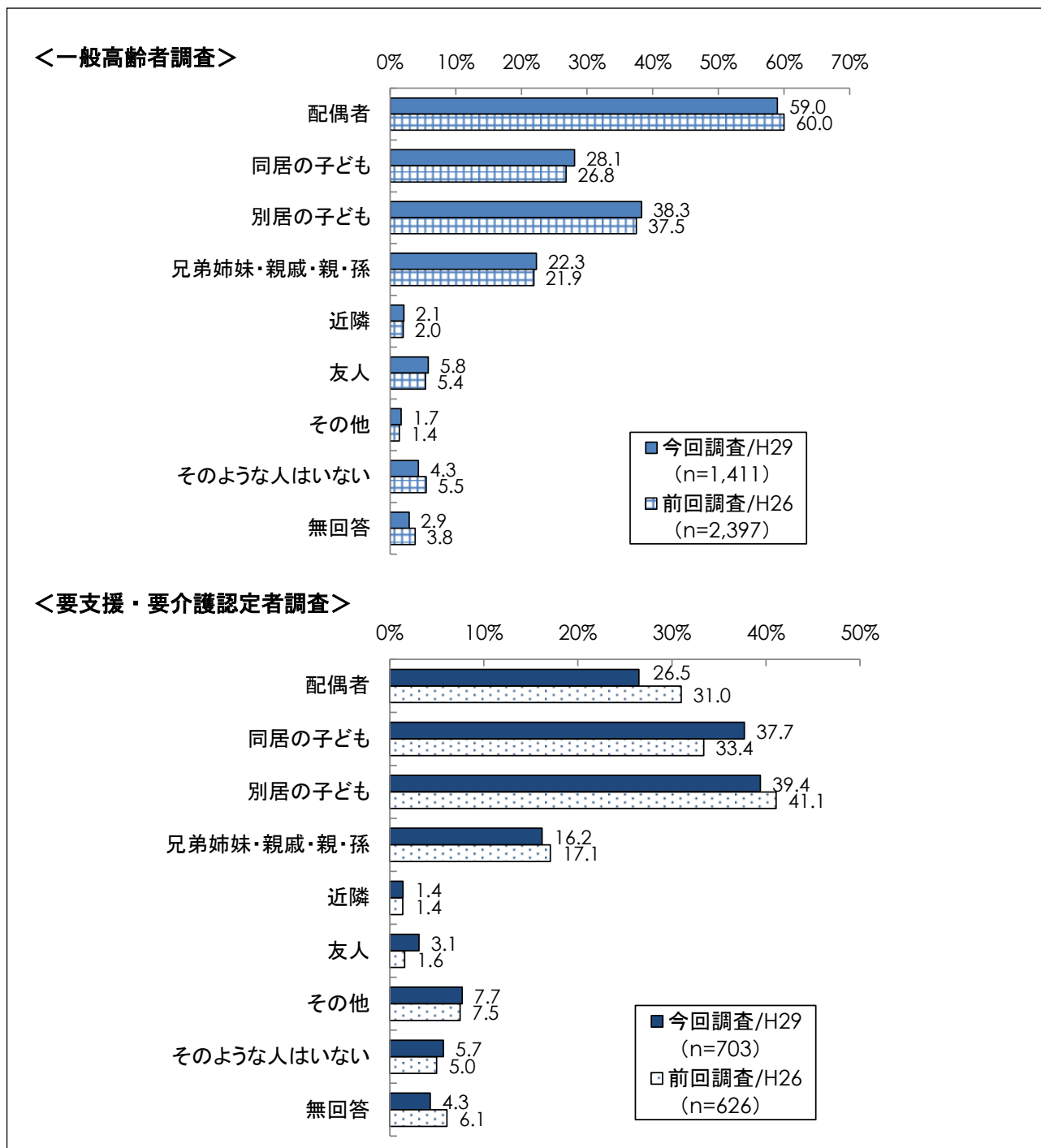
図表 149 心配事や愚痴を聞いてあげる人（前回との比較／複数回答）



問6（3） あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。（いくつでも）

看病や世話をしてくれる人について前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに、前回と同様の結果となっています。

図表 150 看病や世話をしてくれる人（前回との比較／複数回答）

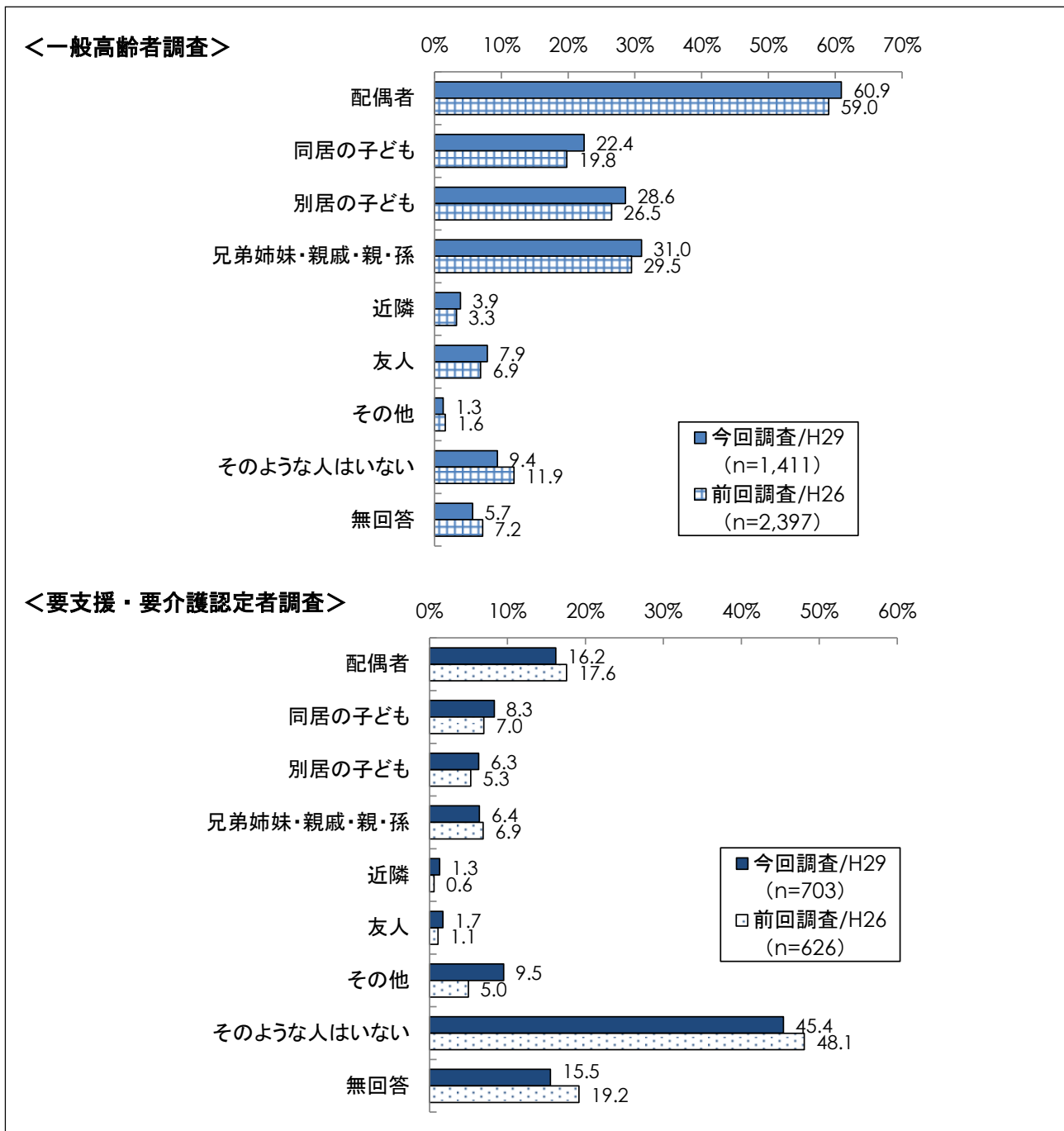


問6（4） 反対に、看病や世話をしあける人。（いくつでも）

看病や世話をしあける人について前回調査と比較すると、一般高齢者では、前回と同様の結果となっています。

要支援・要介護認定者では、第1位、第2位に変化はありません。第3位が、前は「同居の子ども」でしたが、今回の調査では「その他」となっています。

図表 151 看病や世話をしあける人（前回との比較／複数回答）

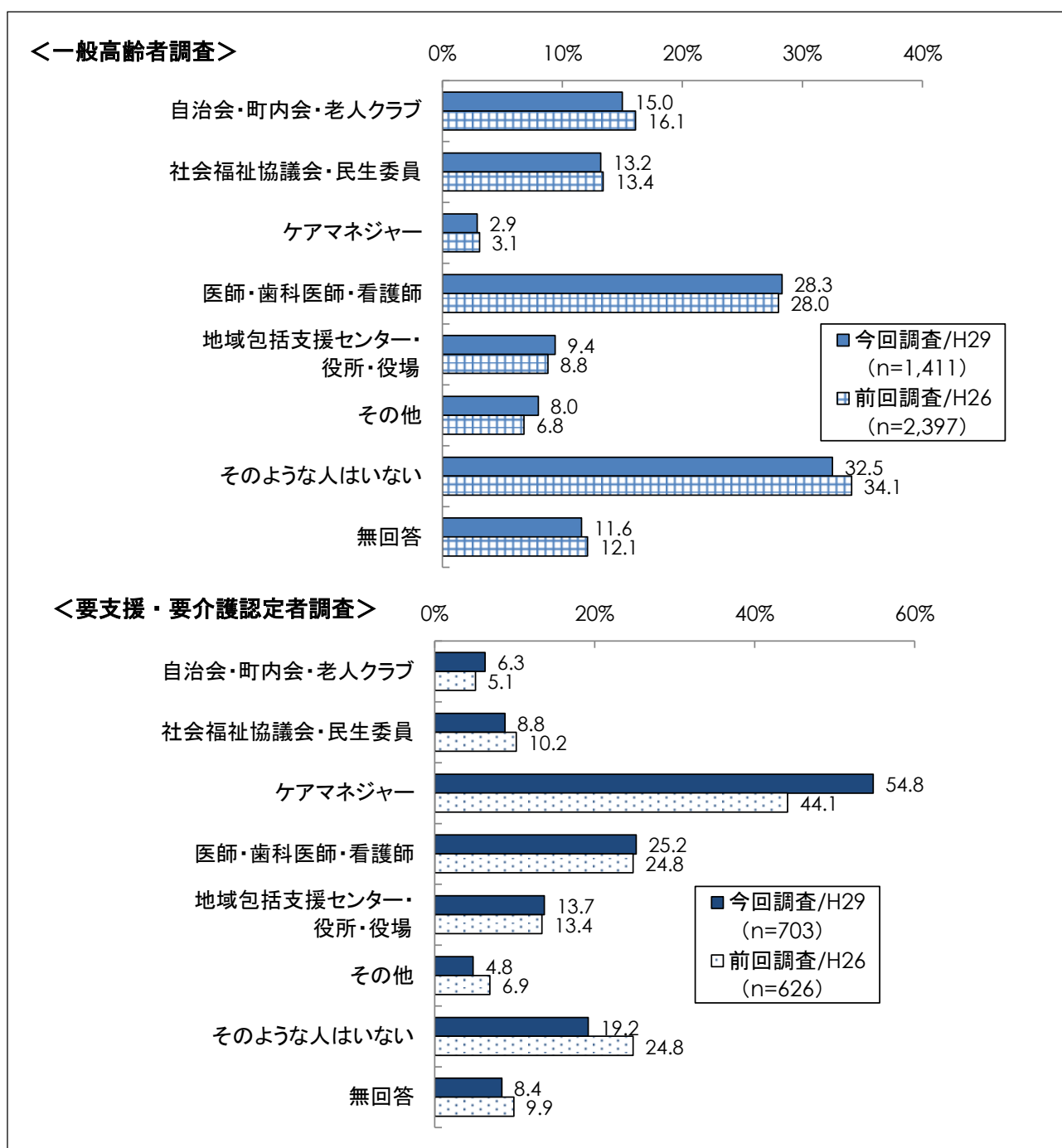


問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。  
(いくつでも)

何かあった時に相談する相手について前回調査と比較すると、一般高齢者では前回と同様の結果となっています。

要支援・要介護認定者では、順位変動はみられませんが、「ケアマネジャー」の割合が、今回調査では54.8%と前回より10.7ポイント増加しており、相談相手としてのケアマネジャーの役割が大きくなっています。

図表 152 何かあったときに家族や友人・知人以外で相談する相手（前回との比較／複数回答）

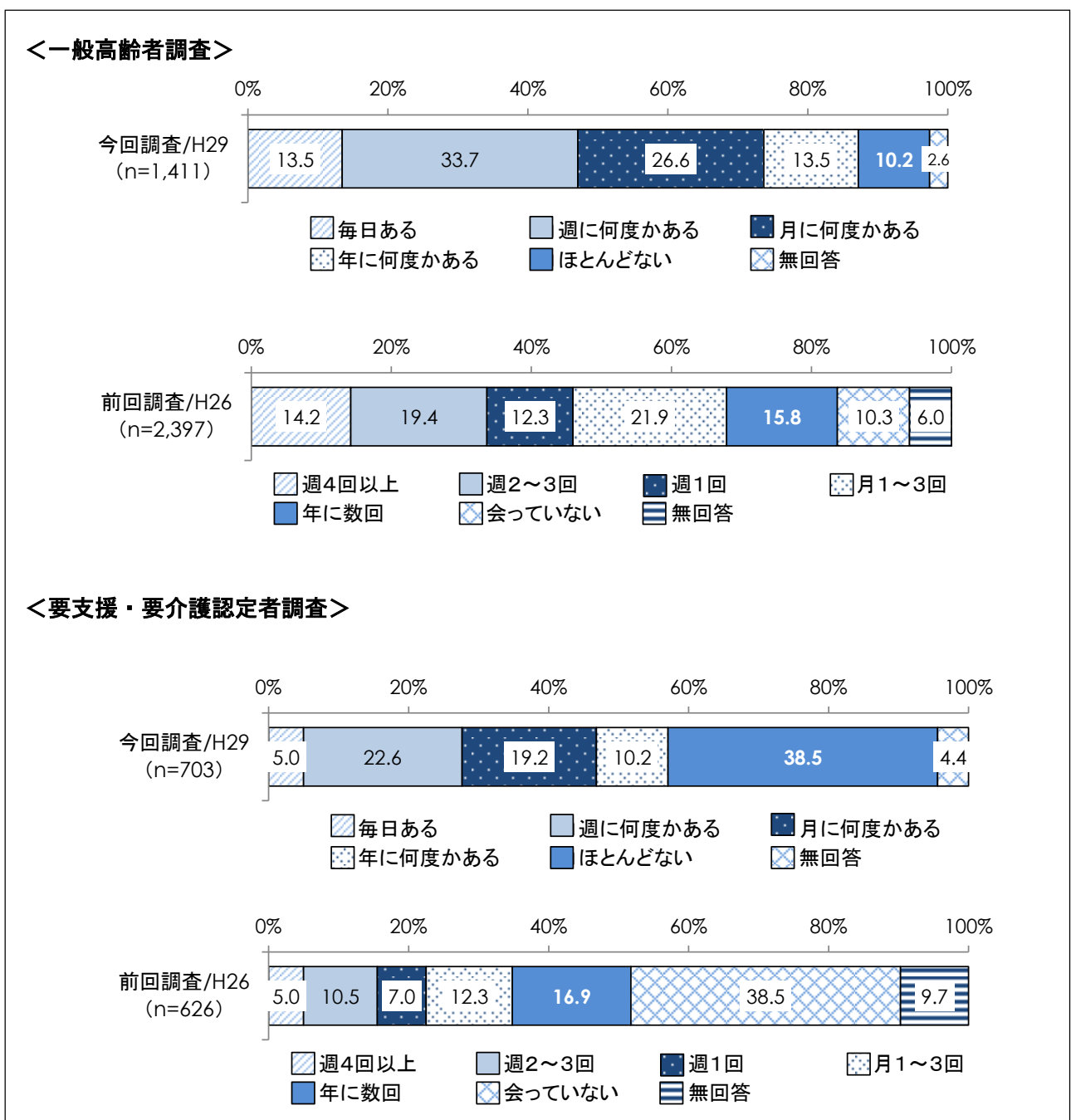


問6（6） 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度について、今回調査での「月に何度かある」と前回調査での「月1～3回」を比較すると、一般高齢者については、今回調査（26.6%）では前回（21.9%）よりも4.7ポイント増加しています。「年に何度かある（年に数回）」、「ほとんどない（会っていない）」については前回の結果と大差はみられません。

要支援・要介護認定者についても同様に比較すると、「月に何度かある（月1～3回）」は今回調査では19.2%と6.9ポイント増加しています。一方、「年に何度かある（年に数回）」は今回調査では10.2%と6.7ポイント減少しています。

図表 153 友人・知人と会う頻度（前回との比較）

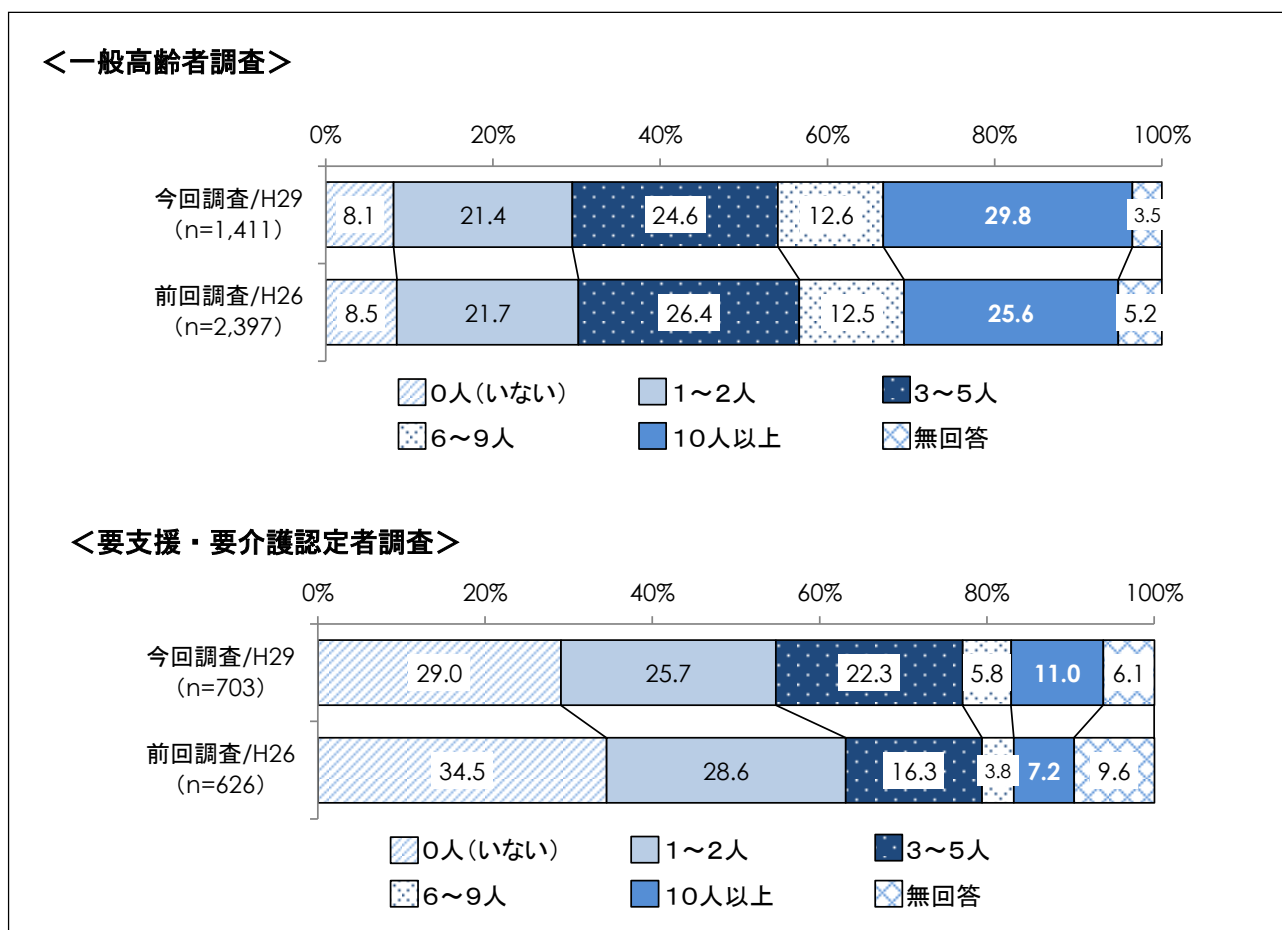


問6（7） この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。  
 （同じ人には何度会っても1人と数えることとします）

この1か月間に会った友人・知人の人数について、前回調査と比較すると、一般高齢者については、「10人以上」が今回調査では29.8%と前回（25.6%）よりも4.2ポイント増加しています。

要支援・要介護認定者については「0人（いない）」が今回調査では29.0%と前回（34.5%）より5.5ポイント減少しています。一方、「3～5人」は今回調査では22.3%と前回（16.3%）よりも6.0ポイント増加しています。

図表 154 1か月間に会った友人・知人の人数（前回との比較）

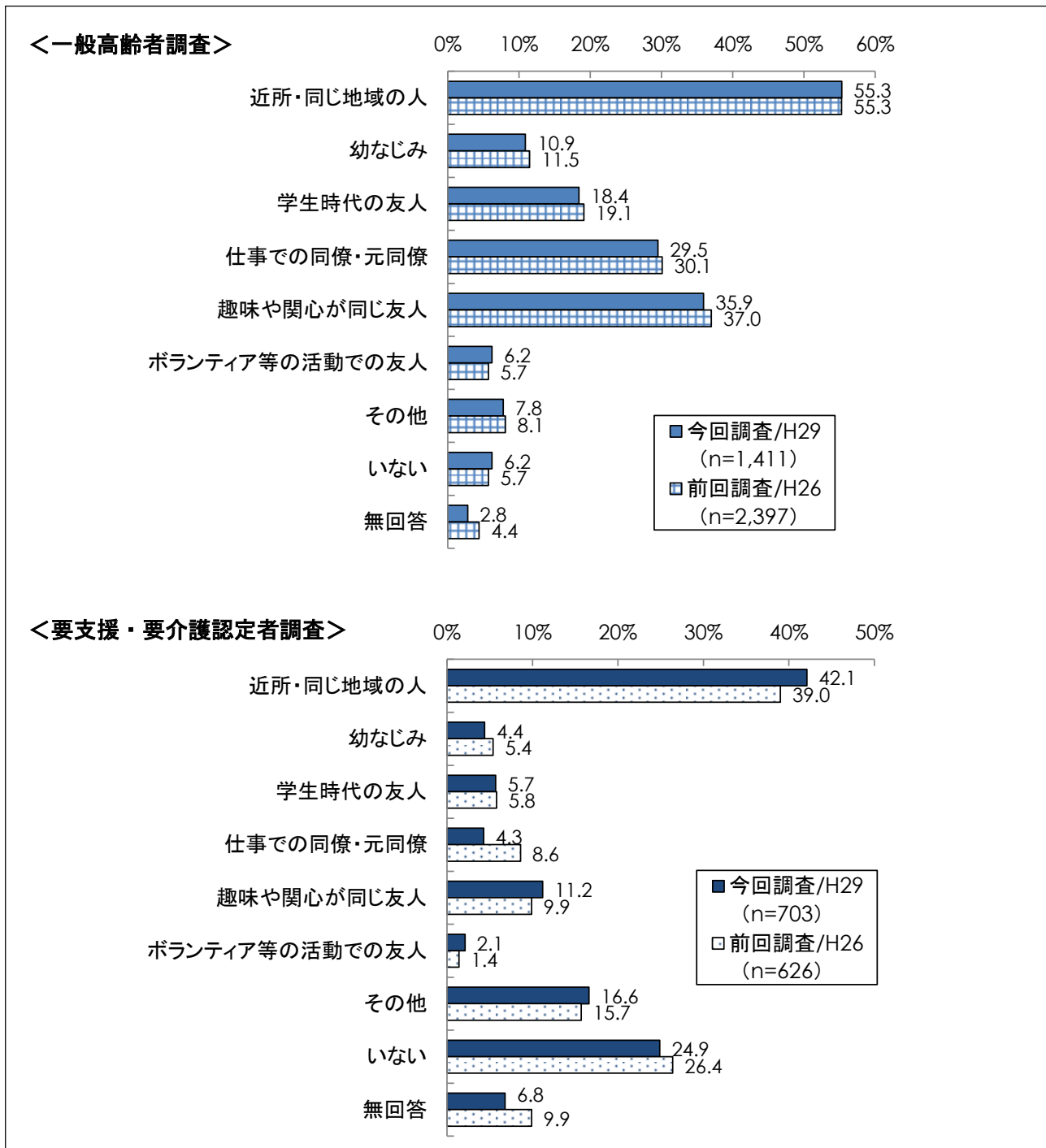




問6（8） よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

よく会う友人・知人との関係について、前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援認定者ともに順位に変化はみられません。

図表 155 よく会う友人・知人との関係（前回との比較／複数回答）



## 7 健康について

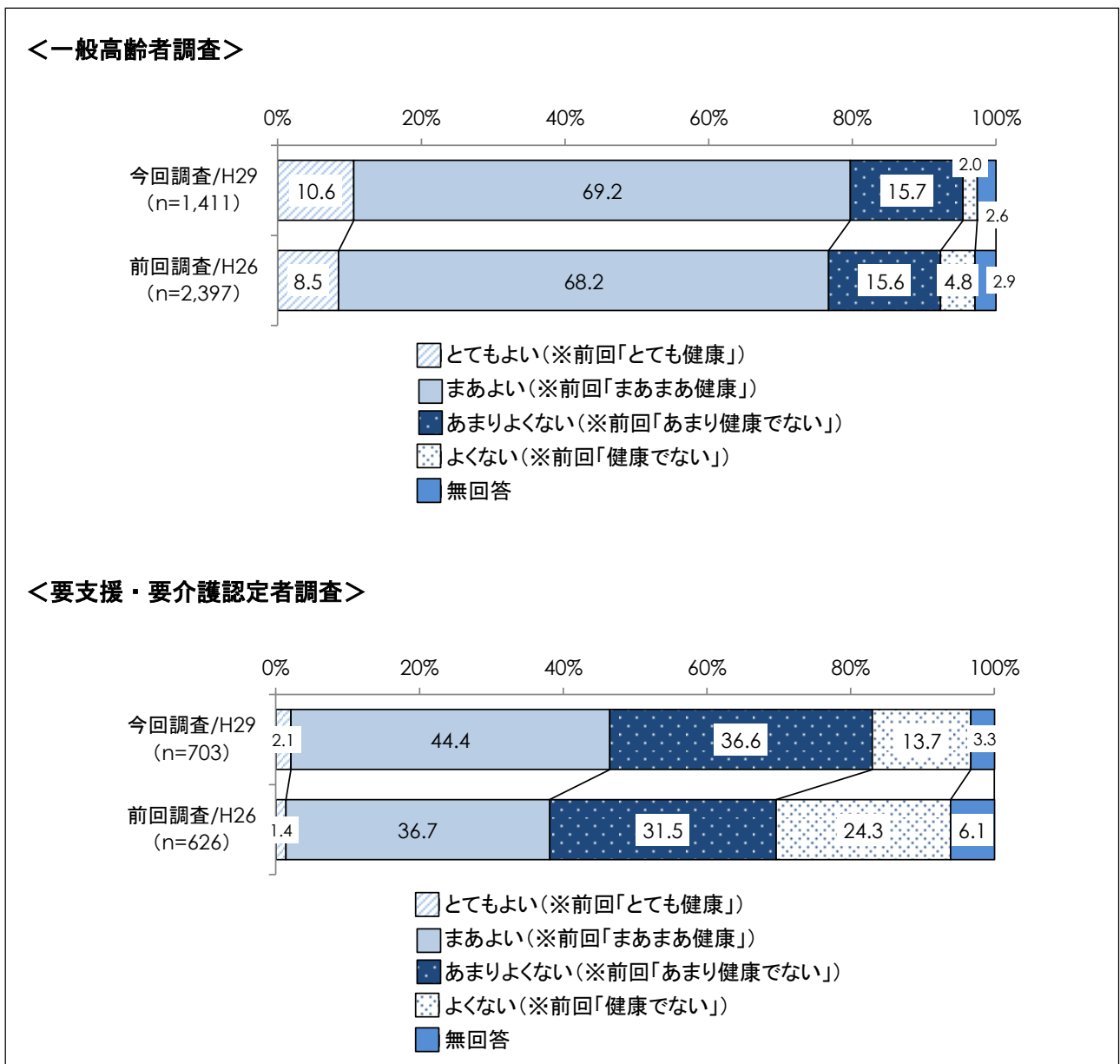
問7（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態について、「とてもよい（とても健康）」と「まあよい（まあまあ健康）」を合わせた『よい』の割合を前回調査と比較すると、一般高齢者については、今回調査では79.8%と前回(76.7%)よりも3.1ポイント増加しています。

要支援・要介護認定者についても同様に比較すると、今回調査では46.5%と前回（38.1%）を8.4ポイント大きく上回っています。

一般高齢者、要支援・要介護認定者ともに健康状態が『よい』が前回に比べて増加傾向となっています。

図表 156 現在の健康状態について（前回との比較）

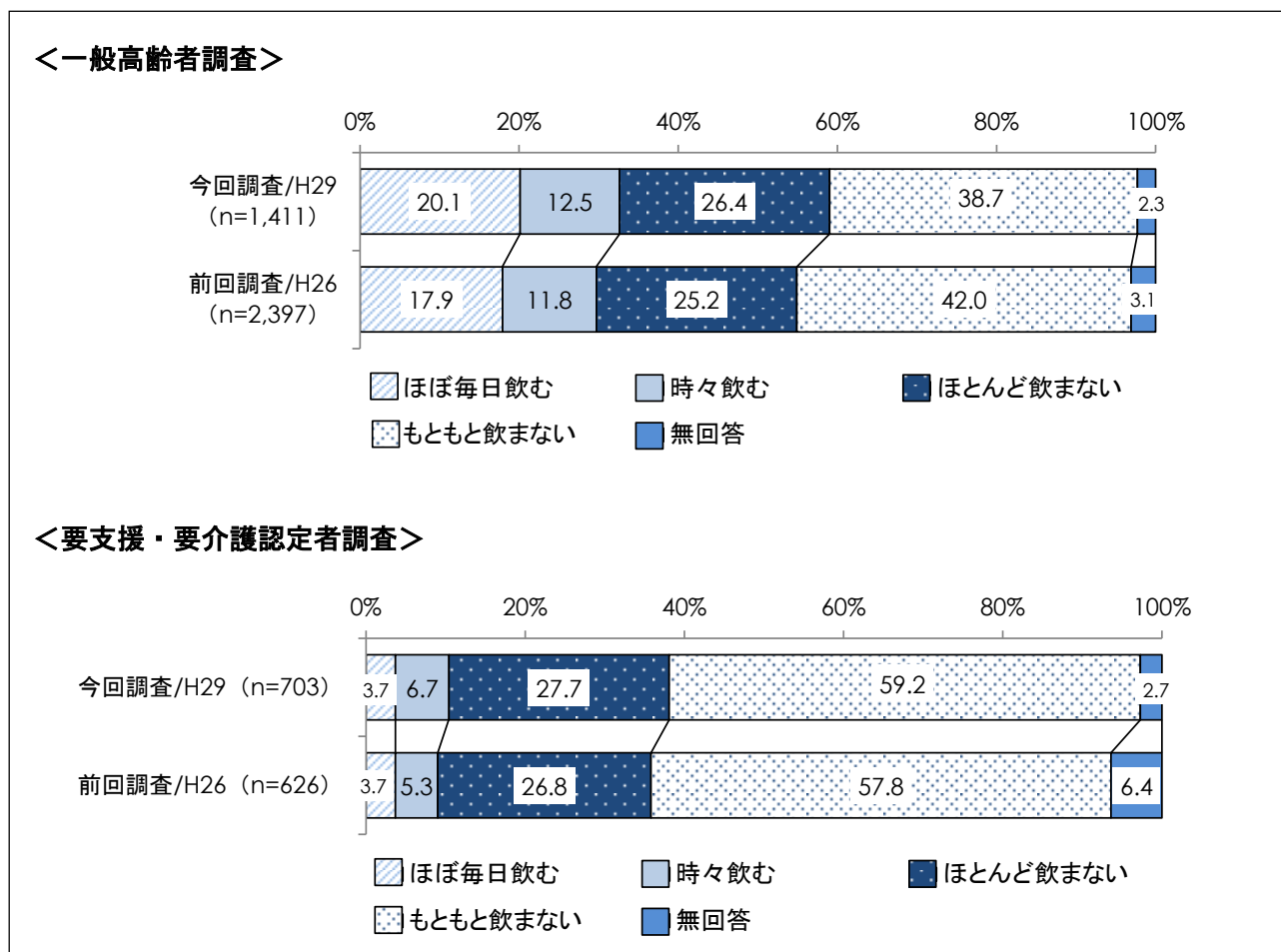


問7（5）お酒は飲みますか。

飲酒の習慣について、前回調査と比較すると、一般高齢者については、「もともと飲まない」が今回調査では38.7%と前回（42.0%）よりも3.3ポイント減少しています。一方、「ほぼ毎日飲む」が2.2ポイント、「時々飲む」は0.7ポイント増加し、飲酒の習慣のある人の割合がやや増えています。

要支援・要介護認定者では、「時々飲む」が1.4ポイントやや増加しているものの、「ほとんど飲まない」が0.9ポイント、「もともと飲まない」が1.4ポイント増加しており、飲酒習慣の無い人が若干増加しています。

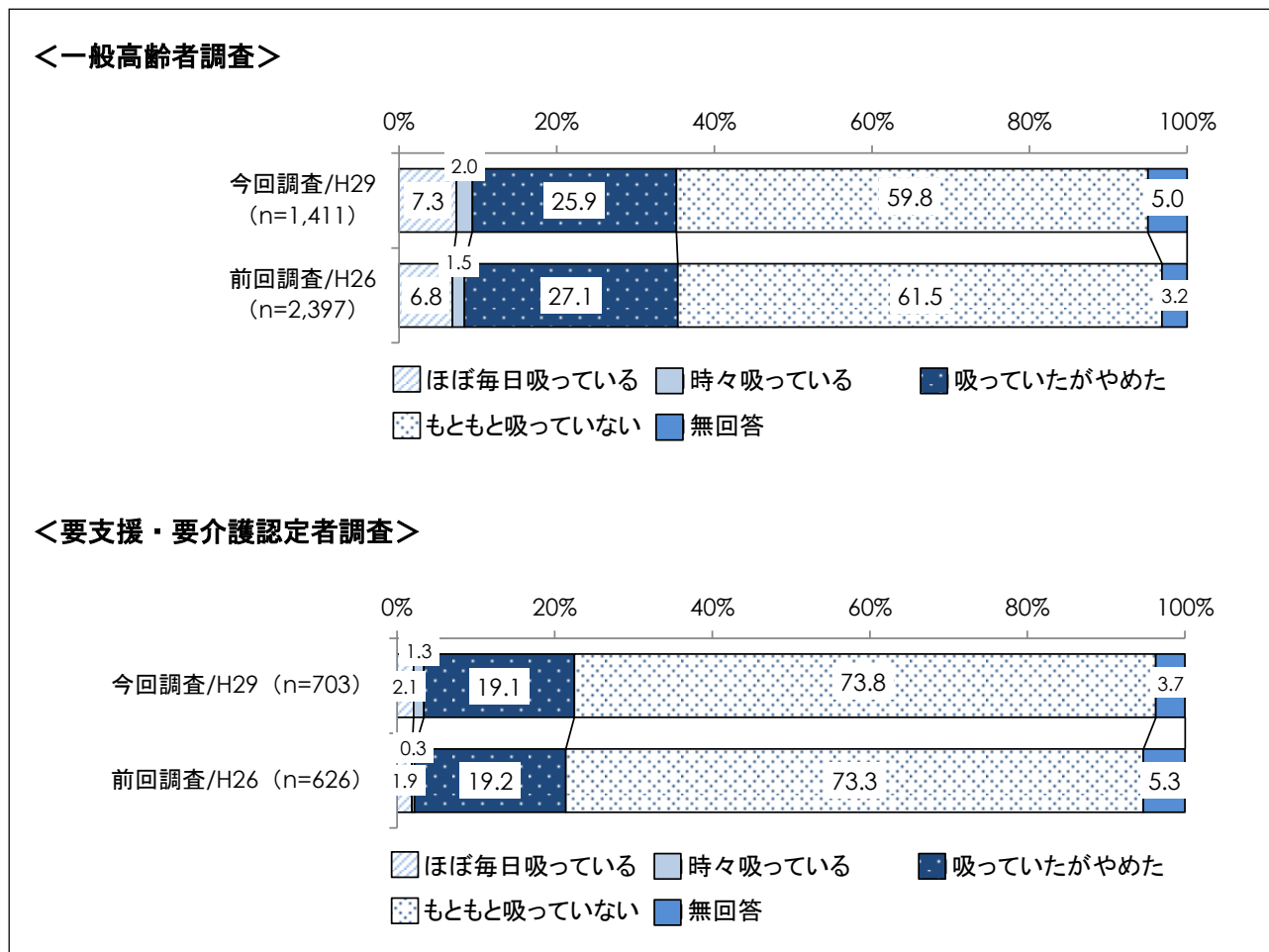
図表 157 飲酒の習慣について（前回との比較）



問7 (6) タバコは吸っていますか。

喫煙の習慣について、前回調査と比較すると、一般高齢者については、「吸っていたがやめた」が1.2ポイント、「もともと吸っていない」が1.7ポイント減少しています。一方、「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」の割合は若干増加しており、喫煙習慣のある人がやや増加傾向にあります。要支援・要介護認定者では、概ね前回と同様の結果となっています。

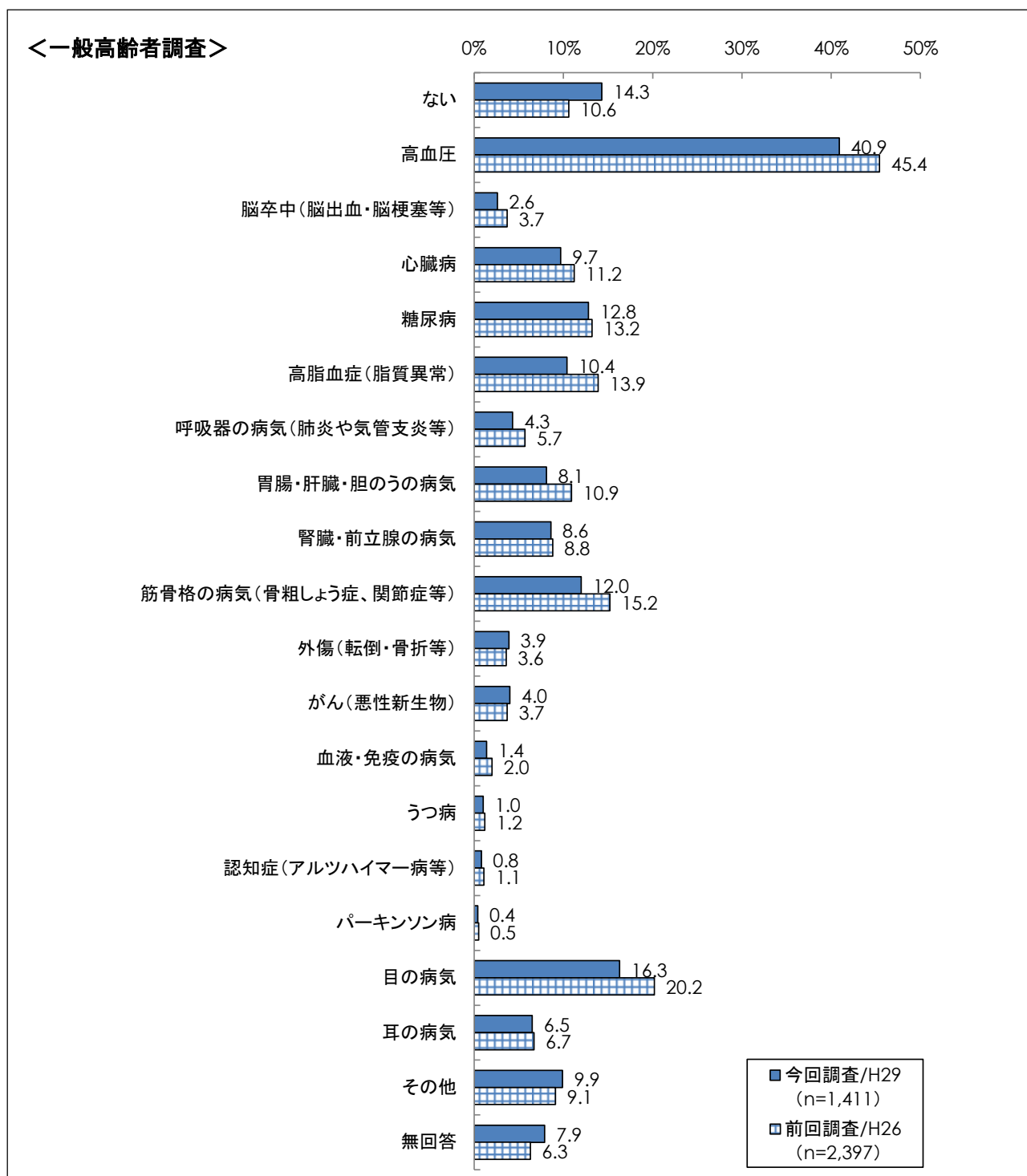
図表 158 喫煙の習慣について（前回との比較）



問7（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（いくつでも）

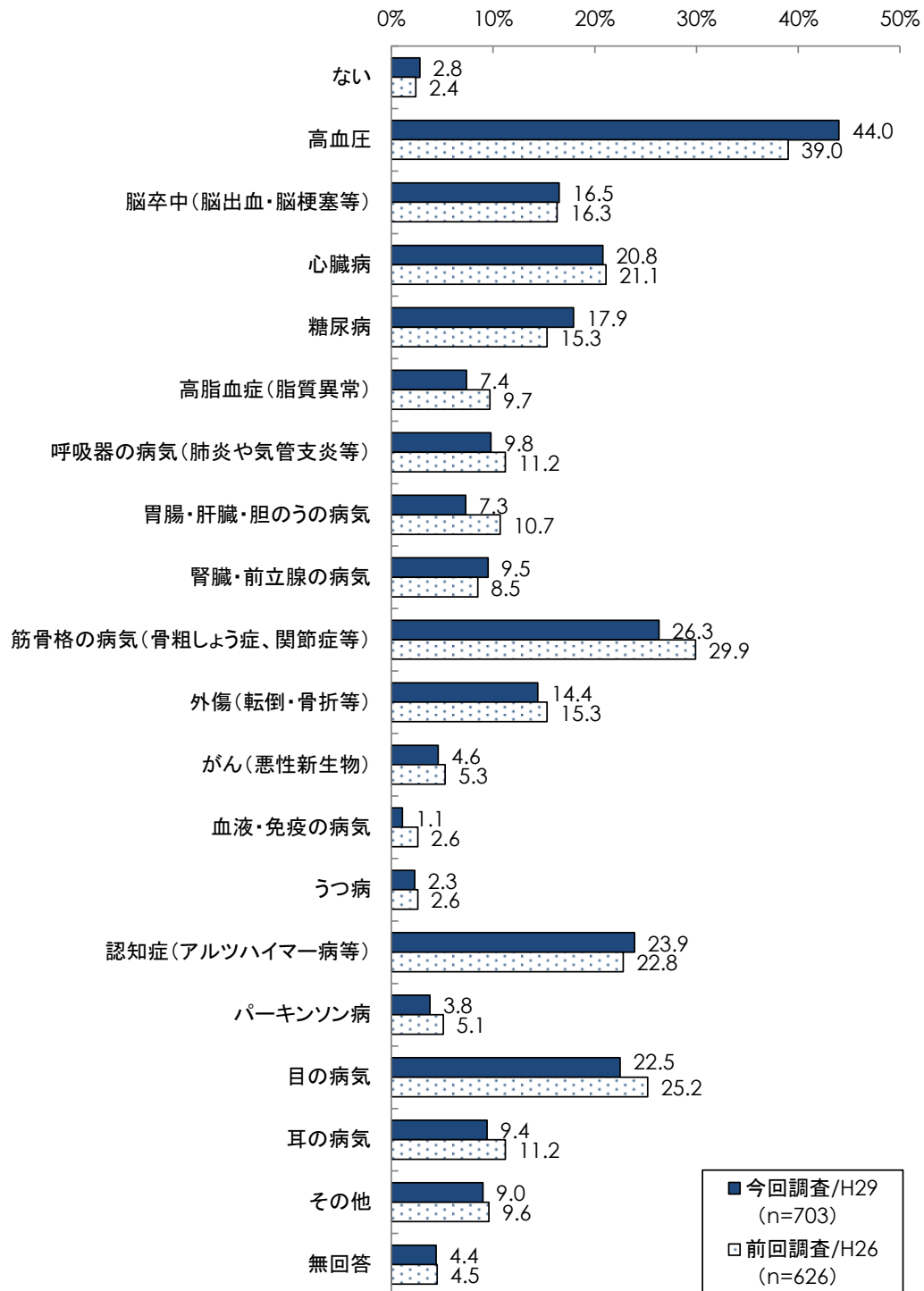
現在治療中、または後遺症のある病気について、前回調査と比較すると、一般高齢者については、上位2位までは変わらず、第3位については前回では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」でしたが、今回調査では「ない」となっています。要支援・要介護認定者については、前回調査では「目の病気」が第3位でしたが、今回調査では「認知症」となっています。

図表 159 現在治療中、または後遺症のある病気について（前回との比較／複数回答）



図表 160 現在治療中、または後遺症のある病気について（前回との比較／複数回答）

<要支援・要介護認定者調査>

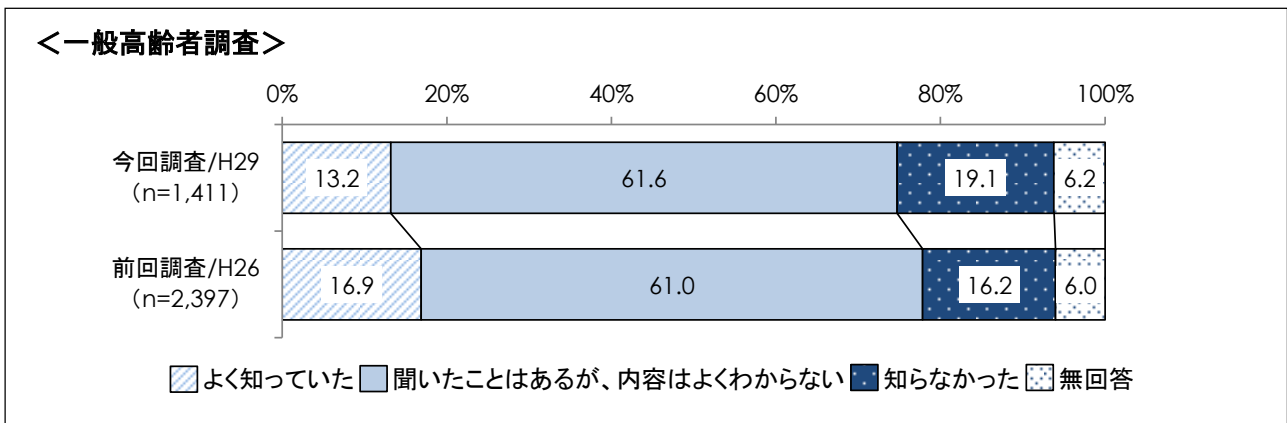


## 8-1 介護・福祉サービスについて〈一般高齢者調査〉

問8（1）平均寿命が80歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命をも伸ばすことが大切です。そのためには常日頃から高齢者の皆さん自らが介護予防を行う手助けとして市町では様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う介護予防事業について当てはまるものを1つだけ選んでください。

介護予防事業の認知度について前回調査と比較すると、「よく知っていた」が3.7ポイント減少し、13.2%となっています。また、「知らなかった」は2.9ポイント増加し、19.1%となっており、認知度はやや下がり気味の結果となっています。

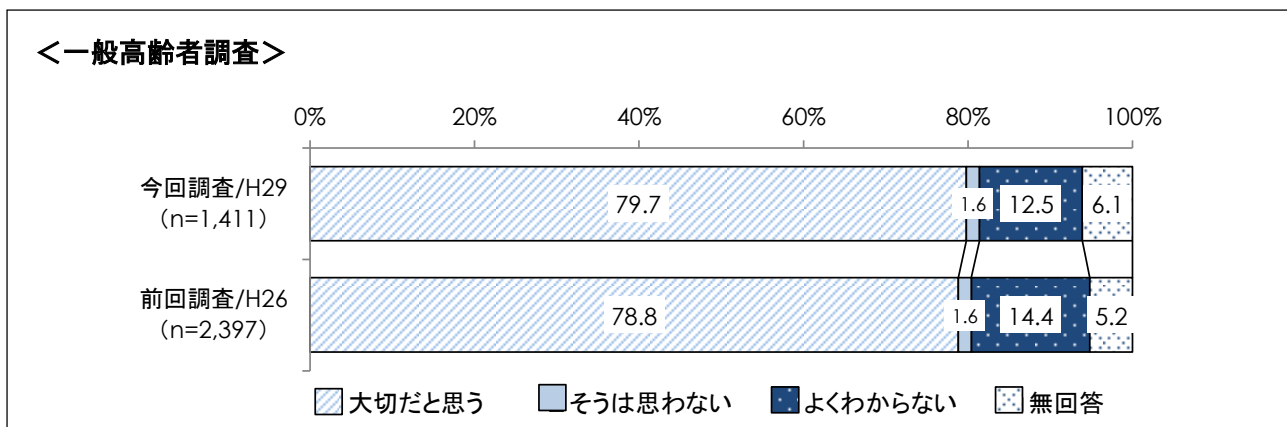
図表 161 介護予防事業の認知度（前回との比較）



問8（2） 介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思いますか。

介護予防の取り組みを推進することについて前回調査と比較すると、概ね前回と同様の結果となっています。

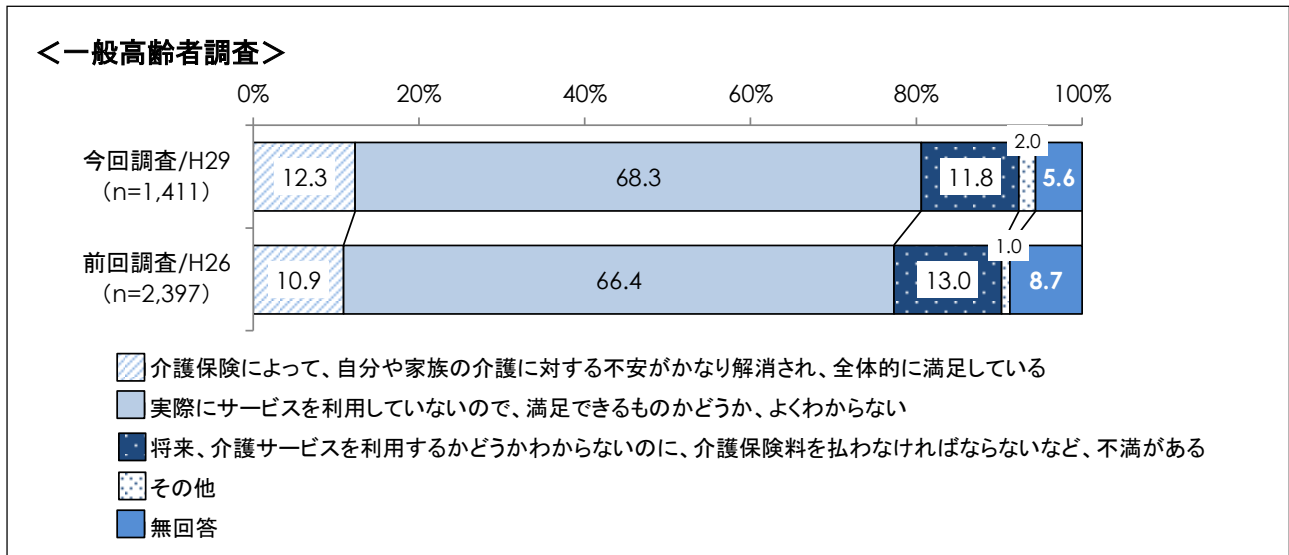
図表 162 介護予防の取り組みについて（前回との比較）



問8(3) 現在の介護保険に対するあなたの評価として一番近いものを1つだけ選んでください。

現在の介護保険に対する評価について、前回調査と比較すると、「実際にサービスを利用していないので、満足できるものかどうか、よくわからない」との回答が最も多く、前回より1.9ポイント増加しているものの、大きな変化はみられません。

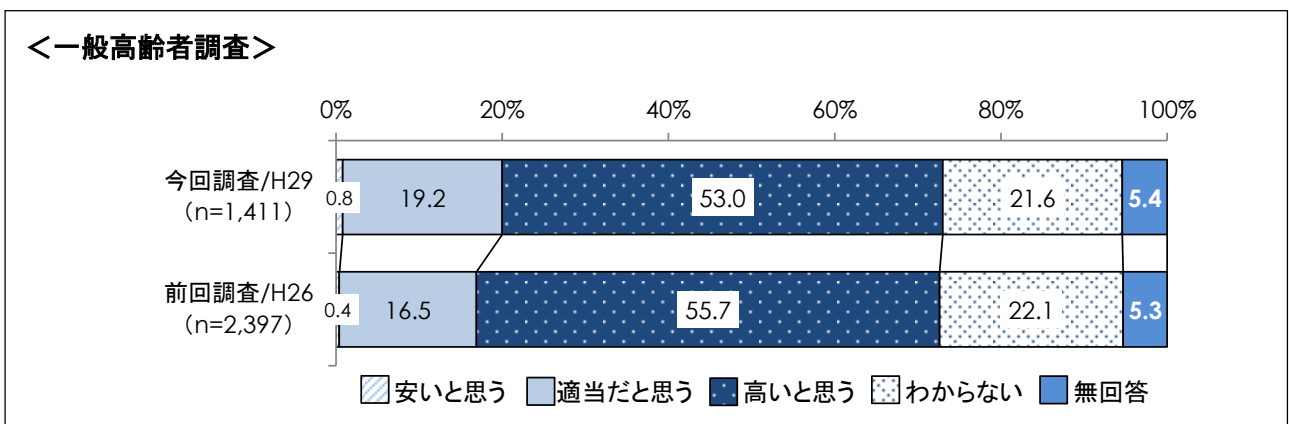
図表 163 介護保険に対する評価（前回との比較）



問8(4) 現在納付されている介護保険料の額についてどのように感じていますか。  
あてはまるものを1つだけ選んでください。

現在納付されている介護保険料の額について、前回調査と比較すると、「適当だと思う」が2.7ポイント増加し、「高いと思う」が2.7ポイント減少しています。前回に比べると、介護保険料の額は「適当だ」と感じている人が増加しています。

図表 164 介護保険料の額について（前回との比較）

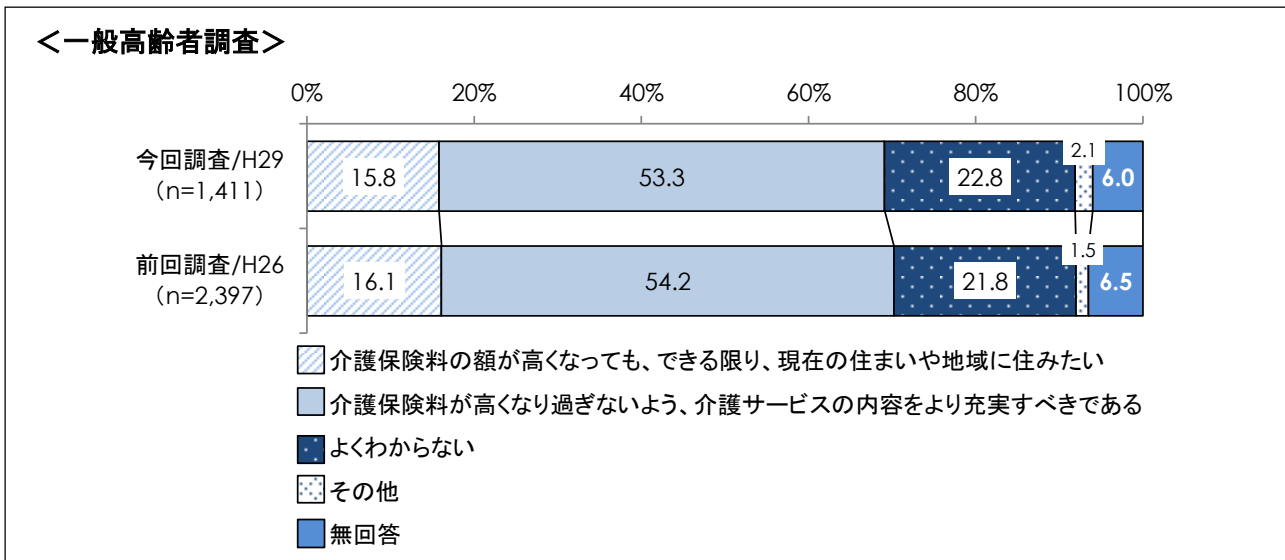




問8（5） 介護保険のあり方についてあなたの考え方に最も近いものを1つだけ選んでください。

介護保険のあり方についての考えについて前回調査と比較すると、概ね前回と同様の結果となっています。

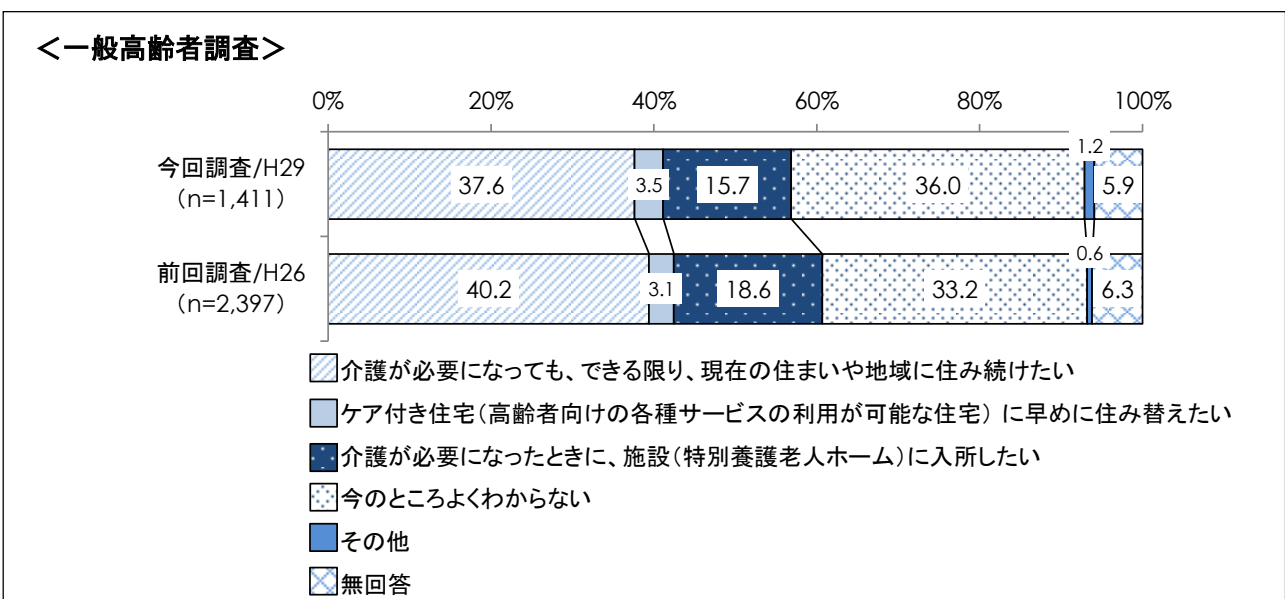
図表 165 介護保険のあり方について（前回との比較）



問8（6） 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。  
一番近いものを1つだけ選んでください。

将来の住まいと介護サービスの利用について、前回調査と比較すると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」、「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム）に入所したい」の割合がやや減少傾向にあります。

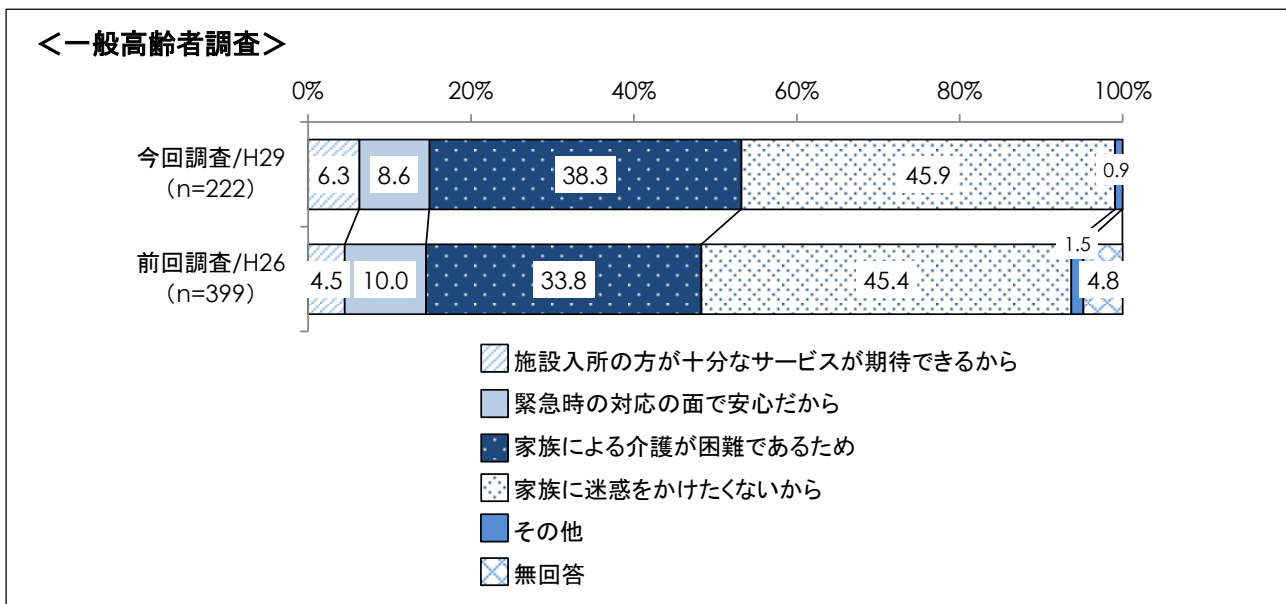
図表 166 将来の住まいと介護サービスの利用について（前回との比較）



問8（7） 【(6)で「3.介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム）に入所したい」の方のみ】  
施設入所を希望される主な理由を次の中から 1 つだけ選んでください。

施設入所を希望する主な理由を、前回調査と比較すると、「家族による介護が困難であるため」が4.5ポイント増加し、38.3%となっており、また、「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」も若干増加しています。サービス面への期待や、家族による介護の困難さを、施設入所の理由としてあげる人がやや増加傾向にあります。

図表 167 施設入所を希望する主な理由（前回との比較）

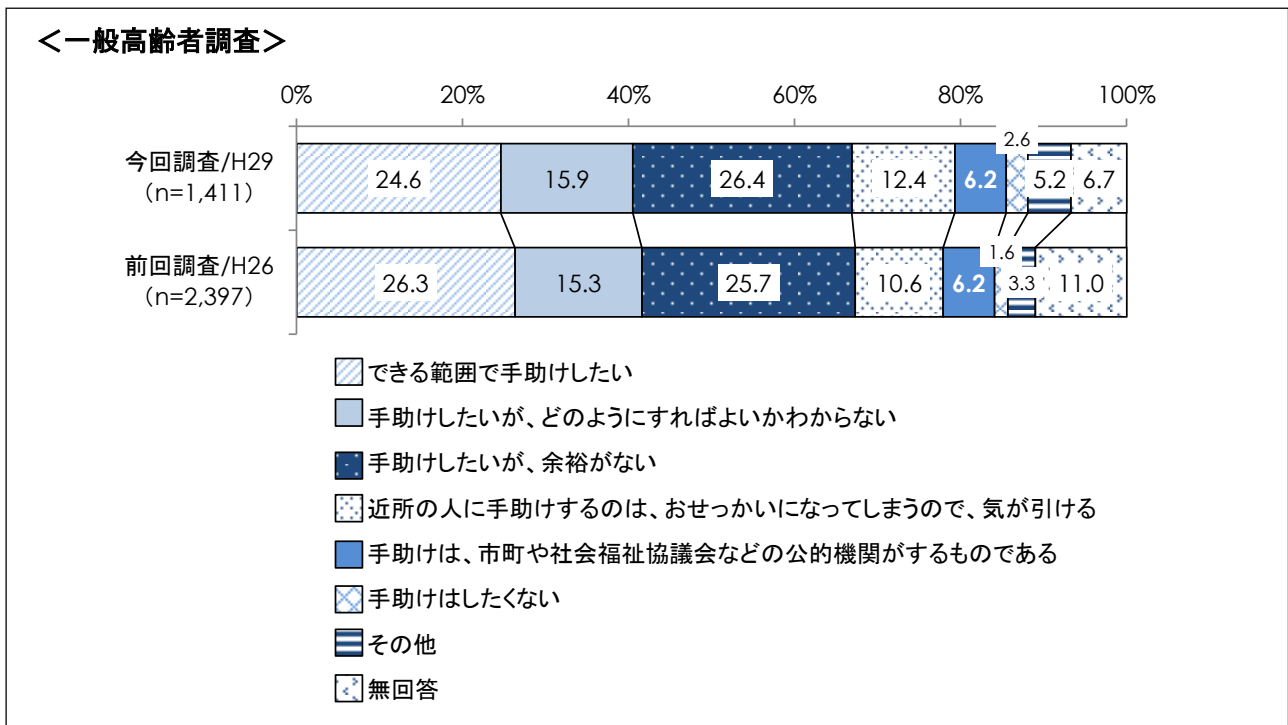


問8（8） 地域で何らかの日常生活の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについてあなたの考えに近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

地域の高齢者への手助けについて、前回調査と比較すると、前回調査では「できる範囲で手助けしたい」が26.3%で最も高くなっていましたが、今回調査では「手助けしたいが、余裕がない」が26.4%で最も高くなっていきます。

地域高齢者に対し、「できる範囲で手助けしたい」の割合がやや減少し、「手助けしたいが、余裕がない」または「近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける」、「手助けはしたくない」などの割合がやや増加していることから、地域高齢者との関わりがやや希薄化している傾向にあります。

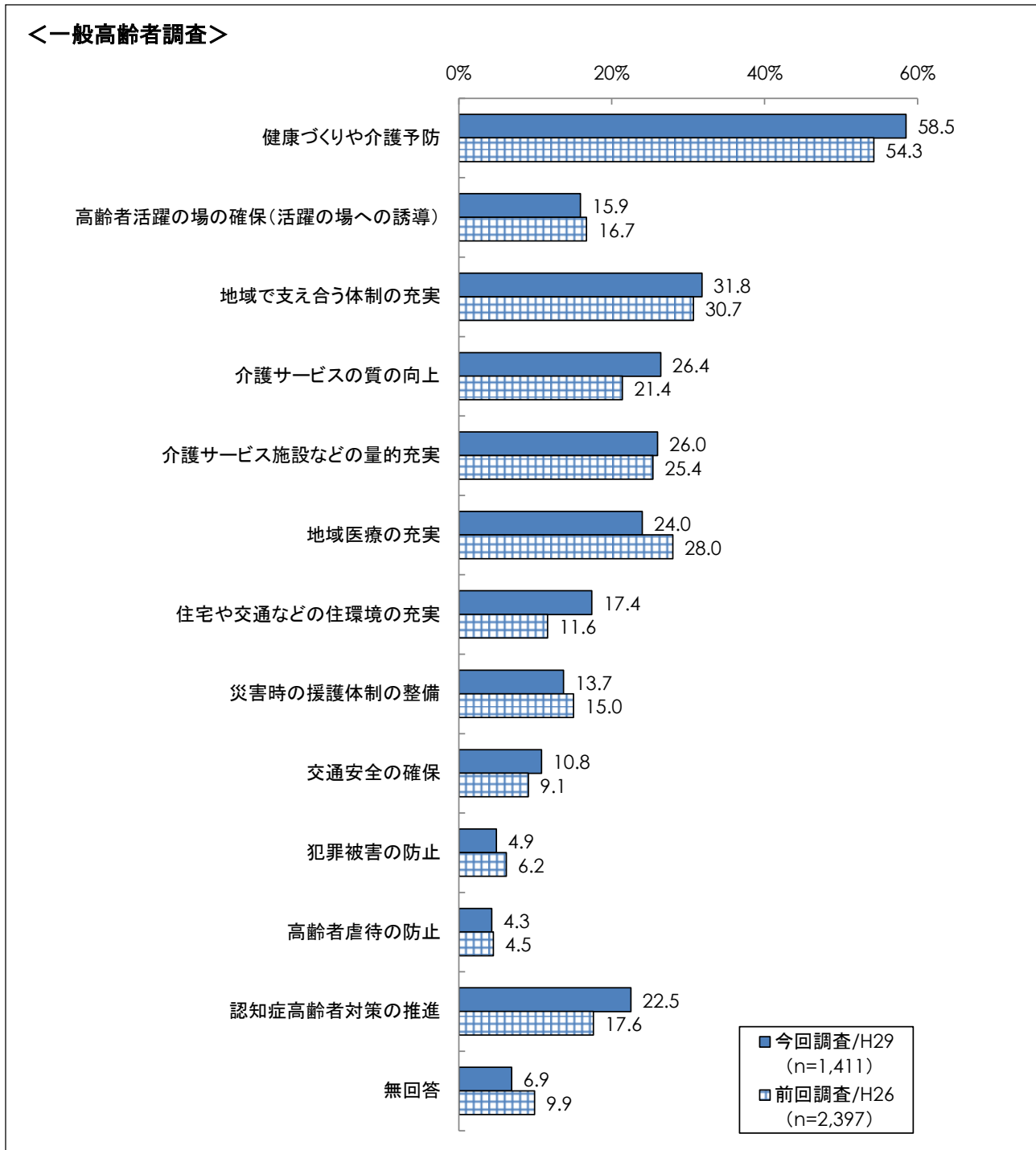
図表 168 地域の高齢者への手助けについて（前回との比較）



問8（9） 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

高齢化社会において重要な方策について、前回調査と比較すると、一般高齢者については、上位2位までに変動はみられません。第3位については、前は「地域医療の充実」でしたが、今回調査では「介護サービスの質の向上」となっています。介護サービスへのニーズが高まっている結果となっています。

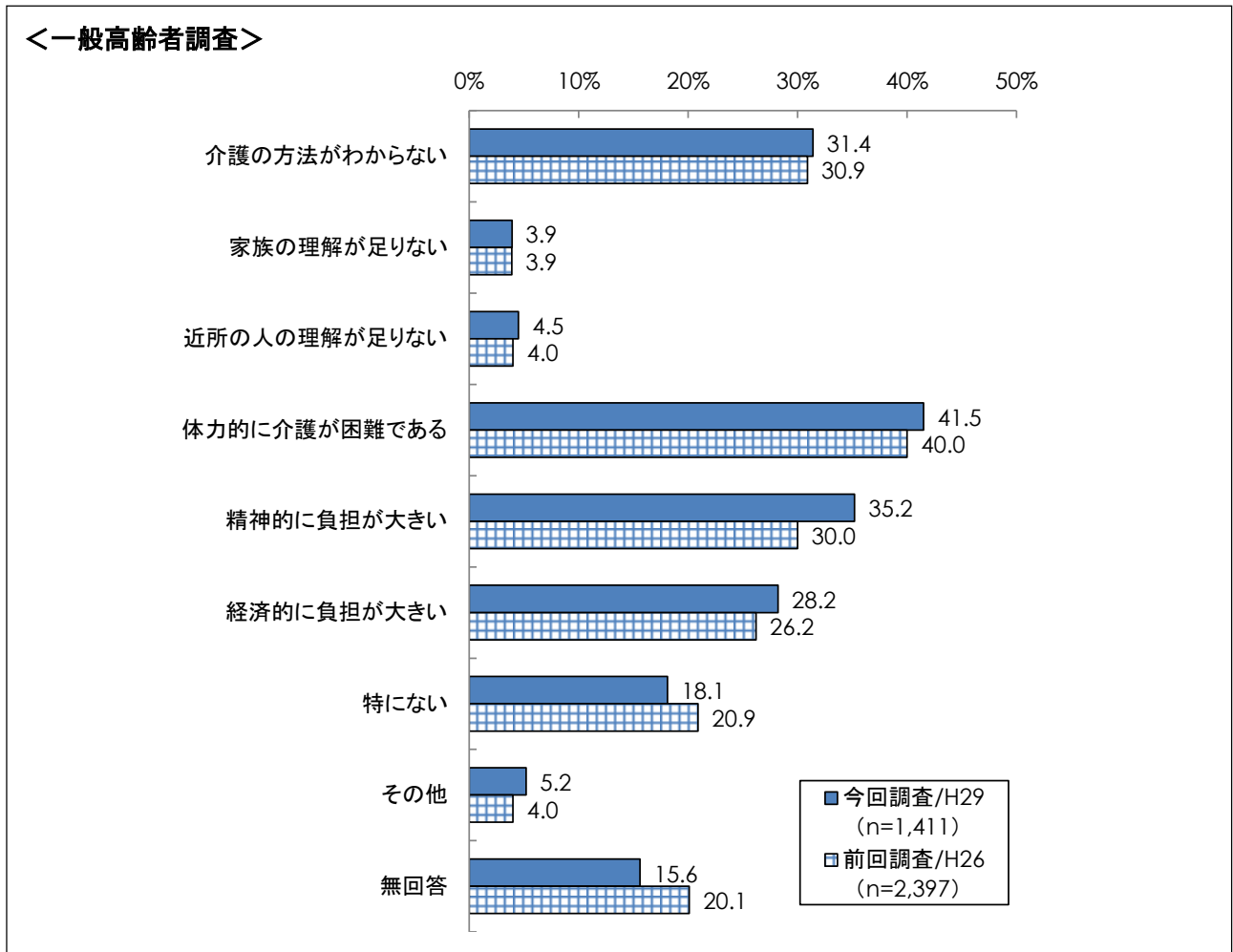
図表 169 高齢化社会において重要な方策（前回調査との比較／複数回答）



問8（10） 介護を行う上で、困っていることを3つまで選んでください。

介護を行う上で、困っていることについて、前回調査と比較すると、「体力的に介護が困難である」が今回調査でも前回に続き第1位となっています。また、「精神的に負担が大きい」が第3位から第2位へ、「介護の方法がわからない」が第2位から第3位となっており、精神的に負担が大きいことが困難だと感じる人の割合が、やや増加しています。

図表 170 介護を行う上で困っていること（前回との比較／複数回答）

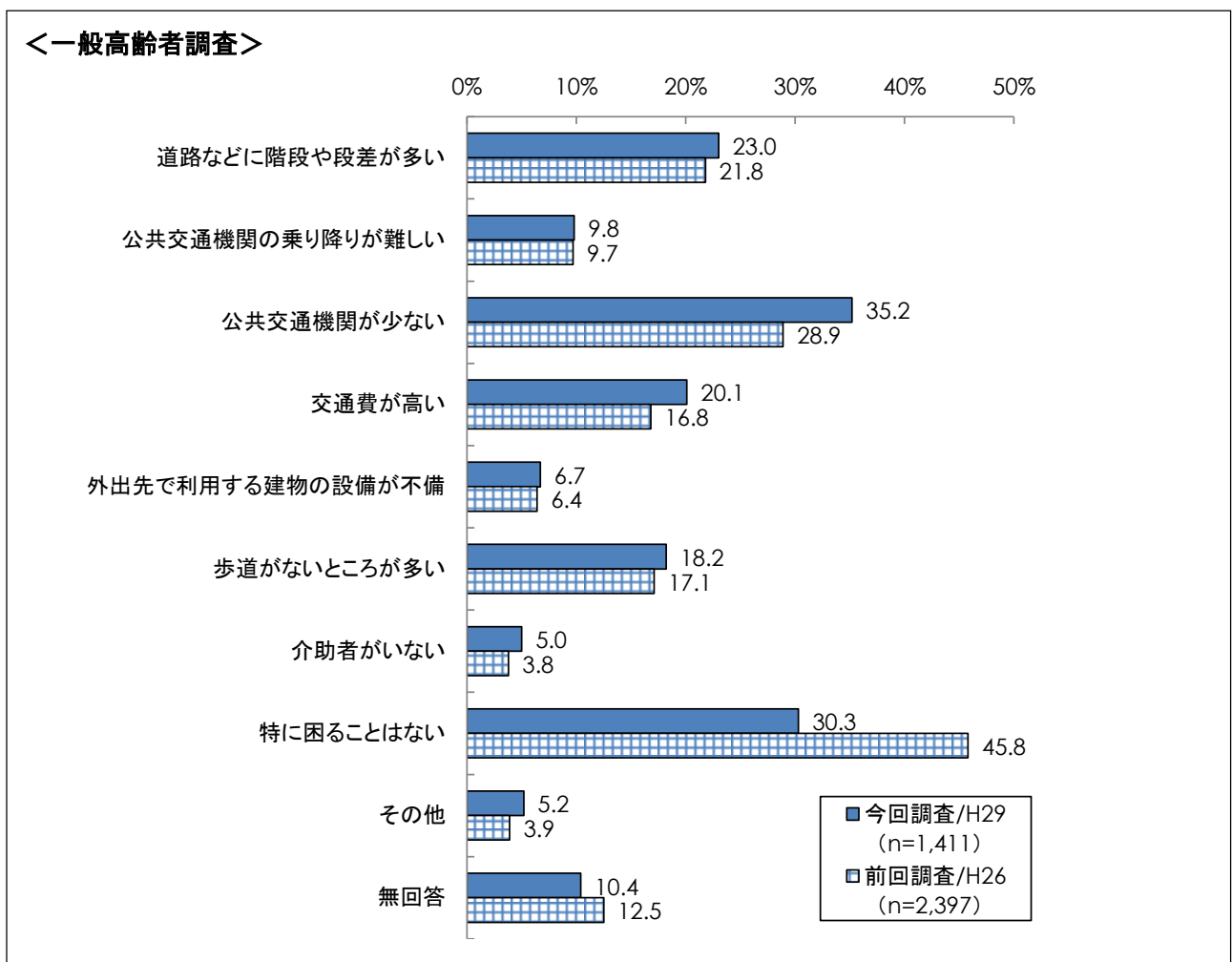


問8（11） 外出する際、困ることを3つまで選んでください。

外出する際、困ることについて、前回調査と比較すると、前回調査では第2位の「公共交通機関が少ない」は、今回調査では第1位となっており、公共交通機関が少ないことが外出する際に困ると感じている人が増加しています。

また、前回調査では第1位の「特に困ることはない」は、今回調査では15.5ポイント大きく減少し、第2位となっています。

図表 171 外出する際に困ること（前回との比較／複数回答）



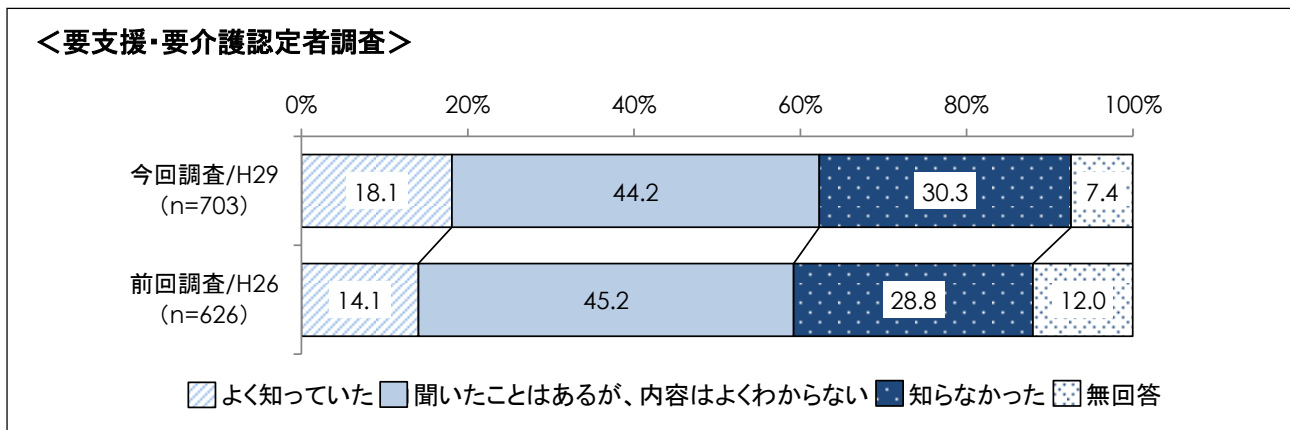
## 8-2 介護・福祉サービスについて〈要支援・要介護認定者調査〉

問8（1）平均寿命が80歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命をも伸ばすことが大事です。そのためには常日頃から高齢者の皆さん自らが介護予防を行う手助けとして市町では様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う介護予防事業について当てはまるものを1つだけ選んでください。

介護予防事業の認知度について、前回調査と比較すると、「よく知っていた」は4.0ポイント増加、また、「よく知っていた」と「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」を合わせた割合では、今回調査では62.3%と前回（59.3%）よりも3.0ポイント増加しています。

前回に比べてやや認知度は上昇傾向となっています。

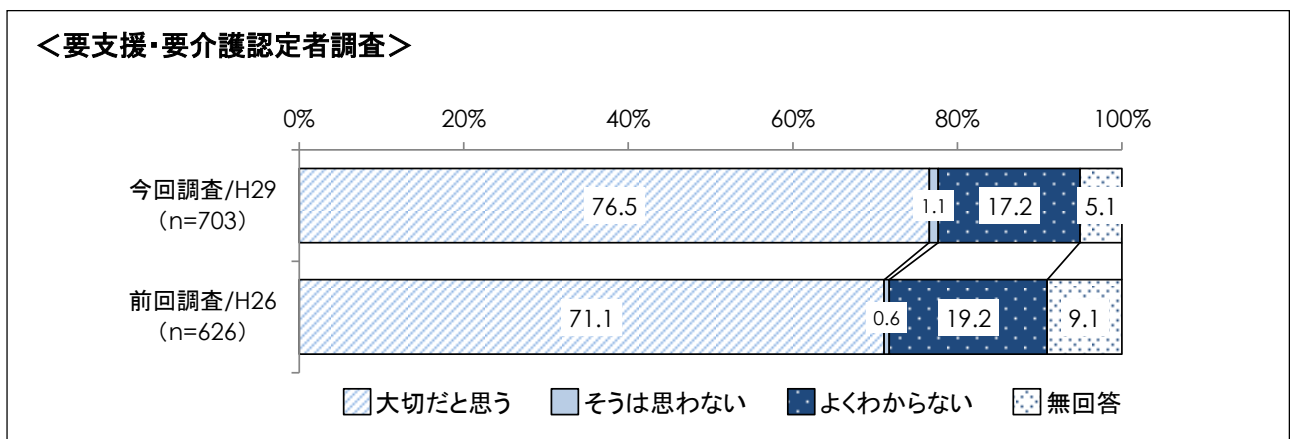
図表 172 介護予防事業の認知度（前回との比較）



問8（2） 介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思いますか。

介護予防の取り組みについて、前回調査と比較すると、「大切だと思う」が5.4ポイント増加し、76.5%となっています。介護予防の取り組みを推進することは、重要だと考える人が増えています。

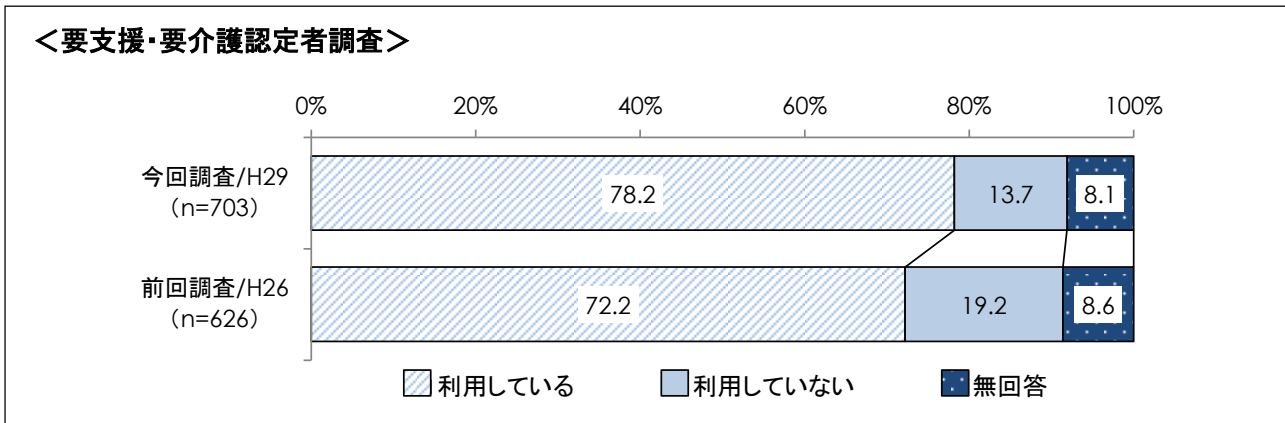
図表 173 介護予防の取り組みについて（前回との比較）



問8（3） 現在介護サービスを利用していますか。

現在の介護サービスの利用について、前回調査と比較すると、「利用している」が6.0ポイント増加し、約8割を占めています。利用率は前回よりも高くなっています。

図表 174 介護サービスの利用状況（前回との比較）

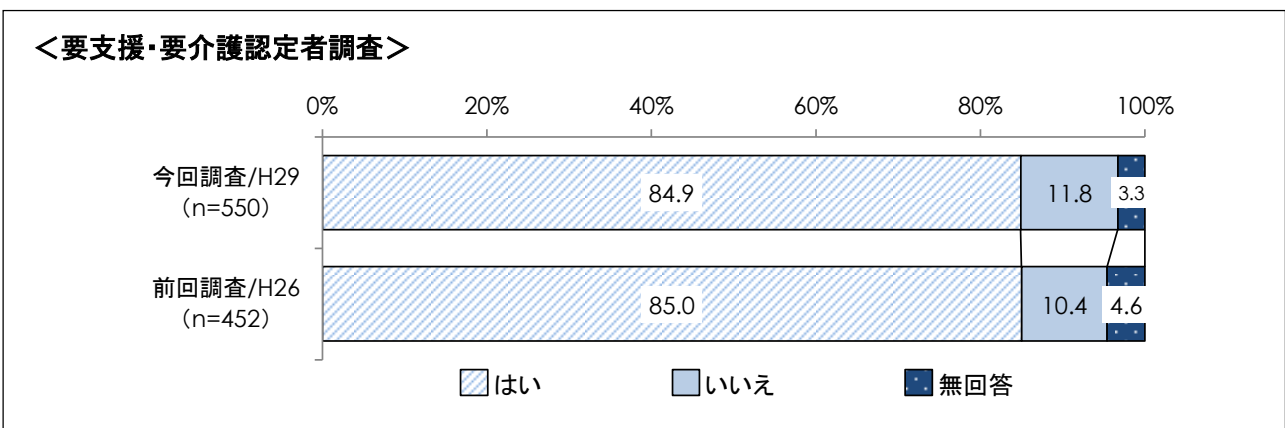


【(3)で「1.利用している」の方のみ】

問8（4） 利用されている介護サービスの内容に満足していますか。

現在利用している介護サービスの満足度について前回調査と比較すると、前回同様の結果となっており、8割以上の方が「はい」（満足している）と回答しています。

図表 175 利用している介護サービスの満足度（前回との比較）



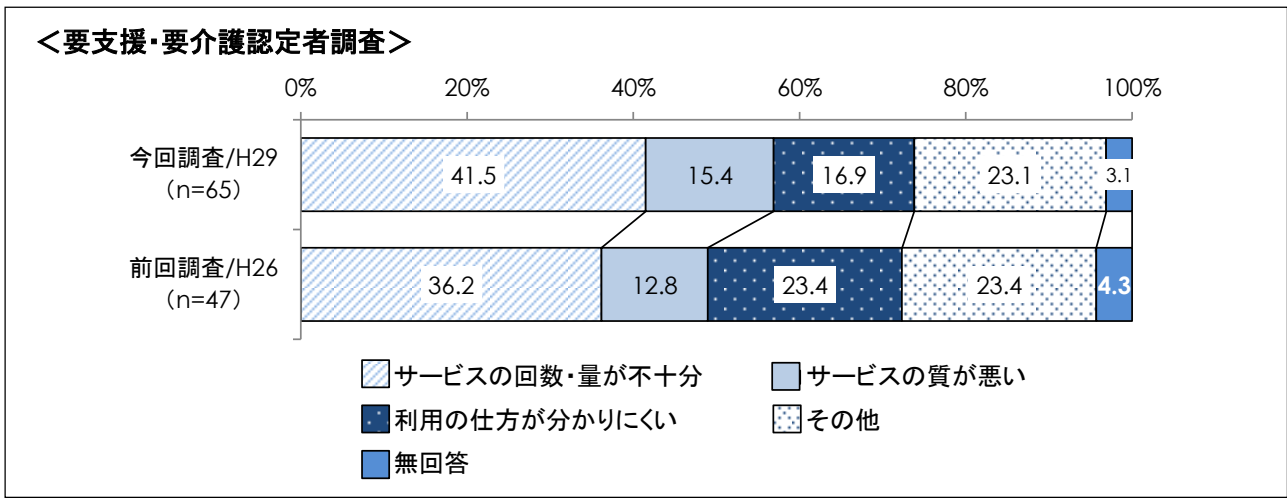


【(4)で「2.いいえ」の方のみ】

問8(5) 満足していない理由を 1つだけ選んでください。

現在利用している介護サービスに満足していない理由を、前回調査と比較すると、「サービスの回数・量が不十分」が5.3ポイント増加、一方、「利用の仕方が分かりにくい」は6.5ポイント減少していることから、サービスの回数や量には満足していない人は増加していますが、利用方法の周知について満足していない人は、減少傾向にあります。

図表 176 介護サービスに満足していない理由（前回との比較）

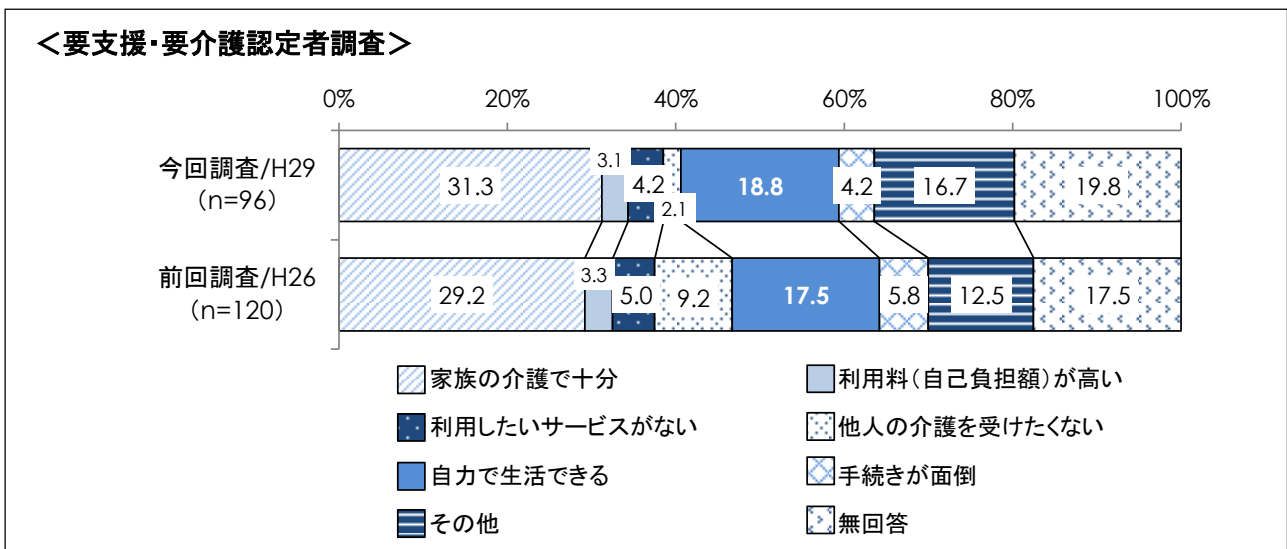


【(3)で「2.利用していない」の方のみ】

問8(6) 利用していない理由を 1つだけ選んでください。

現在介護サービスを利用していない理由について、前回調査と比較すると、概ね前回同様の結果となっていますが、「他人の介護を受けたくない」が7.1ポイント減少しています。

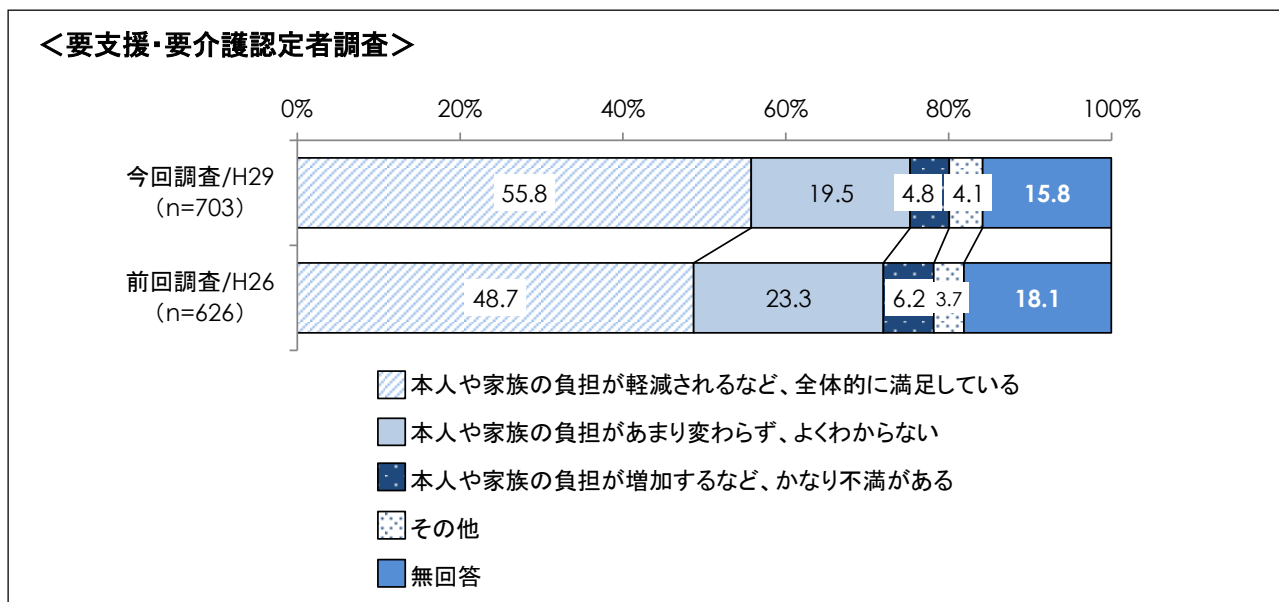
図表 177 介護サービスを利用していない理由（前回との比較）



問8(7) 介護保険制度に対するあなたの評価として、最も近いものを1つだけ選んでください。

介護保険制度に対する評価について、前回調査と比較すると、「本人や家族の負担が軽減されるなど、全体的に満足している」が7.1ポイント増加し5割を超えています。

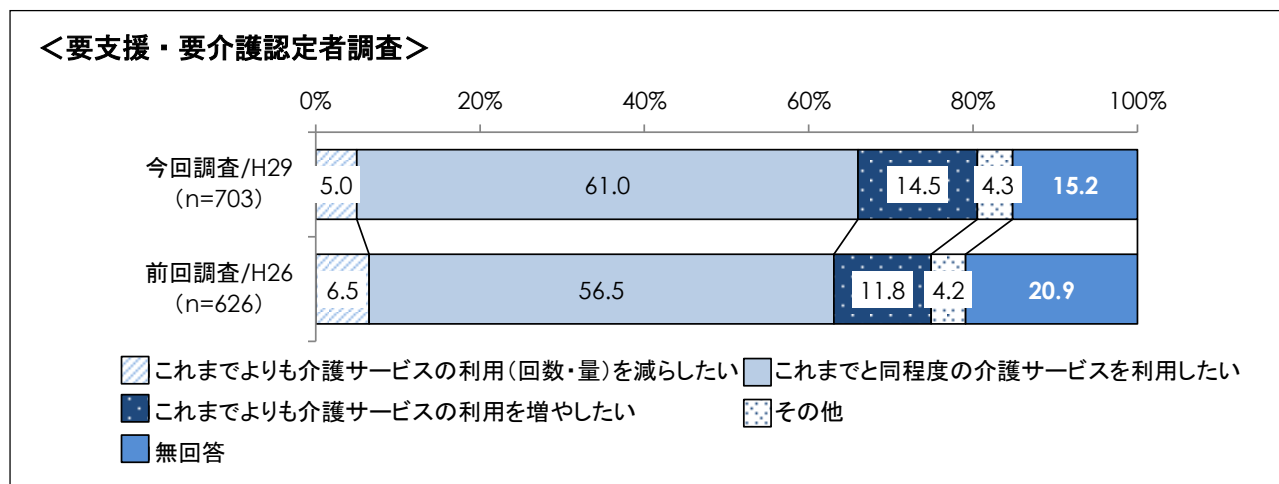
図表 178 介護保険制度に対する評価（前回との比較）



問8(8) 介護保険のあり方についてあなたの考え方に最も近いものを1つだけ選んでください。

介護保険のあり方について、前回調査と比較すると、「これまでと同程度の介護サービスを利用したい」が4.5ポイント増加、「これまでよりも介護サービスの利用を増やしたい」が2.7ポイント増加しています。これまでと同程度、またはそれ以上の介護サービス利用への要望が高くなっています

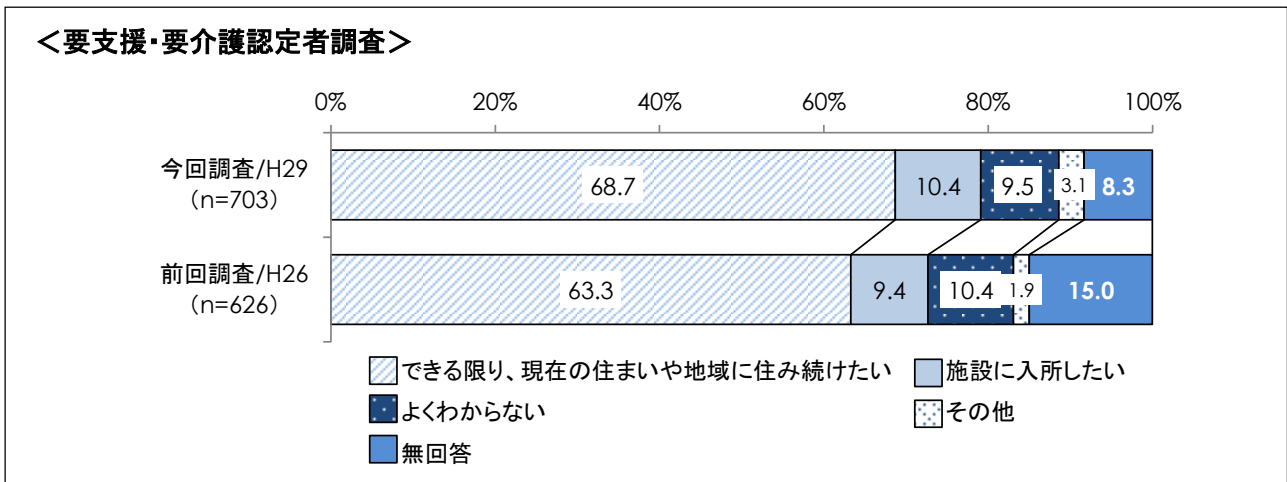
図表 179 介護保険のあり方について（前回との比較）



問8（9） 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。  
一番近いものを 1つだけ選んでください。

将来の住まいと介護サービスの利用について、前回調査と比較すると、「できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が5.4ポイント増加しており、在宅希望の回答が増加しています。

図表 180 将来の住まいと介護サービスの利用について（前回との比較）

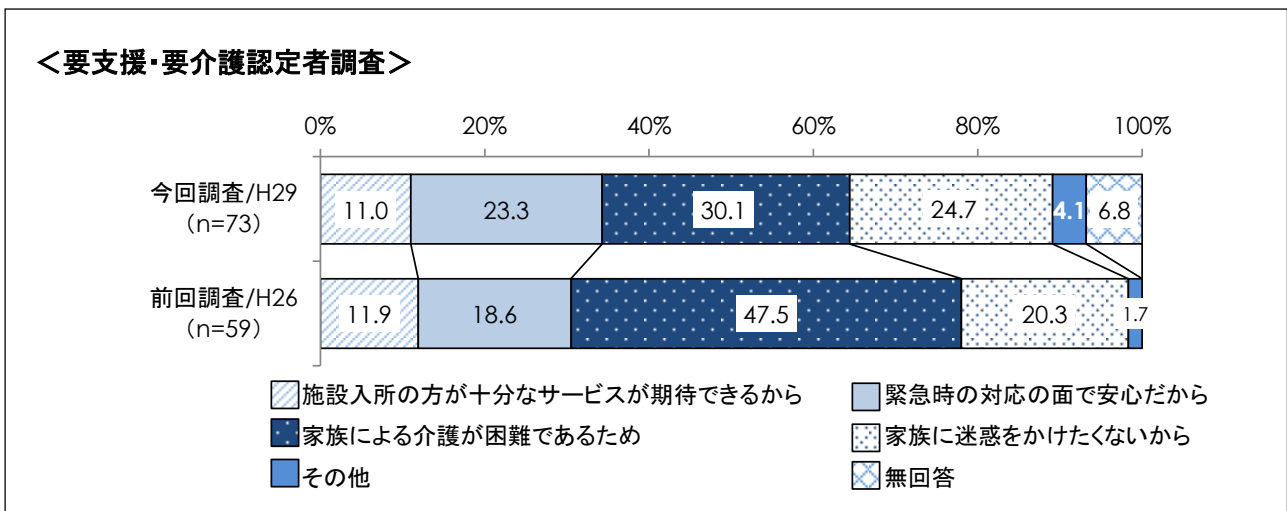


【(9)で「2.施設に入所したい」の方のみ】

問8（10） 施設入所を希望される主な理由を次の中から 1つだけ選んでください。

施設入所を希望した主な理由について、前回調査と比較すると、「緊急時の対応の面で安心だから」、「家族に迷惑をかけたくないから」の割合がやや増加し、一方で「家族による介護が困難であるため」が17.4ポイント大きく減少しています。

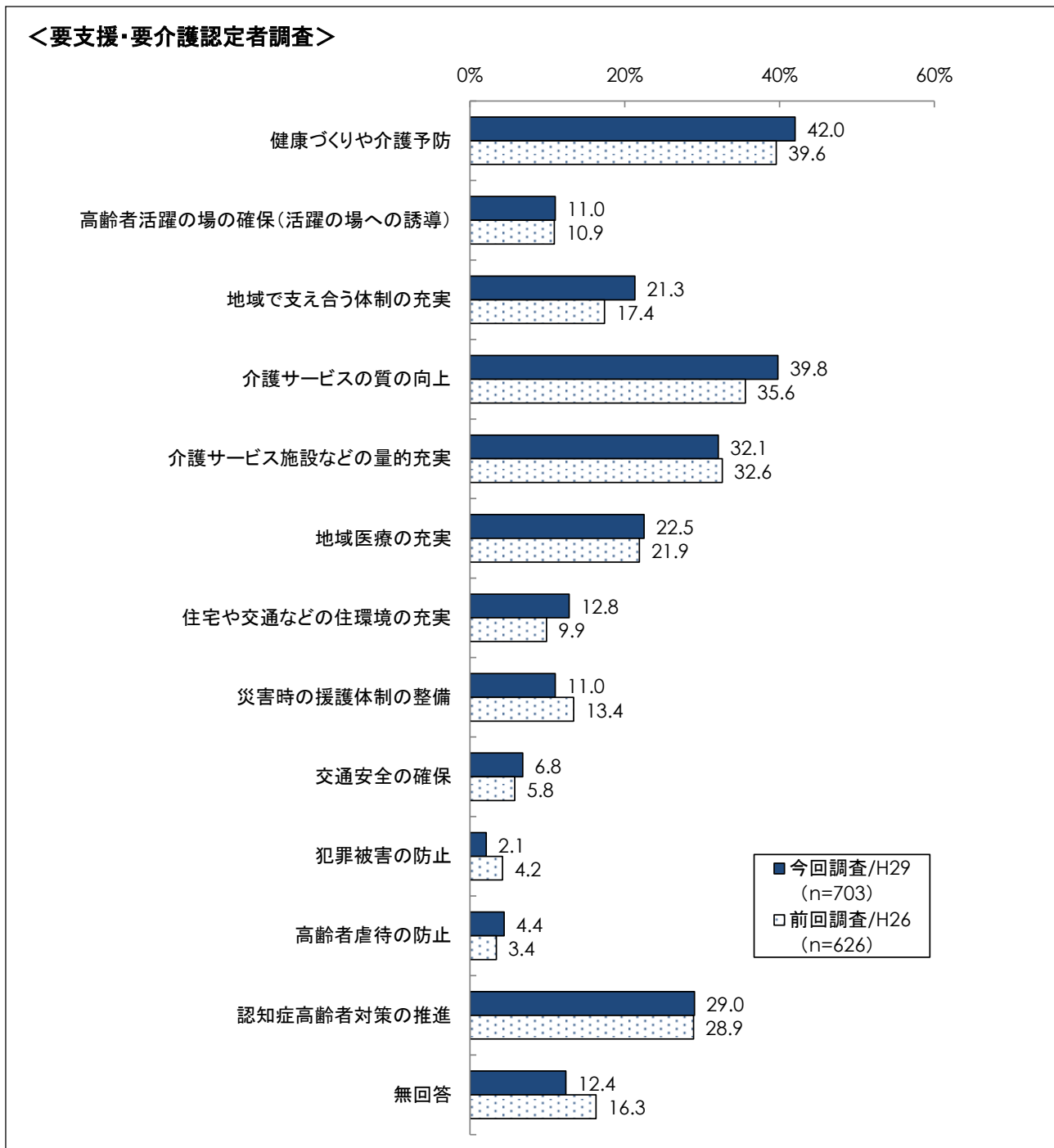
図表 181 施設入所を希望する主な理由（前回との比較）



問8（11） 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

高齢化社会において重要な方策について、前回調査と比較すると、上位3位までの順位に変動はみられず、今回調査においても、「健康づくりや介護予防」、「介護サービスの質の向上」、「介護サービス施設などの量的充実」の順となっています。

図表 182 高齢化社会において重要な方策（前回との比較／複数回答）

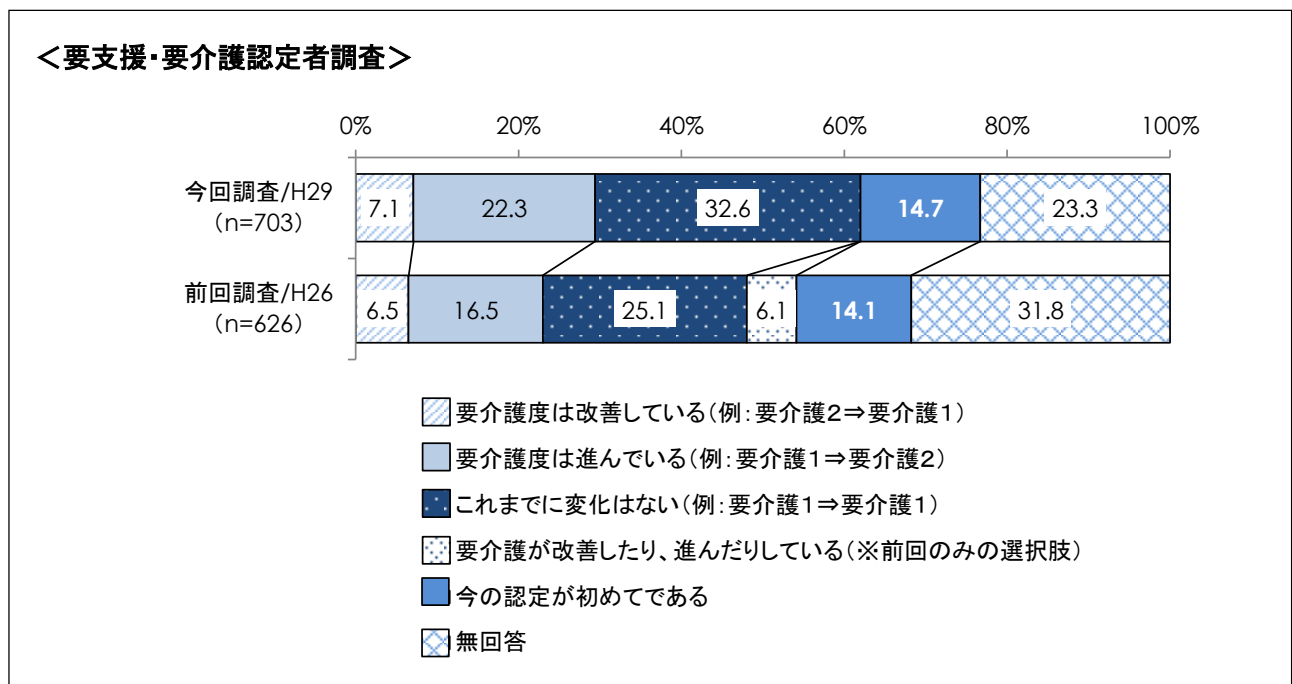


問8（12） これまでの要介護度と比べて、どのように変化していますか。

要介護度の変化について、前回調査と比較すると、「要介護度は進んでいる」が5.8ポイント増加しており、重度化している人が多くなっています。

また、前回調査での「これまでに変化はない」（25.1%）と「要介護が改善したり、進んだりしている（前回のみの選択肢）」（6.1%）を合計すると、31.2%となり、今回調査での「これまでに変化はない」（32.6%）と比べると1.4ポイントの増加となっています。要介護度に変化のない人の割合は、ほぼ前回と同様となっています。

図表 183 要介護度の変化について（前回との比較）

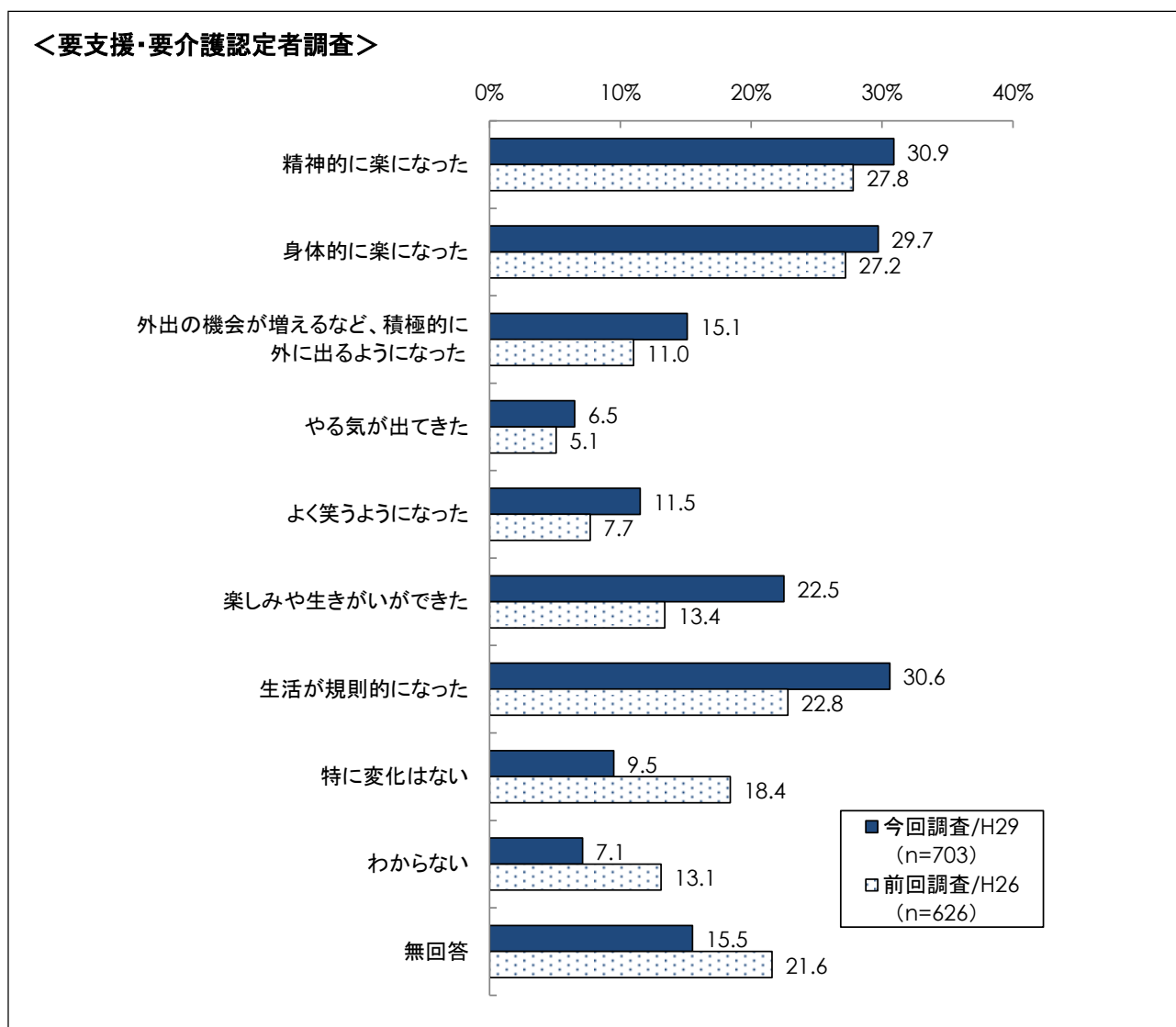


問8(13) 介護サービスを利用することにより、あなた自身にどのような変化がありましたか。  
次の中から3つまで選んでください。

介護サービスを利用後の自身の変化について、前回調査と比較すると、「精神的に楽になった」が前回同様第1位となっています。また、「生活が規則的になった」が前回の第3位から第2位へ、「身体的に楽になった」が前回の第2位から第3位へととなっています。

今回調査では、身体的な変化よりも、生活が規則的になったと感じている人が多い結果となっています。

図表 184 介護サービス利用後の自身の変化について（前回との比較／複数回答）

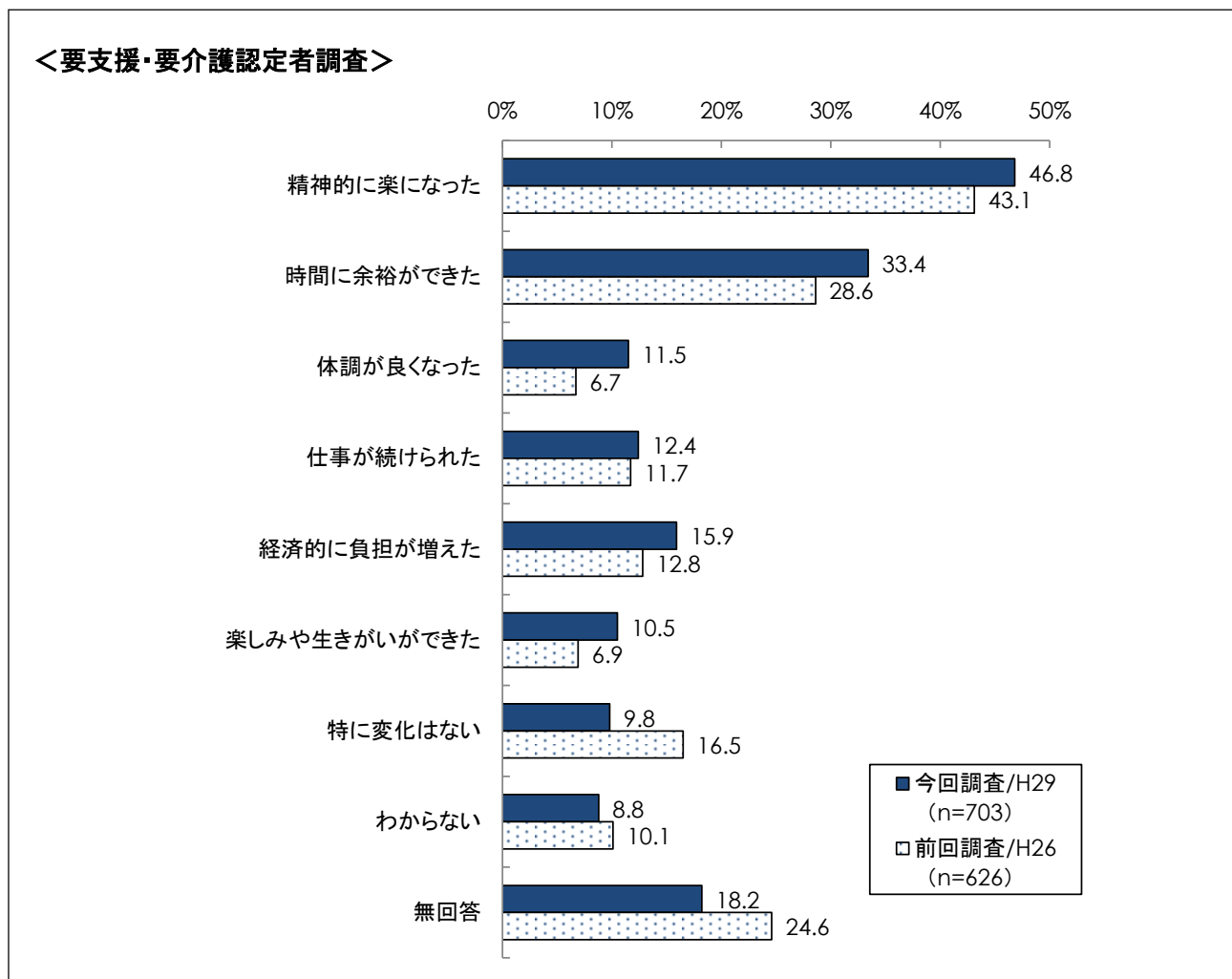


問8（14） 介護サービスを利用することにより、家族（介護者）にどのような変化がありましたか。次の中から3つまで選んでください。

介護サービスを利用後の家族や介護者の変化について、前回調査と比較すると、第1位「精神的に楽になった」、第2位「時間に余裕ができた」の順位に変動はみられません。

一方、前回調査では「特に変化はない」が第3位となっていたのですが、今回調査では「経済的に負担が増えた」が第3位となっており、経済的な負担を感じている人が、前回調査よりも増加しています。

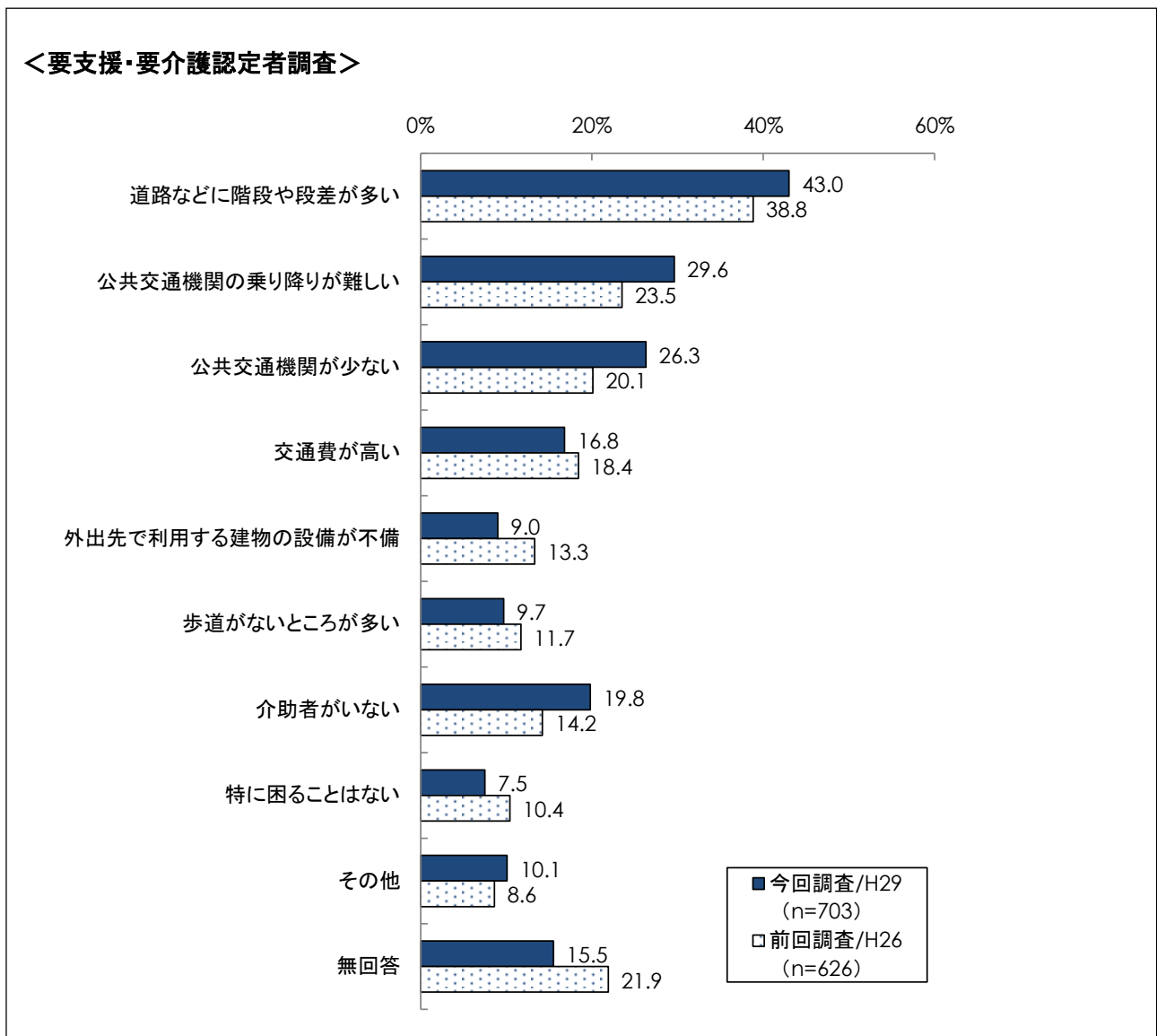
図表 185 介護サービス利用後の家族や介護者の変化について（前回との比較／複数回答）



問8（15） 外出する際、困ることを3つまで選んでください。

外出する際に困ることについて、前回調査と比較すると、前回調査と同様に、第1位「道路などに階段や段差が多い」、第2位「公共交通機関の乗り降りが難しい」、第3位「公共交通機関が少ない」となっており、順位に変動はみられません。

図表 186 外出する際に困ること（前回との比較／複数回答）





## 9 評価項目別の判定結果について

・評価項目別のリスク該当者の割合について、前回調査と比較すると、「運動器の機能低下」の該当者の割合が、前回調査の23.5%から15.0%と8.5ポイント減少しています。それ以外の評価項目についてのリスク該当者の割合はやや増加傾向にあり、特に「閉じこもり傾向」については、前回調査の5.5%から13.7%と8.2ポイント増加しています。

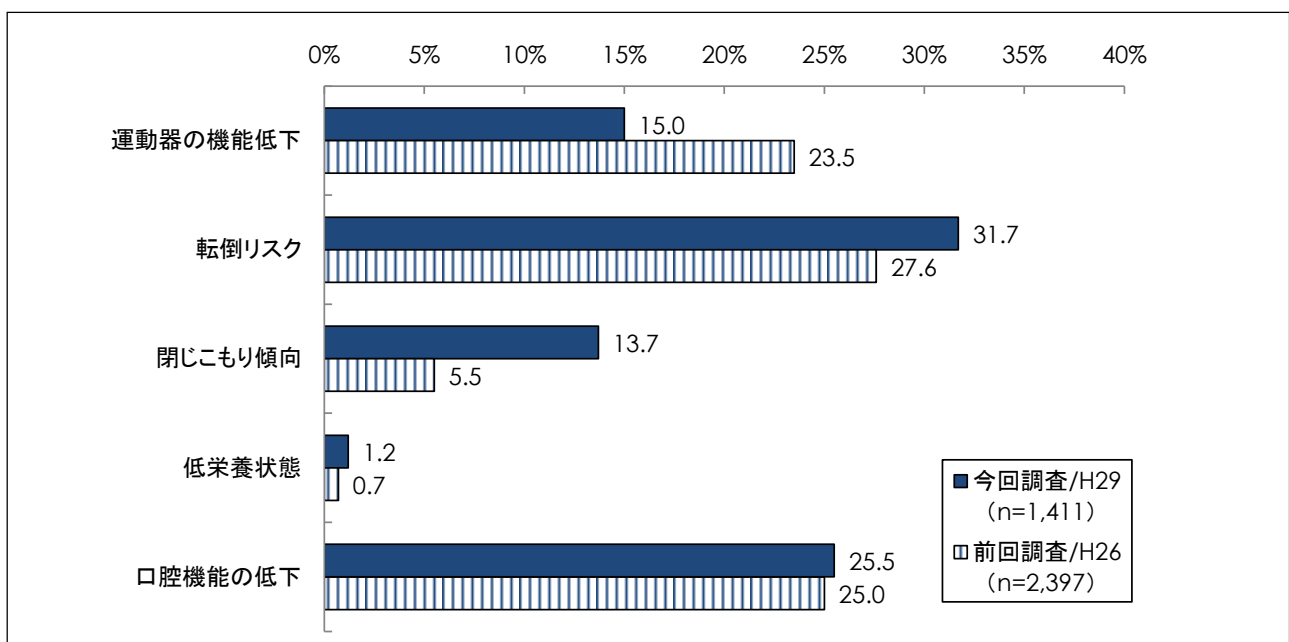
なお、「低栄養」、「口腔機能の低下」以外の項目については、前回調査と今回調査での設問と選択肢、判定方法が若干異なっています。

・老研式活動能力指標判定について、前回調査と比較すると、「IADL（手段的日常動作）」については、「高い（5点）」の割合が3.3ポイント増加しています。「知的能動性」については、「高い（4点）」がやや減少し、「やや低い（3点）」、「低い（0～2点）」の割合が増加しています。

「社会的役割」については、「高い（4点）」が5.1ポイント減少し、「やや低い（3点）」、「低い（0～2点）」の割合が増加しています。

・認知機能障害程度判定については、「0レベル（障害なし）」の割合がやや増加しています。

図表 187 評価項目別のリスク該当者の割合について（前回との比較）



図表 188 老研式活動能力指標判定, 認知機能障害程度判定 (前回との比較)

